
長久手市高齢者福祉や介護に関するアンケート
結果報告書

平成29年 3月

も く じ

1. 調査の概要	
1-1 調査の目的	1
1-2 調査の方法	1
1-3 調査内容	1
1-4 回収状況	2
1-5 分析の概要	2
2. 一般高齢者	
2-0 調査票への記入者	3
2-1 ご家族や生活状況について	3
2-2 からだを動かすことについて	7
2-4 毎日の生活について	15
2-5 地域での活動やたすけあいについて	25
2-6 健康について	33
2-7 将来の生活について	39
2-8 長久手市に対するご意見(自由回答の主な内容を抜粋)	43
3. 要支援・要介護認定者	
3-0 調査票への記入者	45
3-1 ご家族や生活状況について	46
3-2 介護保険サービスについて	50
3-3 毎日の生活について	56
3-4 医療について	63
3-5 将来の生活の希望について	64
3-6 地域での活動やたすけあいについて	68
3-7 介護している方について	73
3-8 長久手市に対するご意見(自由回答の主な内容を抜粋)	84

4. サービス提供事業者

4-1 事業所について-----	86
4-2 業務について-----	88
4-3 人材確保について-----	90
4-4 サービスの質の向上について-----	93
4-5 関係機関との連携について-----	96
4-6 今後の介護サービスについて-----	103
4-7 長久手市の高齢者施策や介護保険事業に関してのご意見	-111

5. ケアプラン作成担当者

5-1 所属事業所や勤務形態について-----	112
5-2 業務上の課題等について-----	115
5-3 長久手市内の介護サービスについて-----	117
5-4 施設等への入所・入居について-----	126
5-5 自宅から施設等への入所・入居となったケースについて---	(未)
5-6 長久手市の高齢者施策や介護保険事業に関してのご意見	-128

1. 調査の概要

1-1 調査の目的

本調査は、「長久手市第8次高齢者福祉計画及び第7期介護保険事業計画」策定のための基礎資料とすることを目的としたものです。

1-2 調査の方法

①調査地域

長久手市全域を調査地域としました。

②調査対象、標本抽出

調査A 一般高齢者

長久手市内に居住する65歳以上の市民のみなさまから、小学校区ごとに500人ずつ、計3,000名の方を無作為抽出しました。

調査B 要支援・要介護認定者

長久手市内に居住する要支援・要介護認定者を対象としました。ただし、医療機関に入院している人、施設等^㉑に入所又は入居している人、市外で生活していることが明らかな人は除きました。

調査C サービス提供事業者

長久手市内の介護保険事業所、有料老人ホーム、ケアハウス、及びサービス付高齢者住宅を運営している法人27法人すべてを対象としました。

調査D ケアプラン作成担当者

長久手市内にある居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、小規模多機能型居宅介護に所属するケアプラン作成担当者38人すべてを対象としました。

③調査票記入方法

調査A	無記名
調査B	記名式
調査C及び調査D	記名式（記名するかどうかは自由）

④調査方法

郵送法により実施しました。また、調査Dは、長久手市福祉部長寿課から調査の目的等を説明した後に調査票を渡す留置法により実施しました。

⑤調査期間

2017年2月15日（調査票発送日）～3月3日（調査票返送締め切り日）としました。

ただし、3月28日までに届いた調査票については、回答を左右するような大きな出来事などは起きておらず、回答のバイアスなど、大きな誤差を生じさせる危険性はないと判断し、集計・分析データとしています。

1-3 調査内容

本調査で使用した調査票は、長久手市福祉部長寿課により設計されたものです。

1-4 回収状況

表1：回収状況

	配布数	回収数	回収率	有効票数	有効回答率
一般高齢者	3,000	2,161	72.0%	2,156	71.9%
要支援・要介護認定者	901	526	58.4%	509	56.5%
サービス提供事業者	27	19	70.4%	19	70.4%
介護支援専門員	38	36	95.0%	36	95.0%

回収状況、有効票については、表1に示した通りです^②。

「一般高齢者」の無効票の内訳は「入院中」4、「転居」1です。

「要支援・要介護認定者」の無効票の内訳は「入院中」8、「死亡」1、「その他」8となっています。

1-5 分析の概要

データの集計、分析は愛知県立大学教育福祉学部松宮朝研究室が担当しました^③。

調査データは単純集計を基本に、必要な内容については、小学校区別（長久手小学校区、東小学校区、北小学校区、西小学校区、南小学校区、市が洞小学校区）、性別、年齢別のクロス集計を行っています。

また、自由回答については、関連する内容ごとに分類して一覧を掲載しました。

<注>

(1) 特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設、特定施設、グループホーム、地域密着型特定施設、地域密着型特別養護老人ホーム

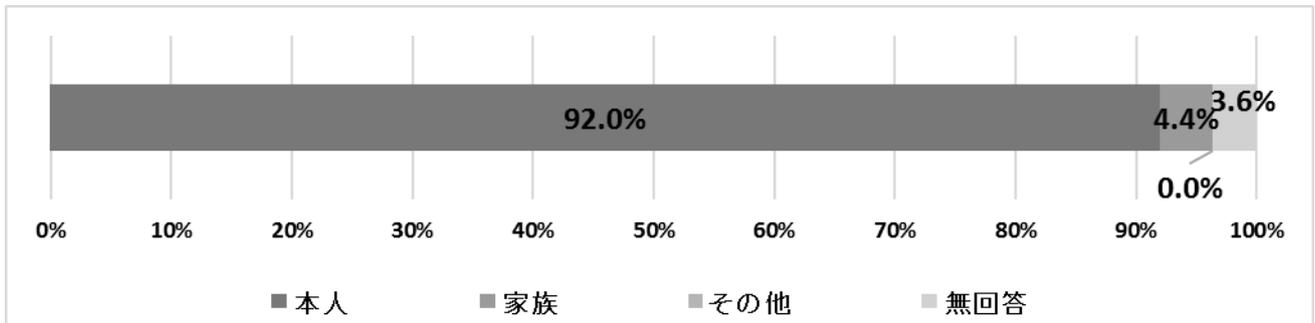
(2) 「一般高齢者」、「認定高齢者」については、宛先人不明で返送された調査票が2票ずつありました。

(3) 本調査の調査票送付作業データ入力、集計では、愛知県立大学教育福祉学部社会福祉学科市原千夏、加藤奈々、近藤香澄、田邊志生莉、永井杏、東侑輝、村木亮介、馬場歩美、青木春菜、石川廉、新海直也、鈴木良乃、田中萌、林晃司、山郷擁子の各氏にご協力いただきました。

なお、調査票発送・回収・入力・集計作業は、個人情報保護のため、長久手市福祉部の管理の下、すべて長久手市役所庁舎内で実施しました。

2. 一般高齢者

2-0 調査票への記入者

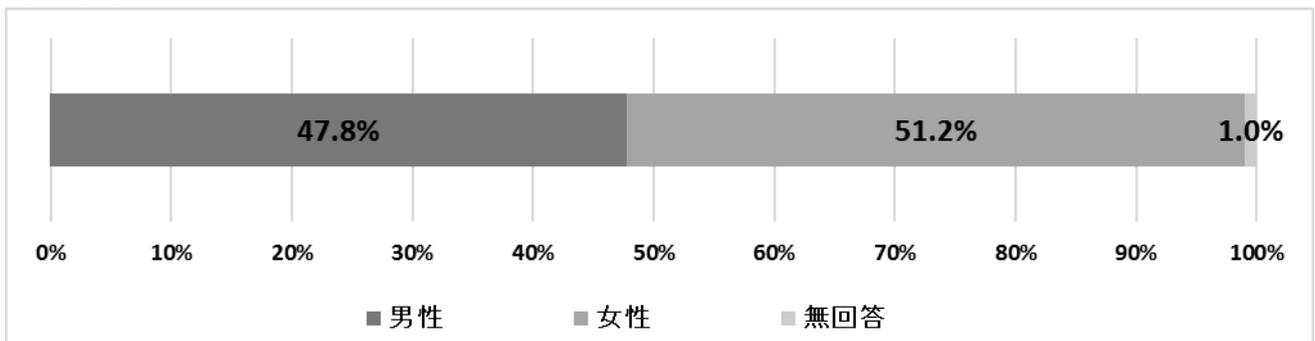


N=2,156

調査票の記入は「本人」が92.0%、「家族」が4.4%となっています。

2-1 ご家族や生活状況について

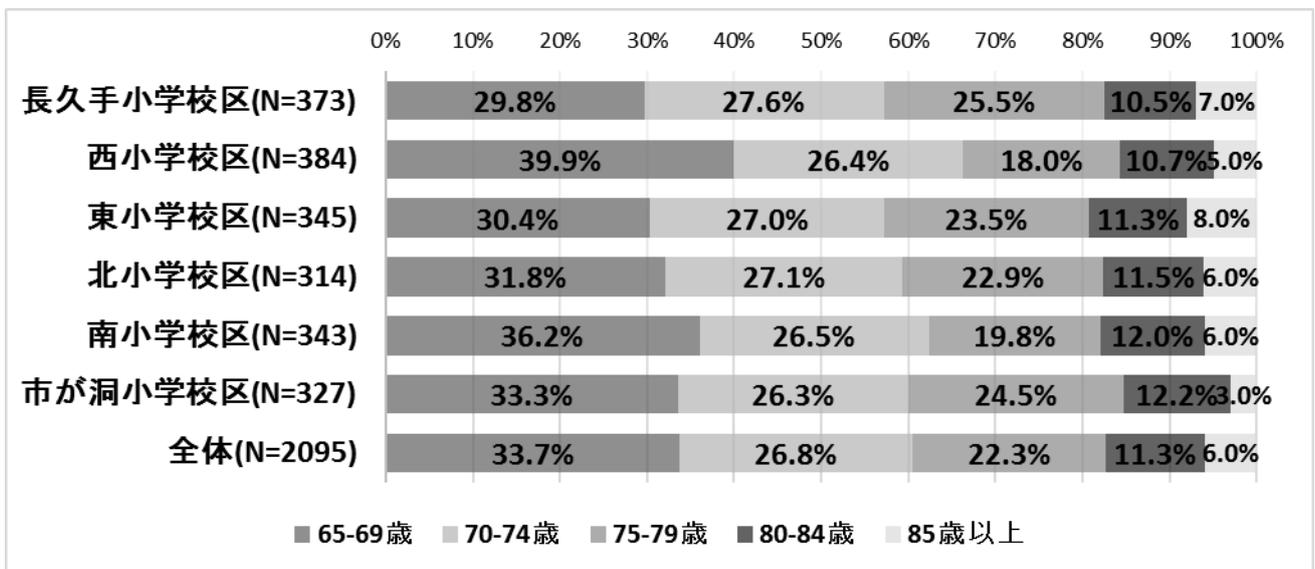
問1 性別



N=2,156

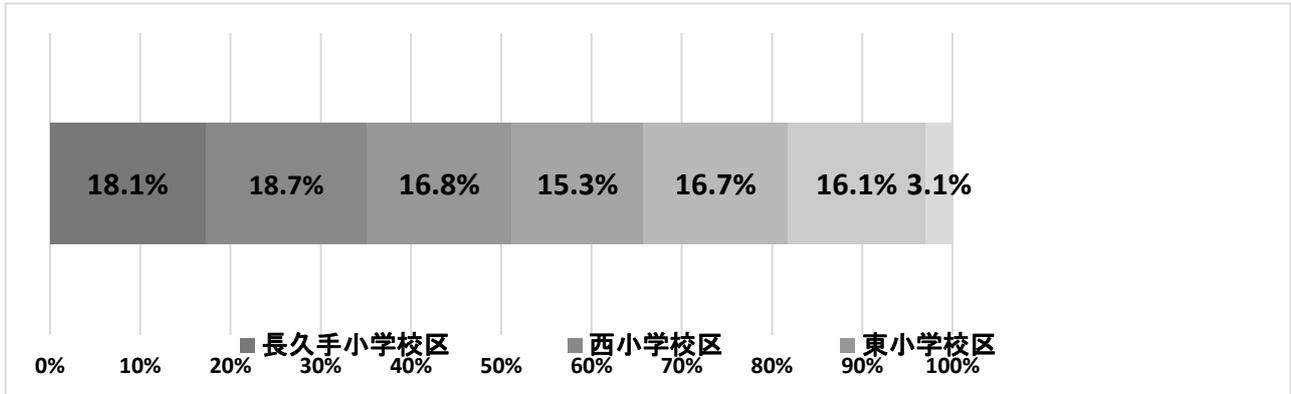
性別は「男性」47.8%、「女性」51.2%です。

問2 年齢



年齢については、「65～69歳」が33.7%で最も多く、「70～74歳」が26.8%、「75～79歳」が22.3%です。小学校区別では、西小学校区で「65～69歳」が39.9%、「70～74歳」が26.4%と相対的に前期高齢者が多い傾向が認められます。

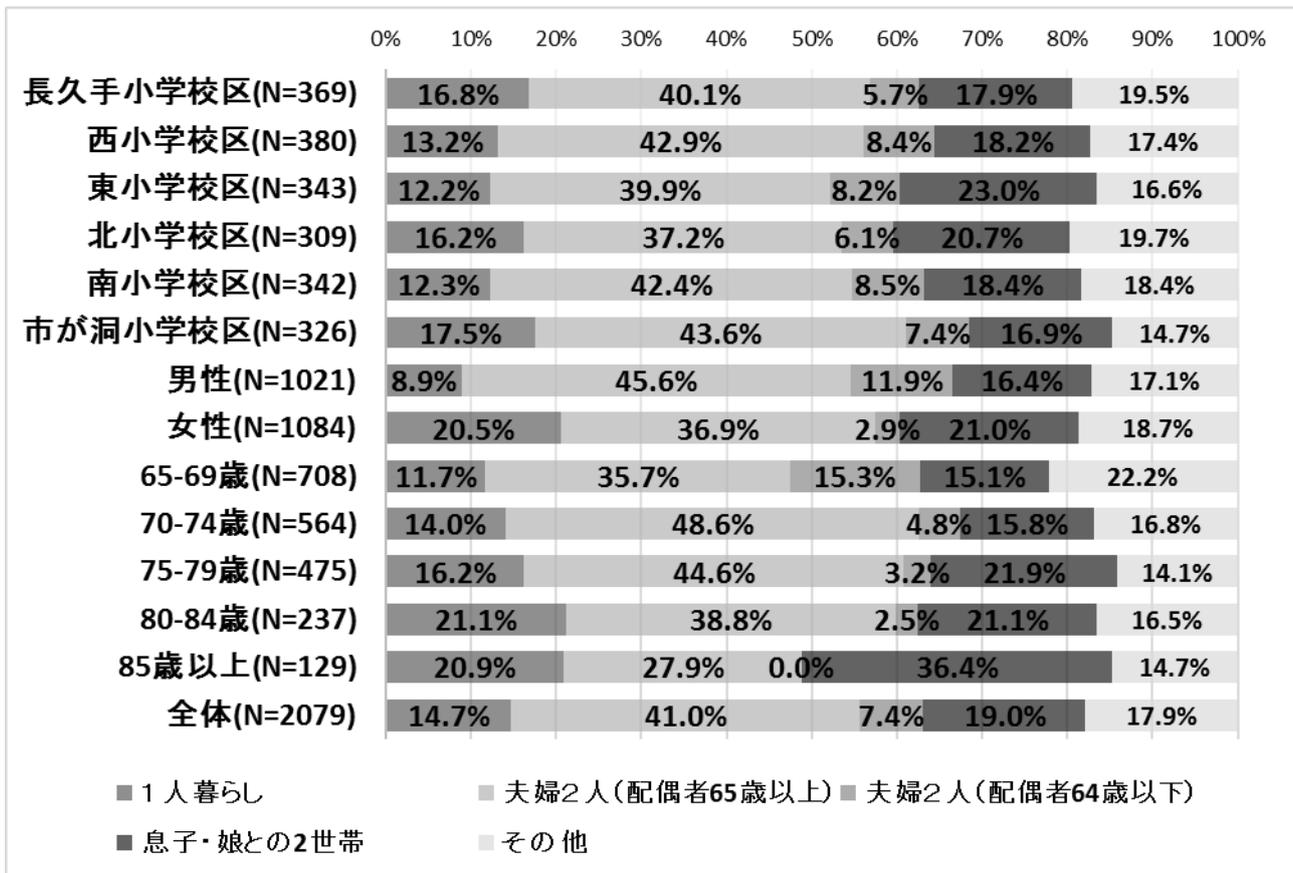
問3 居住している小学校区



N=2,156

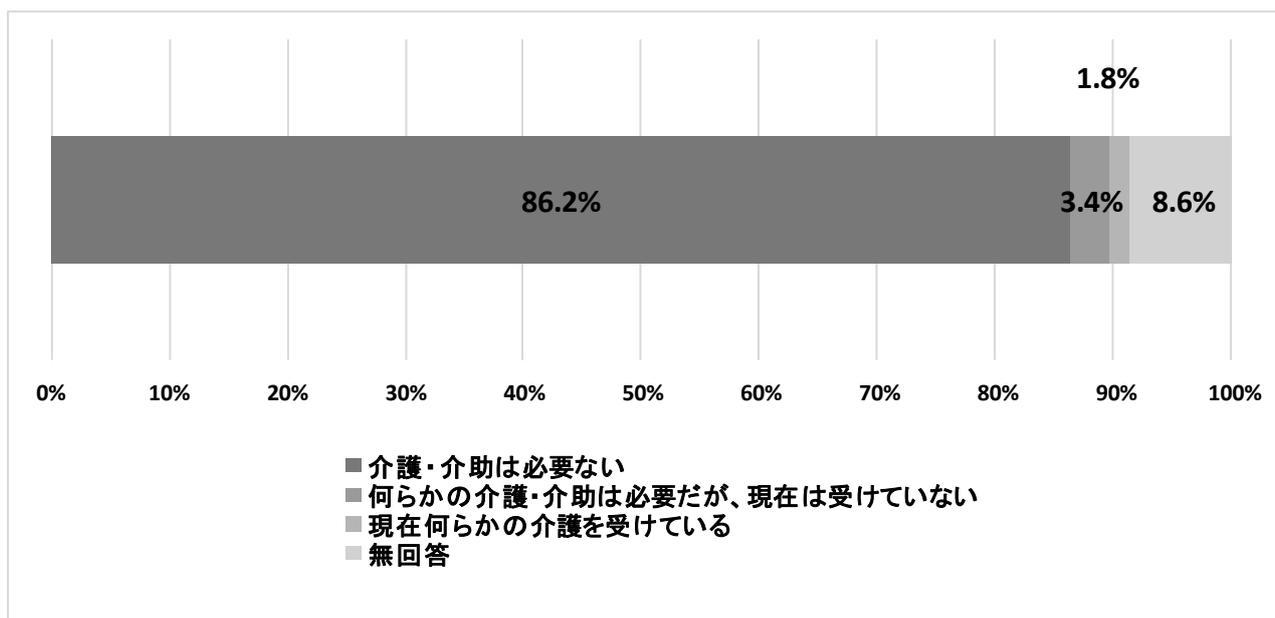
居住地区は、「西小学校区」が18.7%と最も多く、「長久手小学校区」が18.1%と続きます。

問4 家族構成



家族構成は、全体で「夫婦二人暮らし(配偶者65歳以上)」41.0%、「子どもと二世帯」19.0%、「一人暮らし」14.7%となっています。小学校区別では、「一人暮らし」が、市が洞小学校区17.5%、長久手小学校区16.8%、北小学校区16.2%と相対的に多くなっています。「子どもと二世帯」は、東小学校区23.0%、北小学校区20.7%で2割を超えています。性別では「女性」の「一人暮らし」が20.5%と、「男性」の8.9%を上回っています。

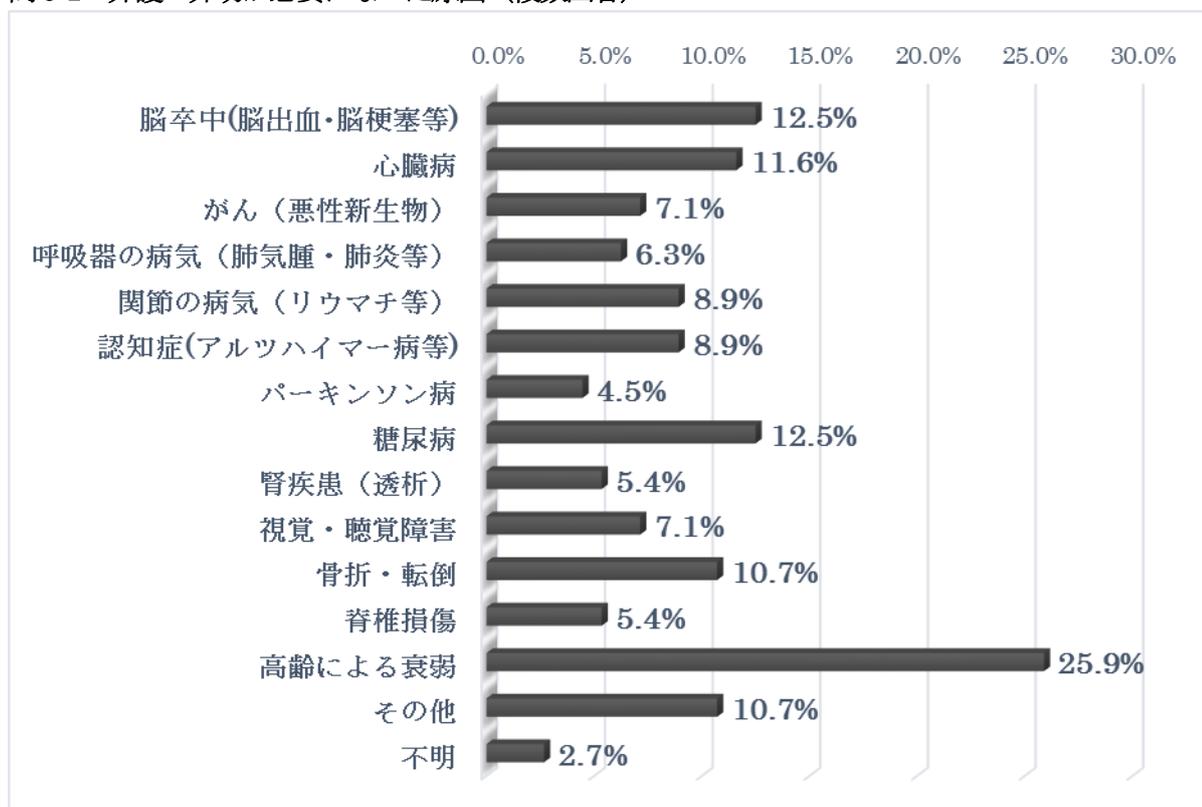
問5 普段の生活での介護・介助の必要性



N=2,156

「介護・介助は必要ない」が86.2%で、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が3.4%、「現在、何らかの介護・介助を受けている」は1.8%です。

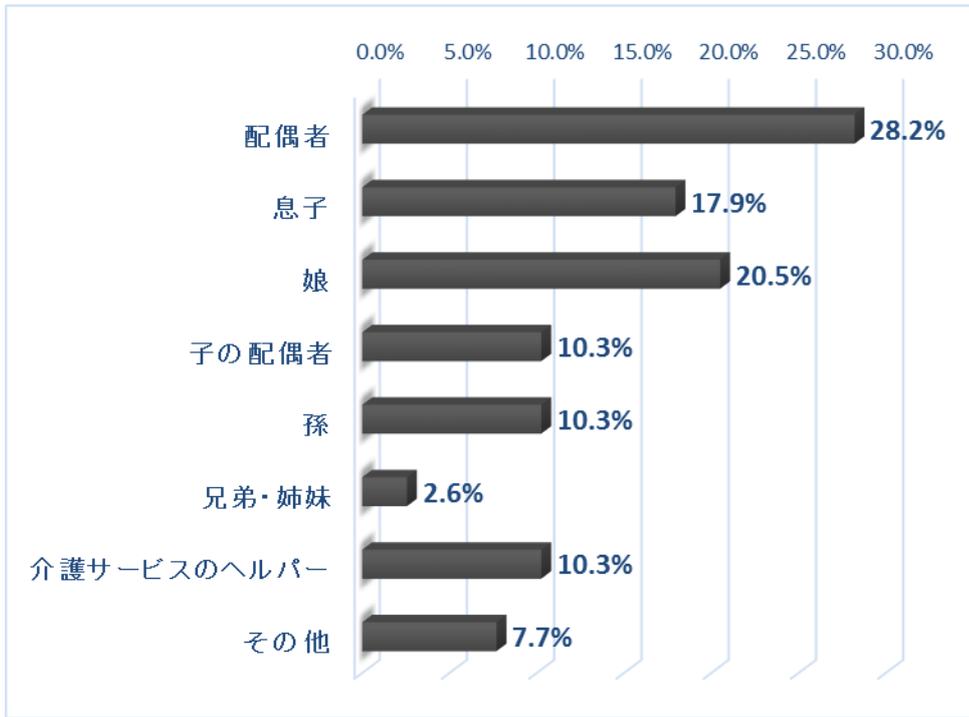
問5-1 介護・介助が必要になった原因（複数回答）



N=112

介護・介助が必要になった原因としては、「高齢による衰弱」が25.9%と最も多く、「脳卒中」、「糖尿病」が12.5%と続きます。

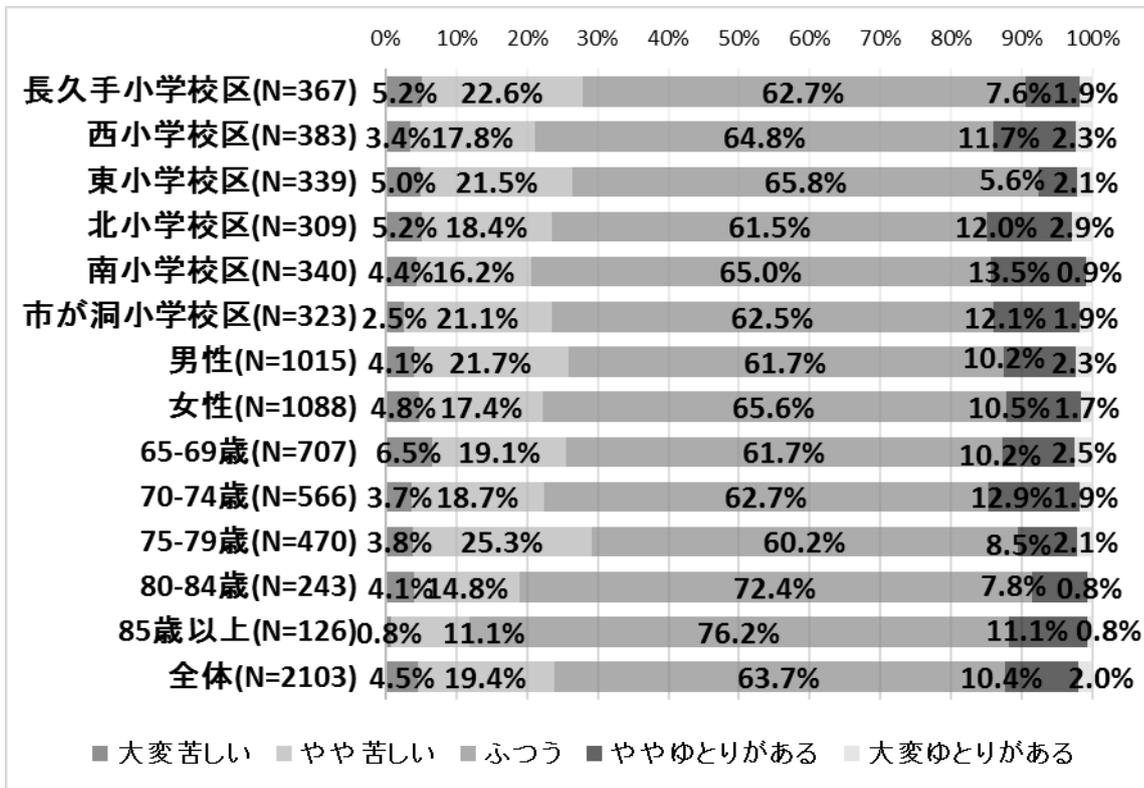
問5-2 主な介護・介助者



N=39

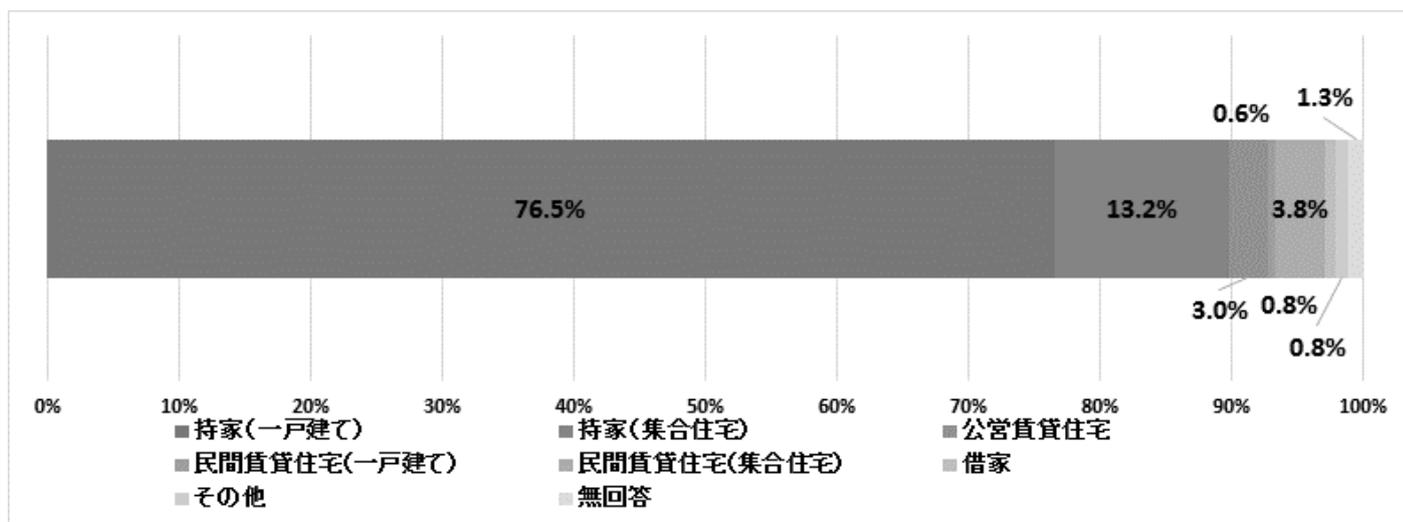
「現在、何らかの介護を受けている」と回答した人に、主な介護・介助者をたずねたところ、「配偶者」が28.2%と最も多く、「娘」20.5%「息子」17.9%と続きます。

問6 経済的にみた現在の暮らしの状況



全体では「ふつう」が63.7%で、「やや苦しい」が19.4%です。

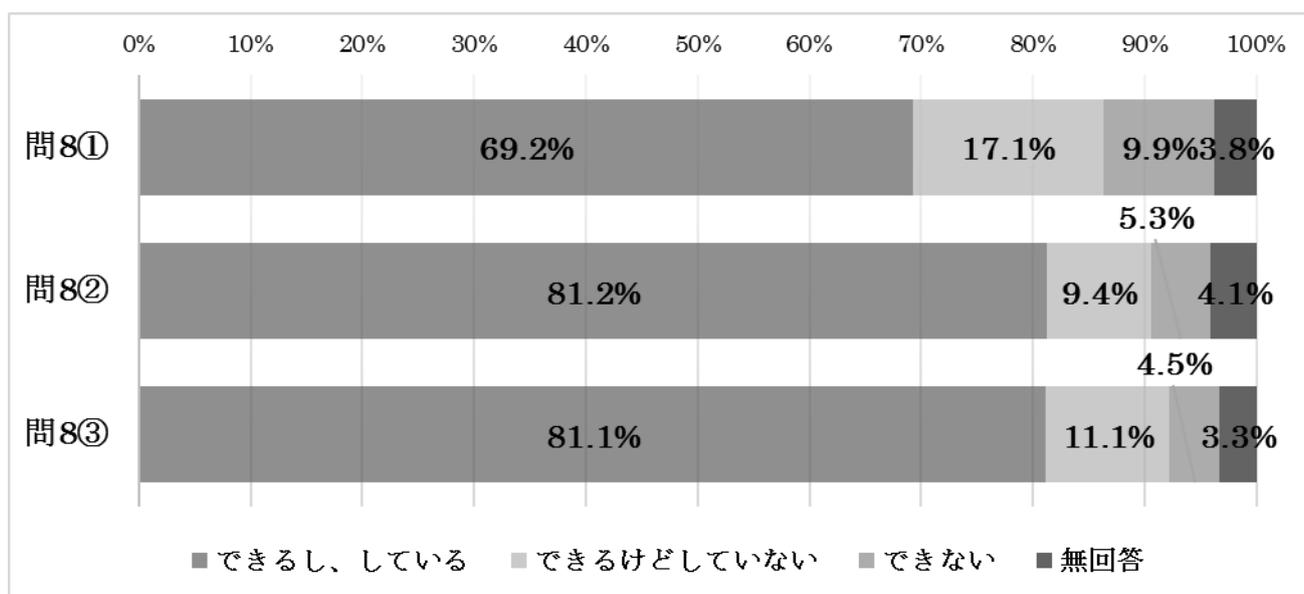
問7 住まい



「持家（一戸建て）」が76.5%、「持家（集合住宅）」13.2%と、合わせて9割弱となっています。

2-2 からだを動かすことについて

問8 からだを動かすこと



N=2,156

①階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか

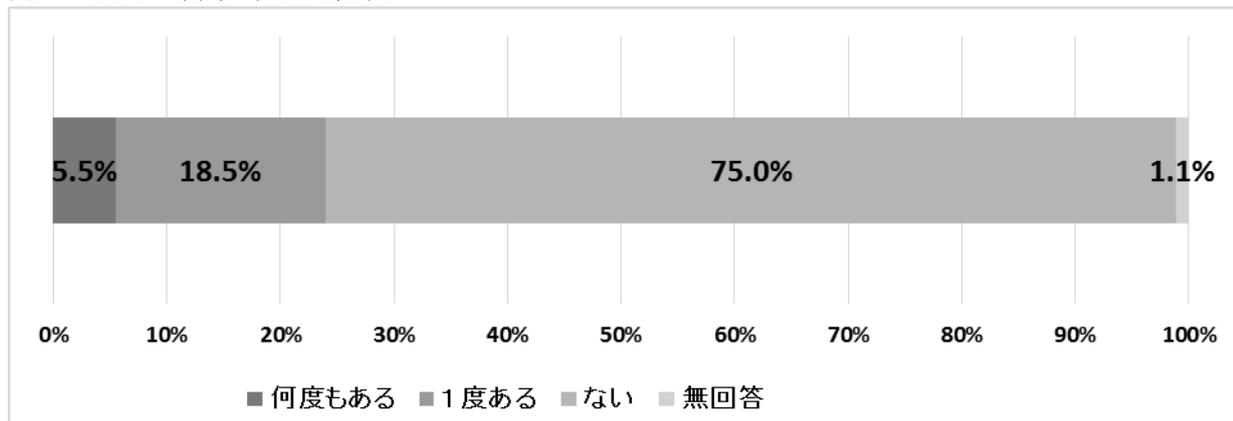
②椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか

③15分位続けて歩いていますか

「階段を手すりや壁をつたわずに昇っている」は69.2%が「できるし、している」で、「できない」は9.9%です。

「椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっている」、「15分位続けて歩いている」は、どちらも「できるし、している」が8割強、「できない」は5%弱となっています。

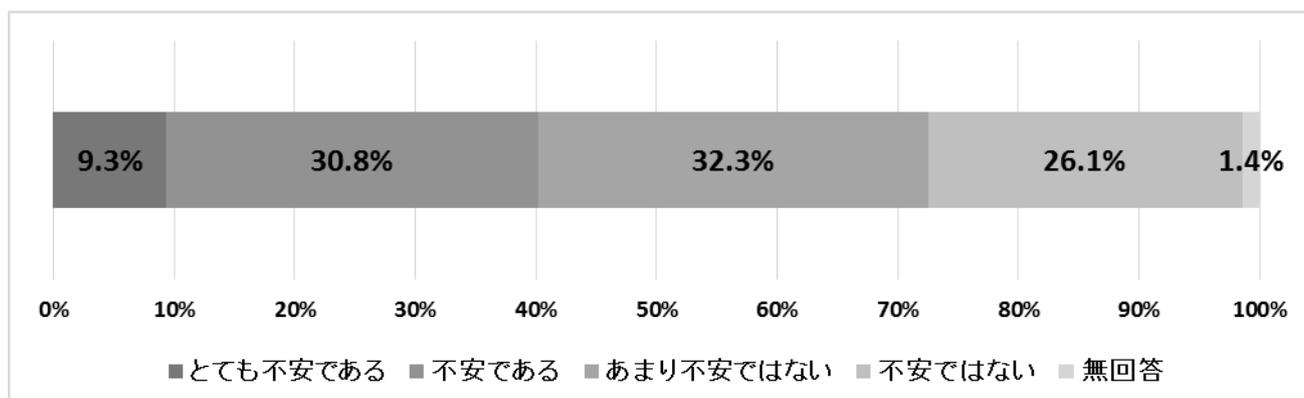
問9 過去1年間に転んだ経験



N=2,156

過去一年間に転んだ経験については、「ない」が75.0%で、「1度ある」18.5%、「何度もある」は5.5%です。

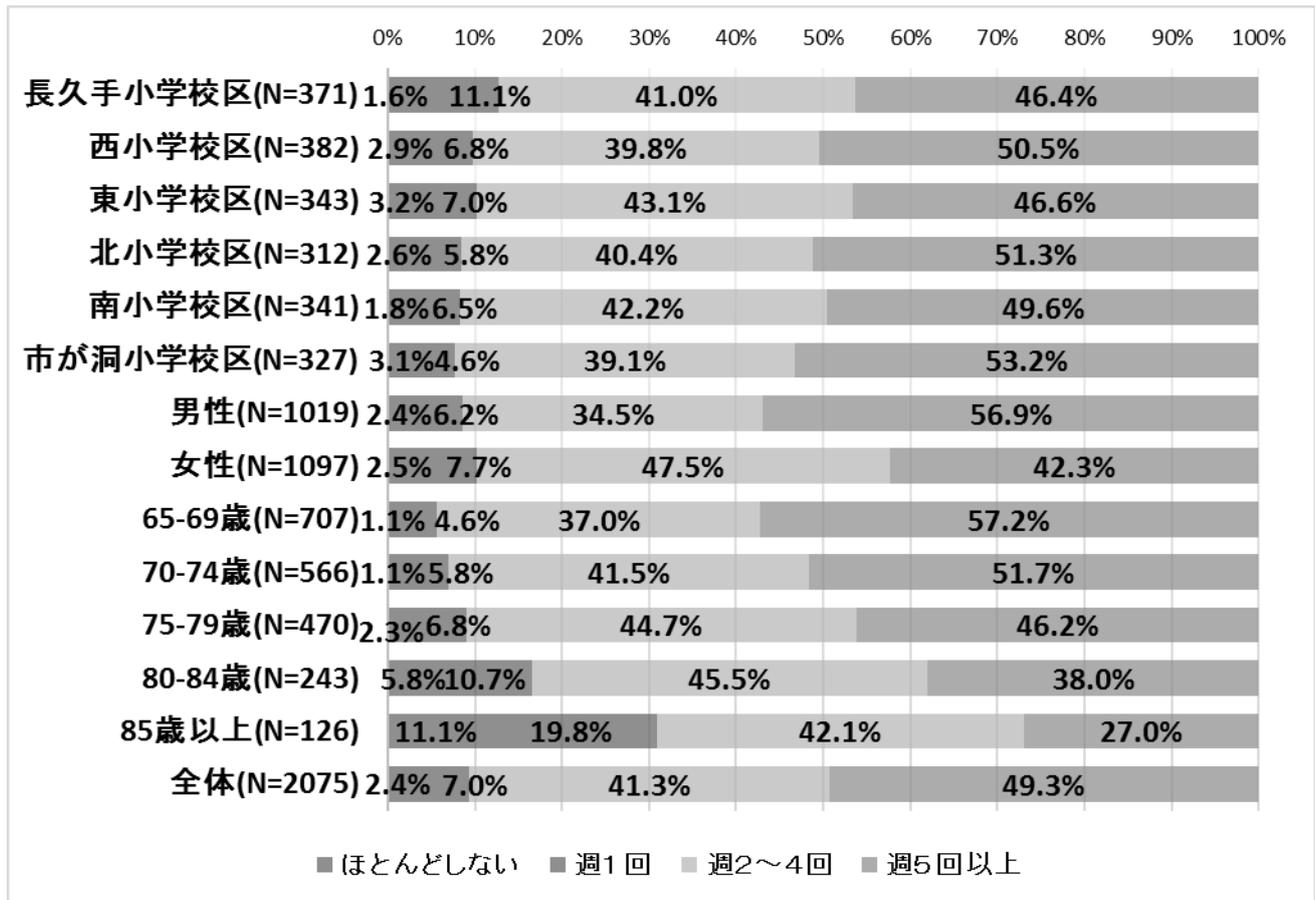
問10 転倒に対する不安



N=2,156

転倒については、「とても不安である」9.3%、「不安である」30.8%と合わせて4割以上が不安を感じています。

問11 週に1回以上の外出

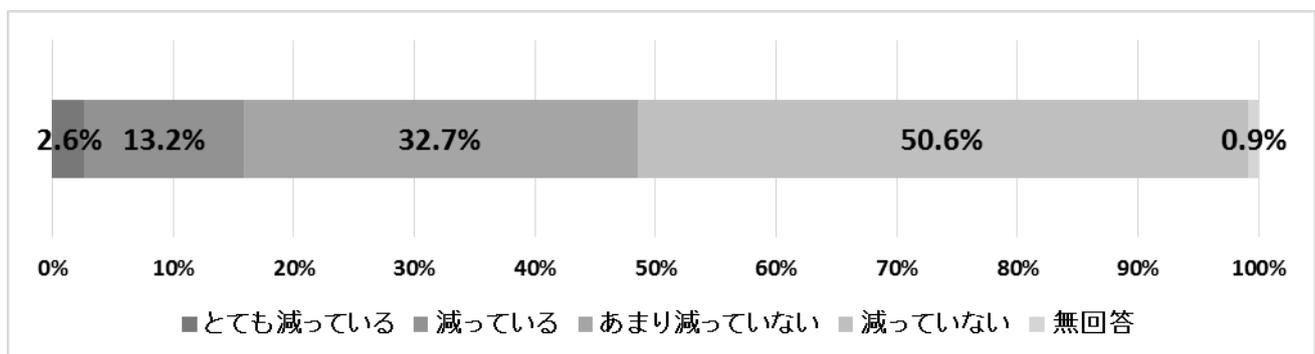


外出については、全体で「週5回以上」が49.3%で最も多く、「週1回」が41.3%です。逆に、「ほとんどしない」は2.4%となっています。

小学校区別では、「週5回以上」が、市が洞小学校区、北小学校区、西小学校区で5割を超え、相対的に多くなっています。

性別では、男性の方が「週5回以上」の外出が多く、年齢が高くなるほど、外出回数が減少する傾向が見られます。

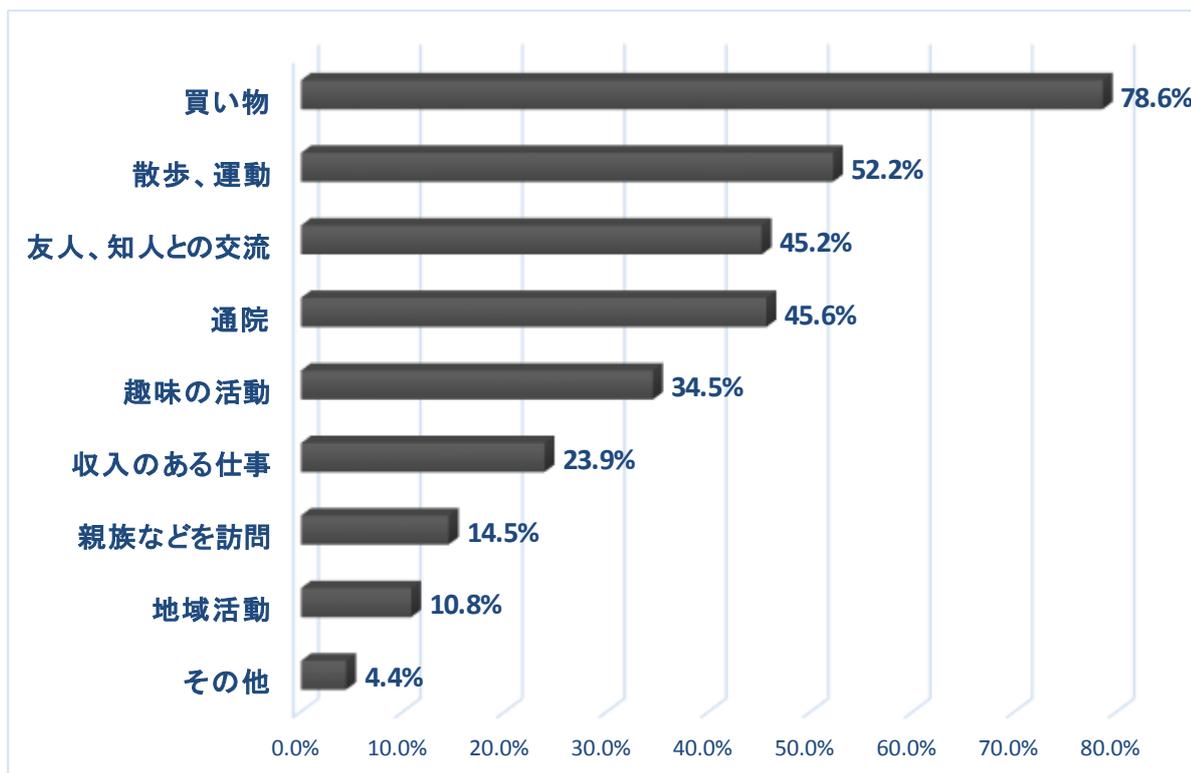
問12 昨年と比べた外出の回数



N=2,156

外出は昨年と比べて「減っていない」50.6%、「あまり減っていない」が32.7%です。逆に「減っている」という回答は13.2%、「とても減っている」は2.6%となっています。

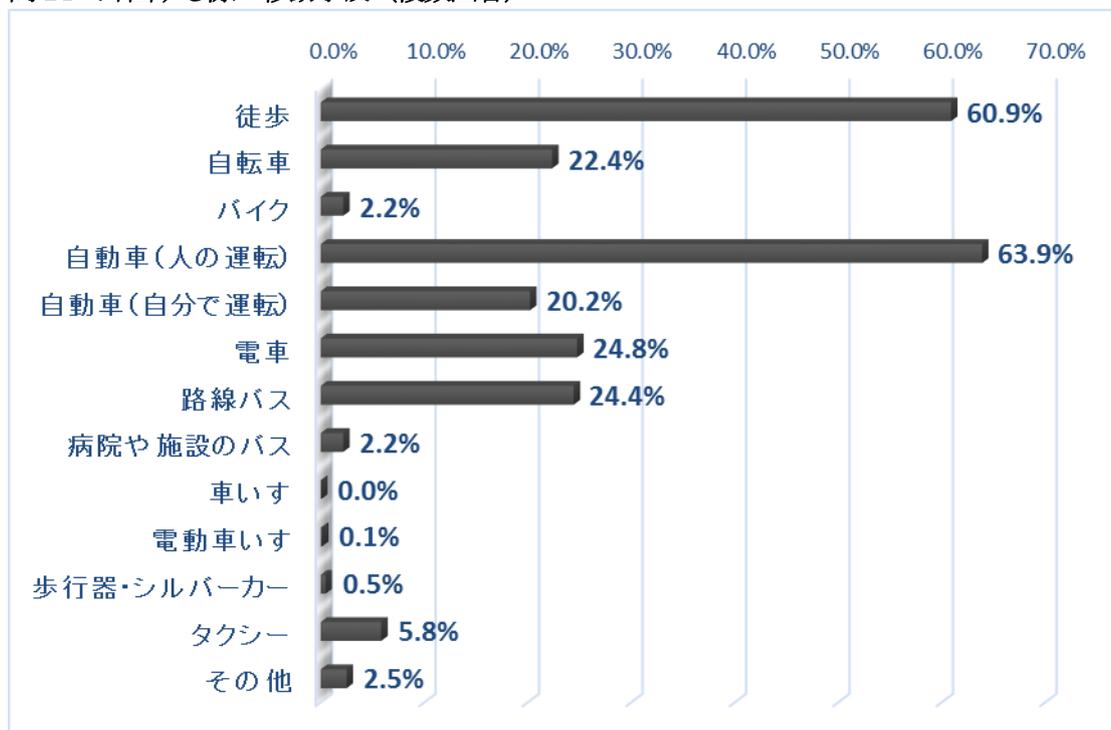
問13 外出の目的 (複数回答)



N=2,156

外出の目的は「買い物」が最も多く78.6%です。続いて「散歩、運動」が52.2%、「通院」45.6%、「友人、知人との交流」が45.2%です。

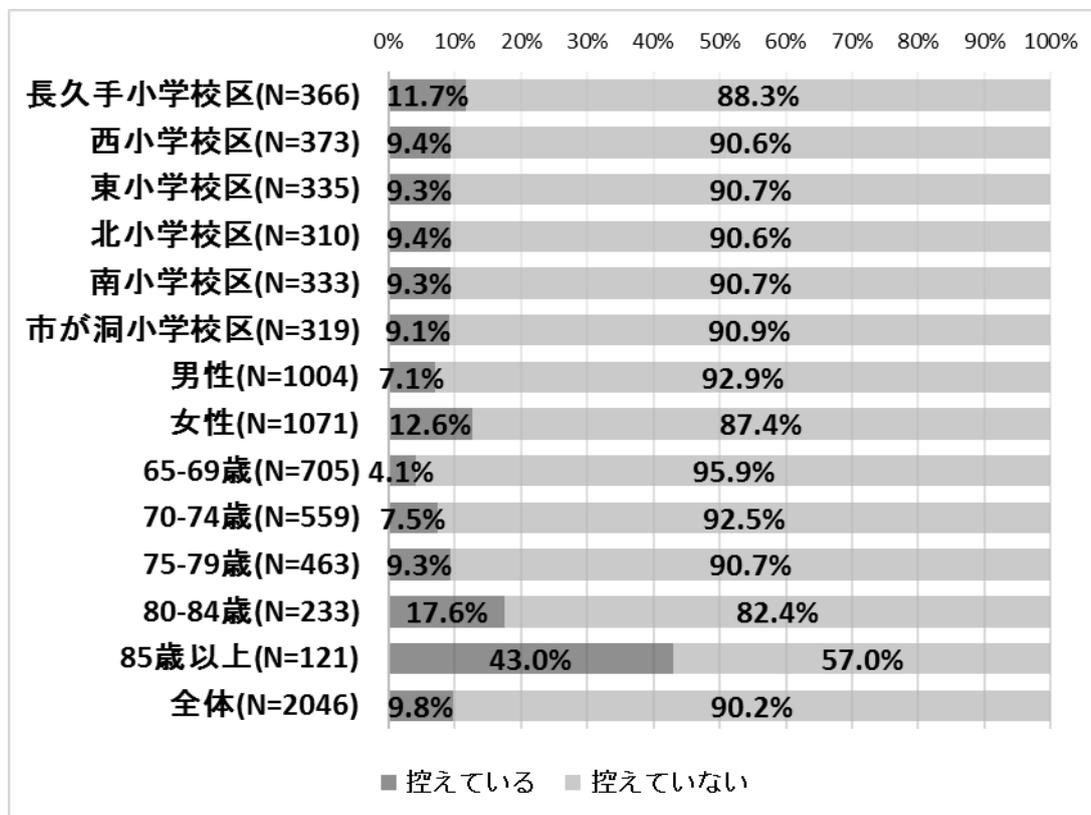
問14 外出する際の移動手段 (複数回答)



N=2,156

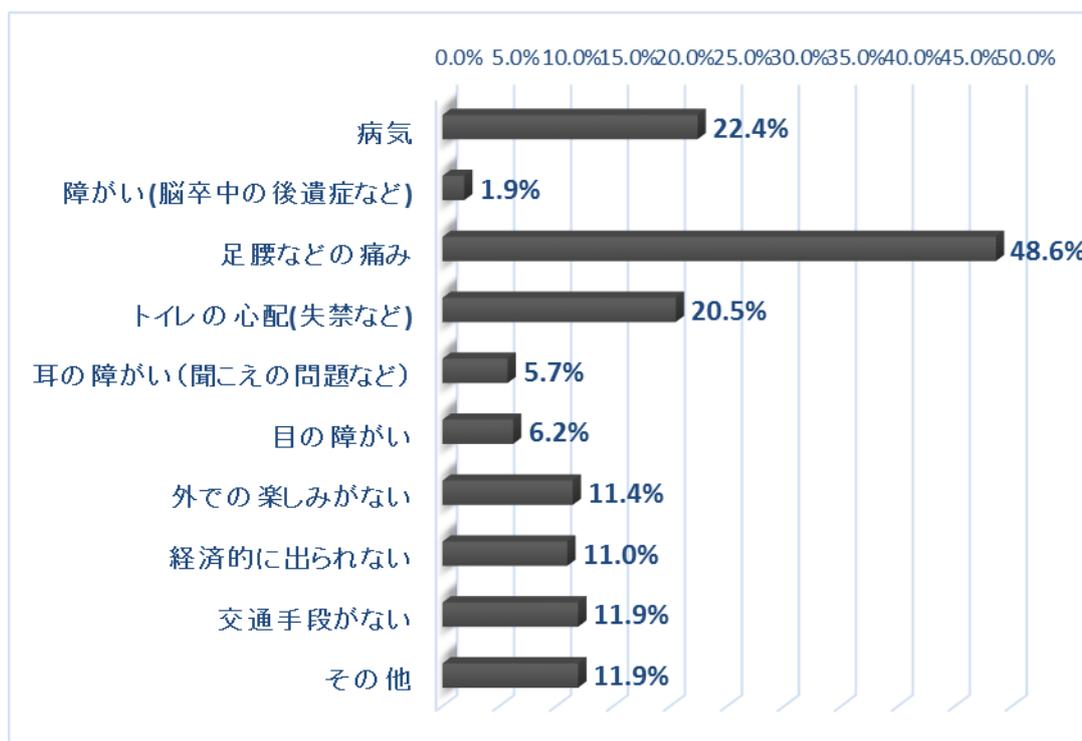
外出する際の移動手段は、「自動車（人の運転）」という形で同乗する割合が63.9%と最も多く、「徒歩」は60.9%です。「電車」24.8%、「路線バス」24.4%というように、代表的な公共交通機関の利用は、どちらも約1/4となっています。

問15 外出について



外出については、全体として、「控えていない」は90.2%、「控えている」が9.8%です。女性の方が男性に比べて「控えている」という回答が多く、年齢が上がるほど高くなっています。

問 15-1 外出を控えている理由

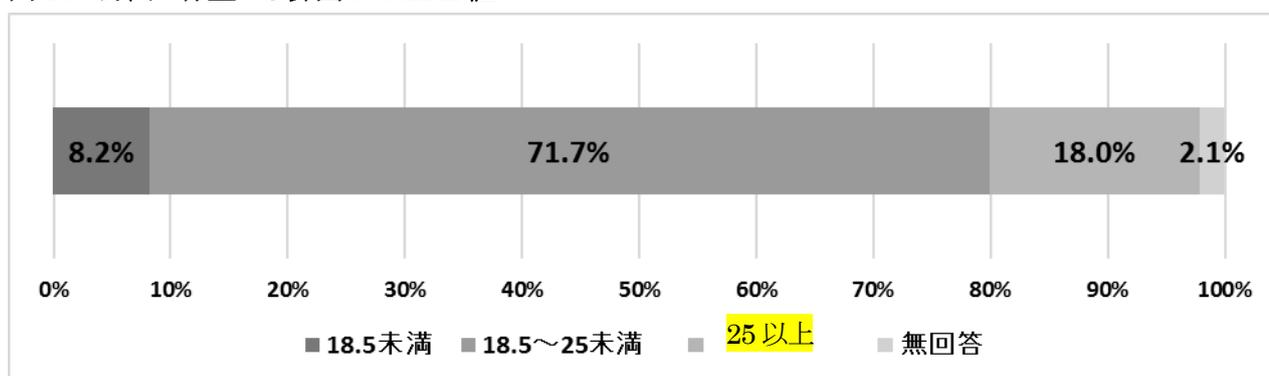


N=210

外出を控えている理由は、「足腰などの痛み」が48.6%と半数近くを占めています。「病気」22.4%、「トイレの心配」20.5%が続いています。

2-3 食べることについて

問 16 身長・体重から算出したBMI値

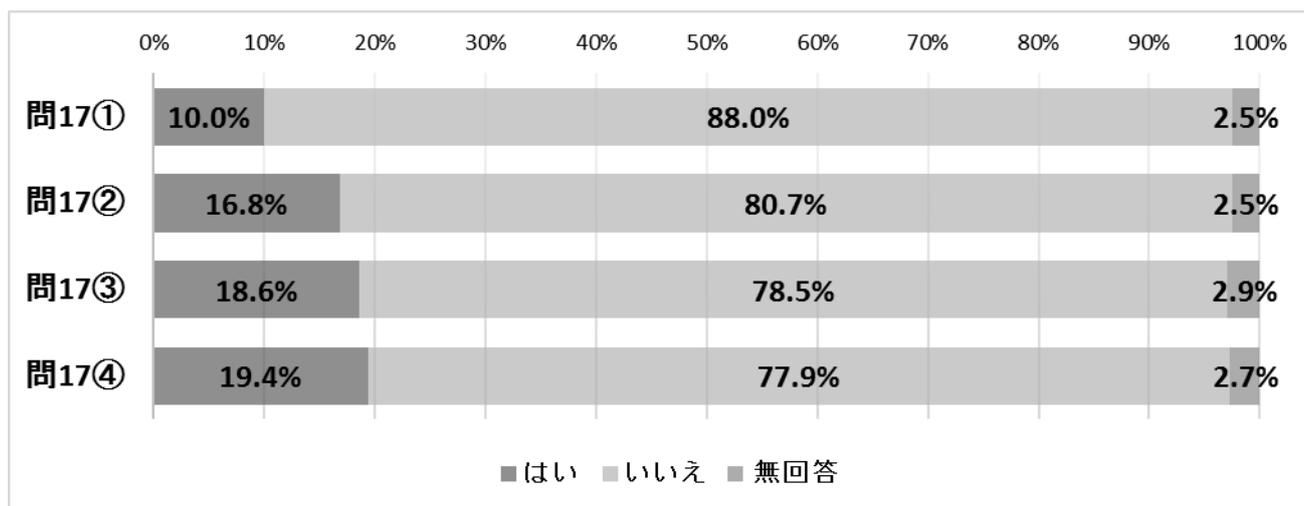


N=2,156

調査対象者に身長と体重をたずね、肥満度の指標のBMIを算出しました。BMIとは、体重(kg)を身長(m)の2乗で割った値で、18.5未満が「やせ」、25.0以上が「肥満」とされます。

BMIについては、「低体重(痩せ型)18.5未満」が8.2%、「普通体重18.5~25未満」が最も多く71.7%です。「肥満25以上」は1.0%となっています。

問17 食べることについて

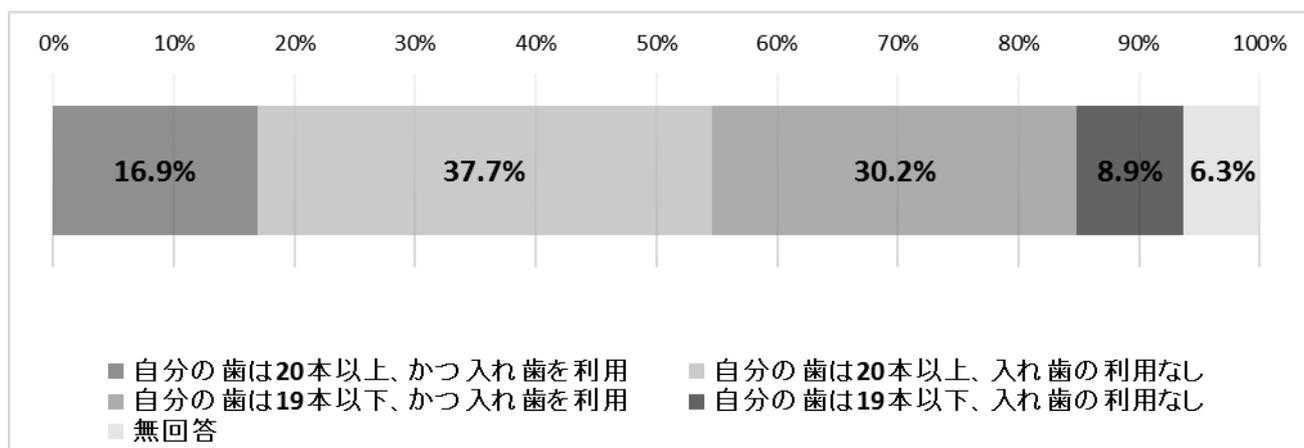


N=2,156

- ①6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか
- ②半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか
- ③お茶や汁物等でむせることがありますか
- ④口の渇きが気になりますか

「6か月間で2～3kg以上の体重減少」については10.0%、「半年前に比べて固いものが食べにくくなった」は16.8%、「お茶や汁物等でむせる」は18.6%、「口の渇きが気になる」は19.4%が「はい」と回答しています。

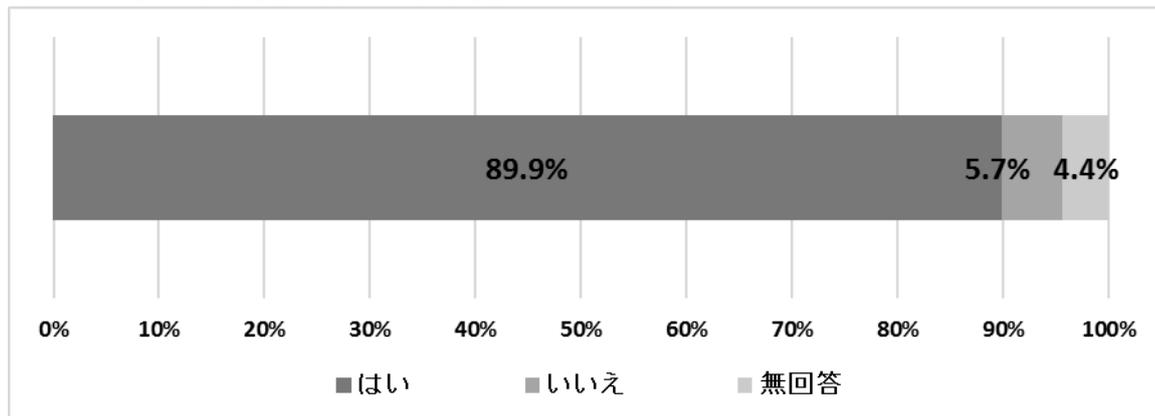
問18 歯の数と入れ歯の利用状況



N=2,156

「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」が16.9%、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」37.7%、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」30.2%、「自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし」8.9%です。「入れ歯利用者」は合計すると半数弱となっています。

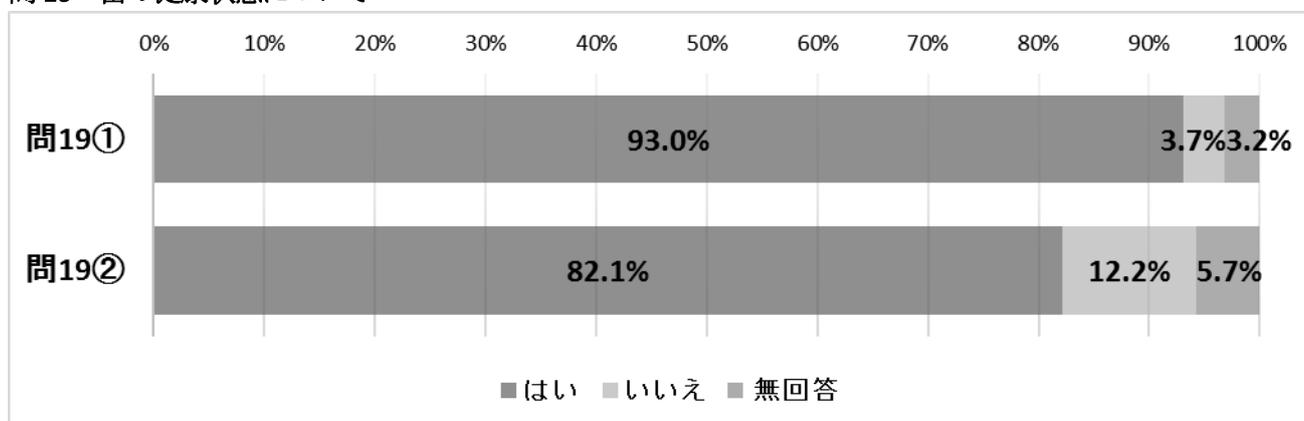
問18-1 毎日の入れ歯の手入れ (入れ歯のある方のみ)



N=1,016

毎日の入れ歯の手入れは、約9割の使用者が行っています。

問19 歯の健康状態について



N=2,156

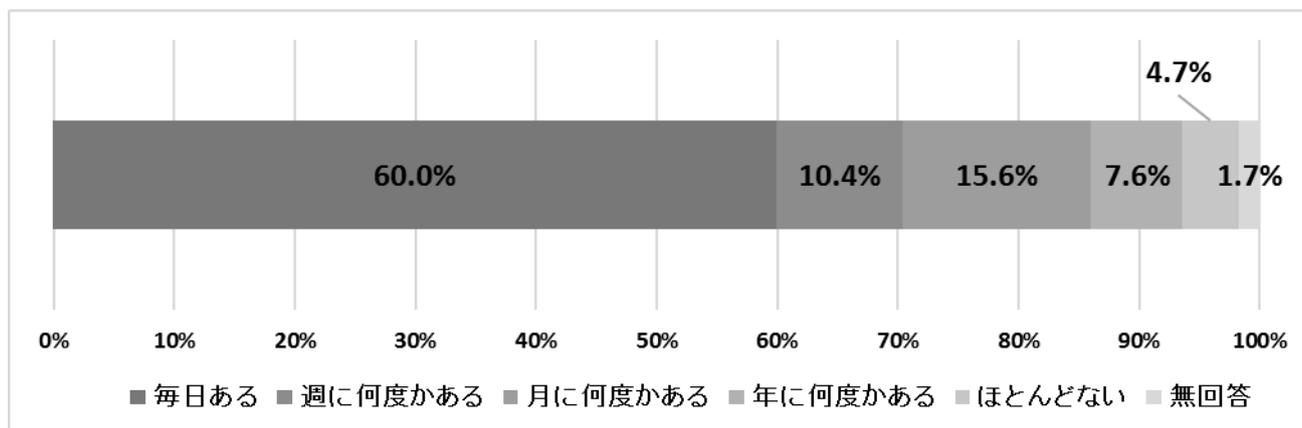
①歯みがき (人にやってもらう場合も含む) を毎日していますか

②噛み合わせは良いですか

「歯磨き (人にやってもらう場合も含む) を毎日している」は93.0%です。

かみ合わせが「良い」は82.1%、「良くない」は12.2%です。

問20 どなたかと食事をとる機会



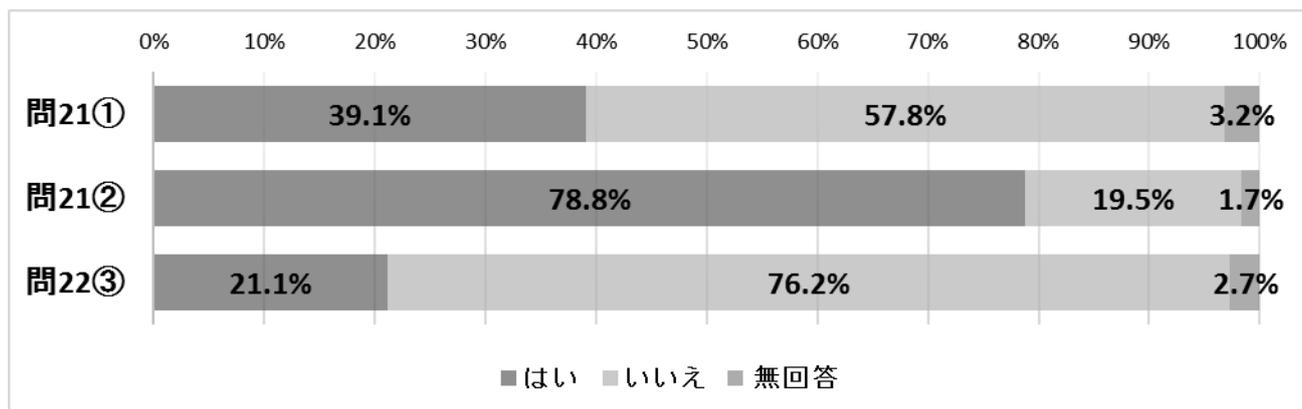
N=2,156

食事をとる機会については、「毎日ある」が60.0%で最も多く、「月に何度かある」までを含めると、約85%となっています。

逆に、「ほとんどない」は4.7%です。

2-4 毎日の生活について

問21 物忘れについて



N=2,156

①物忘れが多いと感じますか

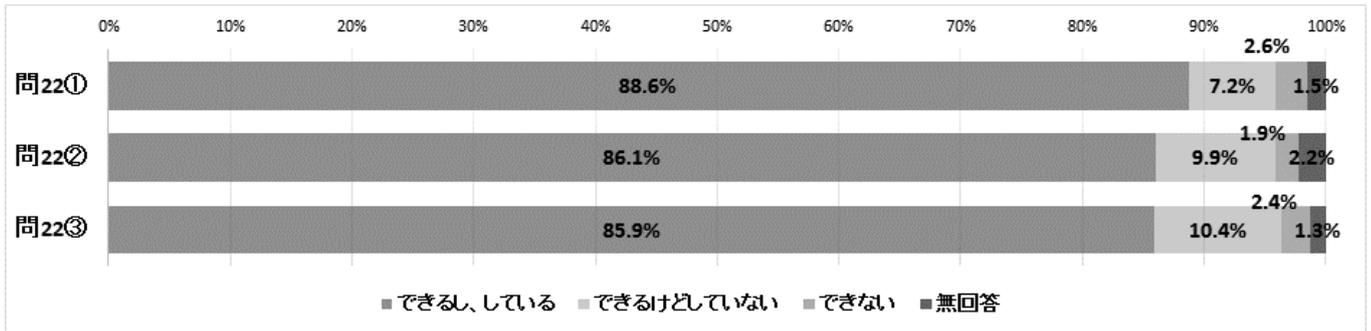
②自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか

③今日が何月何日かわからない時がありますか

日常生活での物忘れについては、「多いと感じている」が39.1%と4割弱となっています。

「自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしている」は78.8%、「今日が何月何日か、わからない時がある」は21.1%と2割を超えています。

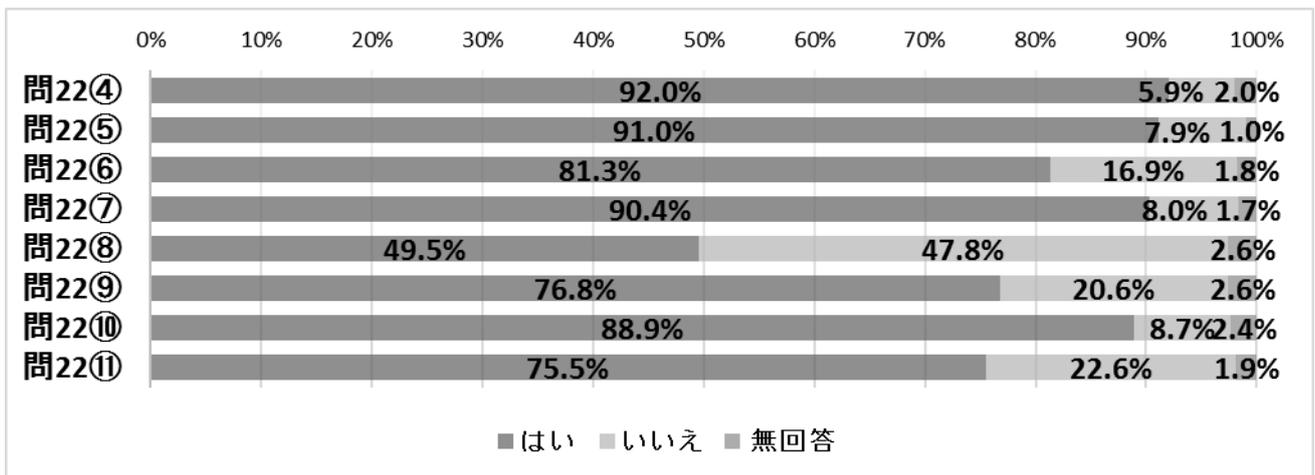
問 22 日常生活について



N=2,156

- ①バスや電車を使って一人で外出していますか（自家用車でも可）
- ②自分で請求書の支払いをしていますか
- ③自分で預貯金の出し入れをしていますか

日常生活の活動については、「バスや電車を使って一人で外出（自家用車でも可）」88.6%、「自分で請求書の支払いをしている」は86.1%、「自分で預貯金の出し入れをしている」は85.9%となっています。



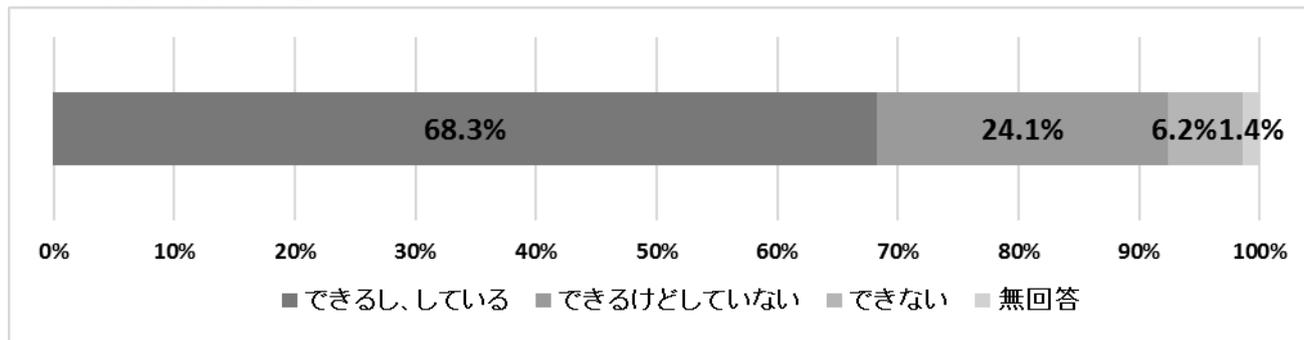
N=2,156

- ④年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか
- ⑤新聞を読んでいますか
- ⑥本や雑誌を読んでいますか
- ⑦健康についての記事や番組に関心がありますか
- ⑧友人の家を訪ねていますか
- ⑨家族や友人の相談にのっていますか
- ⑩病人を見舞うことができますか
- ⑪若い人に自分から話しかけることがありますか

「年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書ける」、「新聞を読んでいる」、「健康についての記事や番組に関心がある」、「病人を見舞うことができる」は約9割となっています。

「本や雑誌を読んでいる」81.3%、「家族や友人の相談にのっている」76.8%、「若い人に自分から話しかけることがある」75.5%で、「友人の家を訪ねている」のみ49.5%と半数を下回っています。

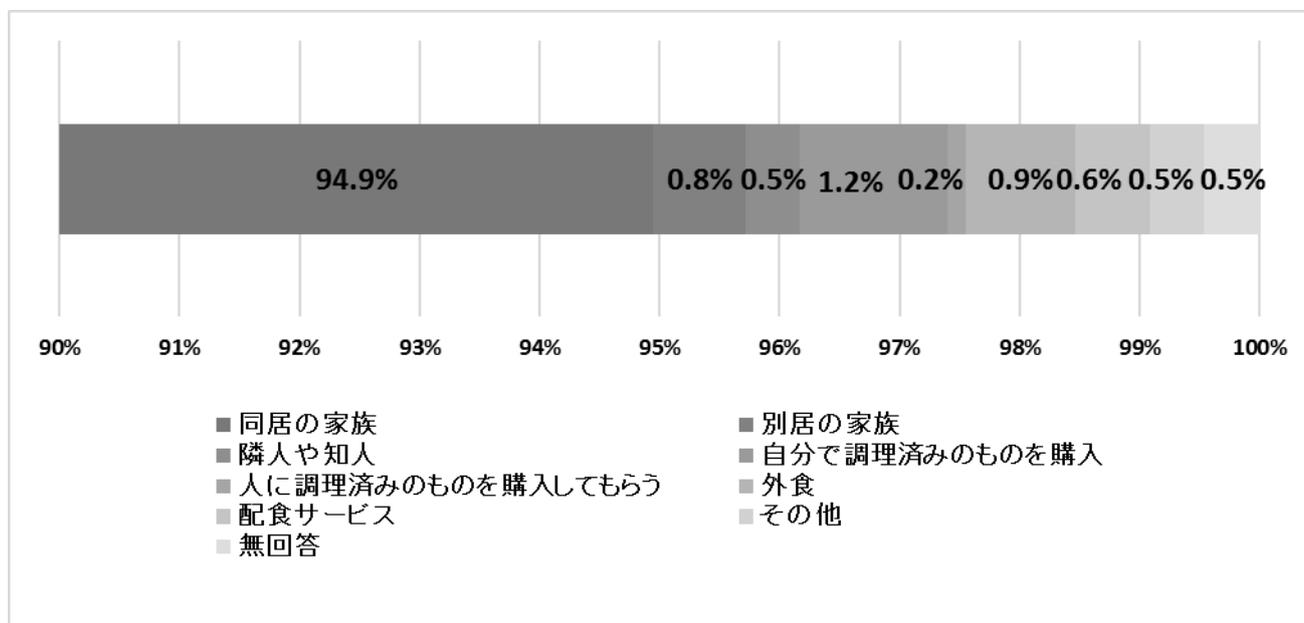
問23 自分で食事の用意をしているか



N=2,156

食事の用意については、「できるし、している」が68.3%と最も多く、「できるけどしていない」が24.1%と続きます。「できない」という回答は6.2%です。

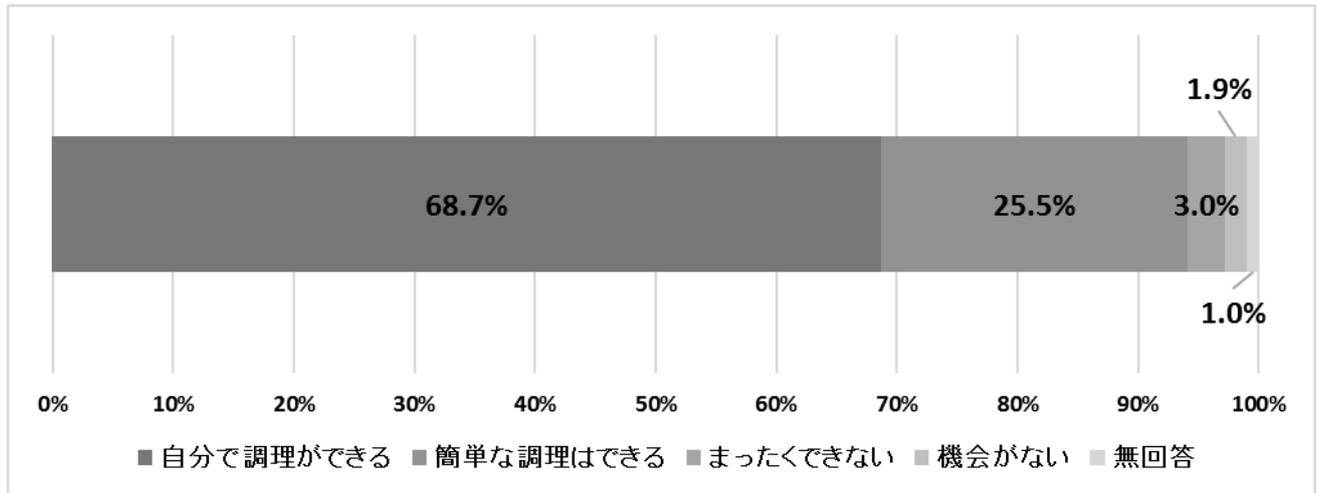
問23-1 主に食事の用意をする人（問23で「できるけどしていない」「できない」とした回答者のみ）



N=653

「できるけどしていない」「できない」とした回答者のうち、主に食事の用意をするのは圧倒的に「同居の家族」が94.9%と多くなっています。

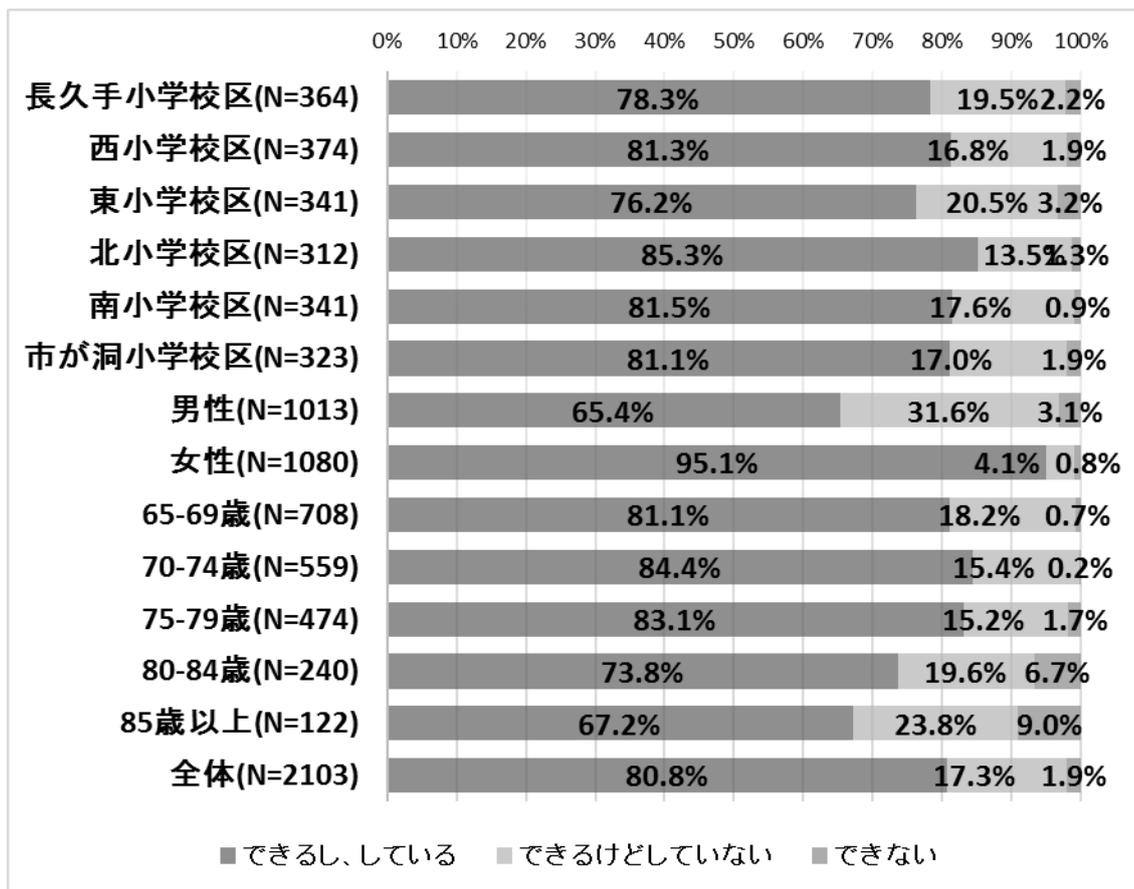
問24 調理



N=2,156

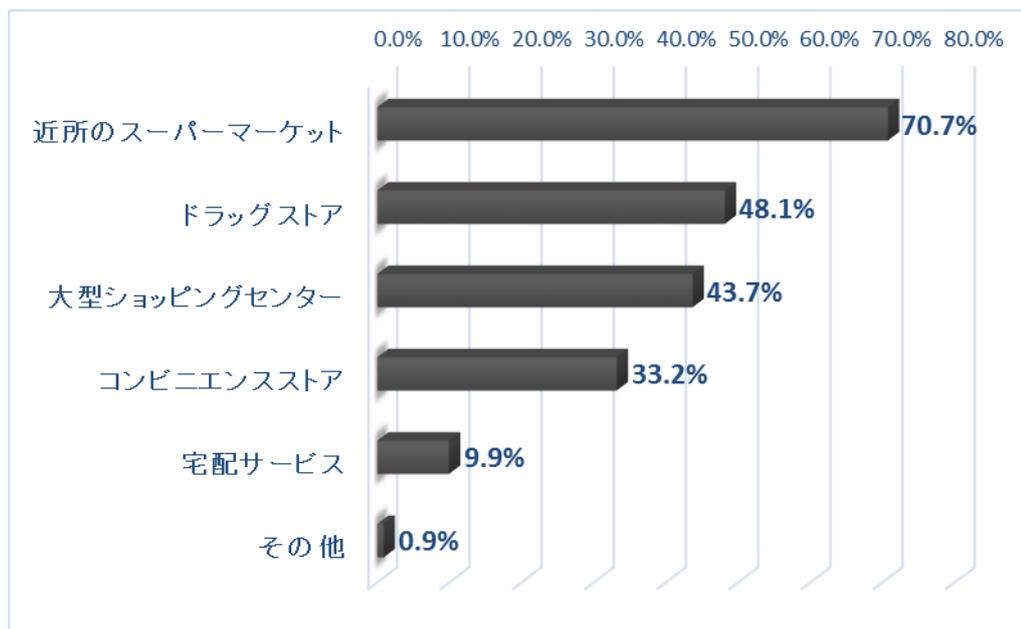
調理は、「自分で調理ができる」が68.7%と最も多く、「簡単な調理はできる」が25.5%と続いています。

問25 自分で食品・日用品の買い物をしていますか



買い物については、「自分で食品・日用品の買い物をしている」が全体で80.8%であり、「できない」という回答は1.9%にとどまっています。ただし、性別によって違いがあり、男性では65.4%が「できるし、している」、「できるけどしていない」が31.6%となっています。

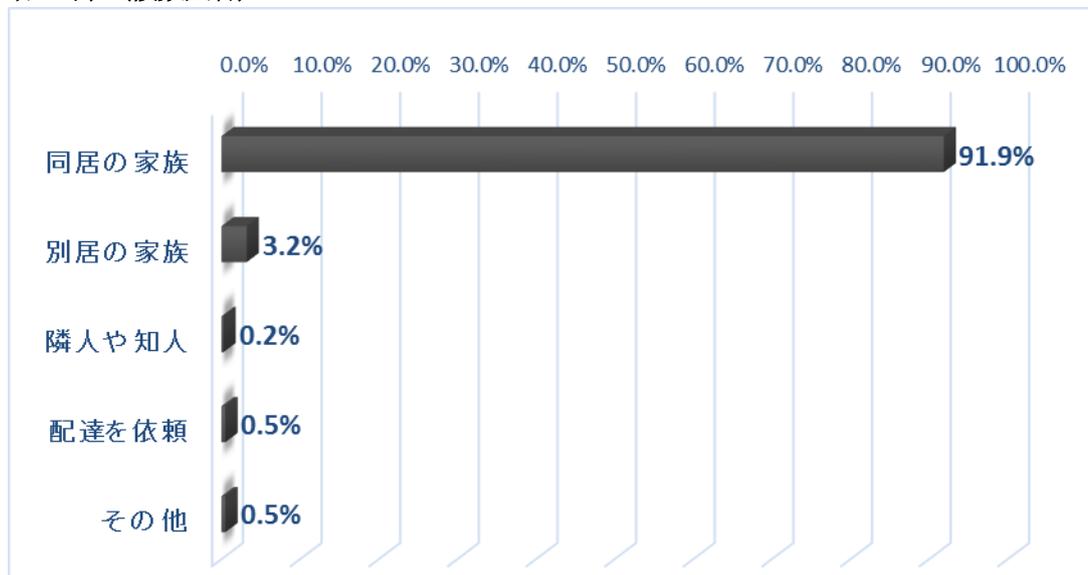
問 25-1 主に食品・日用品の買い物をしている場所 (問 25 で「できるし、している」という回答者のみ) (複数回答)



N=1,689

買い物の場所は、「近所のスーパーマーケット」が最も多く 70.7%、「ドラッグストア」48.1%、「大型ショッピングセンター」43.7%となっています。

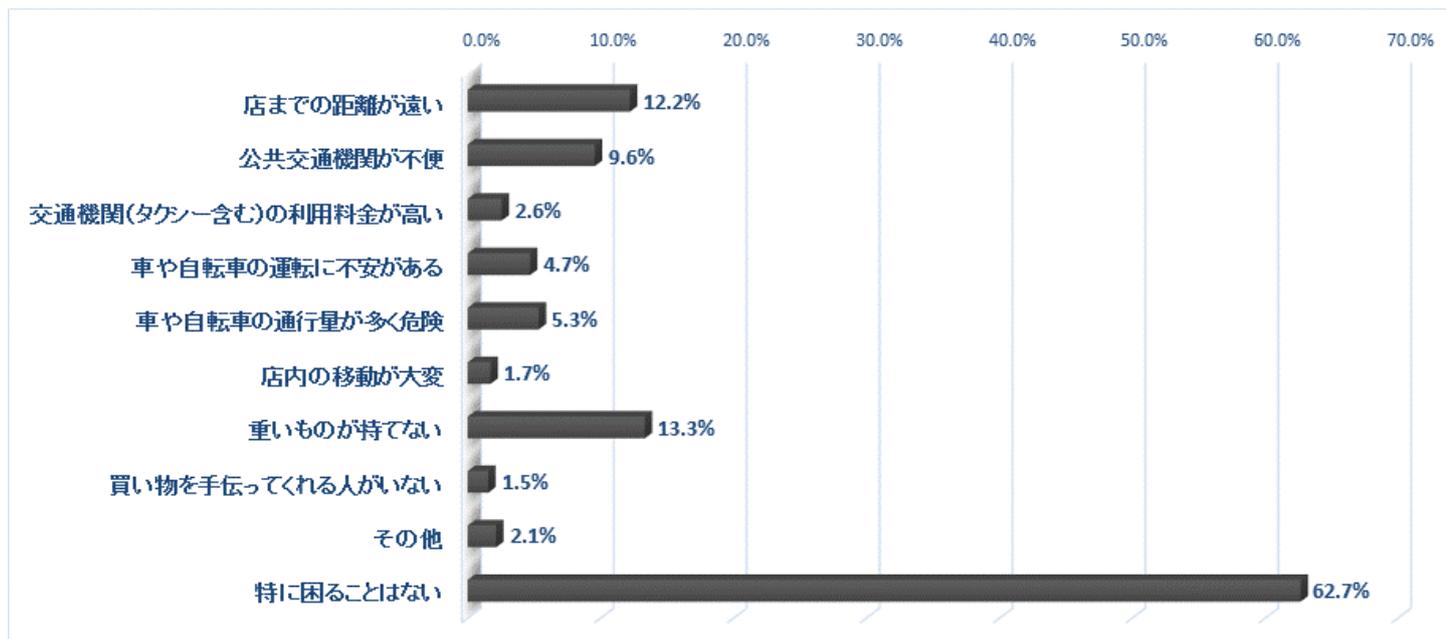
問 25-2 主に食品・日用品の買い物をする人 (問 25 で「できるけどしていない」、「できない」という回答者のみ) (複数回答)



N=404

買い物を「できるけどしていない」、「できない」とした回答者では、買い物を「同居の家族」が 91.9%行なっています。続くのが「別居の家族」3.2%であり、買い物については、ほぼ家族に限定されている状況を見て取ることができます。

問26 買い物で困ること（複数回答）

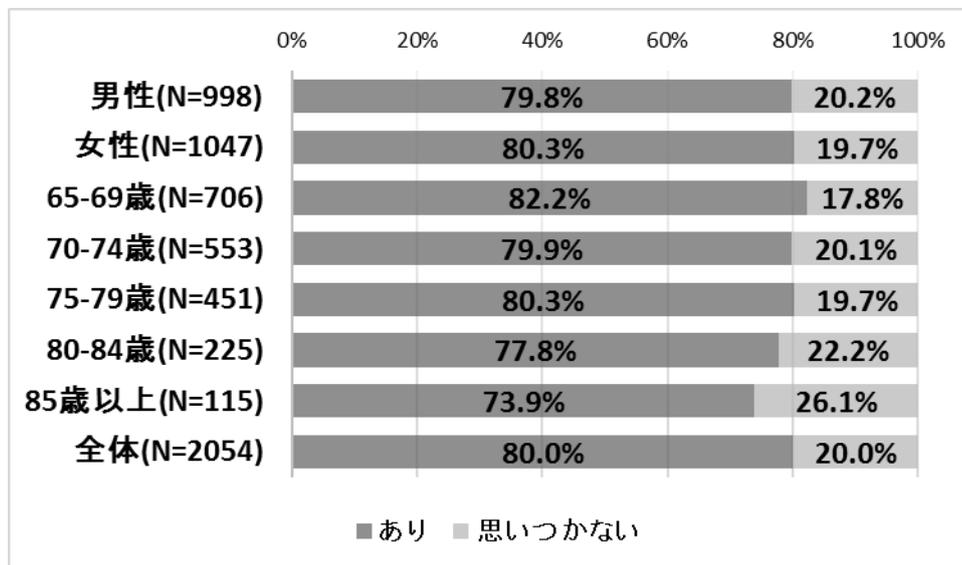


N=2,156

買い物については、「特に困ることはない」が62.7%と最も多くなっています。

逆に、困っている側の理由としては、「重いものが持てない」13.3%、「店までの距離が遠い」12.2%、「公共交通機関が不便」9.6%となっています。

問27 趣味



N=2,156

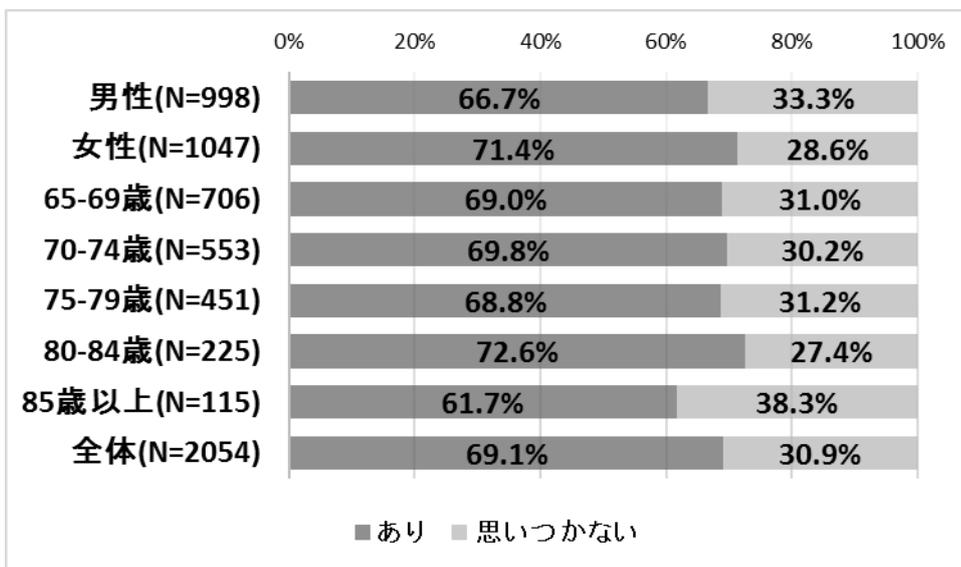
「趣味」については、80.0%が「あり」と回答しています。

性別では大きな違いが見られませんが、80歳以上で「あり」が減少する傾向にあります。

●趣味の内容（主なもの）

内容	度数
スポーツ	456
園芸	237
読書	191
手芸	165
旅行	125
絵を描く(絵手紙を含む)	84
カラオケ	74
音楽鑑賞	58
ダンス、踊り	55

問28 生きがい



N=2,156

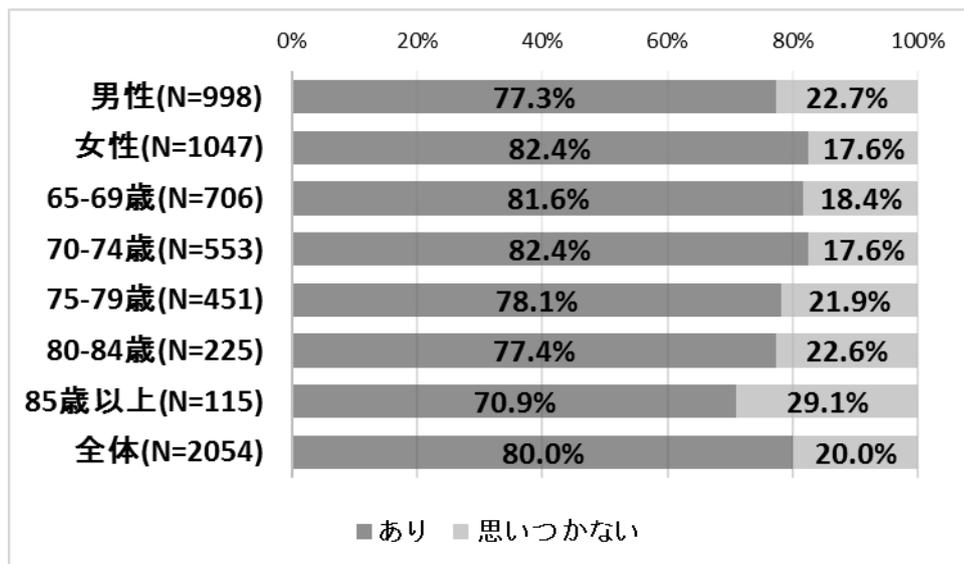
「生きがい」については、全体で69.1%が「あり」と回答しています。

性別では、女性の方が男性よりも「あり」という回答が多くなっています。年齢別では85歳以上で「あり」とう回答が少なくなっています。

●生きがいの内容（主なもの）

内容	度数
子ども、孫との交流	397
趣味	144
旅行	90
仕事	85
スポーツ	75
友人との外出・食事	72
地域活動、ボランティア	49

問29 日頃の楽しみ



N=2,156

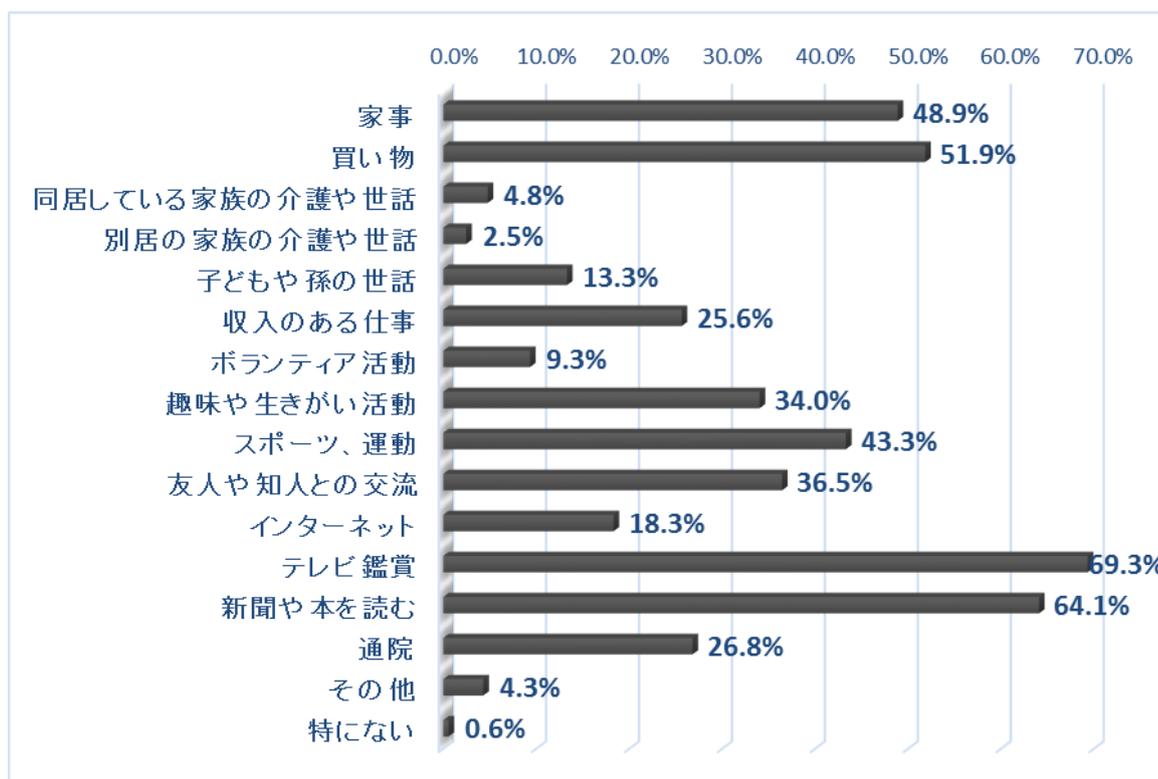
「日頃の楽しみ」については、全体で80.0%が「あり」と回答しています。

性別では、女性の方が男性よりも「あり」という回答が多くなっています。年齢別では85歳以上で「あり」とう回答が少なくなっています。

●日頃の楽しみの内容（主なもの）

内容	度数
友人との外出・食事	285
趣味	266
スポーツ	168
園芸	142
テレビ	137
旅行	136
子ども、孫との交流	127
読書	67
仕事	46
地域活動、ボランティア	16

問30 日中の主な過ごし方（複数回答）

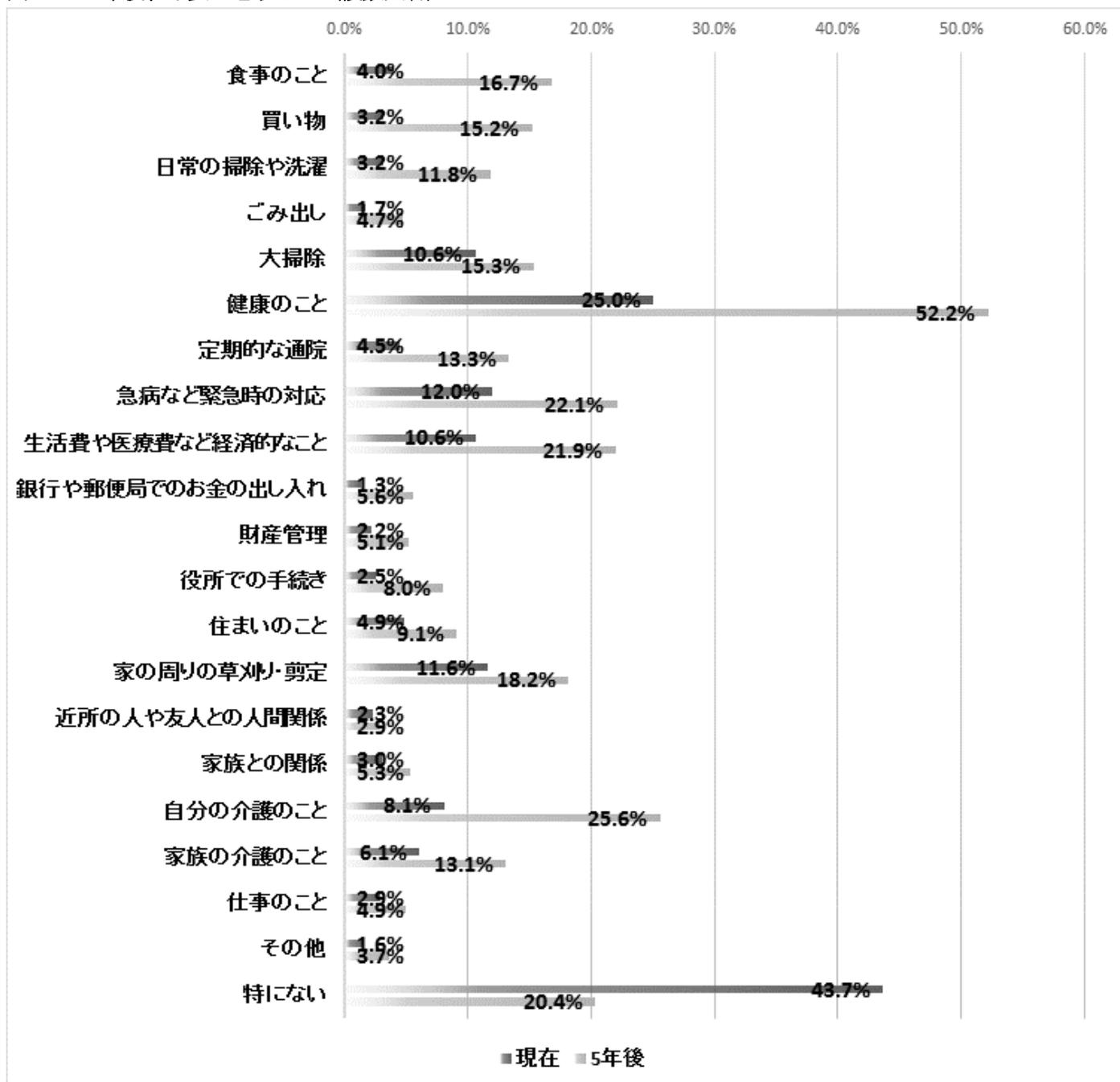


N=2,156

日中の主な過ごし方では、「テレビ鑑賞」69.3%、「新聞や本を読む」64.1%と多くなっています。「買い物」の回答が51.9%で、この3つの項目が半数を超えています。

問 31 現在、日常生活で困っていることや不安に思うこと（複数回答）

問 32 5年後、不安に思うこと（複数回答）



困りごと、不安については、「特にない」が現在 43.7%で最も多くなっていますが、5年後は 20.4%に減少します。

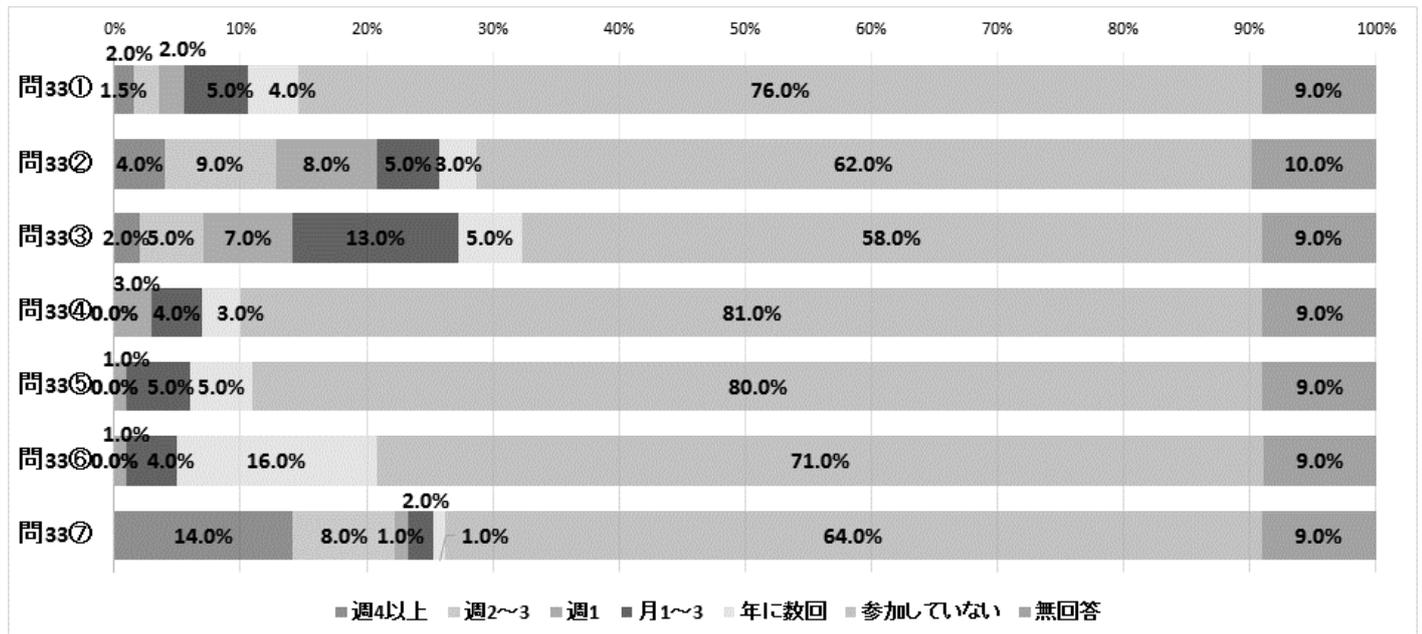
逆に、困りごと、不安として上げられているものの中で最も多いのは、「健康のこと」が現在で 25.0%、5年後では 52.2%と半数を超えます。

また、「急病など緊急時の対応」、「生活費や医療費など経済的なこと」、「大掃除」、「家の周りの草刈り・剪定」が現在でも 10%を超えていますが、5年後にはさらに増加します。

現在と比較して5年後の不安が高いのが、「自分の介護のこと」で、現在は 8.1%ですが、5年後では 25.6%と 1/4 を超えています。

2-5 地域での活動やたすけあいなどについて

問33 会・グループ等への参加頻度



N=2,156

- ①ボランティアのグループ
- ②スポーツ関係のグループやクラブ
- ③趣味関係のグループ
- ④学習・教養サークル
- ⑤老人クラブ
- ⑥町内会・自治会
- ⑦収入のある仕事

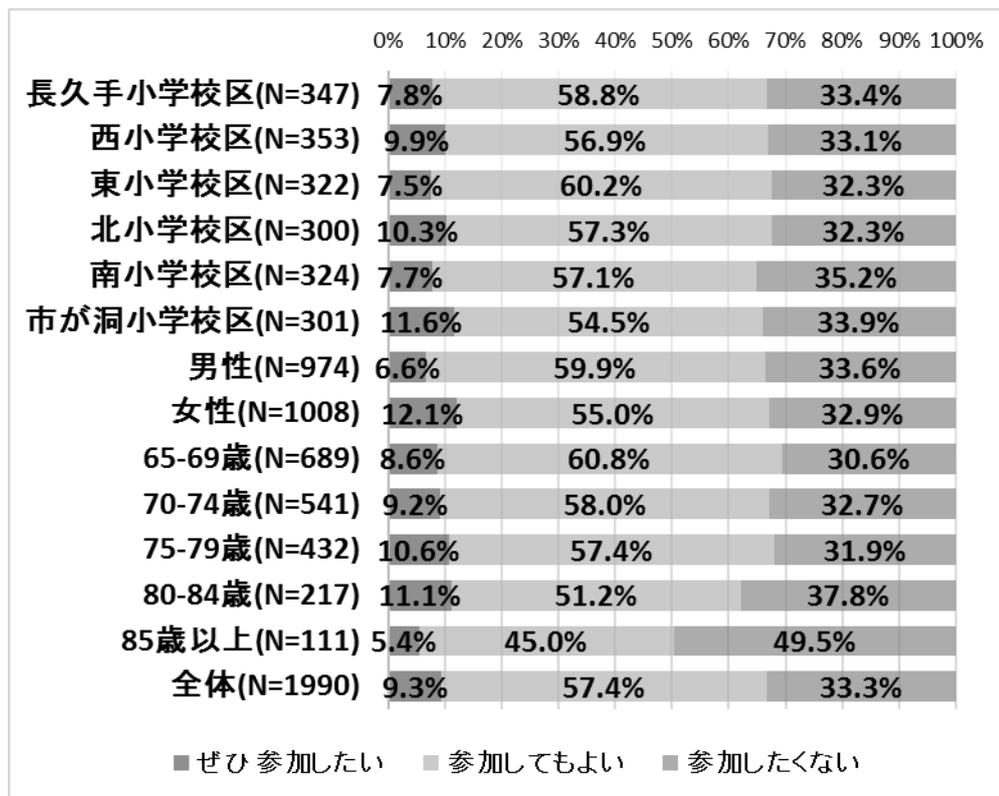
全体として「参加していない」という回答が「参加」を上回っています。

「スポーツ関係のグループやクラブ」、「趣味関係のグループ」は3割弱が参加しています。「町内会・自治会」参加が2割強、「ボランティアのグループ」の参加は1割強です。

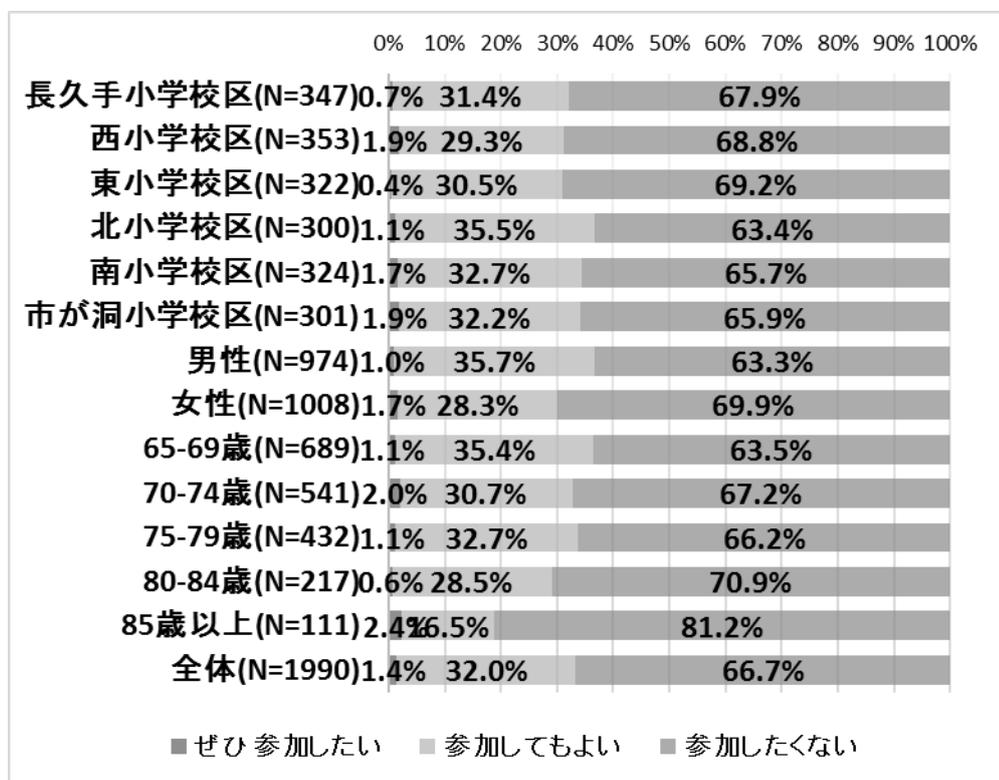
「収入のある仕事」は約1/4の参加となっています。

問 34 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加してみたいと思いますか

①参加者として



②企画・運営（お世話役）として

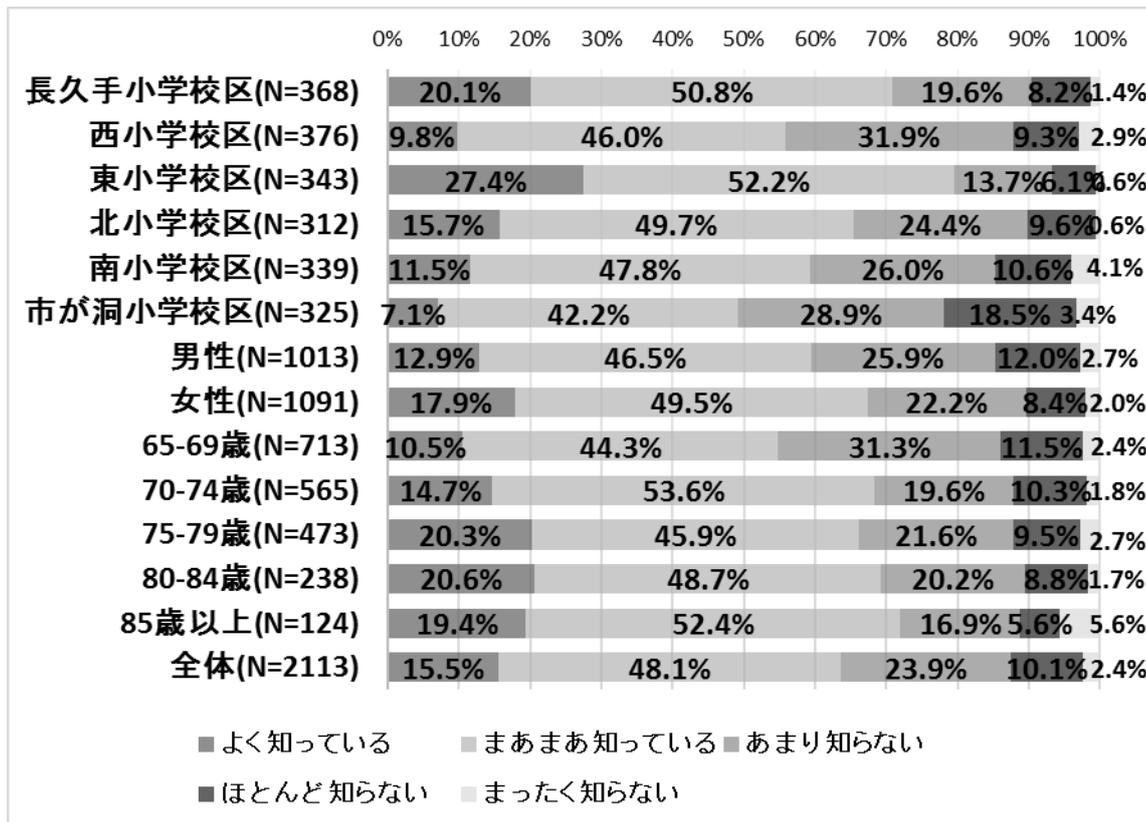


健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進める活動に対して、「ぜひ参加したい」という意向は、全体として「参加者として」は9.3%ですが、「企画・運営として」は1.4%です。「参加してもよい」は、「参加者として」は57.4%と半数を超え、「企画・運営として」も32.0%です。

逆に「参加したくない」という否定的な意識は、「参加者として」33.3%、「企画・運営として」66.7%となっています。

どちらも、女性の方が男性よりも参加意識が高く、年齢別では85歳以上で参加意識が低くなる傾向が認められます。

問35 近隣に住んでいる人の認知



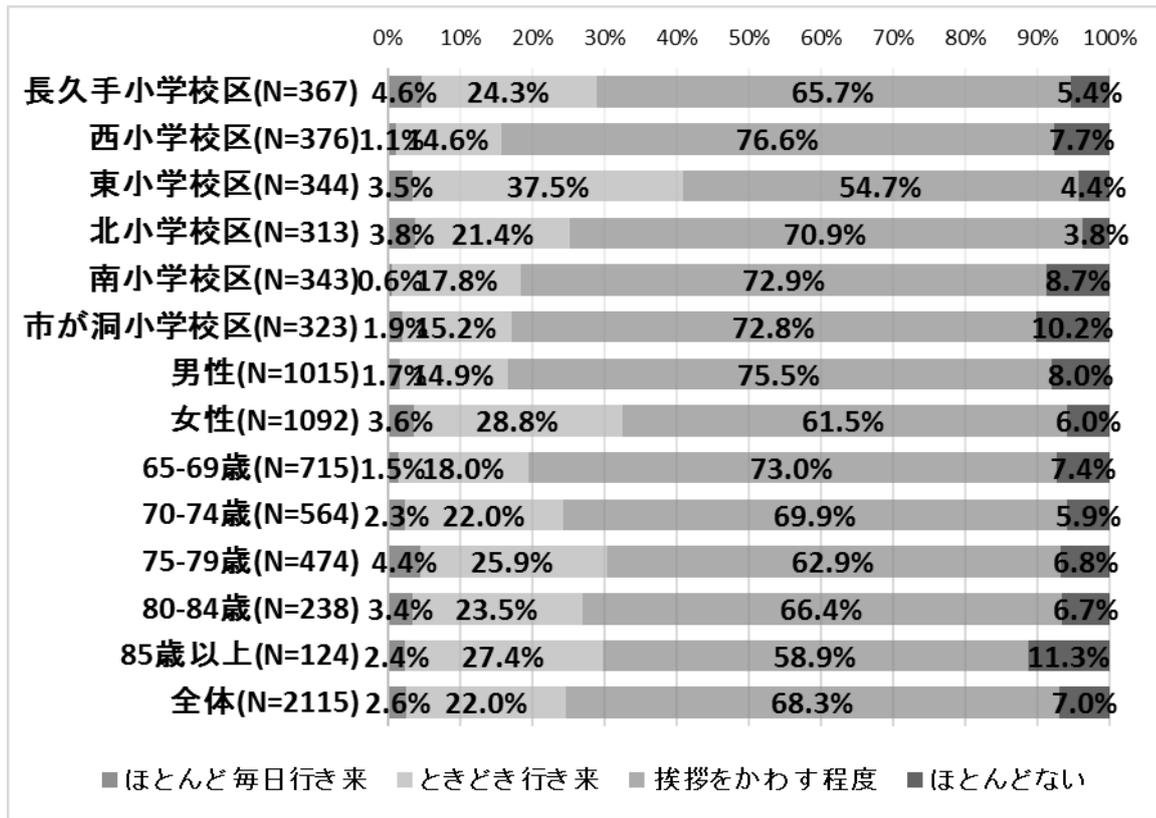
近隣に住んでいる人に対しては、全体で、「よく知っている」15.5%、「まあまあ知っている」48.1%と合わせて6割を超えます。

逆に、「あまり知らない」23.9%で、「ほとんど知らない」「まったく知らない」という疎遠な関係は合わせて12.5%となっています。

校区別では、「よく知っている」が長久手小学校区、東小学校区で2割を超えているのに対して、西小学校区、市が洞小学校区では1割を切っており、顕著な違いが認められます。

性別では女性の方が男性よりも認知度が高く、年齢別では若い世代ほど「よく知っている」という回答が少ない傾向にあります。

問 36 隣近所とのつきあい



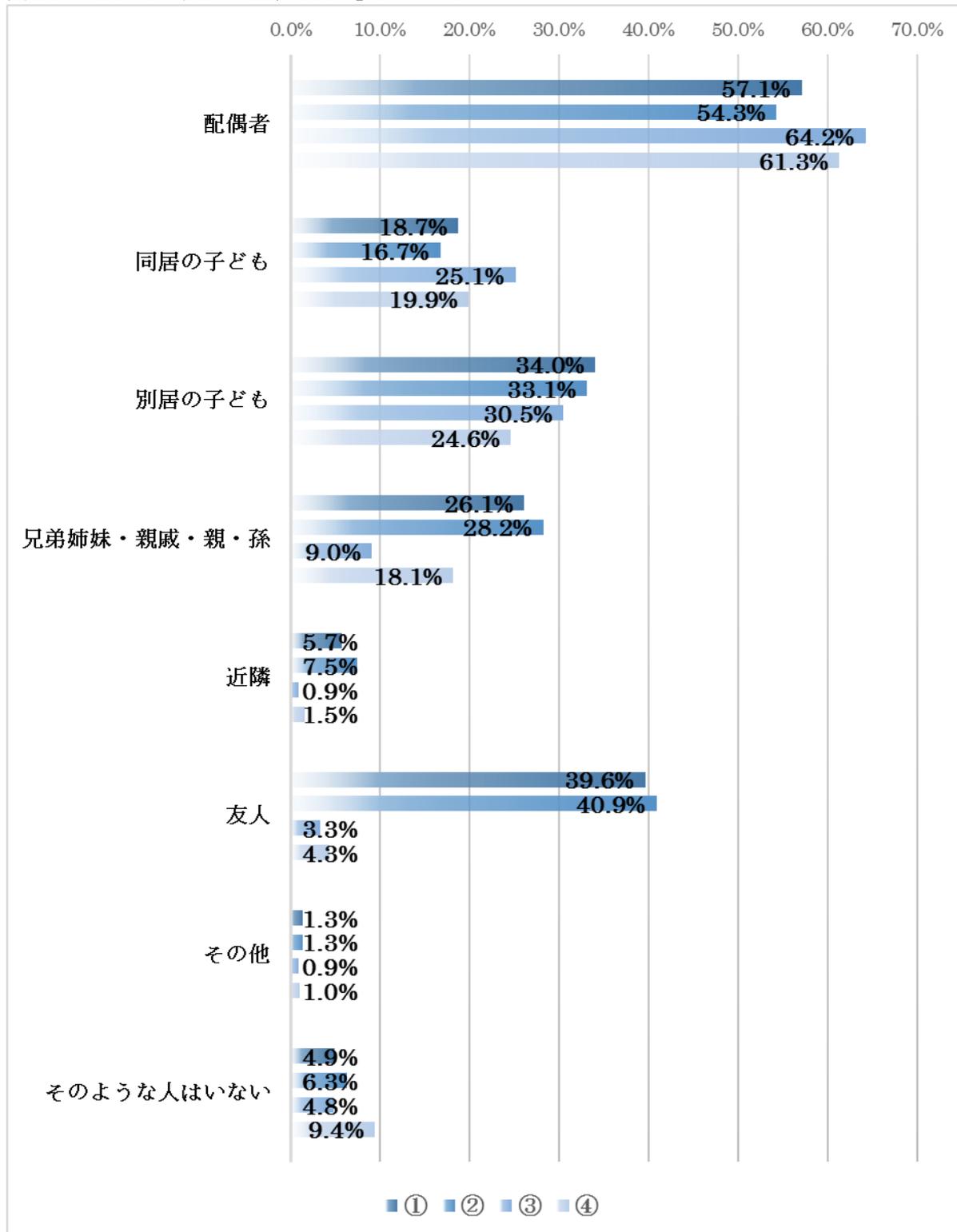
隣近所との関係では、全体で「あいさつをかわす程度」が最も多く、約2/3です。「ほとんど毎日のように行き来している」2.6%、「ときどき行き来している」22.0%と合わせて約1/4となっています。

逆に、「ほとんどない」という回答は7.0%です。

校区別では、長久手小学校区、東小学校区で近所づきあいの高さが認められます。

性別では、女性の方が男性よりも、隣近所との行き来が多くなっています。

問37 まわりの人の「たすけあい」について



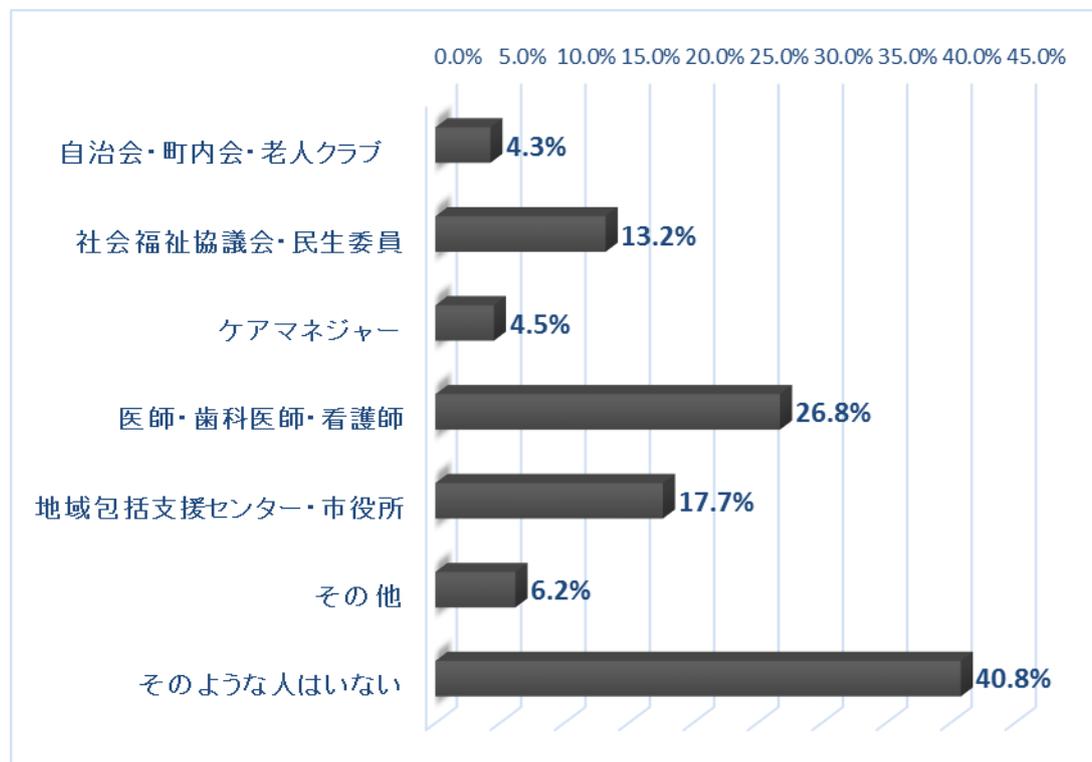
N=2,156

- ①あなたの心配事を聞いてくれる人（複数回答）
- ②反対に、あなたが心配事を聞いてあげる人（複数回答）
- ③あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人（複数回答）
- ④反対に、看病や世話をしてあげる人（複数回答）

いずれの項目についても「配偶者」が最も多く、半数以上となっています。

「心配事を聞いてくれる人」「心配事を聞いてあげる人」は、どちらも「友人」が約4割で、「同居の子ども」、「別居の子ども」を上回っています。

問38 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手（複数回答）



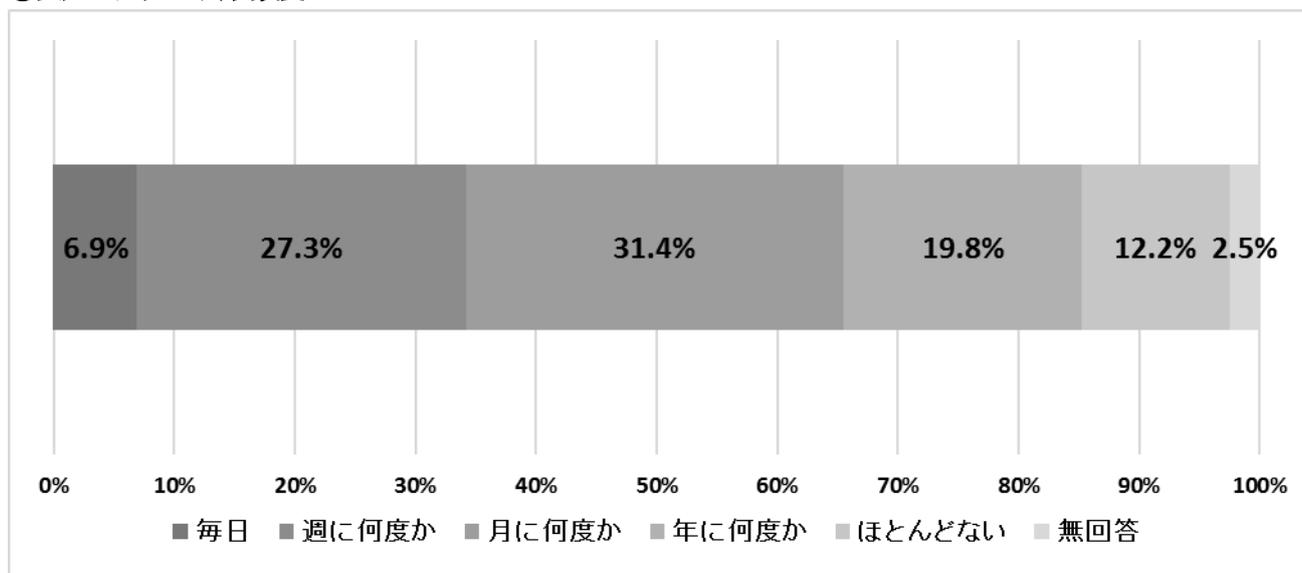
N=2,156

家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手は、「そのような人はいない」が最も多く、40.8%です。

相談相手がいる場合では、「医師・歯科医師・看護師」が26.8%と最も多くなっています。「地域包括支援センター・市役所」17.7%、「社会福祉協議会・民生委員」13.1%と続きます。

問 39 友人関係

①友人・知人と会う頻度

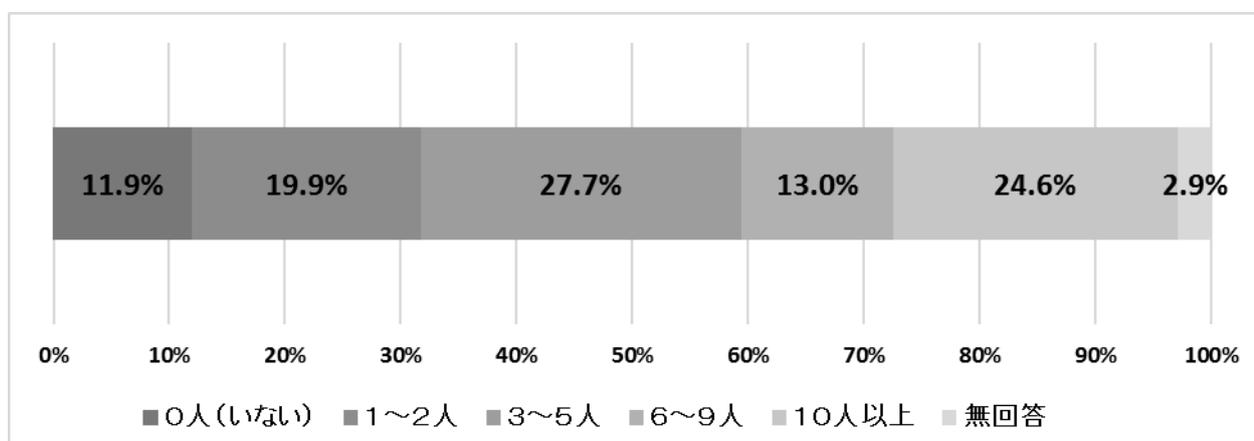


N=2,156

友人・知人と会う頻度は、「月に何度か」が 31.4%で最も多く、「週に何度か」27.3%、「毎日」6.9%と、約2/3が、月に1回以上会っていることになります。

逆に「ほとんどない」という回答は 12.2%です。

②この1か月間に会った友人・知人数

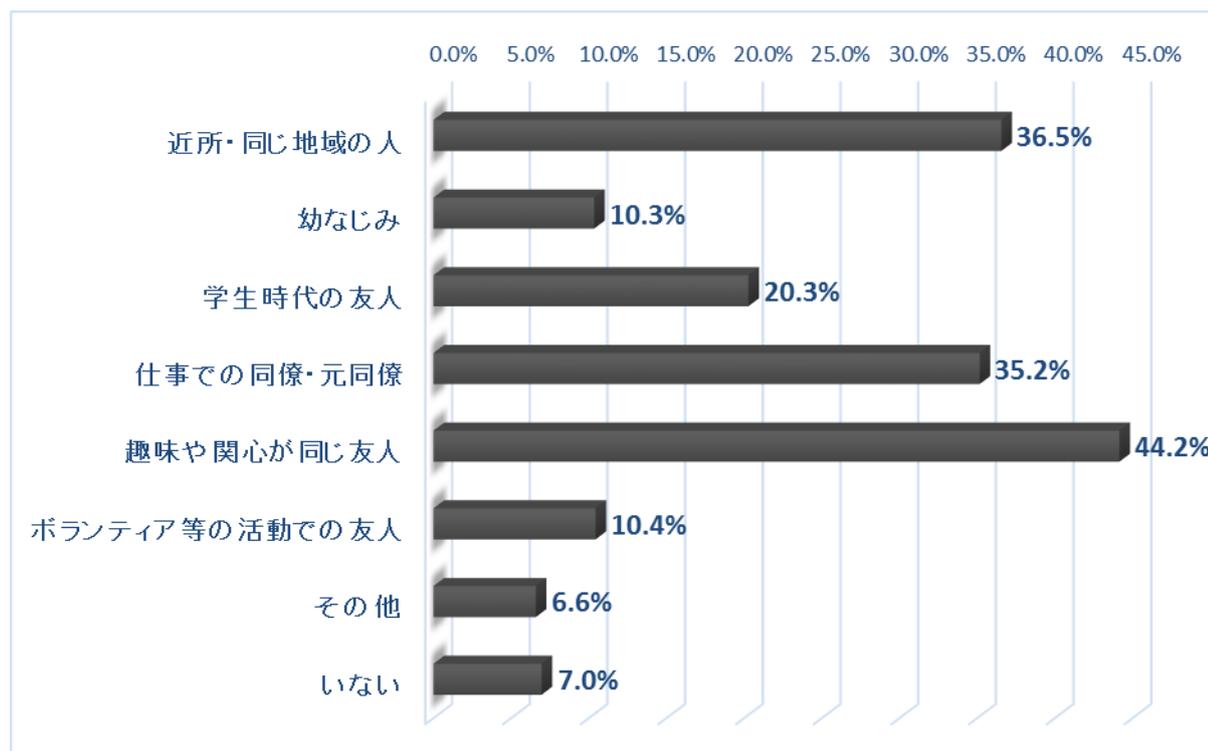


N=2,156

この1か月間に会った友人・知人数は、「3~5人」が 27.7%と最も多くなっています。次いで「10人以上」が 24.6%、「1~2人」が 19.9%です。

逆に、「0人(いない)」は 11.9%と1割を超えています。

③よく会う友人・知人（複数回答）



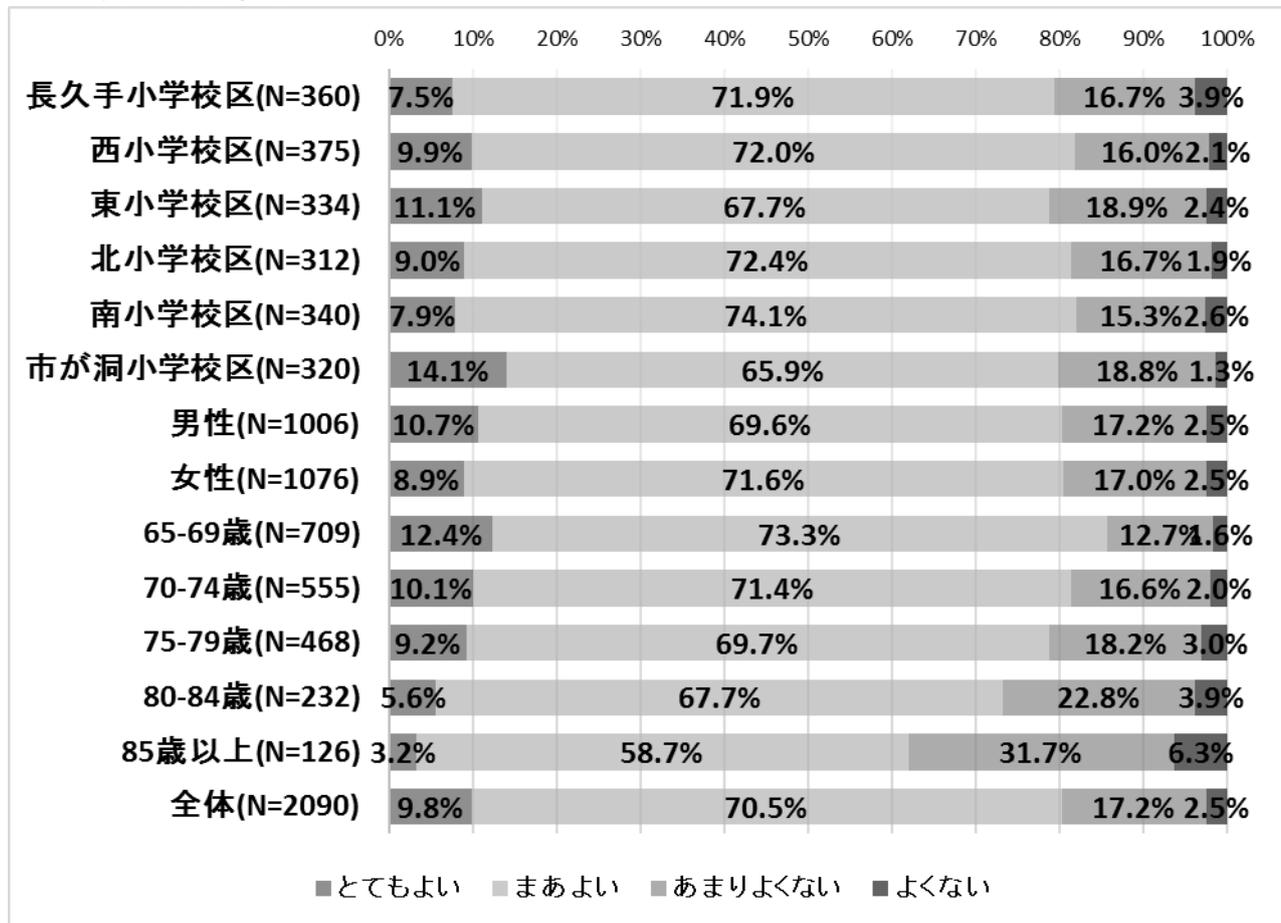
N=2,156

よく会う友人・知人は、「趣味や関心が同じ友人」が44.2%と最も多く、「近所・同じ地域の人」36.5%、「仕事での同僚・元同僚」35.2%と続きます。

「いない」という回答は7.0%でした。

2-6 健康について

問 40 現在の健康状態

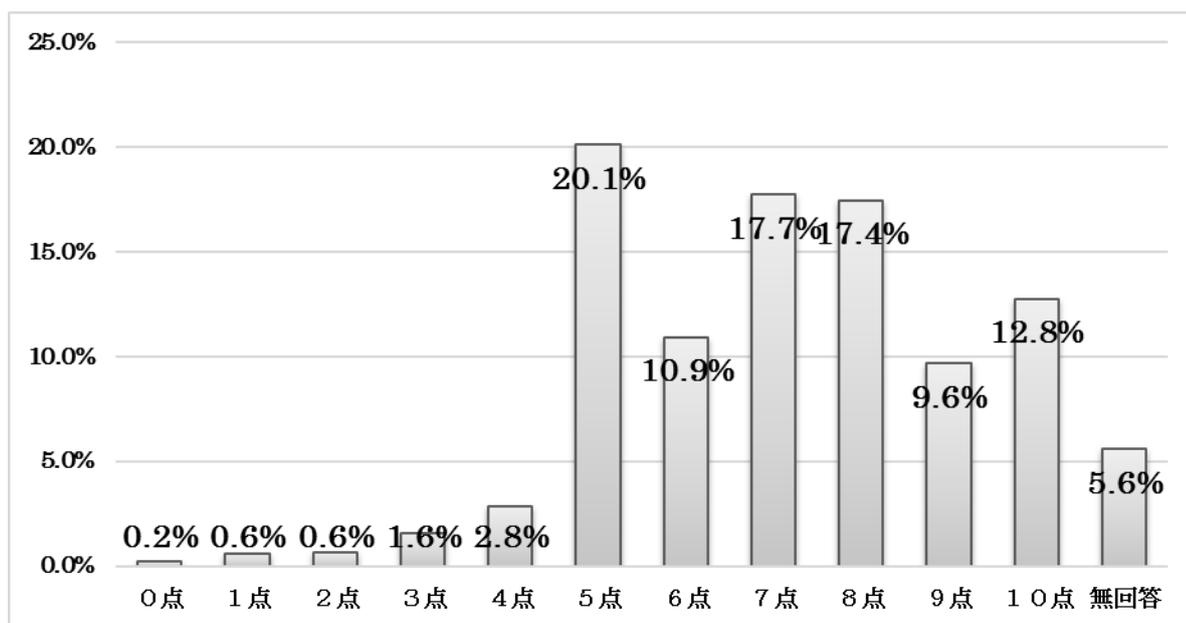


現在の健康状態は、全体で約7割の回答者が「まあよい」としています。

「よくない」2.5%、「あまりよくない」17.2%と、よくないとする回答者は2割弱です。

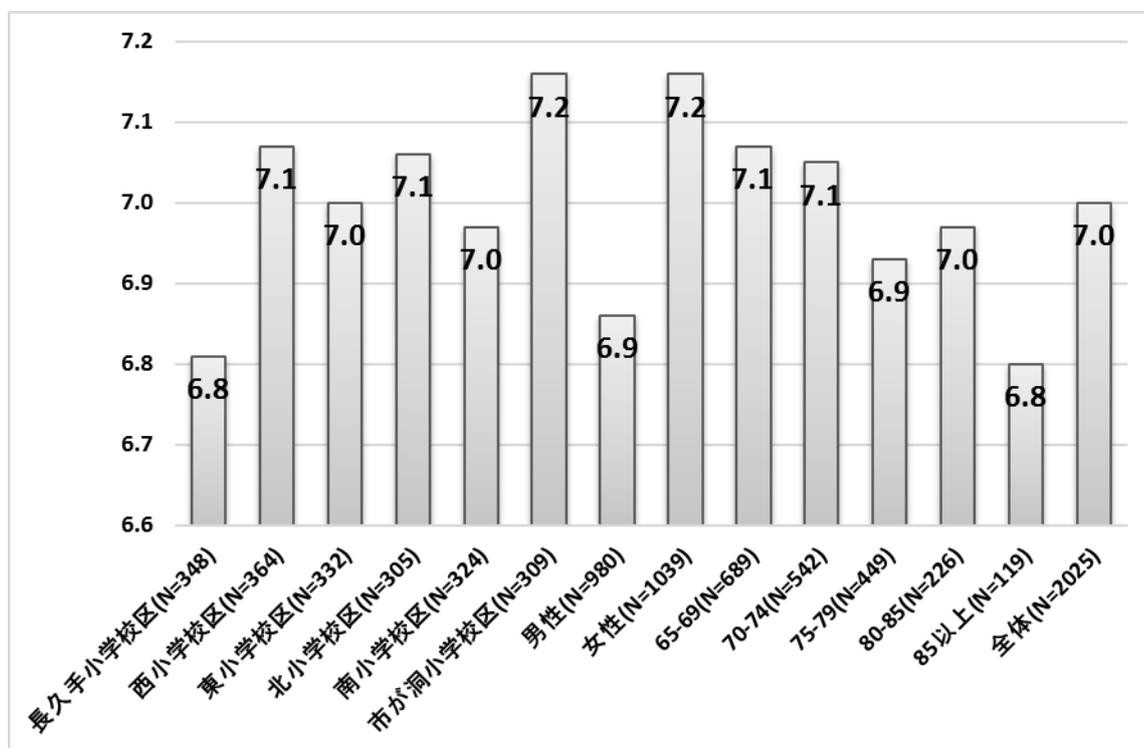
年齢別では、80歳を超えると、よくないとする回答が多くなる傾向があります。

問 41 幸福度



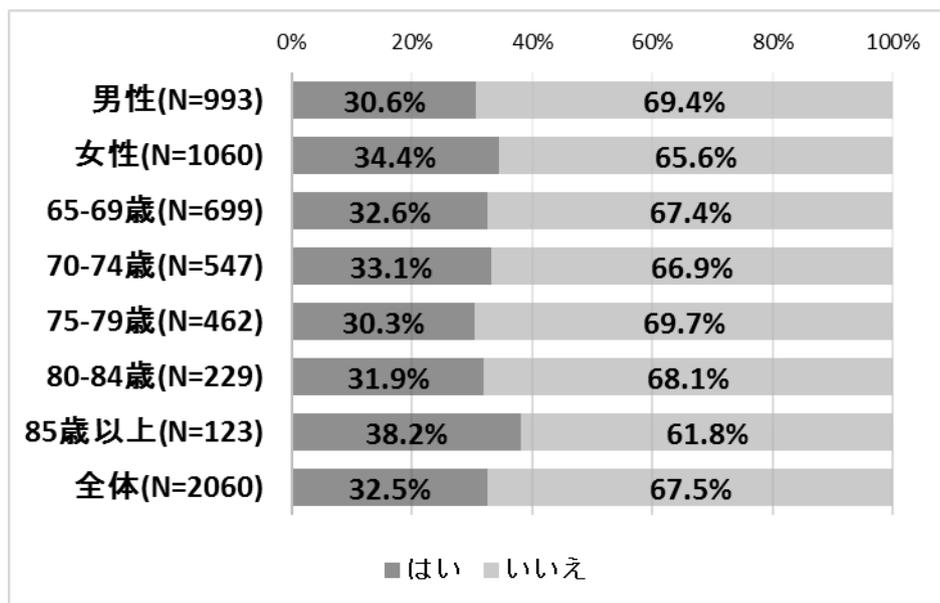
N=2,156

幸福度は、「5点」20.1%で、「6点」以上が半数以上を占めています。



幸福度の平均値を比較すると、一元配置分散分析の結果、女性の方が男性よりも高い傾向 (p<.001) が認められます。校区別、年齢別では有意な関係は認められませんでした。

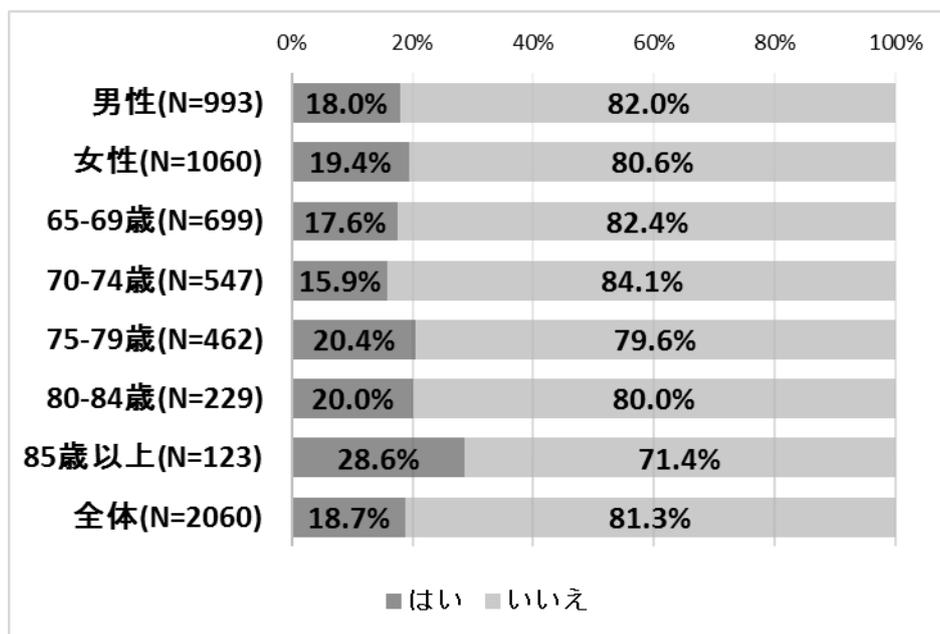
問 42 この1か月間で気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりしたこと



気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりした経験については、全体で「はい」が 32.5%となっています。

女性の方が男性よりも、年齢別では 85 歳以上で、「はい」という回答が多くなっています。

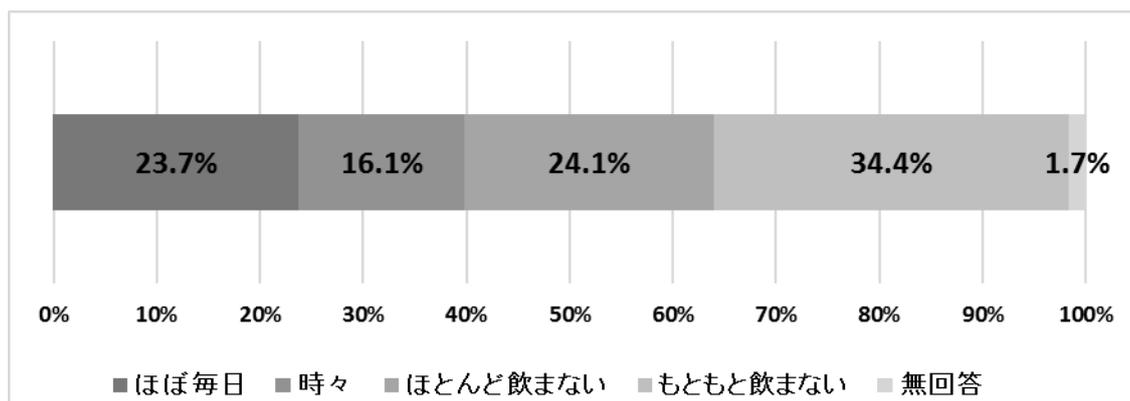
問 43 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくある



どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくあるという経験は、全体で「はい」が 18.7%です。

年齢別では 85 歳以上で、「はい」という回答が多くなっています。

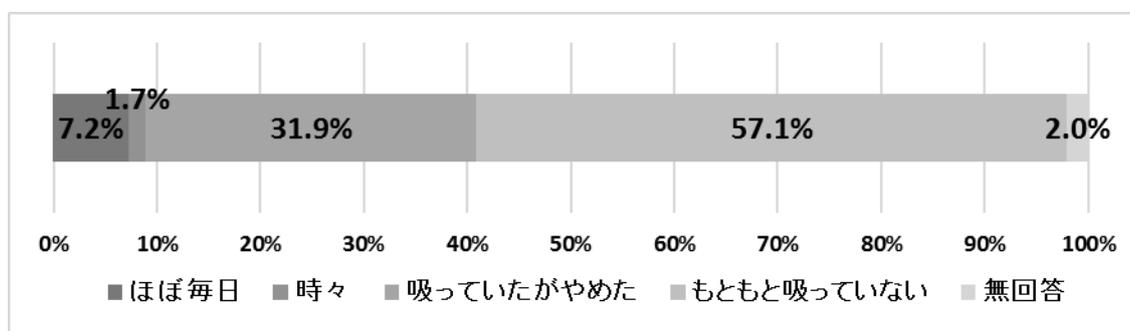
問44 飲酒



N=2,156

飲酒は「ほぼ毎日」が23.7%、「時々飲む」16.1%と合わせて約4割となっています。

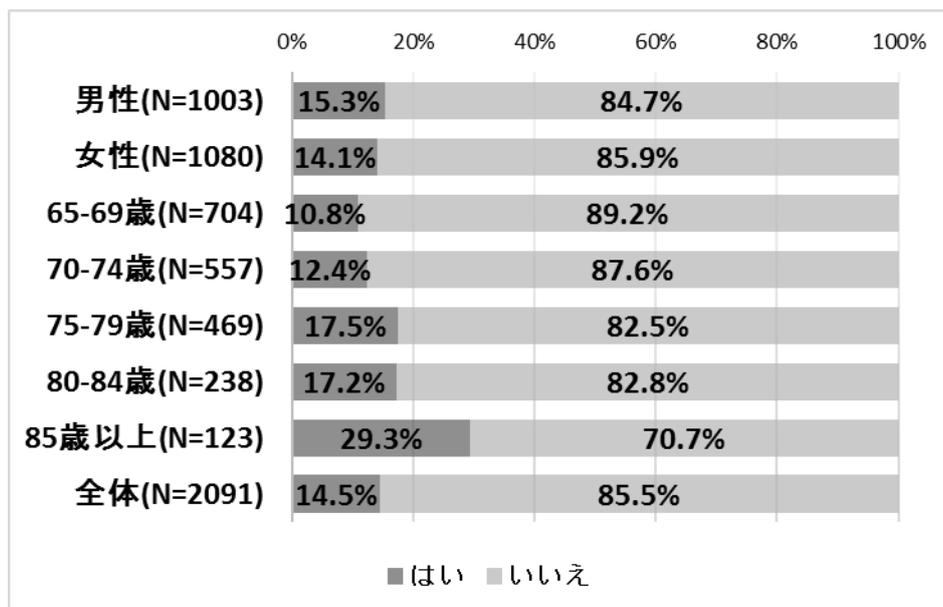
問45 喫煙



N=2,156

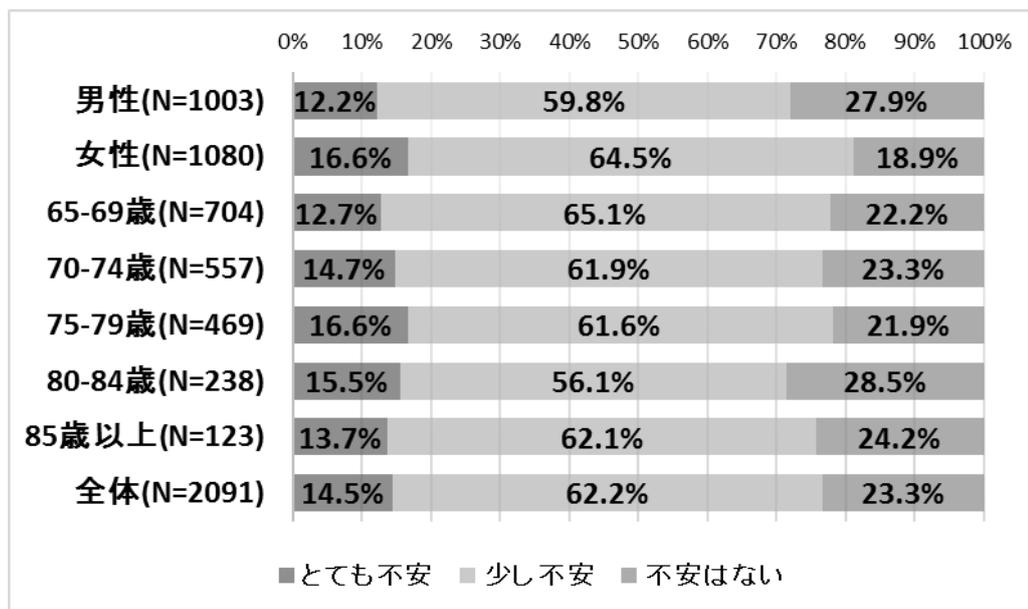
「もともと吸っていない」57.1%、「吸っていたがやめた」31.9%で、9割弱がタバコを吸っていません。喫煙者は、「ほぼ毎日吸っている」が7.2%、「時々吸っている」が1.7%と合わせて1割弱です。

問46 認知症ではないかと感じる事



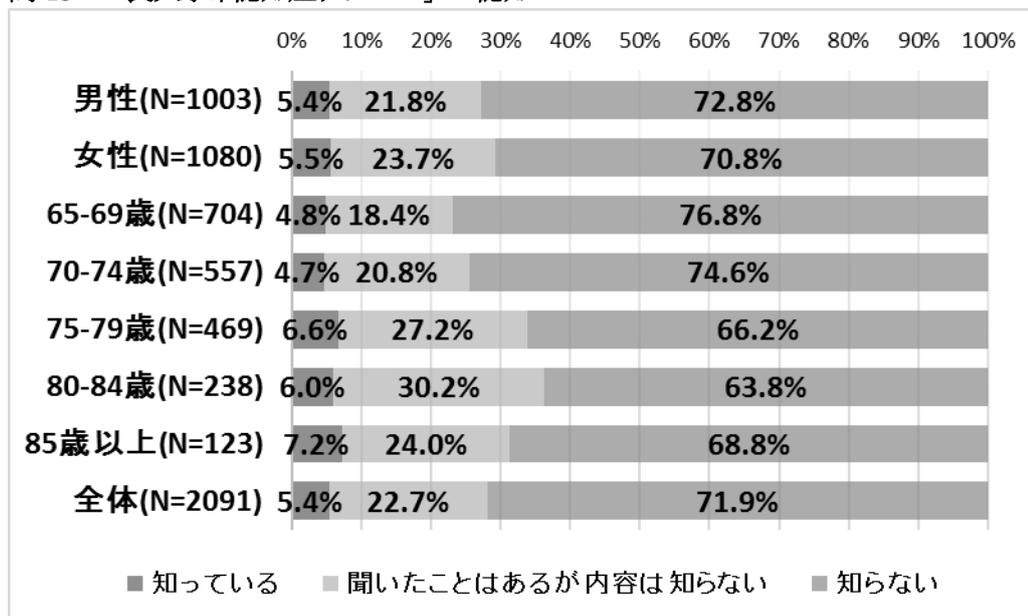
全体で14.5%が感じています。年齢別では、85歳以上で顕著に高くなる傾向が認められます。

問 47 認知症になることへの不安



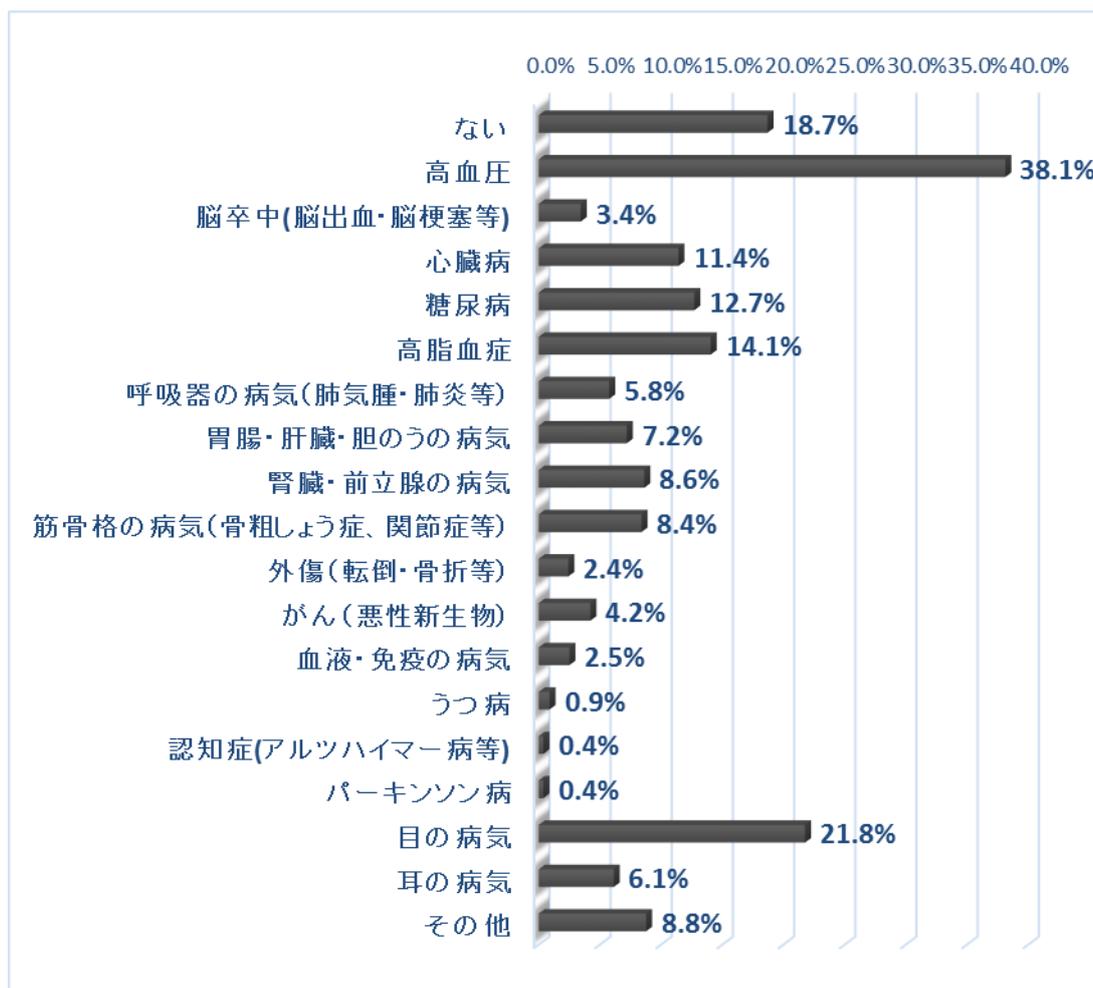
認知症になることへの不安に対して、全体では「とても不安」が14.5%、「少し不安」が62.2%です。男性よりも女性の方が不安を感じている割合が高くなっています。

問 48 「長久手市認知症ケアパス」の認知



「長久手市認知症ケアパス」について、全体では「知らない」が約7割です。「知っている」という回答は5.4%に過ぎず、「聞いたことはあるが内容は知らない」が22.7%となっています。

問 49 治療中、または後遺症のある病気



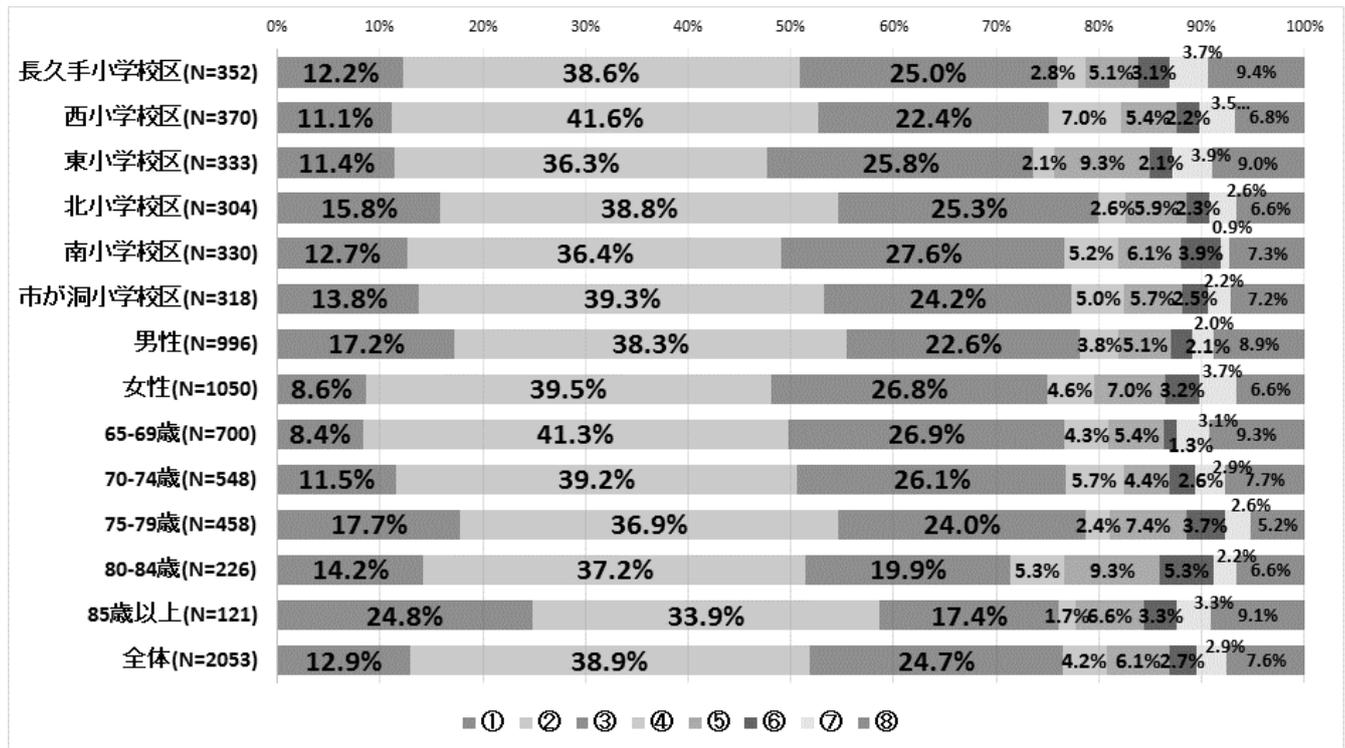
N=2,156

「高血圧」が38.1%と最も多く、「目の病気」が21.8%と続きます。

「ない」という回答は2割弱となっています。

2-7 将来の生活について

問 50 介護が必要になった場合の希望

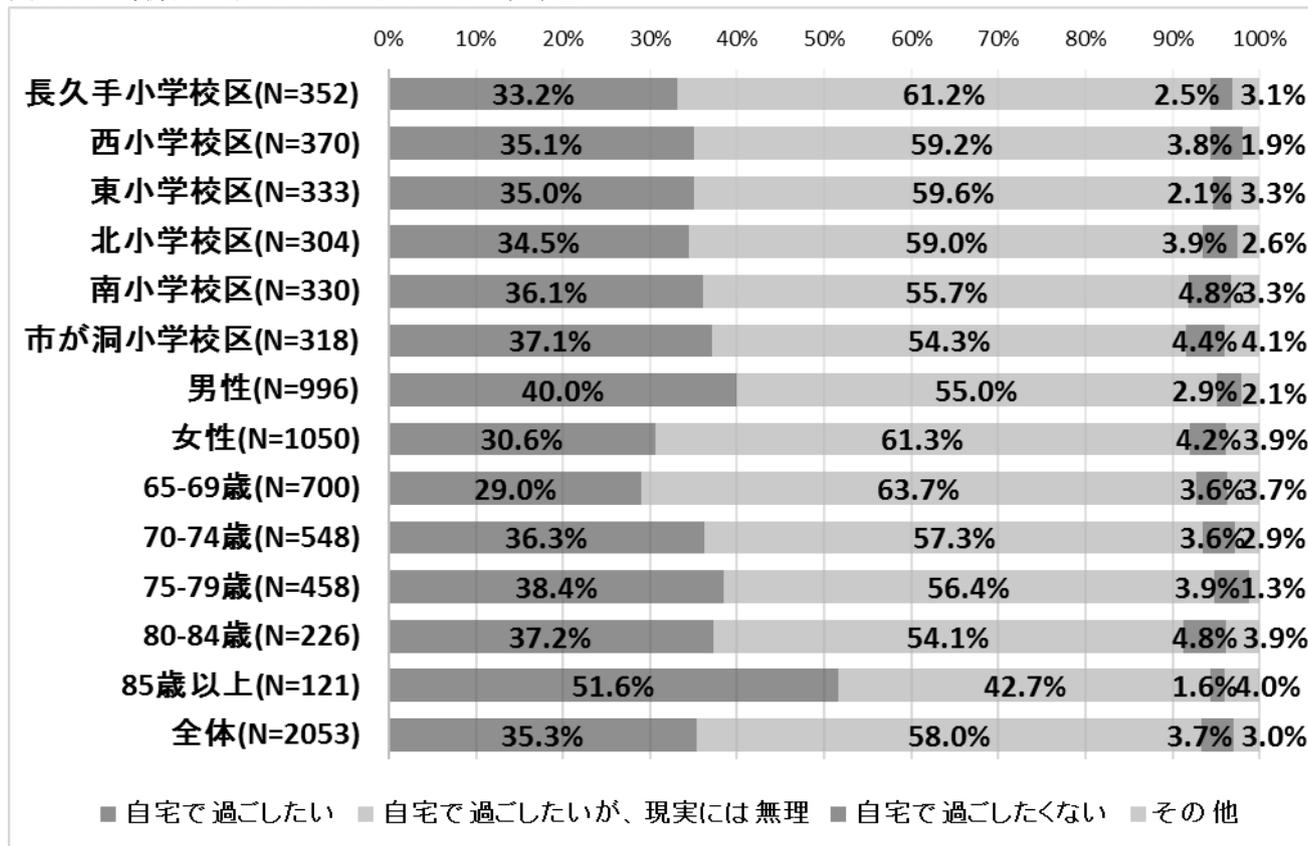


- ① 自宅で、家族に介護をしてもらいたい
- ② 自宅で、介護サービス等を利用しながら介護をしてもらいたい
- ③ 専門職が多く比較的安い、特別養護老人ホームや介護老人保健施設等の施設に入りたい
- ④ 費用が高くても、環境や設備の良い有料老人ホーム等で介護を受けたい
- ⑤ 環境や設備にはこだわらないので、安い有料老人ホーム等で介護を受けたい
- ⑥ 病院に入院したい
- ⑦ その他
- ⑧ 特にない

介護の希望としては、全体で「自宅で、家族に介護をしてもらいたい」が12.9%、「自宅で、介護サービス等を利用しながら介護をしてもらいたい」が38.9%と最も多く、自宅での介護希望は半数を超えます。

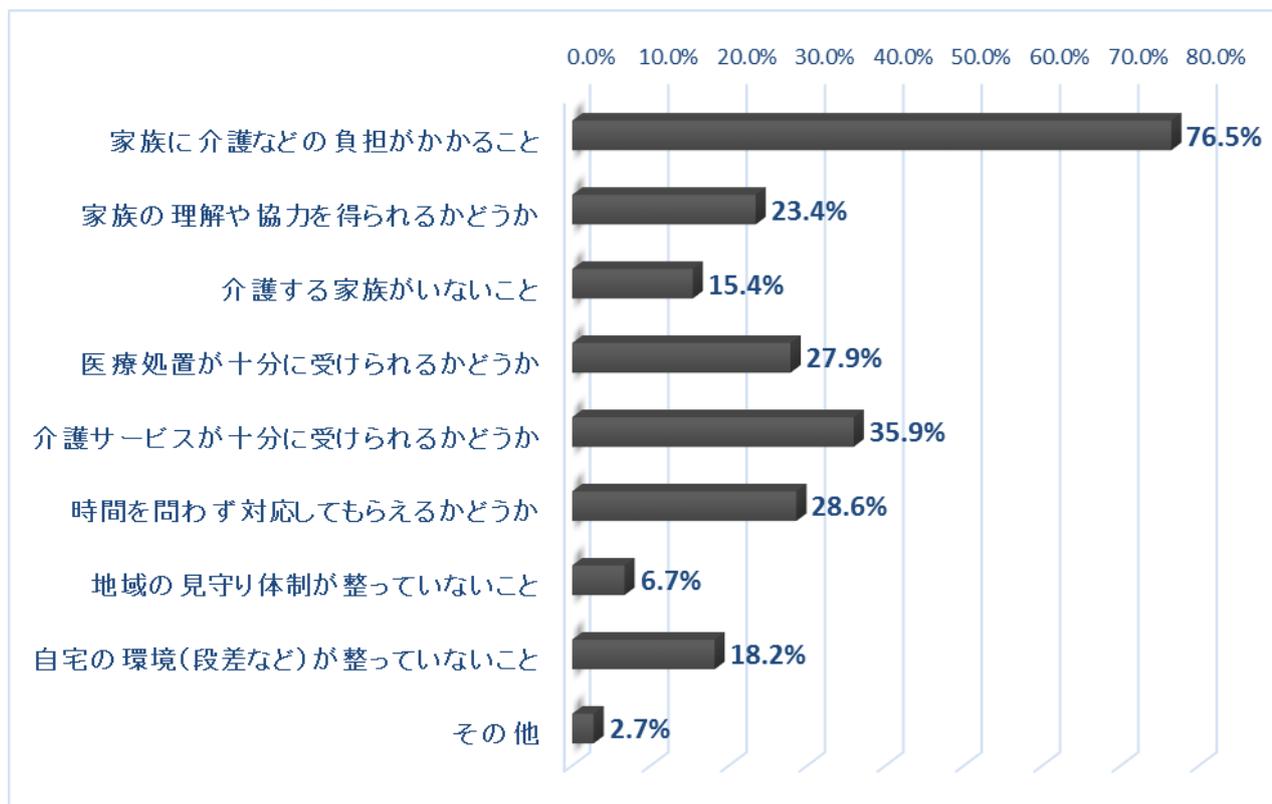
性別では、男性の方が女性よりも自宅での介護の希望が強く、年齢別に見ると、「自宅で、家族に介護をしてもらいたい」が「75-79歳」、「85歳以上」で高い傾向が認められます。

問 50-1 最期まで自宅で過ごしたいという希望



最期まで自宅で過ごしたいという希望については、全体で「自宅では過ごしたいが、現実には無理と思う」という回答が 58.0%、「自宅でも過ごしたい」は 35.3%で9割以上となっています。男性の方が女性よりも自宅で過ごしたいという割合が高く、「自宅でも過ごしたい」は「85歳以上」で51.6%と顕著に高くなっています。

問 50-1 最期まで自宅で過ごすことについての不安、気になること（複数回答）

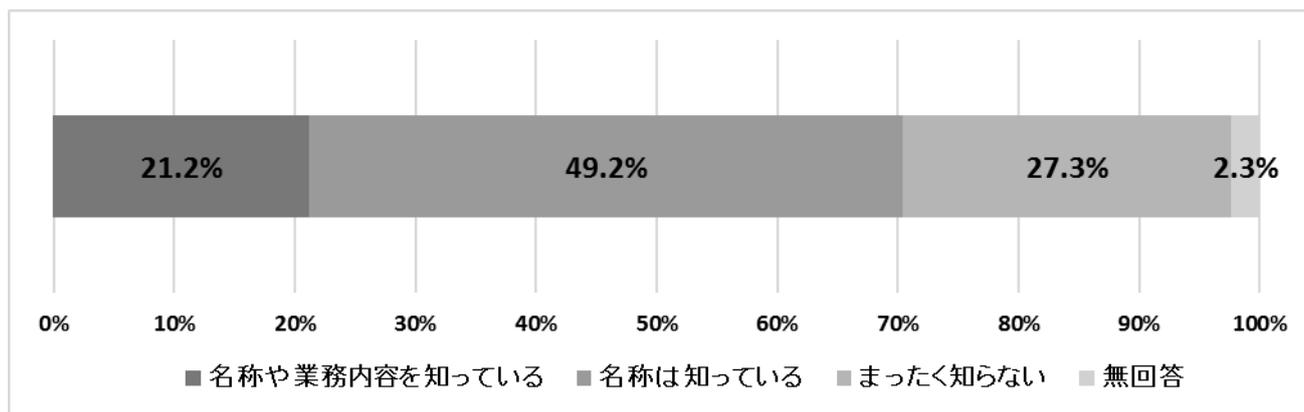


N=2,156

「最後まで自宅で過ごすことについての不安、気になること」で最も多いのは「家族に介護などの負担がかかること」で、約3/4にあたる76%が回答しています。

続いて、「介護サービスが十分に受けられるかどうか」が35.9%、「時間を問わずに対応してもらえるかどうか」が28.6%、「医療処置が十分に受けられるかどうか」が27.9%となっています。

問 51 地域包括支援センターの認知

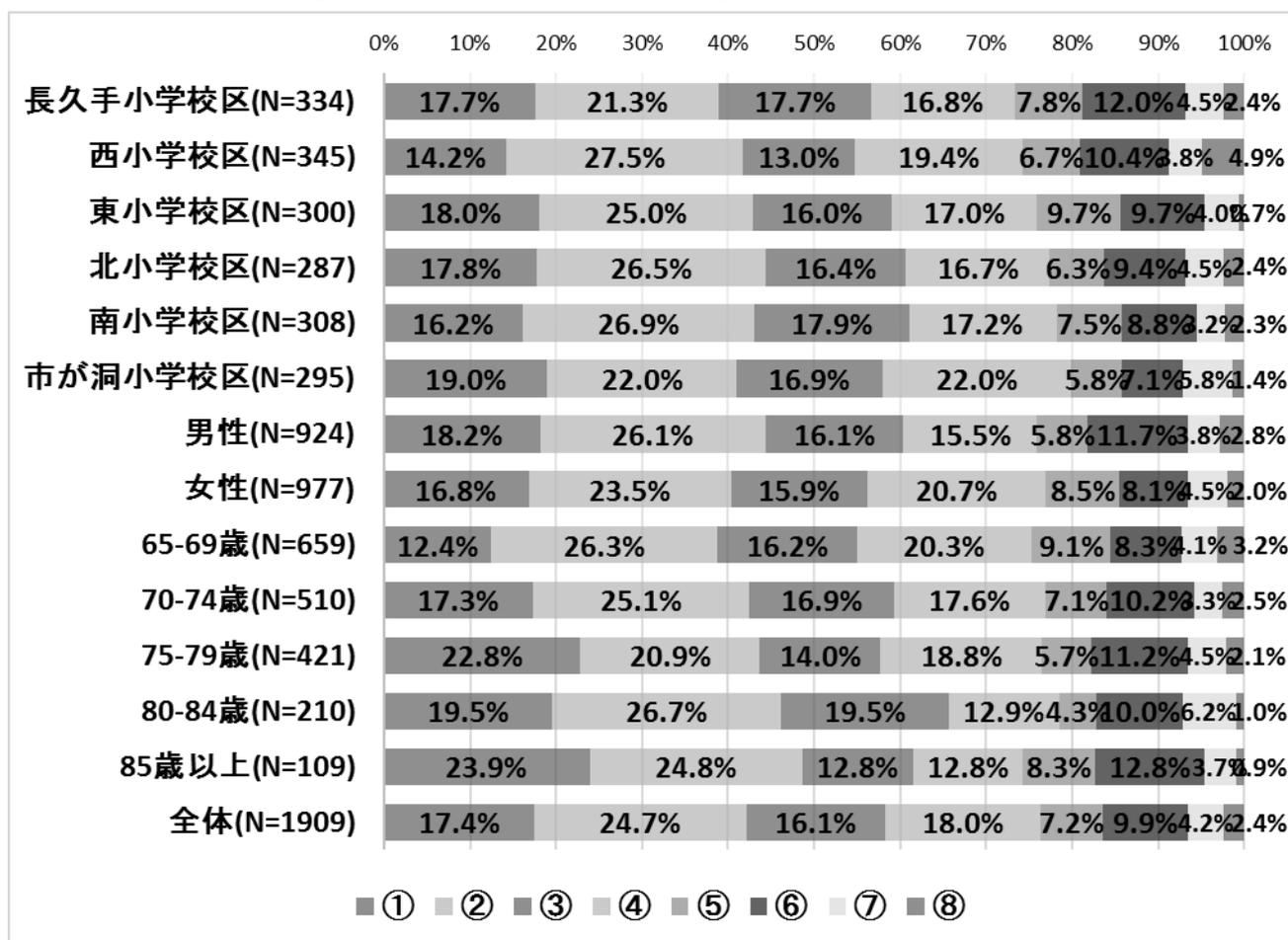


N=2,156

地域包括支援センターの認知度は、「名称や業務内容を知っている」が21.2%、「名称は知っている」が49.2%となっています。

逆に「まったく知らない」は27.3%と、1/4を超えています。

問 52 住み慣れた地域で暮らし続けるために最も充実すべきこと



- ①在宅医療を充実する
- ②介護サービスを充実する
- ③医療と介護の連携を強化する
- ④介護予防の推進
- ⑤見守り・配食・買い物など生活支援サービスの充実と権利擁護の確立
- ⑥住まいの整備
- ⑦相談窓口の充実
- ⑧その他

住み慣れた地域で暮らし続けるために最も充実すべきこととしては、全体で「介護サービスを充実する」が24.7%と最も多くなっています。

次いで多いのが「介護予防の推進」で18.0%、「在宅医療を充実する」17.4%、「医療と介護の連携を強化する」16.1%となっています。

性別ごとの違いとして、女性の方が男性よりも「介護予防の推進」を挙げる割合が高くなり、年齢が高くなるほど、「介護予防の推進」を回答する割合が下がる傾向が認められます。

2-8 長久手市に対するご意見（自由回答の主な内容を抜粋）

●長久手市に対する要望（114）

- ・地域包括支援センターの案内書があれば欲しい。
- ・当市では、住みよいまちとして若い世代の流入が多く“子ども創生”のための福祉及び高齢化が進む老人の“生きがい”のための福祉が必要です。両方とも重要課題であります。日本一の福祉のまちを標榜する我市に相応しい政策や事業がバランスよく展開されることを期待しています。
- ・将来「介護保険」を利用しても、経済面で苦しくなると思うので相談窓口を広げて頂きたい。
- ・近年老人の人口に対して施設の数が足りないなど現状に対して行政がどの程度対応できるか、準備できるかという問題に対してこれからどうなっていくか、ということに少し不安がある。
- ・有名になるほど「若い都市」の長久手ですが、育児福祉の次に高齢者施策も将来に備えて十分検討し、住民の気持ちに沿ったシステム作りを検討、推進していただくよう願っています。
- ・本当に相談できる窓口がない。それぞれの分担があると思うが、介護を受ける者にとって希望することを十分に相談・対応できる場所がない。最終結論をどうするかの相談にはどこの窓口も対応してくれない。
- ・相談窓口の充実を望む。市役所が遠い。
- ・地域にどんな施設があって、どのようにすれば利用できるのかを知らせてほしい。その際、紙だけでなくメール配信もあるとよい。地域の集会所がいつも閉まっている印象がある。

●交通の整備（40）

- ・1、運転免許返納者に対するタクシー券配布 2、Nバスの充実 特に藤が丘線は座れぬ時がある。もっと本数を増やしてほしい。
- ・免許返納時期が来るが、代替交通（Nバス等）の充実がないと閉じこもりになってしまう。
- ・Nバスを利用する機会が増えてきました。福祉の家へのバスの本数を増やしてほしいと思います。活動（福祉の家で行われる運動等）に参加したくても時間が合わないとの声をよく聞きます。

●今後のまちづくり全般（36）

- ・地域で人と触れ合う機会を作ってほしい。転入者を含め参加しやすい状況の案内を行うとよい。
- ・住民に、市がしていることをもっとわかりやすく知らせてほしい。多くの高齢者を市で役立ててほしい。
- ・高齢者の集まる場所が遠方で限られている。

●介護に関するサービス（27）

- ・自立して最後まで頑張ろうと今は考えていますが、在宅にしても施設にしても隙を埋めるような手立てをお願いします。
- ・老人ホームは大変な人手不足である。退職後、遊んでいるような人たちが、1週間に数日でも老人介護のた

めに働く仕組みを作ることは出来ないだろうか。

・地域包括の名称は耳にするが、内容が理解されていない。ケアマネや相談員によって対応差が大きすぎる。基準などをはっきり決めてほしい。

・介護について、必要になったときにどうしたらいいのか、(金額、場所など)を知りたい。

●**低額で利用できる施設 (25)**

・年金の少ない人も老人ホームに入居できるように考えてほしい。

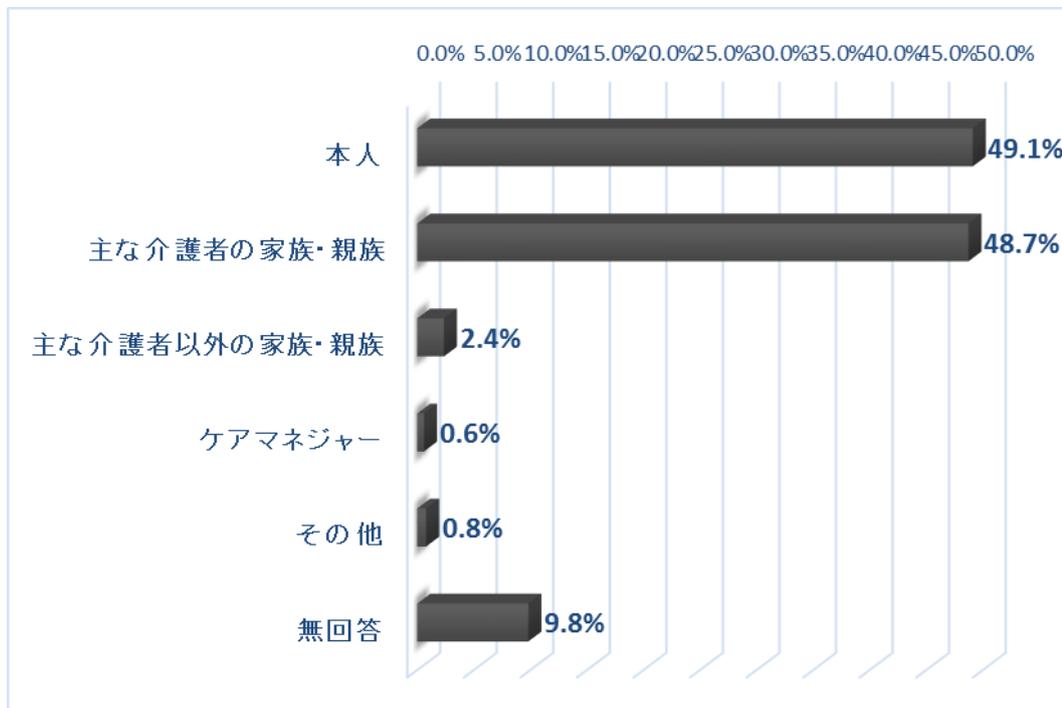
・安価な有料ホームの充実。

・国民年金受給額で入居できる老人ホームを作してほしい。

3. 要支援・要介護認定者

3-0 調査票への記入者

調査票記入者（複数回答）

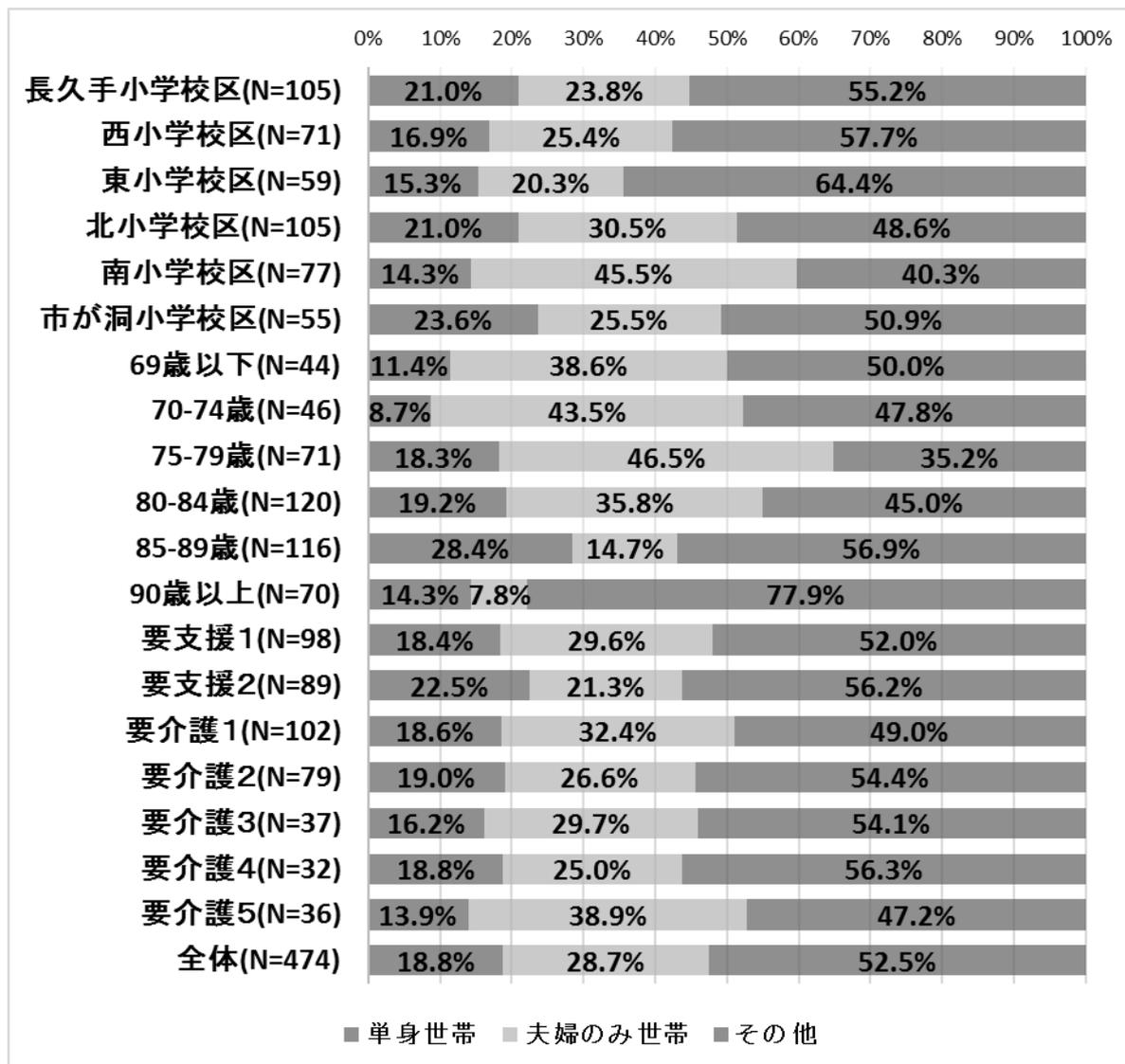


N=509

調査票の記入は「本人」49.1%、「主な介護者の家族・親族」が48.7%となっています。

3-1 ご家族や生活状況について

問1 世帯類型



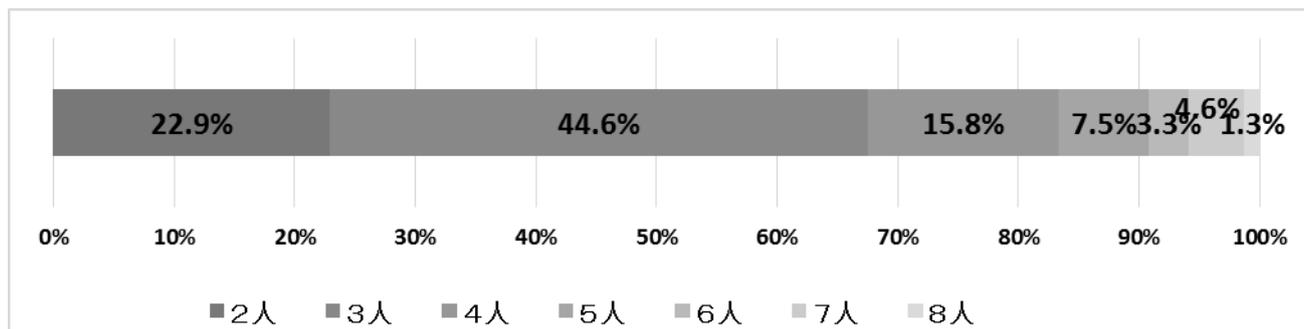
世帯類型は、全体として「その他」が最も多く、52.5%です。「単身世帯」18.8%、「夫婦のみ世帯」28.7%となっています。

校区別では、市が洞小学校区、長久手小学校区、北小学校区で「単身世帯」の割合が2割を超え、東小学校区では、「単身世帯」、「夫婦のみ世帯」の割合が相対的に低く、「その他」の比率が64.4%となっています。

年齢別では、80代までは「単身世帯」が多くなる傾向がありますが、90代では一気に減少し、「その他」が増加します。

問 1-1.同居者（単身世帯、夫婦のみ世帯以外）

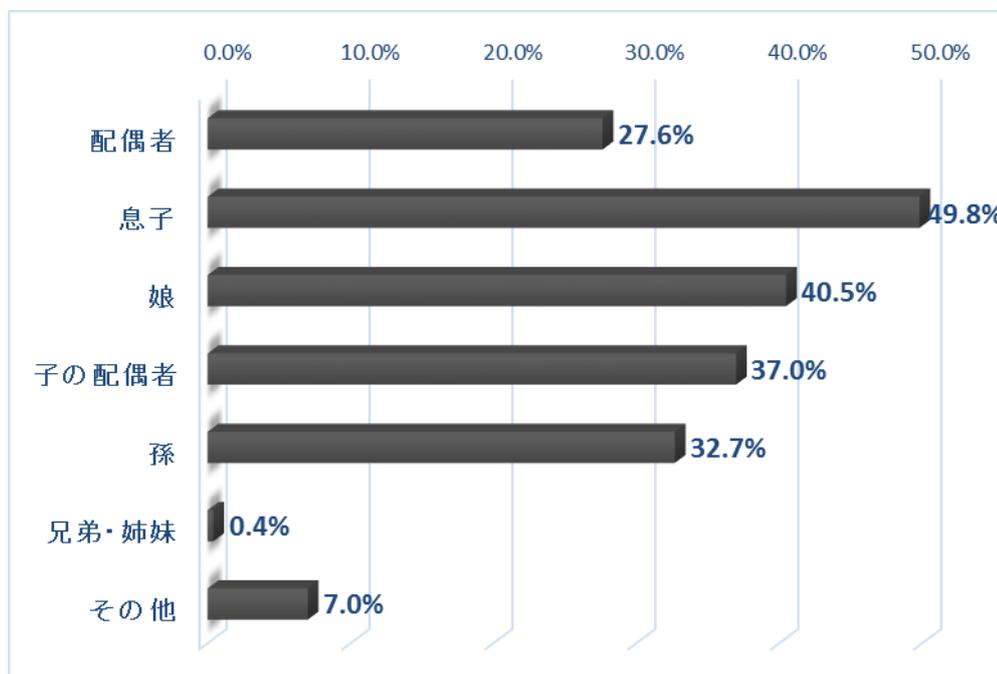
○本人を含む同居人数



N=240

本人を含む同居人数については、「3人」が44.6%と最も多く、「2人」が22.9%と続きます。

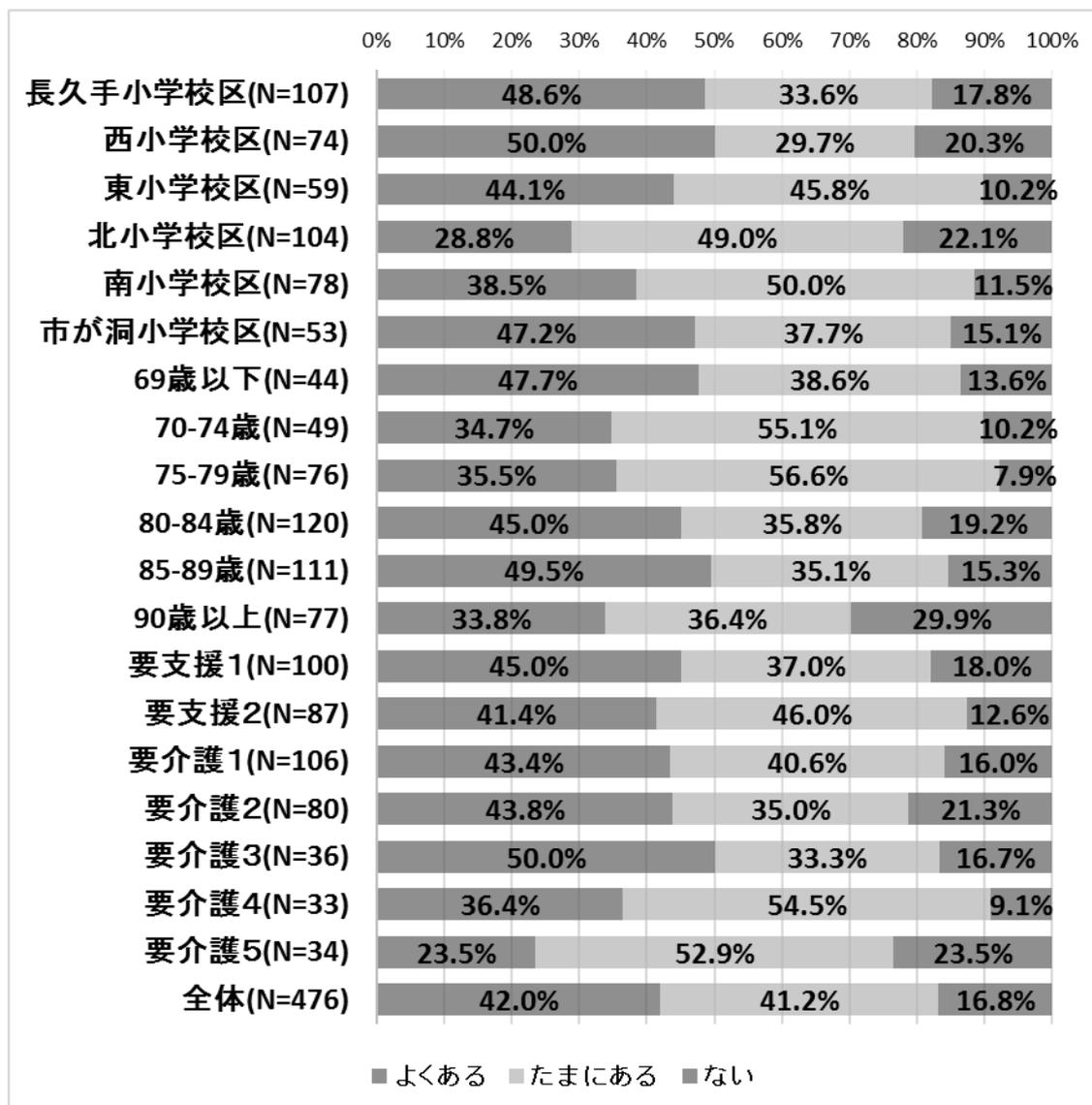
○同居者（複数回答）



N=240

同居者は、「息子」が49.8%と最も多く、次いで「娘」が40.5%です。

問2 日中、一人になること



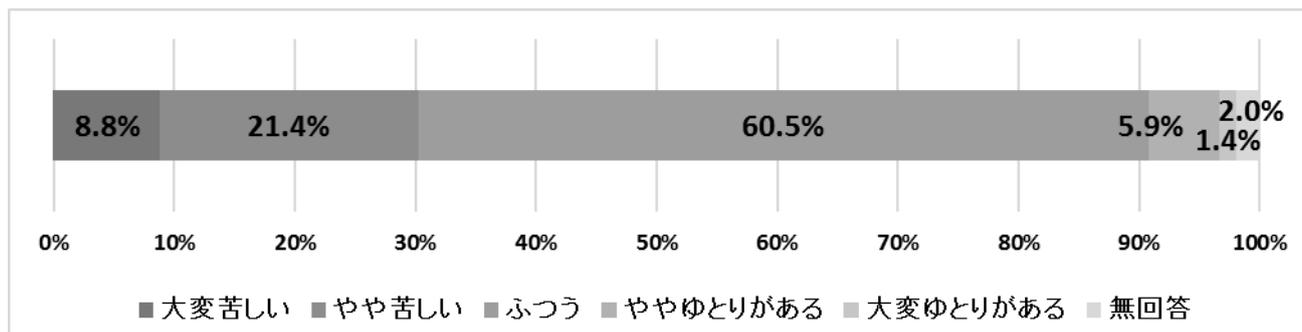
日中一人になることは、全体では「よくある」42.0%、「たまにある」41.2%と、合わせて8割を超える回答です。

校区別では、西小学校区、長久手小学校区、市が洞小学校区、東小学校区で、「よくある」が44~50%と相対的に多く、北小学校区では28.8%と低くなっています。

年齢別では、80代までは年齢が高くなるほど「よくある」という回答が増える傾向が認められます。

介護度別では、「要介護3」までは、「よくある」という回答の割合が高くなっています。

問3 現在の暮らしの状況

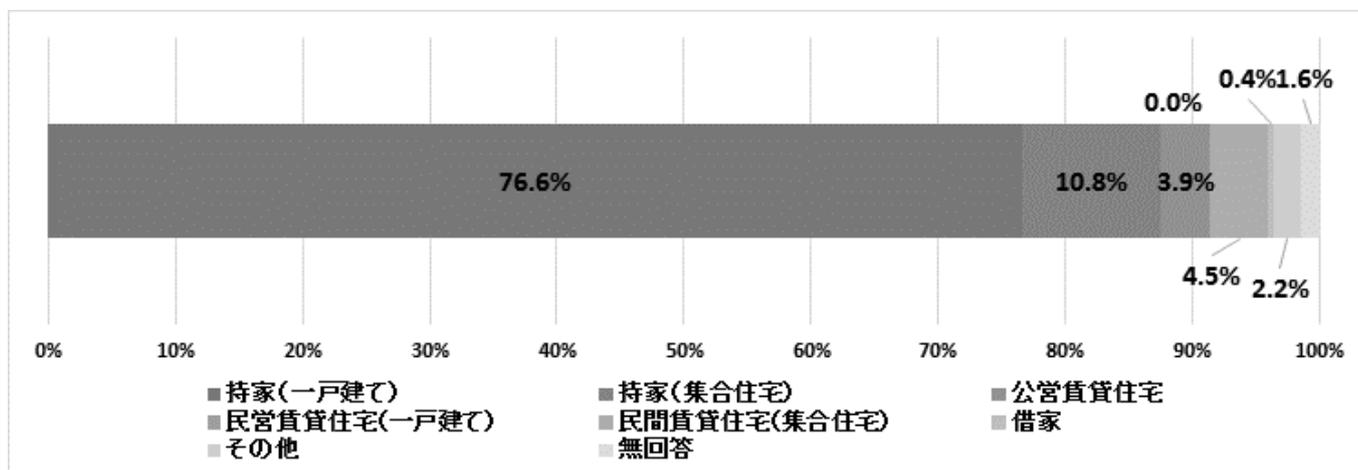


N=509

現在の暮らしの状況については、「ふつう」が60.5%です。

「大変苦しい」は8.8%、「やや苦しい」は21.4%で、合わせて約3割となっています。

問4 住まい

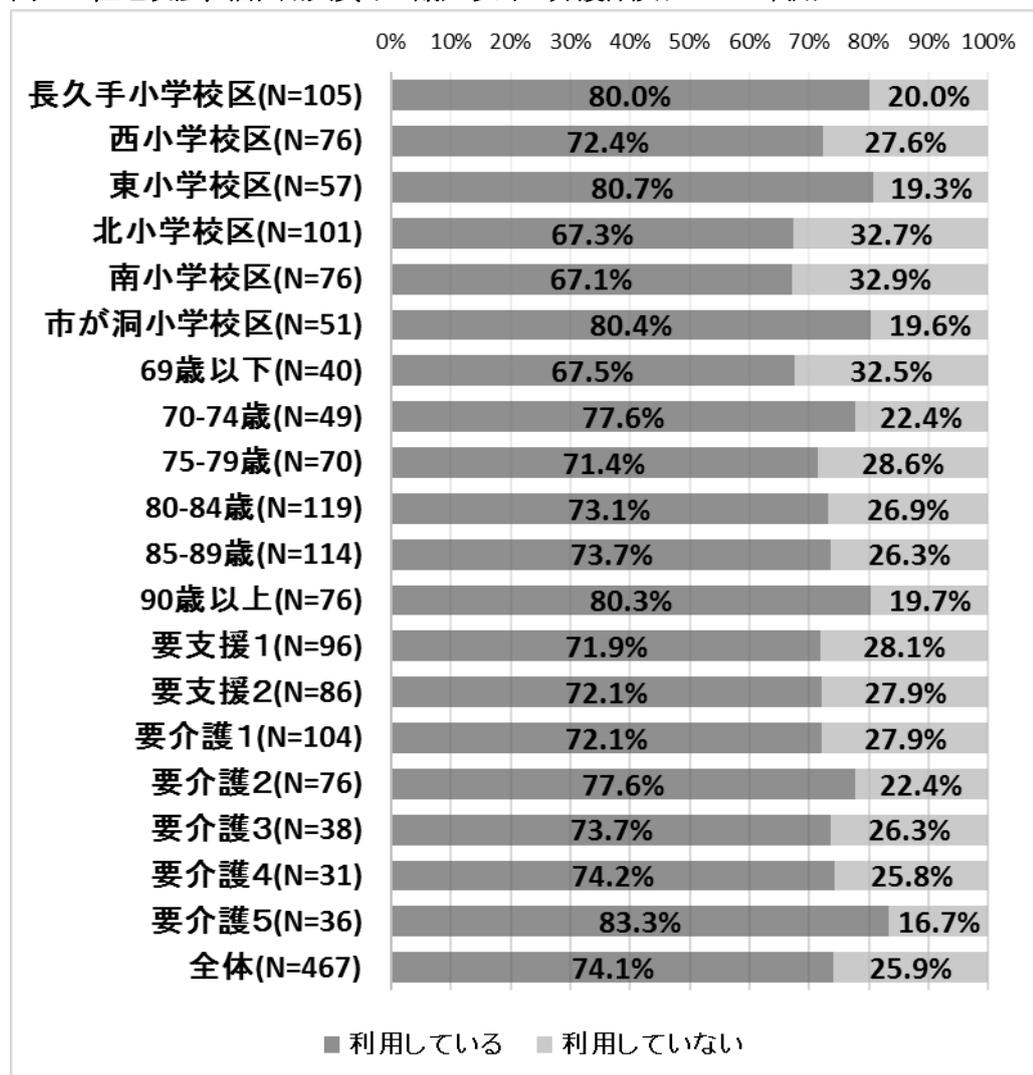


N=509

住まいについては、「持家(一戸建て)」が76.6%、「持家(集合住宅)」10.8%となっています。

3-2 介護保険サービスについて

問5 住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の介護保険サービス利用



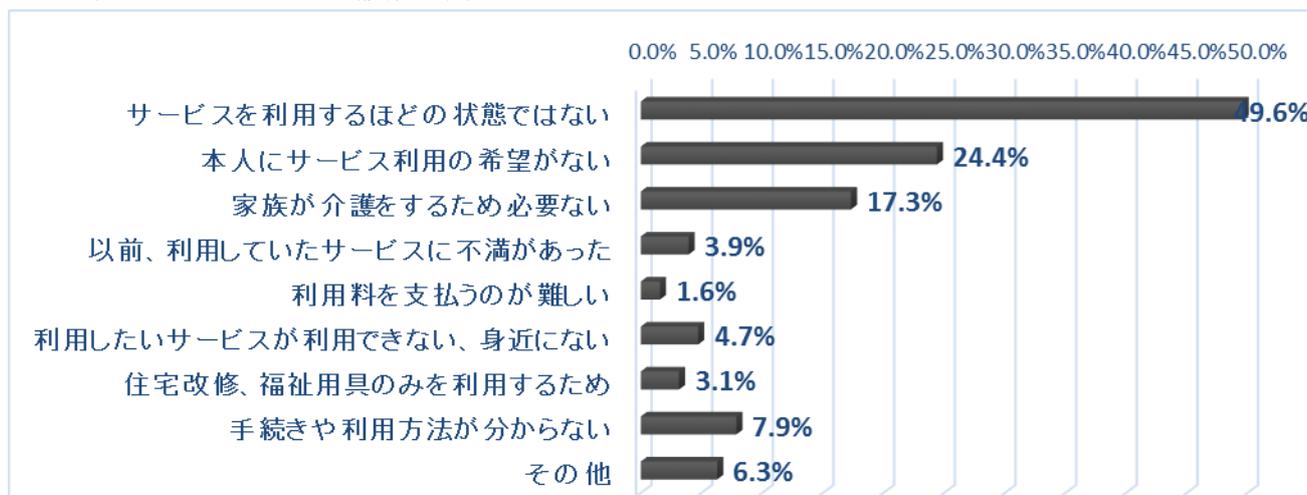
介護保険サービス利用は、全体で「利用している」が74.1%、「利用していない」が25.9%です。

長久手小学校区、東小学校区、市が洞小学校区、「90歳以上」、「要介護度5」で、「利用している」という割合が高くなっています。

問5-1 利用しているサービスについて改善してほしいこと

サービス名	改善してほしい内容
通所介護	現在の週1回をせめて2回に(4)
	帰りの時間が早すぎる(18時まで預かってほしい)(4)
	食事を改善してほしい
	やる気のない人が多い
	連携、連絡がうまくいっていない
訪問介護	時間が短いため、家族が買い物等の制約が大きい
	自分の身の回りだけでなく広い範囲での仕事。家の周りの清掃とか
	時間を長くして、仕事の内容を増やしてほしい
ショートステイ	自分でできることはあまり手を貸さず見守ってほしい
	回数(日数)、時間を増やしてほしい
機能訓練	言語訓練の機会を増やしてほしい
老人保健施設	肉体的回復機能を強化してほしい
緊急時の対応	介護者が急に介護することができなくなった場合、緊急に対応してくれるサービスがある といい
住宅改修	上限を増やしてほしい
庭木のカット、草取り	利用料が苦しいので補助してほしい

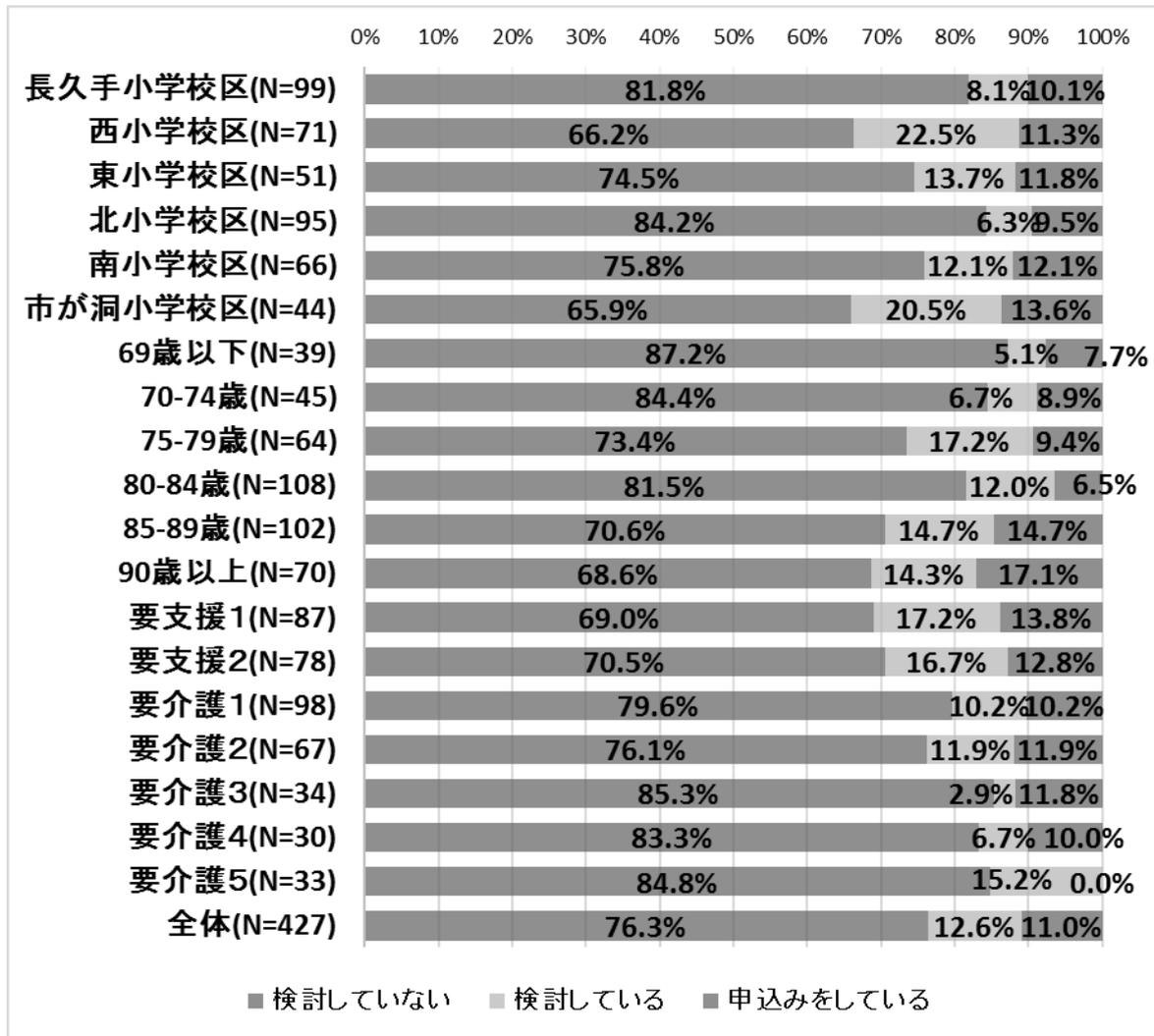
問6 利用していない理由(複数回答)



N=127

サービスを利用しない理由としては、「サービスを利用するほどの状況ではない」が約半数で最も多く、「本人にサービス利用の希望がない」が約1/4となっています。

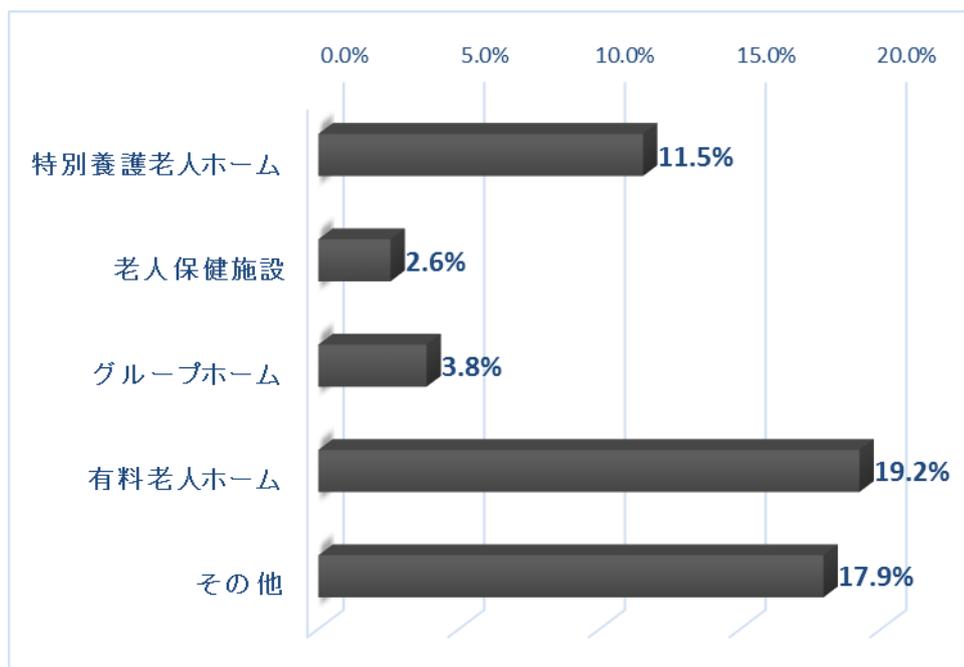
問7 現時点での施設等への入所・入居の検討状況について



現時点での施設等への入所・入居の検討状況については、全体で76.3%が「検討していない」で、「検討している」は12.6%です。

校区別では、市が洞小学校区、西小学校区で「検討している」という回答が2割を超えています。

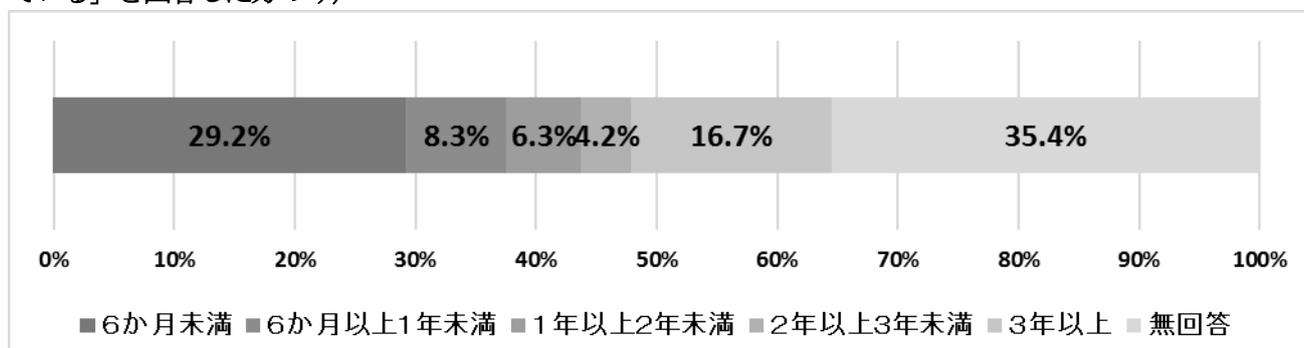
問7-1 入所・入居の申込みをしている施設の種類の種類 (問7で「すでに入所・入居申込みをしている」と回答した方のみ) (複数回答)



N=48

「有料老人ホーム」が19.2%、「特別養護老人ホーム」11.5%となっています。

問7-2 入所・入居の申込みをしている施設の待機期間 (最長もの) (問7で「すでに入所・入居申込みをしている」と回答した方のみ)

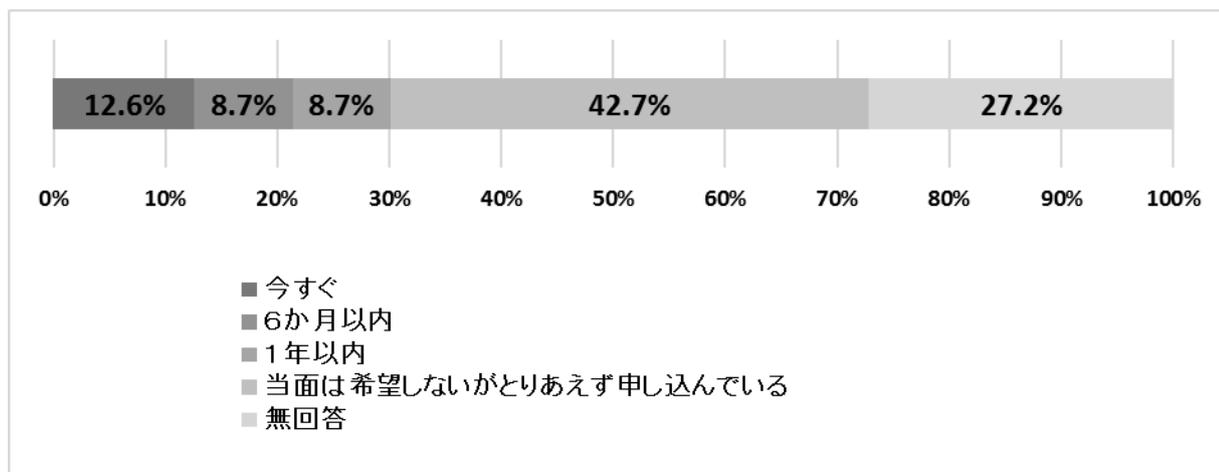


N=48

待機期間については、「無回答」が多くなっていますが、「6か月未満」が約3割です。

「3年以上」は16.7%です。

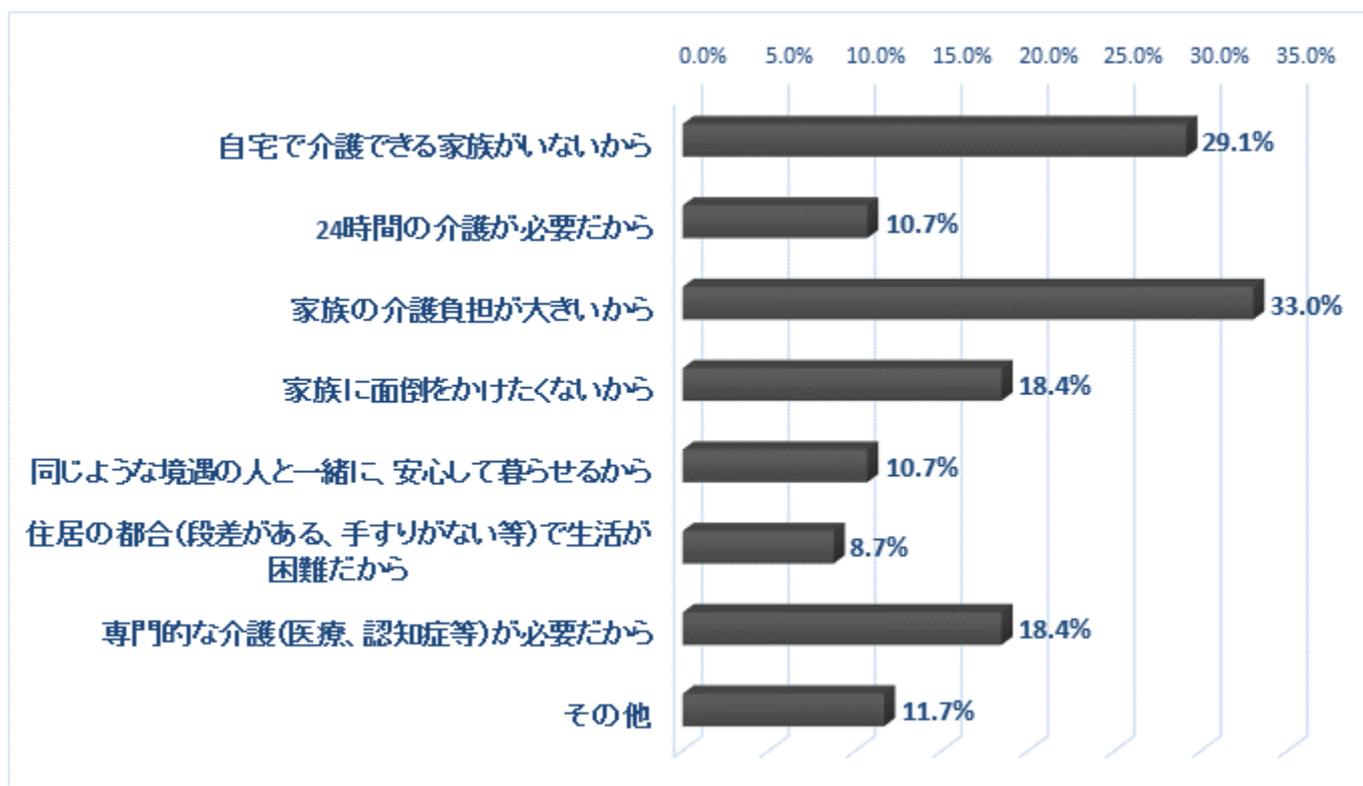
問7-3 入りたい時期（問7で「入所・入居を検討している」「すでに入所・入居申込みをしている」と回答した方のみ）



N=103

入りたい時期は「当面は希望しないがとりあえず申し込んでいる」が42.7%と最も多くなっています。「今すぐ」という回答は12.6%です。

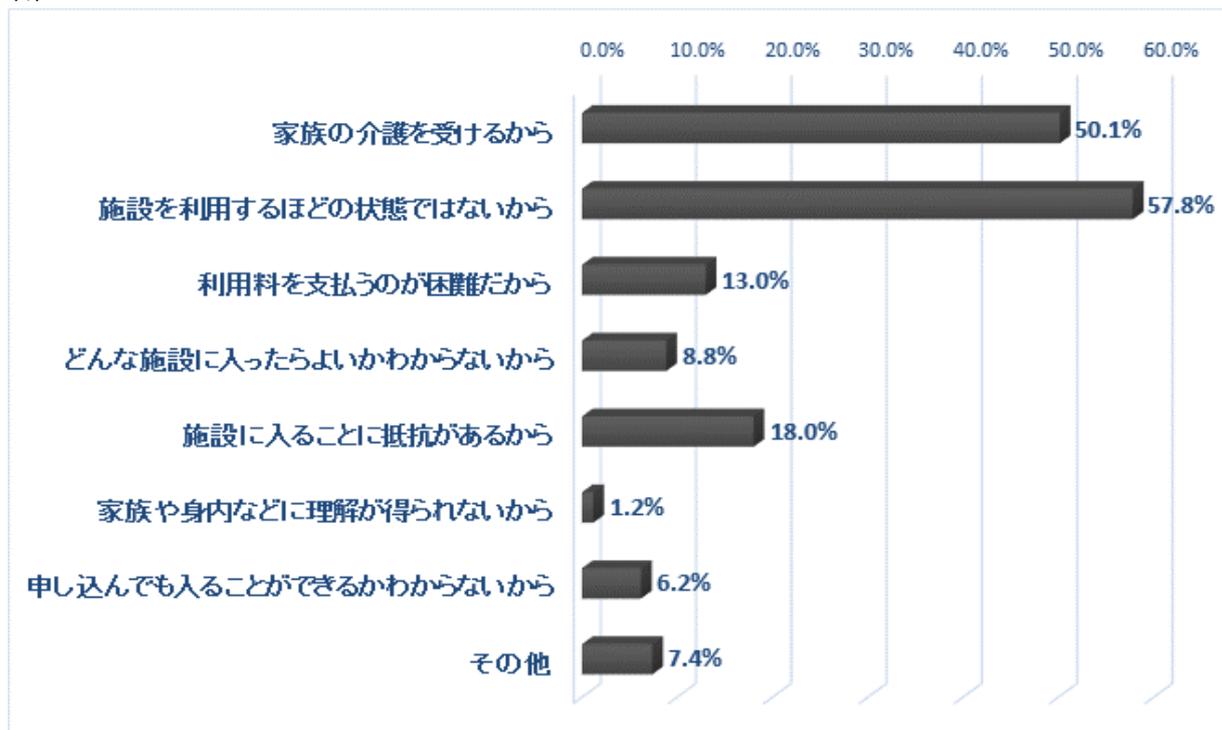
問7-4 入所・入居の申込みをしている（検討している）理由（問7で「入所・入居を検討している」「すでに入所・入居申込みをしている」と回答した方のみ）（複数回答）



N=103

入所・入居の申込みをしている（検討している）理由は、「家族の介護負担が大きいから」が約1/3で最も多くなっています。続いて、「自宅で介護できる家族がないから」が29.1%、「家族に面倒をかけたくないから」、「専門的な介護（医療、認知症等）が必要だから」がともに18.4%となっています。

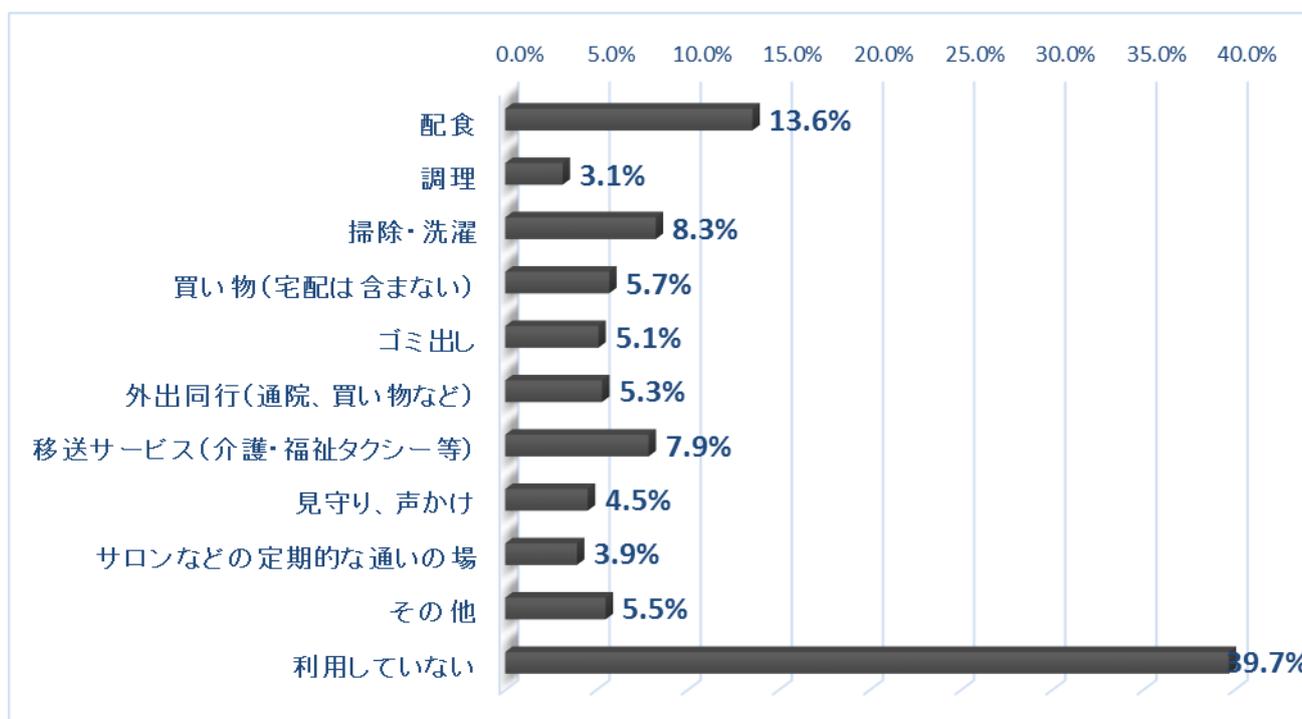
問8 入所・入居を考えていない理由 (問7で「入所・入居は検討していない」と回答した方のみ) (複数回答)



N=339

入所・入居を考えていない理由として最も多く挙げられているのは、「施設を利用するほどの状態ではないから」で57.8%です。次いで、「家族の介護を受けるから」が50.1%と半数を超えています。

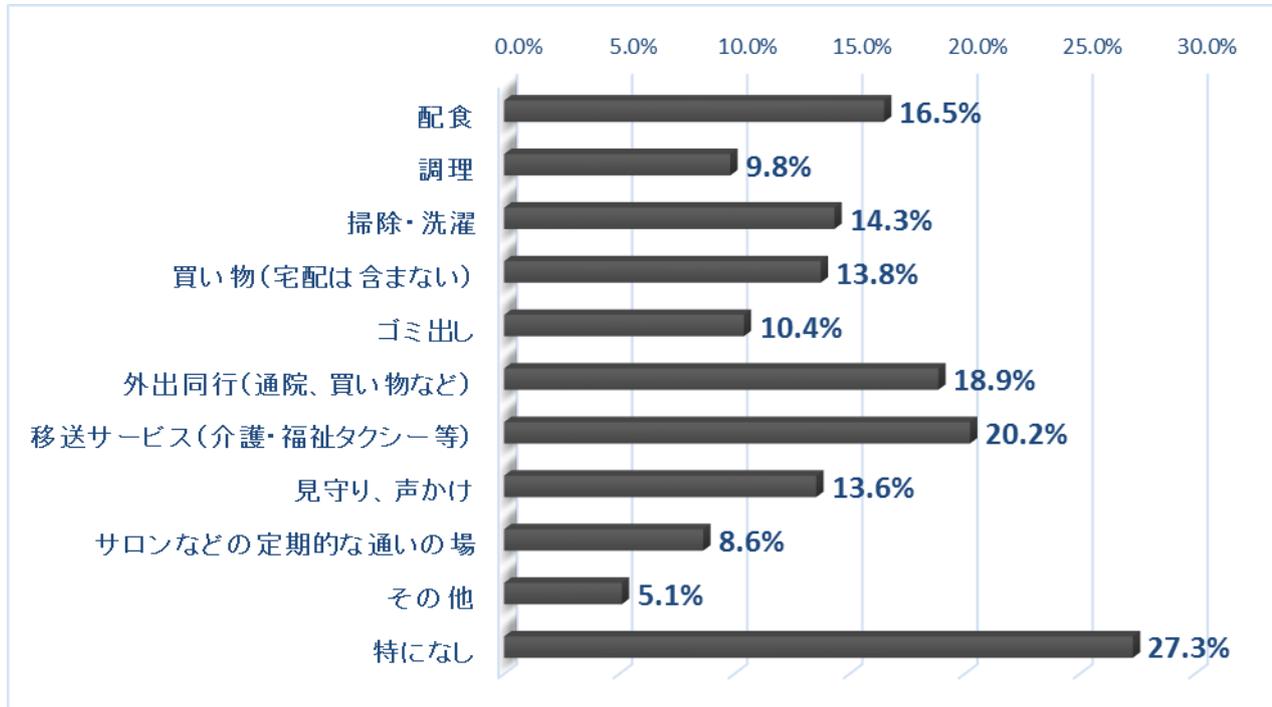
問9 現在、利用している「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて (複数回答)



N=509

現在、利用している「介護保険サービス以外」の支援・サービスでは、「利用していない」という回答が約4割です。利用しているもののうち最も多いのは「配食」で13.6%となっています。

問10 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について（複数回答）



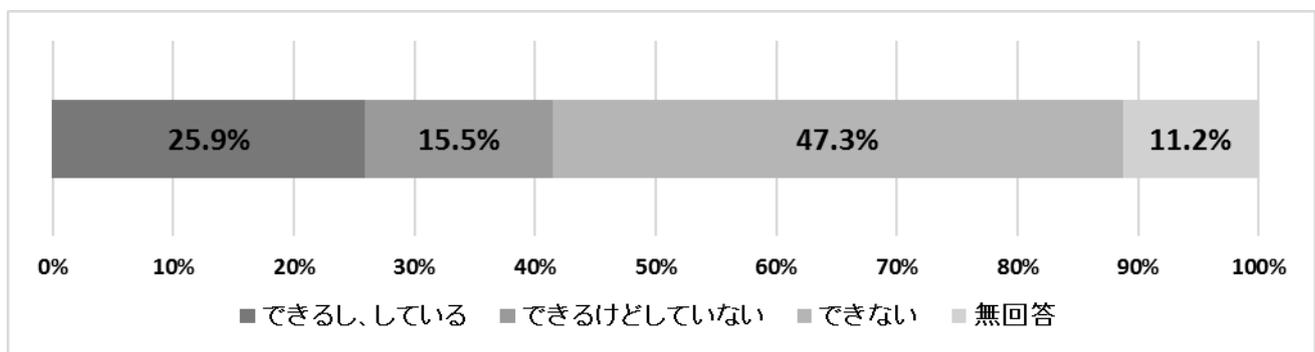
N=509

今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについては、「特になし」が27.3%と最も多くなっています。

必要と**感じる**サービスとしては、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が20.2%と最も多く、「外出同行（通院、買い物など）」の18.9%が続きます。

3-3 毎日の生活について

問11 自分で食事の用意をしていますか

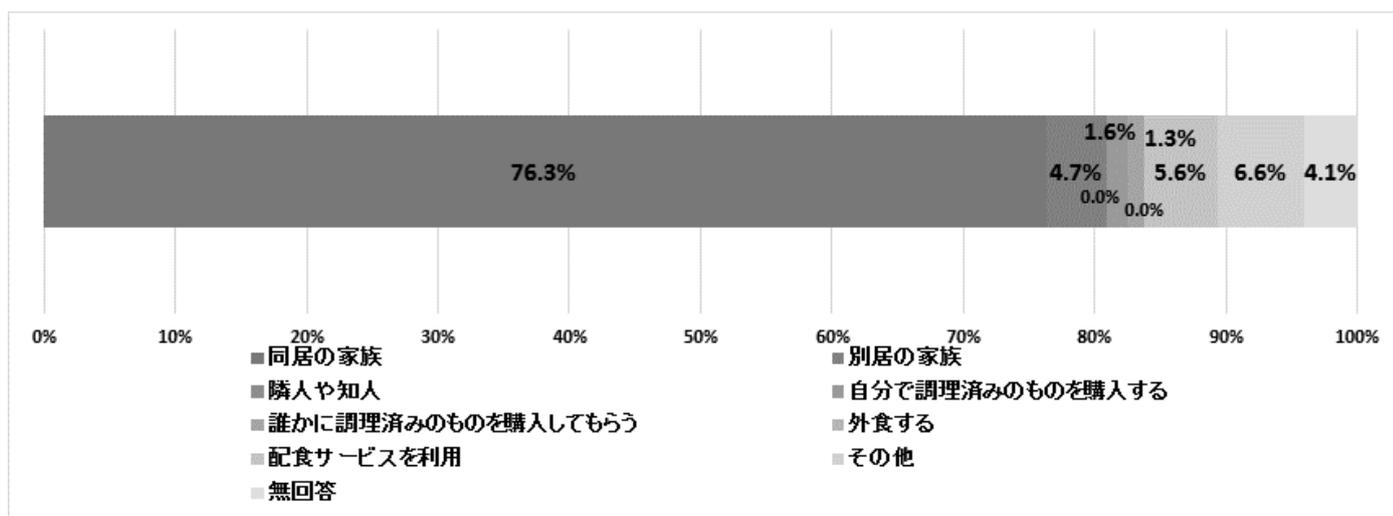


N=509

自分で食事の用意をすることについて、「できない」という回答が47.3%と最も多くなっています。

「できる」という回答は約1/4です。

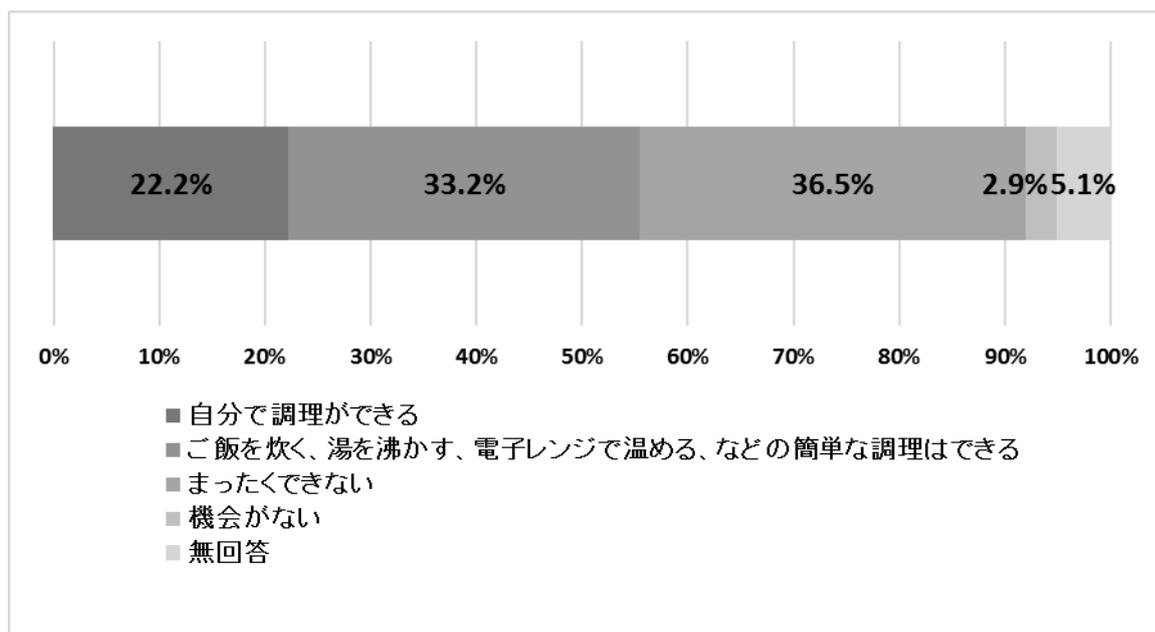
問 11-1 主に食事の用意をする人



N=320

主に食事の用意をする人は、「同居の家族」が 76.3%と最も多くなっています。

問 12 自分で調理ができるか

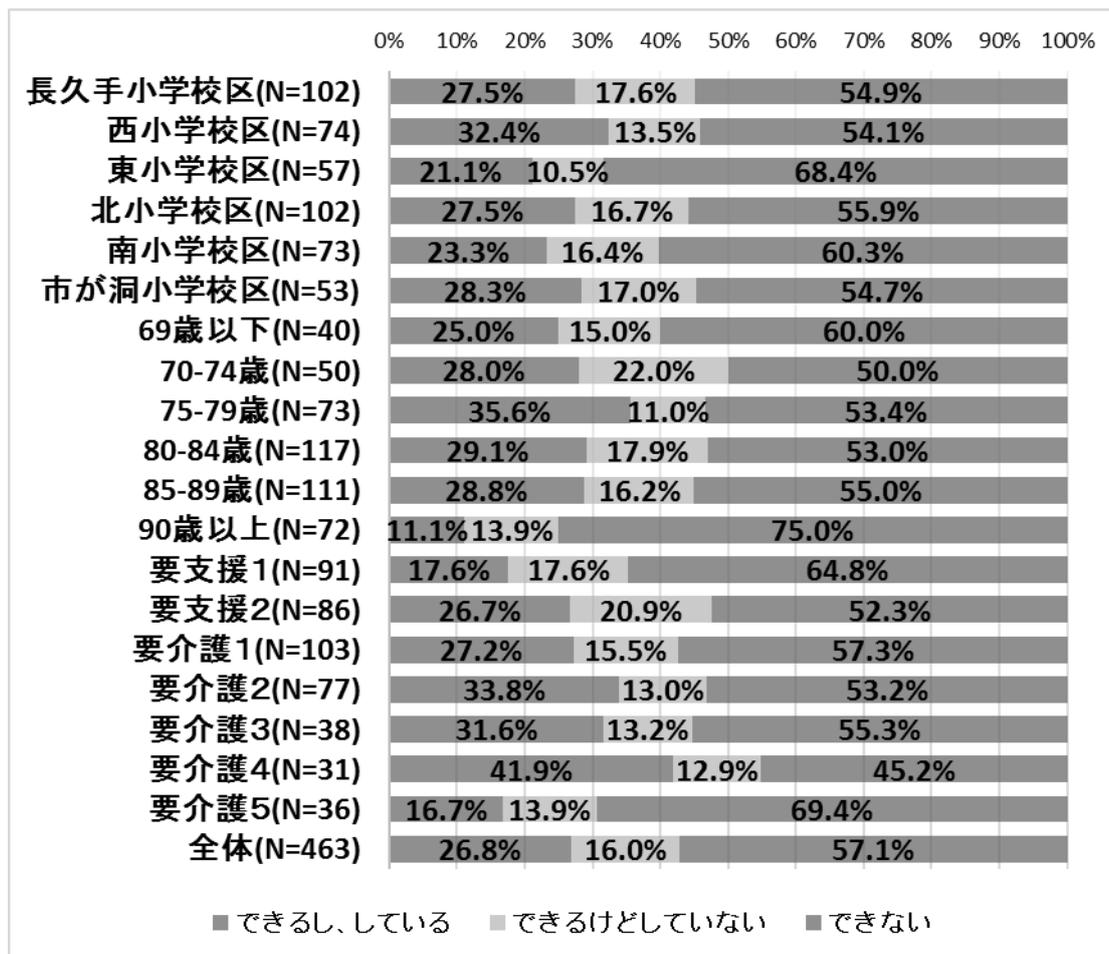


N=509

調理については、「自分で調理ができる」22.2%、「ご飯を炊く、湯を沸かす、電子レンジで温める、などの簡単な調理はできる」33.2%で、半数を超えています。

「まったくできない」という回答は 36.5%です。

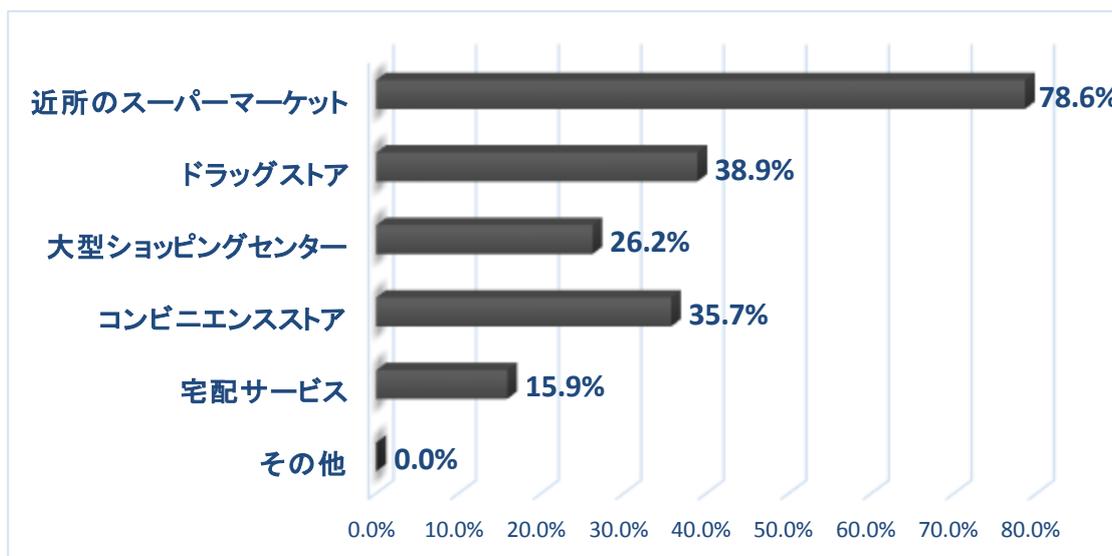
問13 自分で食品・日用品の買い物をしていますか



自分で食品・日用品の買い物をすることについては、全体で「できるし、している」が26.8%で、「できない」は57.1%です。

校区別では、東小学校区、南小学校区で「できない」という回答の割合が6割を超え、年齢別では、90歳以上で「できない」という回答が約3/4となります。

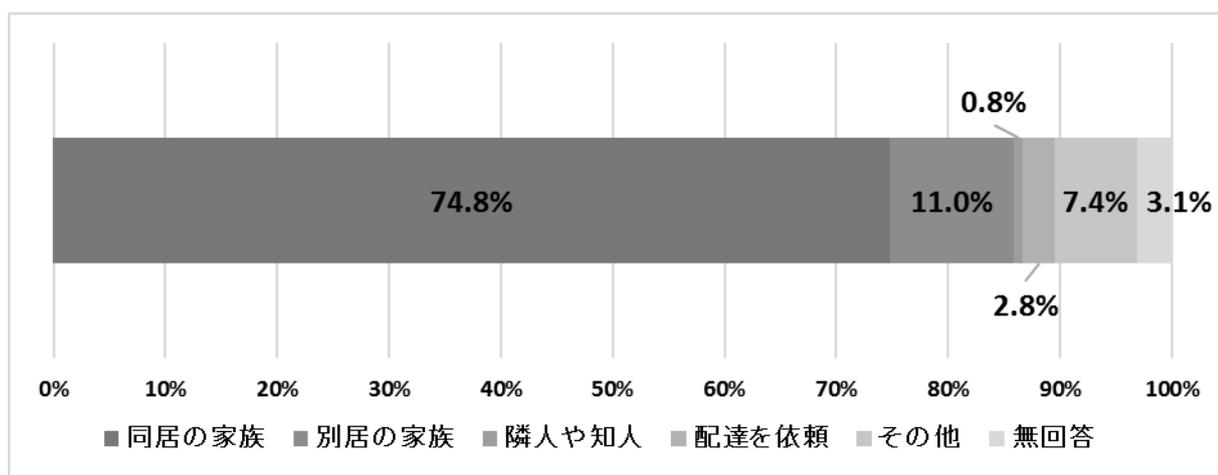
問 13-1 食品・日用品の買い物を主にするところ（自分で買い物をしている人のみ）（複数回答）



N=126

食品・日用品の買い物を主にするところとしては、「近所のスーパーマーケット」が78.6%と突出して多くなっています。

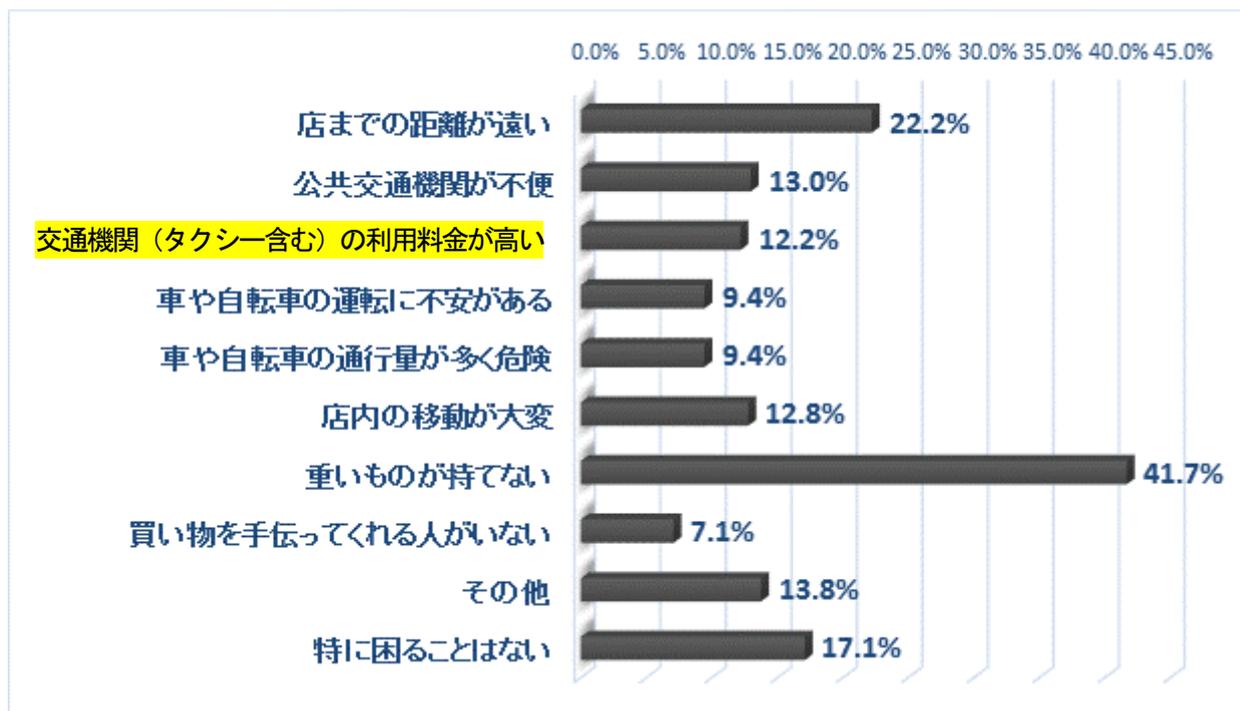
問 13-2 食品・日用品の買い物を主にする人（自分で買い物をしていない人のみ）



N=353

食品・日用品の買い物を主にする人は、約3/4が「同居の家族」です。続くのが「別居の家族」で11.0%となっています。

問14 買い物で困ること（複数回答）

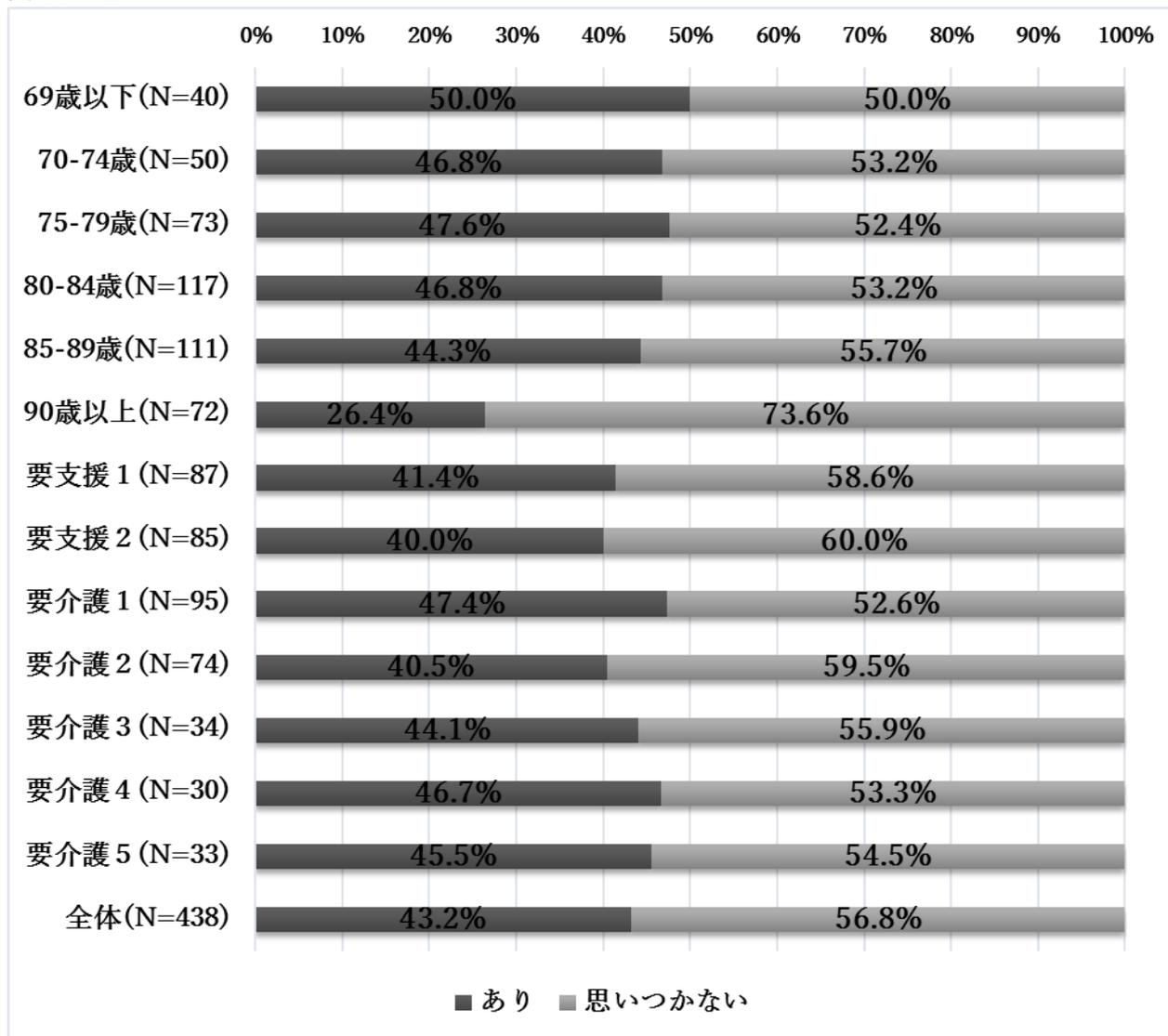


N=509

買い物で困ることとしては、「重いものが持てない」が圧倒的に高く、41.7%となっています。続くのが「店までの距離が遠い」で22.2%となっています。

逆に、「特に困ることはない」は17.1%です。

問15 趣味

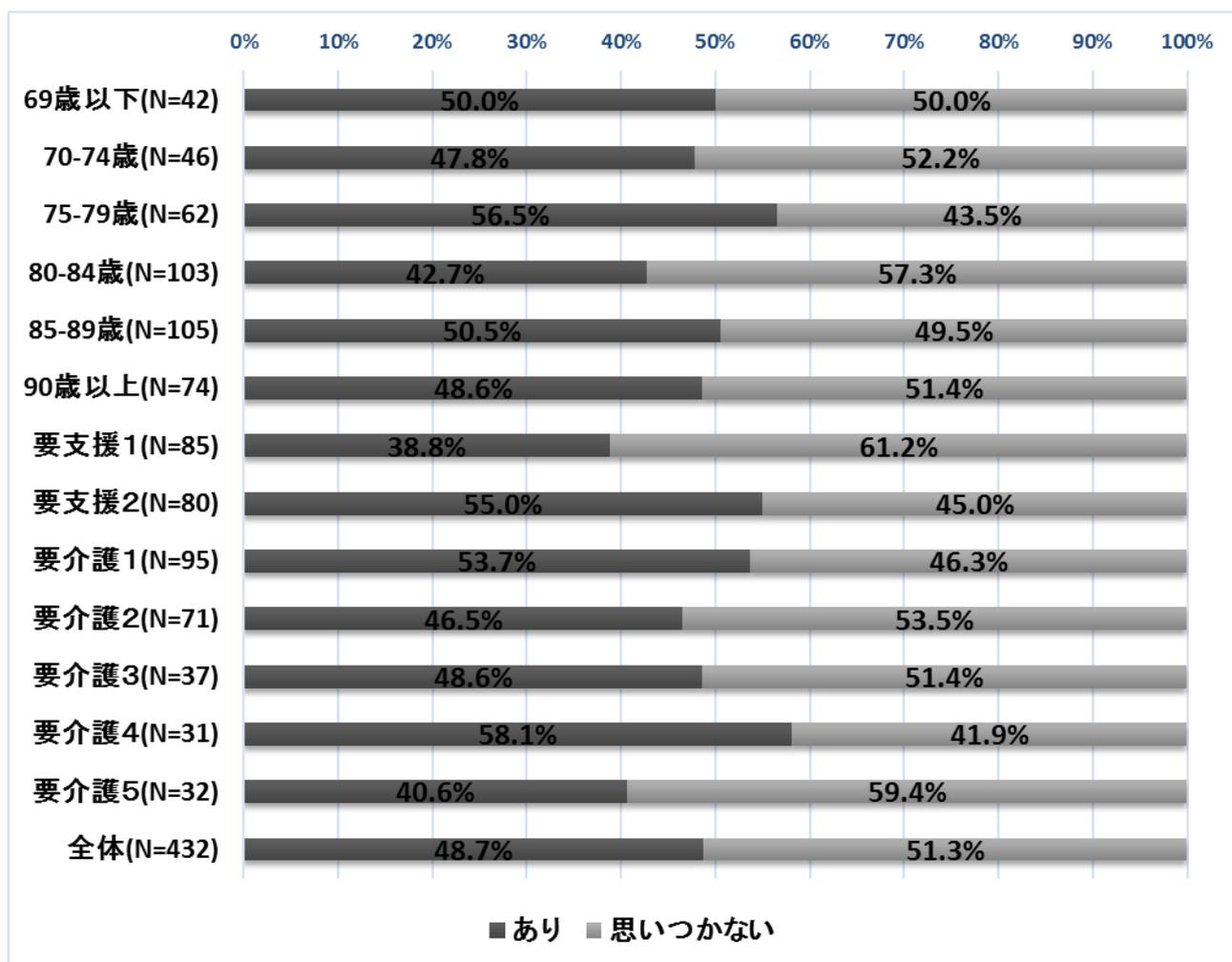


趣味については、年齢別では、「90歳以上」で「あり」という回答が大幅に減少する傾向が認められます。

●趣味の内容 (主なもの)

内容	度数
読書	31
手芸	24
園芸	16
音楽を聴く	13
テレビ	12
絵を描く	11
俳句、短歌、川柳、詩吟	10
コーラス	9
スポーツをする	8
カラオケ	7

問16 日頃の楽しみ



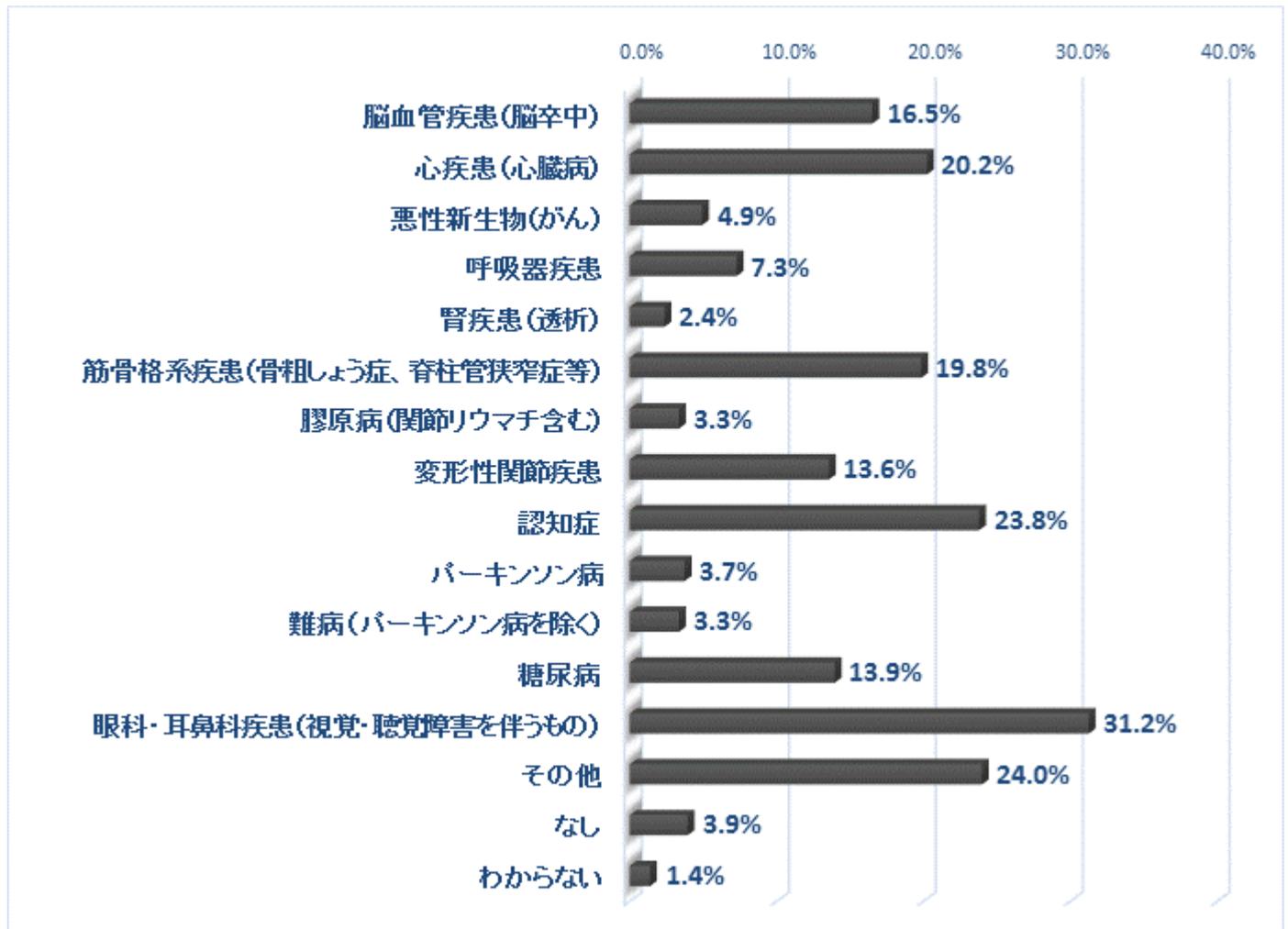
日頃の楽しみについては、全体で「あり」が48.7%、「思いつかない」が51.3%です。「趣味」と比較して、「90歳以上」でも「あり」という回答比率は大きく変わりません。

●日頃の楽しみの内容（主なもの）

内容	度数
テレビ	53
友人との外出・食事	24
子ども、孫との交流	21
デイサービス	17
園芸	14
読書	8

3-4 医療について

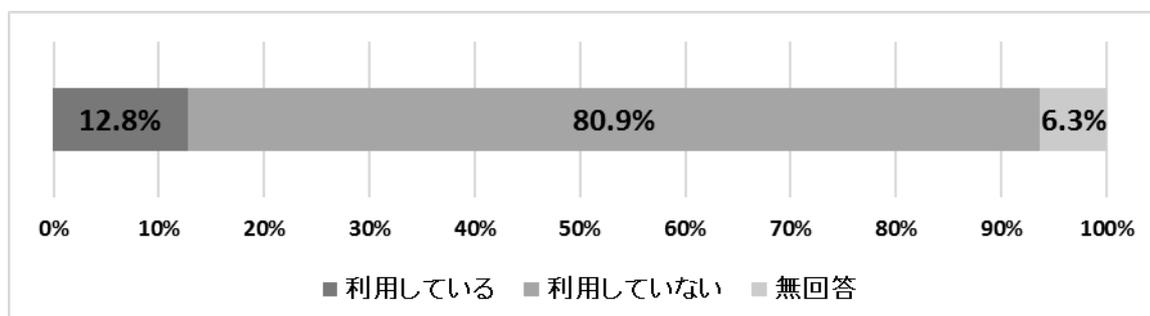
問17 現在抱えている傷病について（複数回答）



N=509

現在抱えている傷病では、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が 31.2%と最も多くなっています。「その他」が 24.0%、「認知症」が 23.8%、「心疾患（心臓病）」が 20.2%と続きます。

問18 現在訪問診療を利用していますか

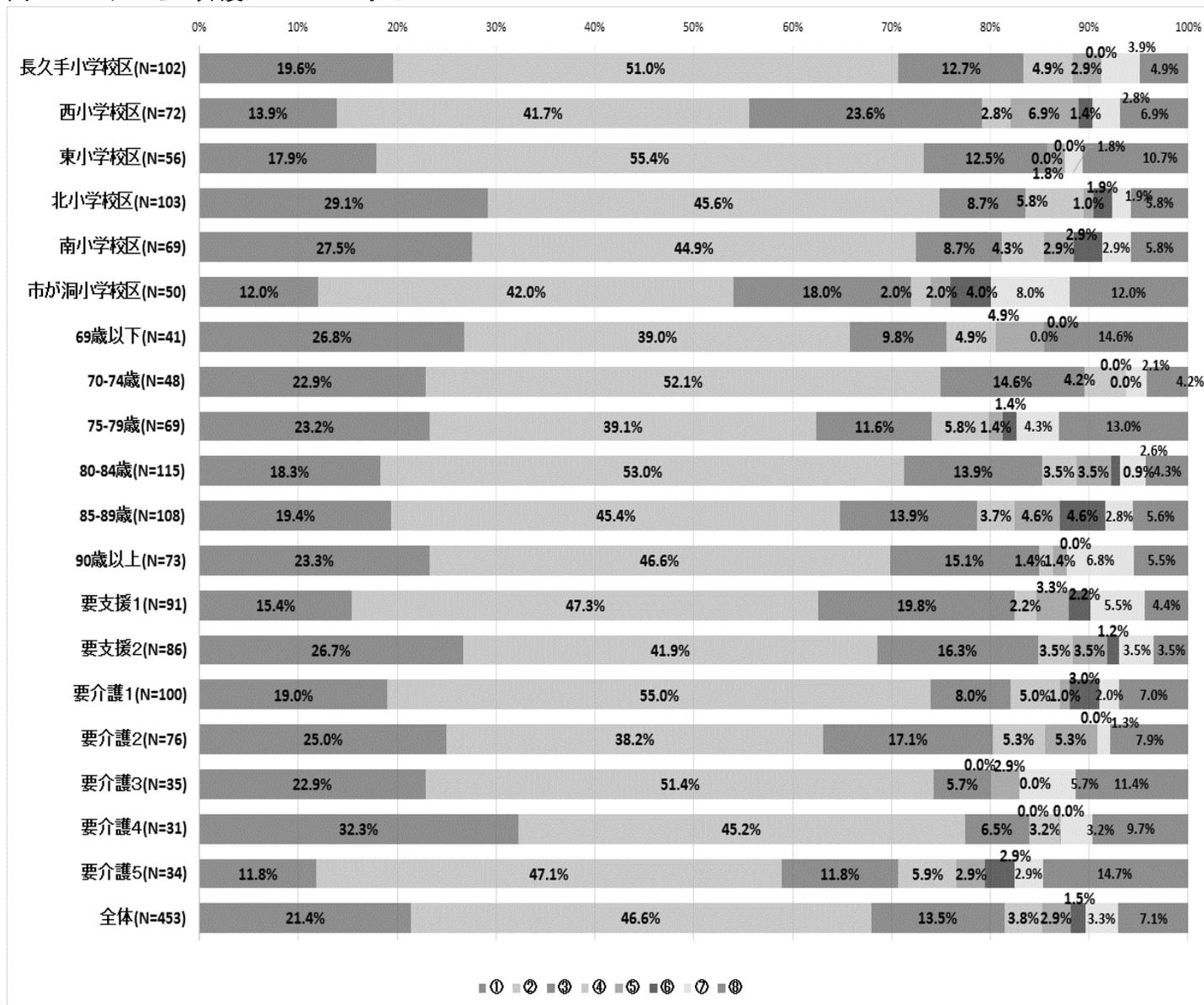


N=509

訪問診療については、「利用していない」が 80.9%で、「利用している」は 12.8%となっています。

3-5 将来の生活の希望について

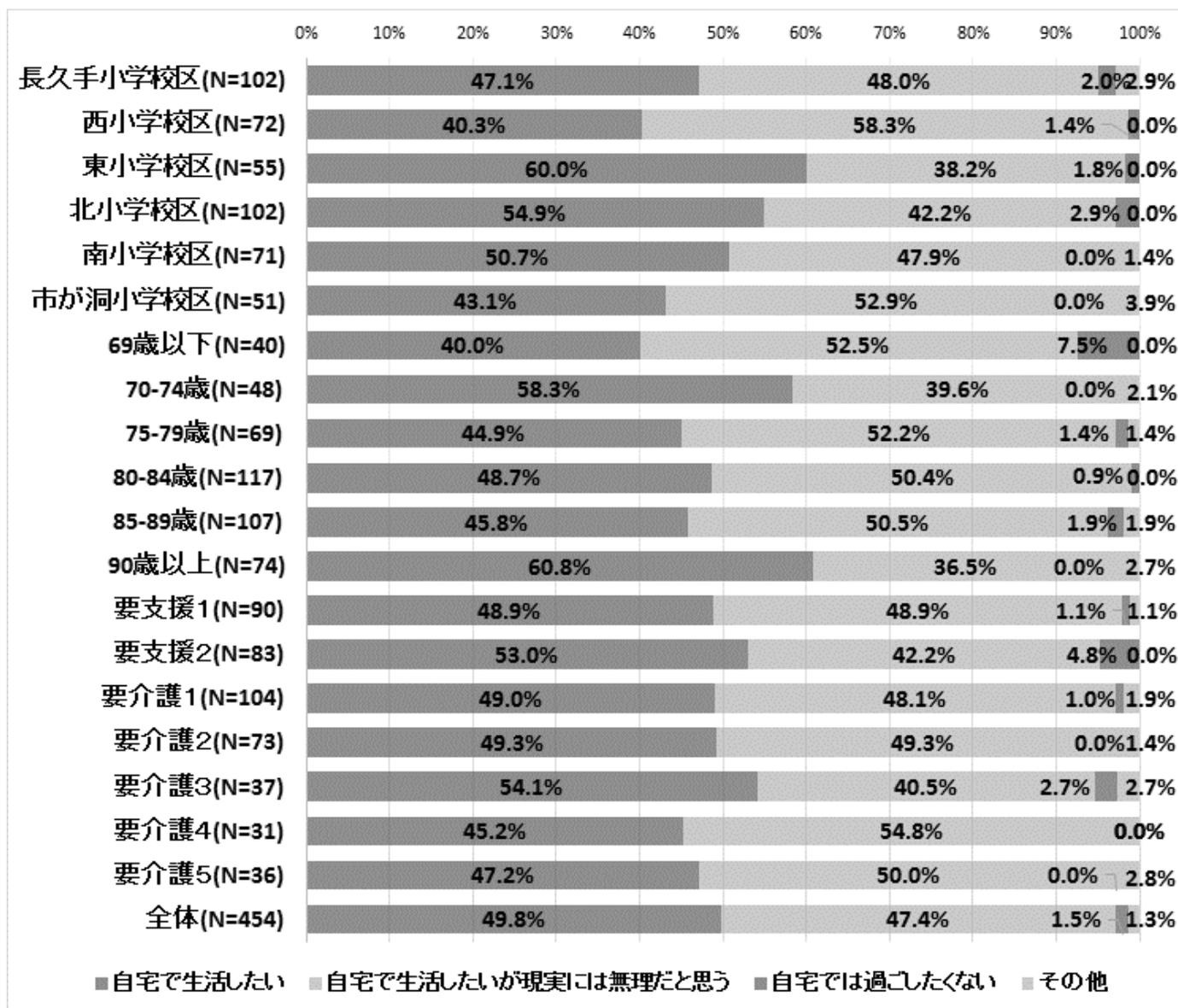
問 19 これからの介護についての考え



- ① 自宅で、家族に介護をしてもらいたい
- ② 自宅で、介護サービス等を利用しながら介護をしてもらいたい
- ③ 専門職が多く比較的安い、特別養護老人ホームや介護老人保健施設等の施設に入りたい
- ④ 費用が高くても、環境や設備の良い有料老人ホーム等で介護を受けたい
- ⑤ 環境や設備にはこだわらないので、安い有料老人ホーム等で介護を受けたい
- ⑥ 病院に入院したい
- ⑦ その他
- ⑧ 特になし

将来の生活の希望については、全体として、「自宅で、介護サービス等を利用しながら介護をしてもらいたい」が最も多く 46.6%、「自宅で、家族に介護をしてもらいたい」の 21.4%を合わせると、自宅での介護の希望が7割弱となっています。 校区别では、**長久手小学校区**、**東小学校区**で「自宅で、介護サービス等を利用しながら介護をしてもらいたい」という回答の比率が高くなっています。

問 19-1 最期まで自宅で過ごしたいと思いますか

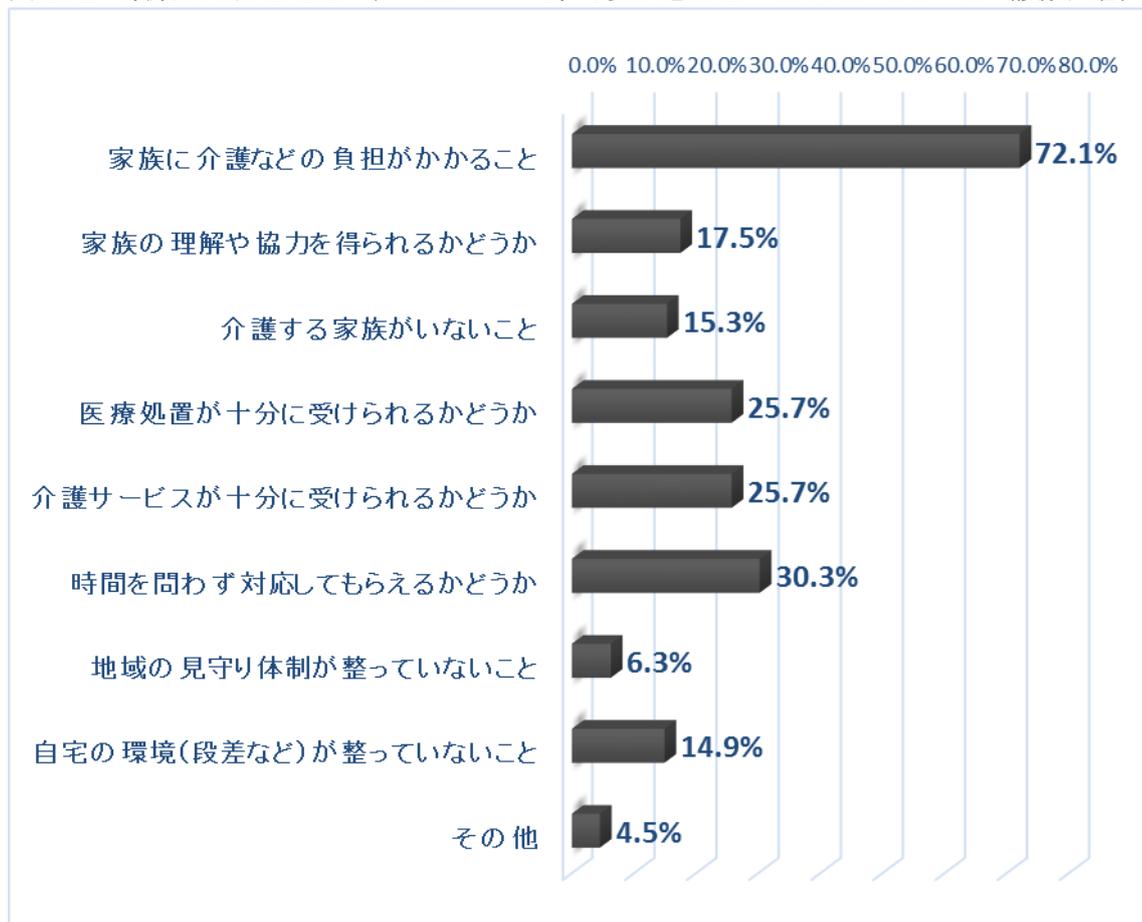


全体では、「自宅で生活したい」49.8%、「自宅で生活したいが現実には無理だと思う」47.4%と大半を占めています。

校区別では、東小学校区、北小学校区、南小学校で、「自宅で生活したい」という回答の比率が高くなっています。

年齢別では、「70～74歳」、「90歳以上」で、「自宅で生活したい」という割合が高くなっています。

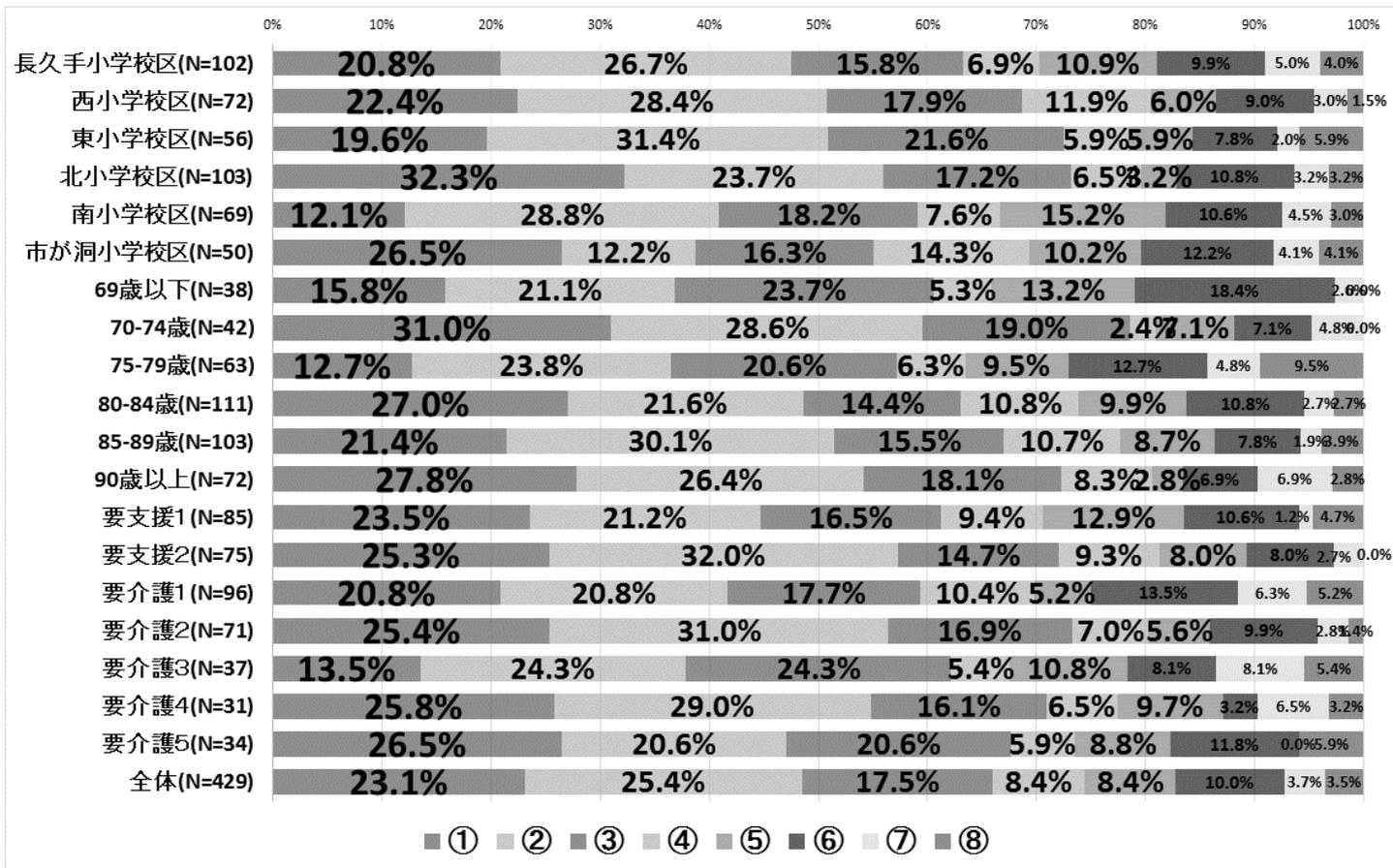
問 19-2 最期まで自宅で過ごすことについて、不安に感じることや気になること（複数回答）



N=509

最期まで自宅で過ごすことについて、不安に感じることや気になることについては、「家族に介護などの負担がかかること」が72.1%と突出して高くなっています。続いて、「時間を問わず対応してもらえるかどうか」30.3%、「医療処置が十分に受けられるかどうか」、「介護サービスが十分に受けられるかどうか」がどちらも25.7%となっています。

問20 住み慣れた地域で暮らし続けるために最も充実すべきこと



- ①在宅医療を充実する（医師や看護師の訪問体制の整備）
- ②介護サービスを充実する（訪問介護など在宅サービスや24時間対応のサービスの充実）
- ③医療と介護の連携を強化する
- ④介護が必要な状態とならないための取組や自立を支援する介護の推進（介護予防の推進）
- ⑤見守り・配食・買い物など生活支援サービスの充実と権利擁護の確立（生活支援の充実）
- ⑥高齢期・要介護状態になっても住み続けることのできる住まいの整備
- ⑦相談窓口の充実
- ⑧その他

住み慣れた地域で暮らし続けるために最も充実すべきことについて、全体では、「介護サービスを充実する（訪問介護など在宅サービスや24時間対応のサービスの充実）」が25.4パーセントと最も多く、「在宅医療を充実する（医師や看護師の訪問体制の整備）」23.1%が続き、「医療と介護の連携を強化する」の17.5%まで含めると、約2/3を占めています。

校区別では、北小学校区で「在宅医療を充実する（医師や看護師の訪問体制の整備）」の回答が3割を超える一方、南小学校では、12.1%となっています。

3-6 地域での活動やたすけあいについて

問21 近隣に住んでいる人の認知



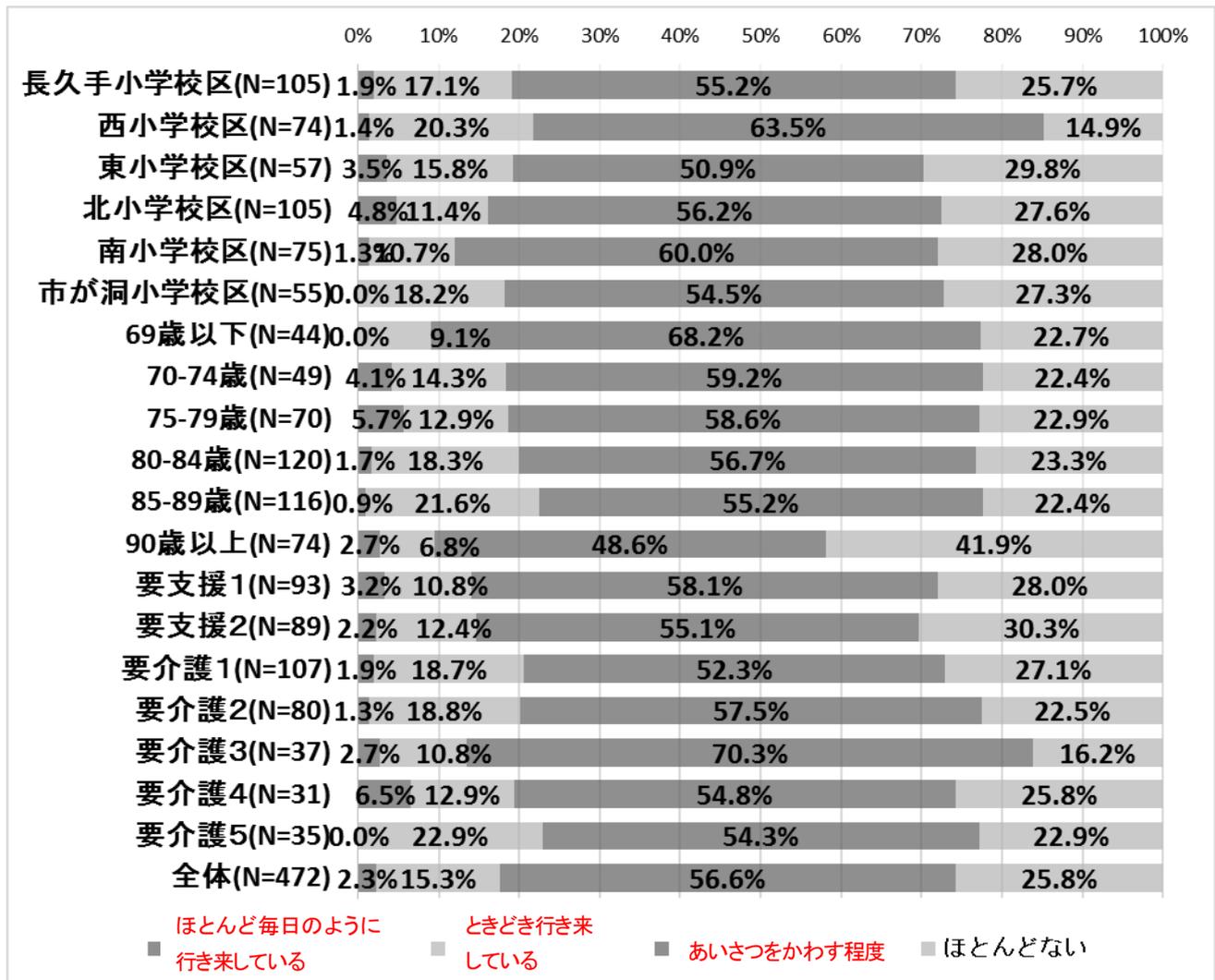
近隣に住んでいる人の認知の状況は、全体で、「よく知っている」13.7%、「まあまあ知っている」43.3%と半数以上を超えます。

逆に、「ほとんど知らない」17.0%、「まったく知らない」4.8%と、合わせて2割を超えていることも注目されます。

校区別では、南小学校区で「よく知っている」の比率が低くなっています。また、東小学校区では、「まったく知らない」は0.0%です。

年齢別では、年齢が高くなるほど「よく知っている」、「まあまあ知っている」という回答の比率が高くなる傾向がありますが、「90歳以上」ではこれらの比率が低くなり、「ほとんど知らない」、「まったく知らない」という回答の比率が高くなっています。

問22 隣近隣とのつきあい



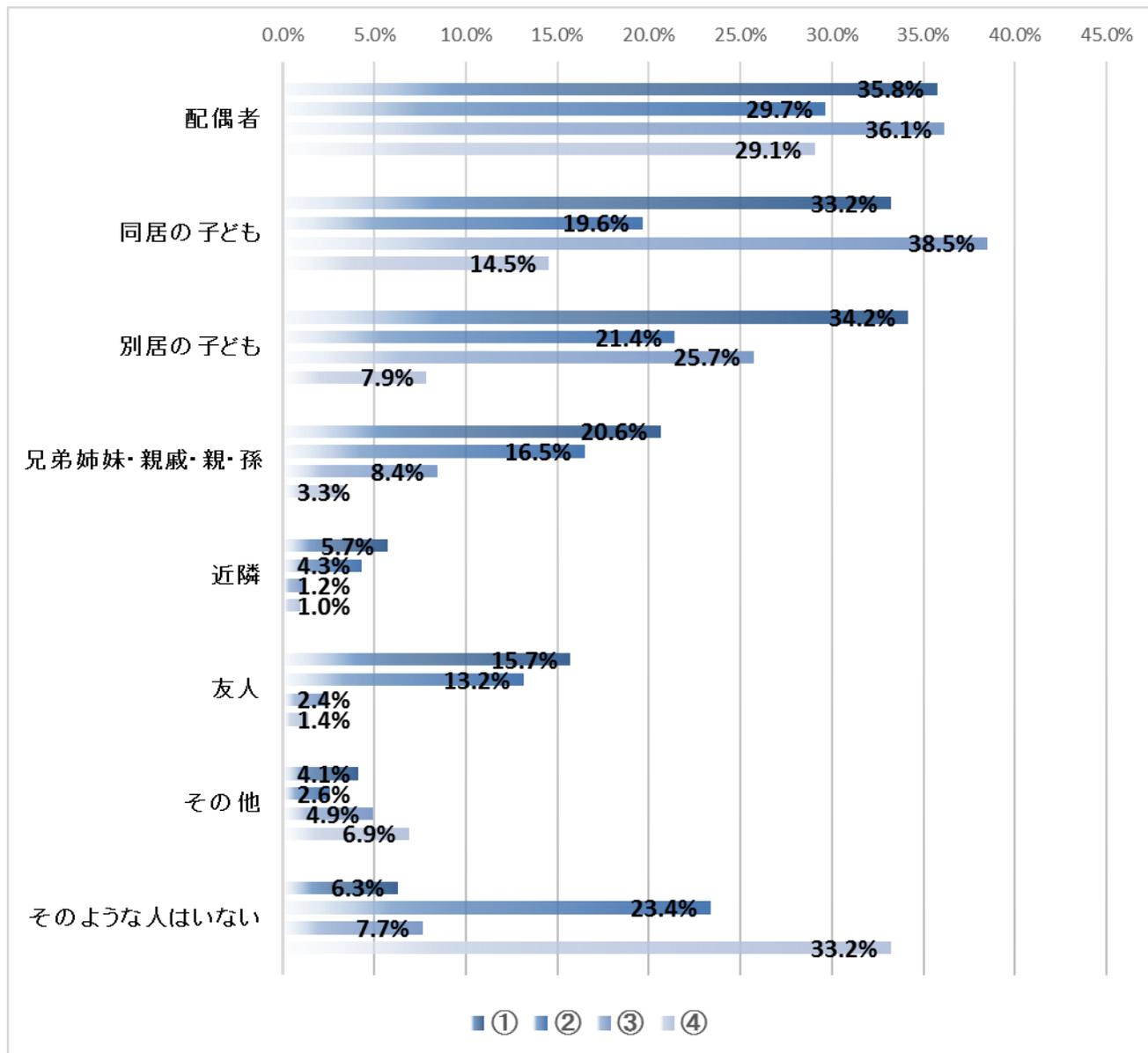
隣近隣とのつきあいは、全体で、「あいさつをかわす程度」が最も多く 56.6%です。「ほとんど毎日のように行き来している」2.3%、「ときどき行き来している」15.3%と合わせると、約3/4が、何らかの形で近所づきあいがあることを示しています。

逆に、「ほとんどない」という回答も約1/4となっています。

校区別では、西小学校区で「ほとんどない」という回答の比率が低くなっています。

年齢別では、「69歳以下」で、行き来がある割合が低く、「90歳以上」で、「ほとんどない」という回答が増える傾向を認めることができます。

問23 まわりの人の「たすけあい」について



N=509

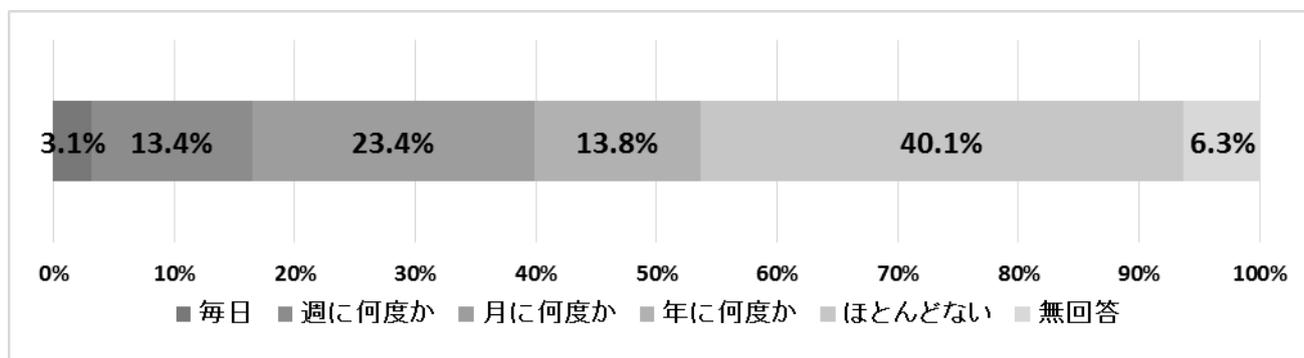
- ①あなたの心配事を聞いてくれる人（複数回答）
- ②反対に、あなたが心配事を聞いてあげる人（複数回答）
- ③あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人（複数回答）
- ④反対に、看病や世話をしてあげる人（複数回答）

あなたの心配事を聞いてくれる人、あなたが心配事を聞いてあげる人については、配偶者、同居、別居の子どもなど、家族が高い比率を占めています。

あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人については、「同居の子ども」が38.5%で、「別居の子ども」も25.7%で、「近隣」1.2%、「友人」2.4%と比率は低くなっています。

問24 友人関係

①友人・知人と会う頻度

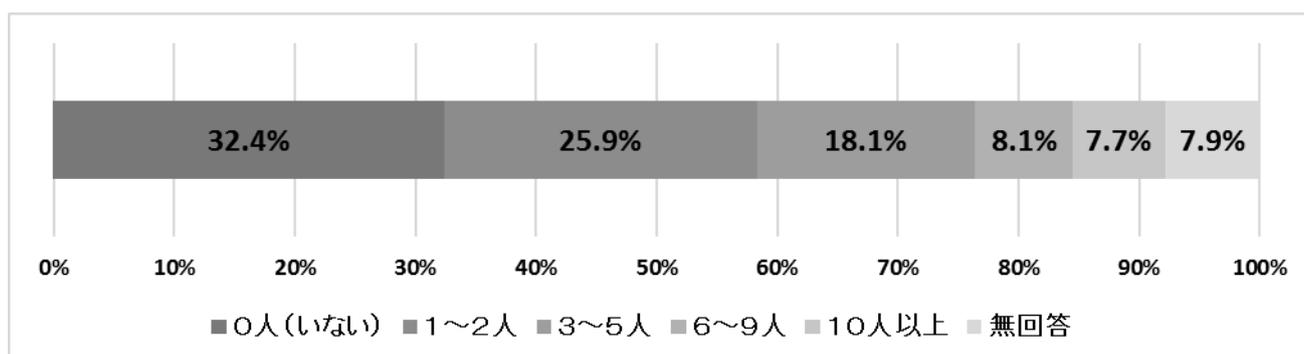


N=509

知人・友人と会う頻度については、「ほとんどない」が最も多く40.1%です。

「月に何度か」が23.4%、「年に何度か」が13.8%となっています。

②この1ヶ月間に会った友人・知人数

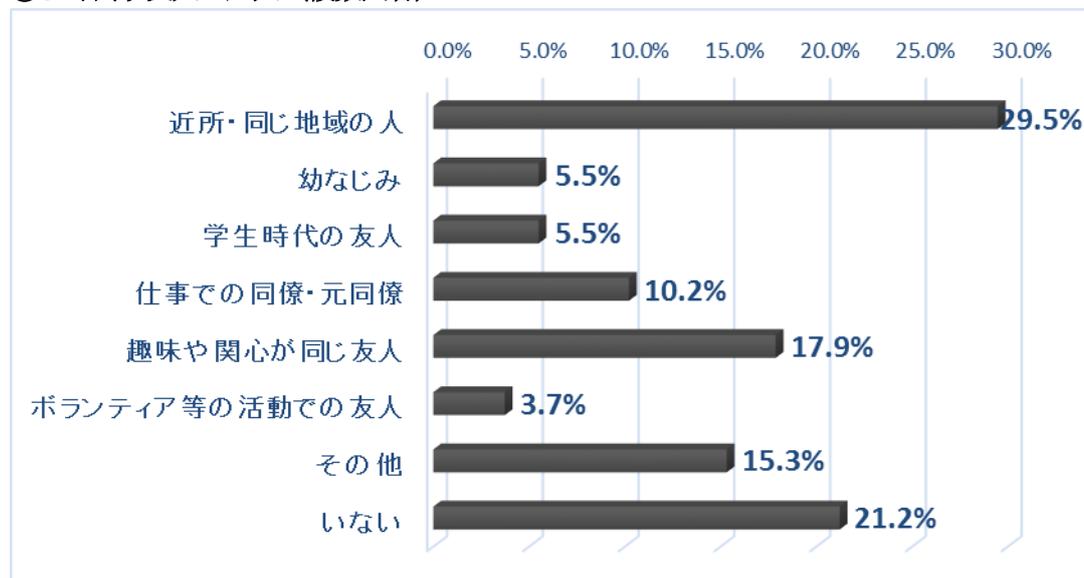


N=509

この1ヶ月間に会った友人・知人数は、「いない」という回答が約1/3で最も多くなっています。

「1~2人」が約1/4、「3~5人」が2割弱です。

③よく会う友人・知人（複数回答）



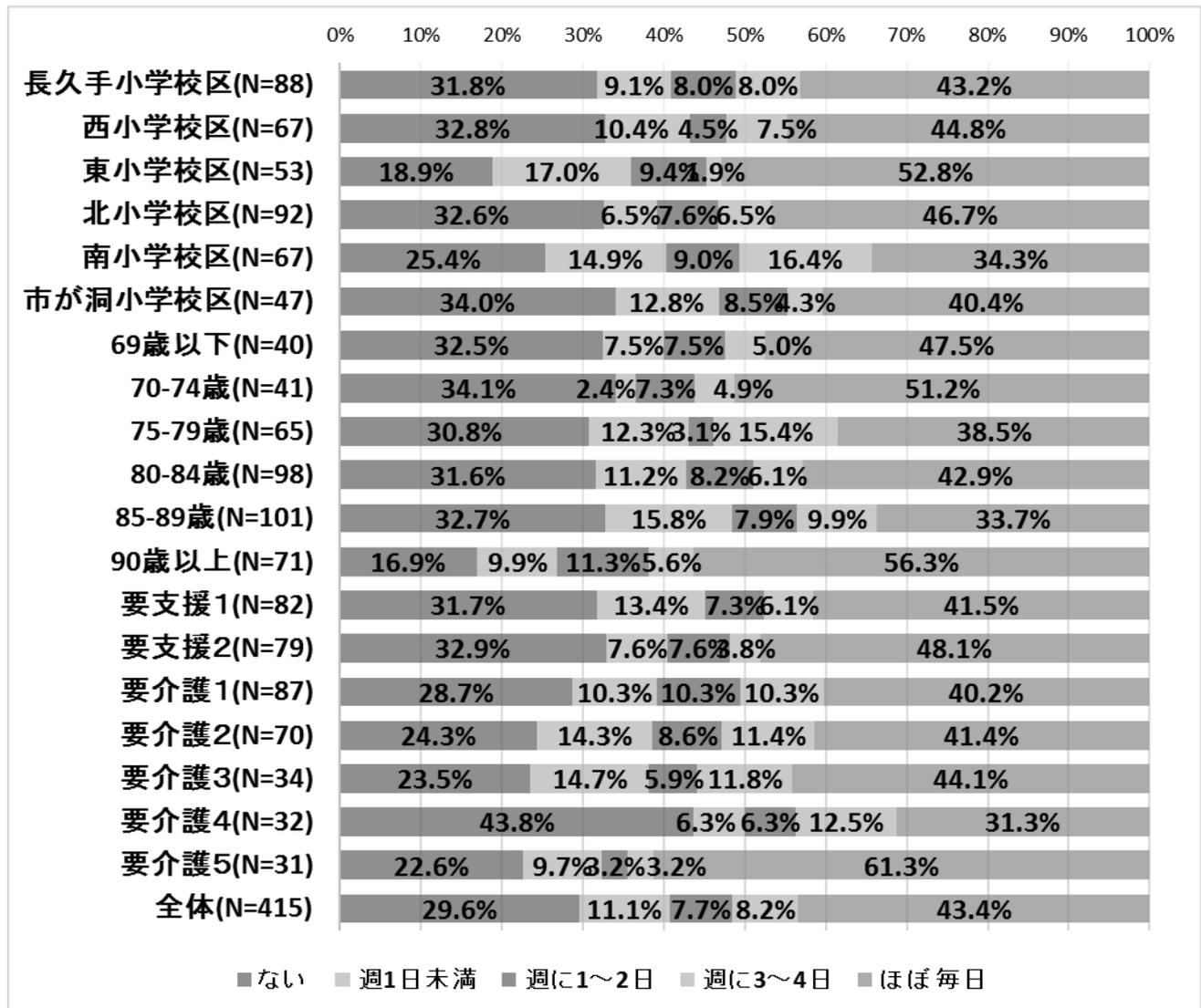
N=509

よく会う知人・友人は、「近所・同じ地域の人」が最も多く 29.5%です。「趣味や関心が同じ友人」の 17.9%が続きます。

逆に、「いない」という回答は 21.2%で2割を超えています。

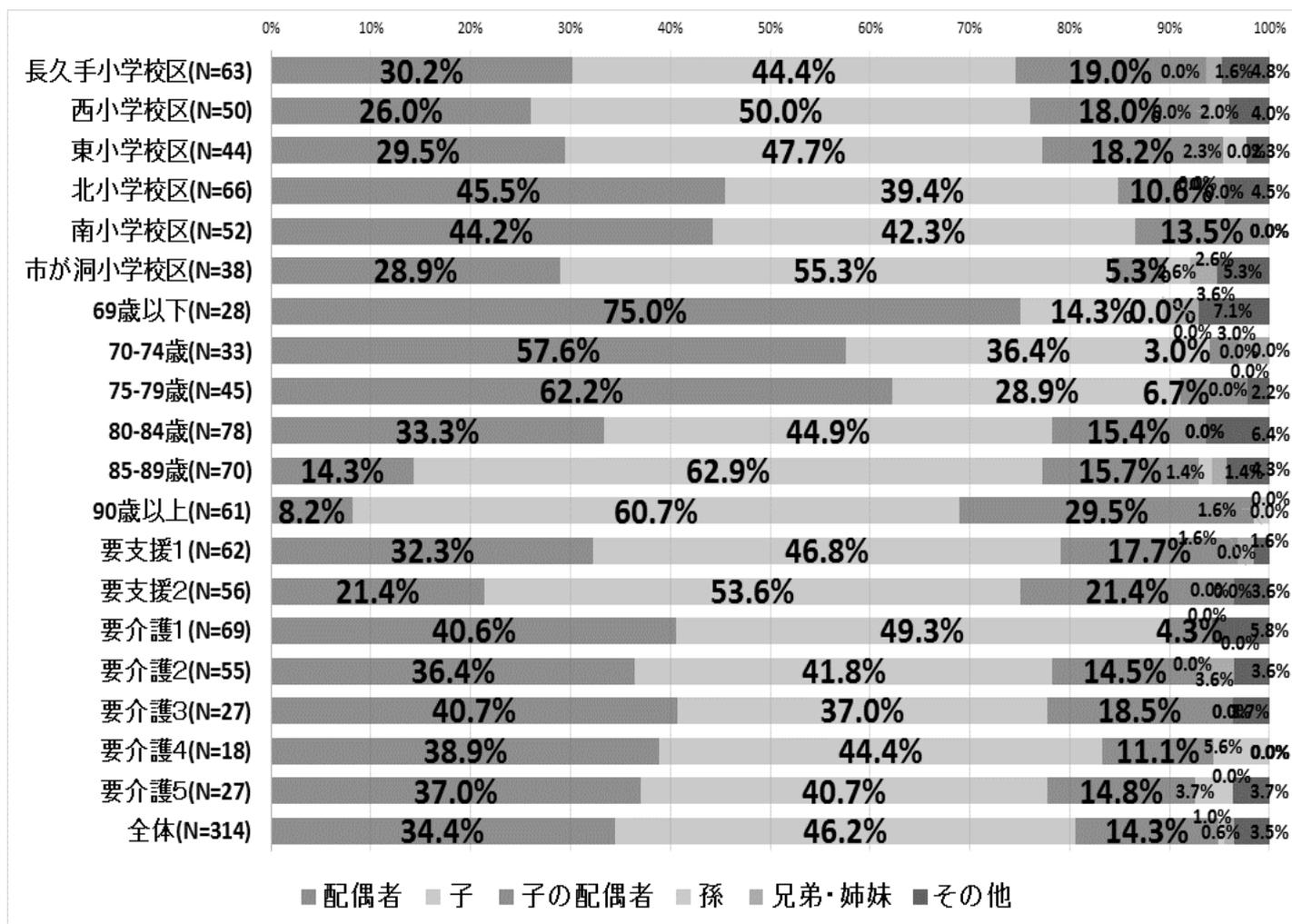
3-7 介護している方について

問25 ご家族やご親族の方からの介護は週にどのくらいありますか（同居していない子どもや親族等からの介護を含む）



家族、親族からの介護は、全体で「ない」が29.6%、「ほぼ毎日」という回答は43.4%です。校区別では、東小学校区で「ない」という比率が2割を切っている一方、「ほぼ毎日」も5割を超えています。年齢別では「90歳以上」で「ない」という回答の比率が下がり、「ほぼ毎日」という回答が半数を超えます。要介護度別では、「要介護5」で、「ほぼ毎日」という回答が6割を超えています。

問 26 主な介護者

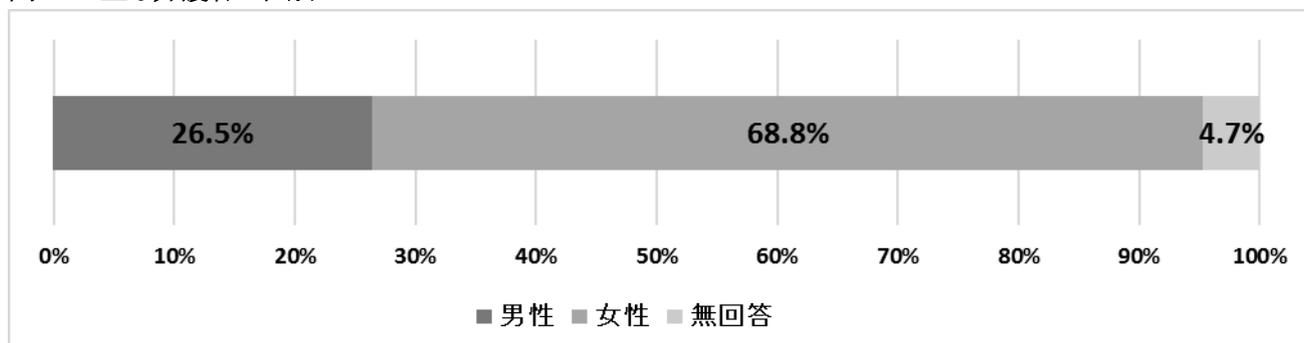


主な介護者は、全体で「配偶者」34.4%、「子」46.2%、「子の配偶者」14.3%となっています。

校区別では、北小学校区、南小学校区で「配偶者」の比率が45%と相対的に高くなっています。

年齢別では、年齢が高くなるほど「配偶者」の比率が低くなり、「子」、「子の配偶者」の比率が増加する傾向が認められます。

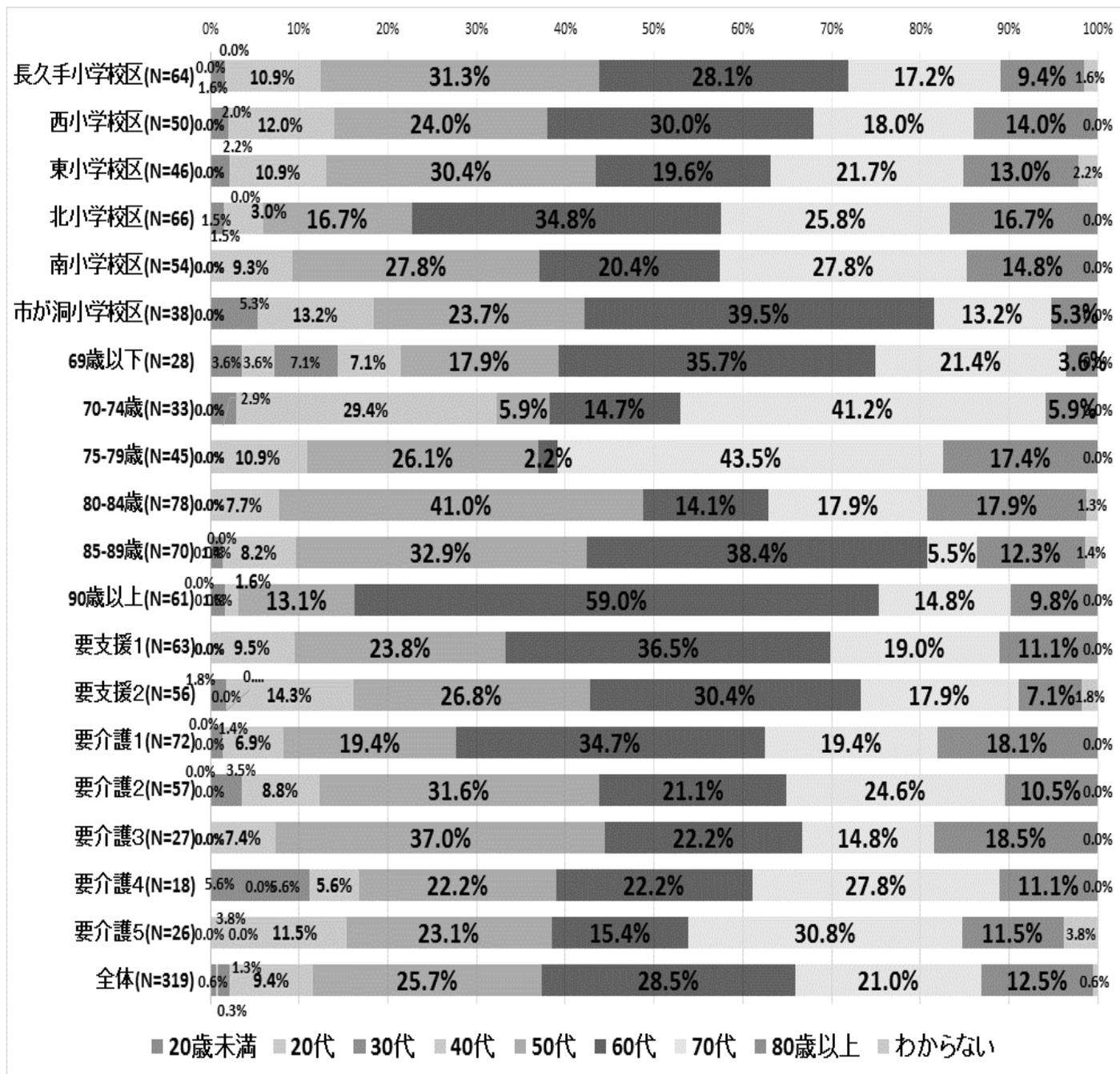
問 27 主な介護者の性別



N=340

主な介護者は、「女性」の68.8%が、「男性」の26.5%を大幅に上回っています。

問28 主な介護者の年齢



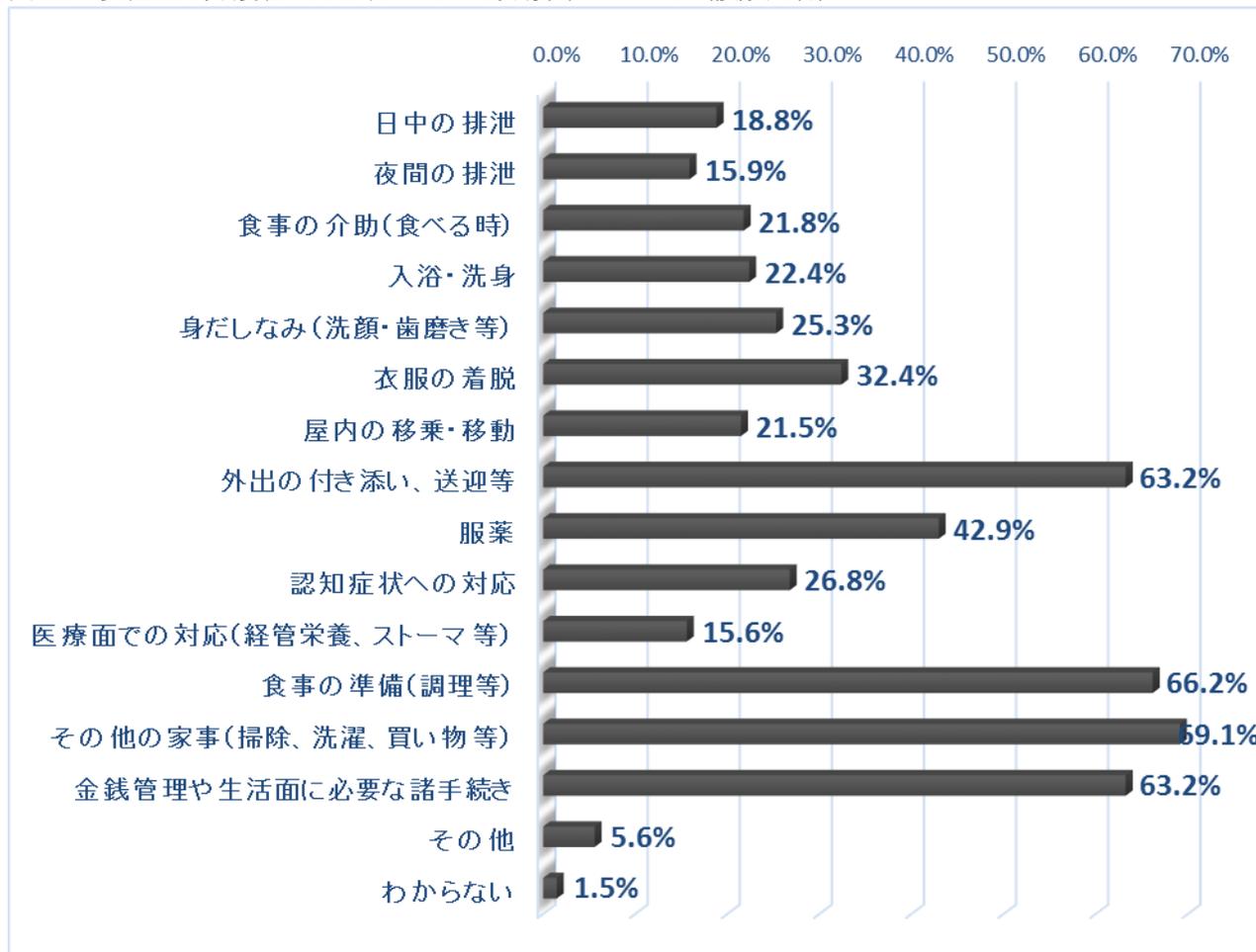
主な介護者の年齢は、全体で、「60代」が最も多く 28.5%、「50代」が 25.7%で続きます。「70代」が 21.0%、「80代」が 12.5%と一定の比率を占めています。

校区別では、北小学校区、南小学校区で「70歳代」、「80歳以上」の比率が高くなっています。

年齢別で見ると、70代の方の半数以上が70代以上の介護者からの介護を受けていることがわかります。

「90歳以上」では、「60代」の介護者が約6割となっています。

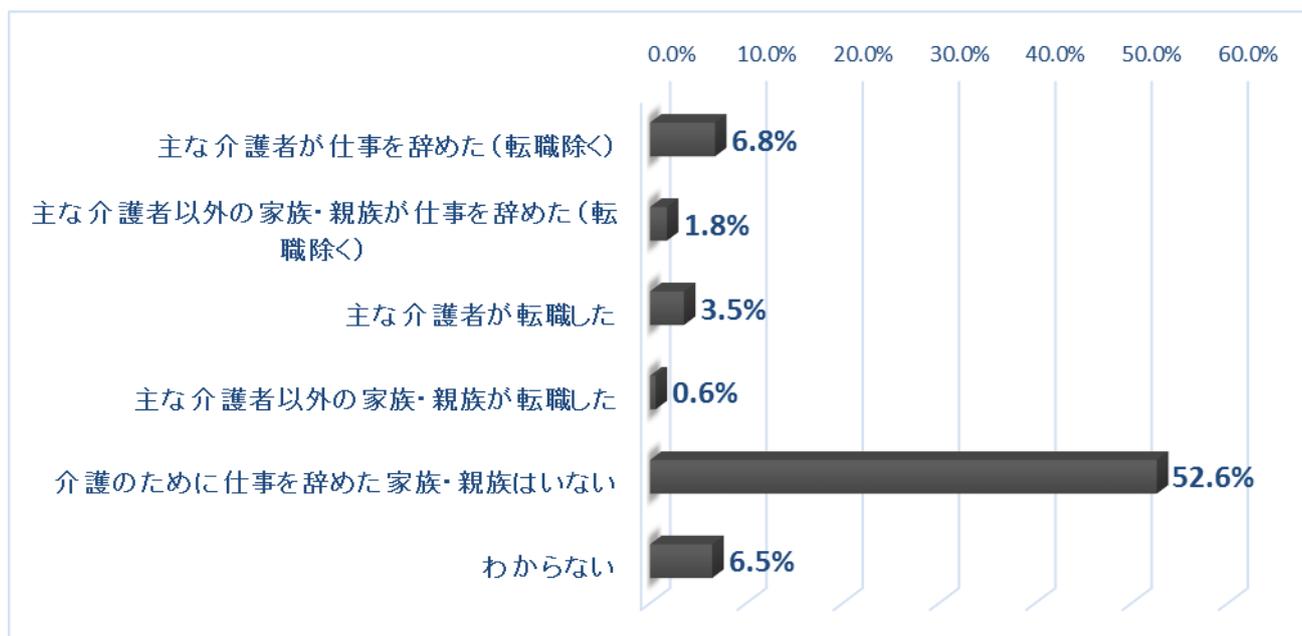
問29 現在主な介護者の方が行っている介護等について（複数回答）



N=340

主な介護者が行なっている介護としては、「外出の付き添い、送迎等」、「食事の準備（調理等）」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が6割を超えています。続いて「服薬」が42.9%となっています。

問30 ご家族やご親族の中で介護を主な理由として過去1年の間に仕事を辞めた方（複数回答）

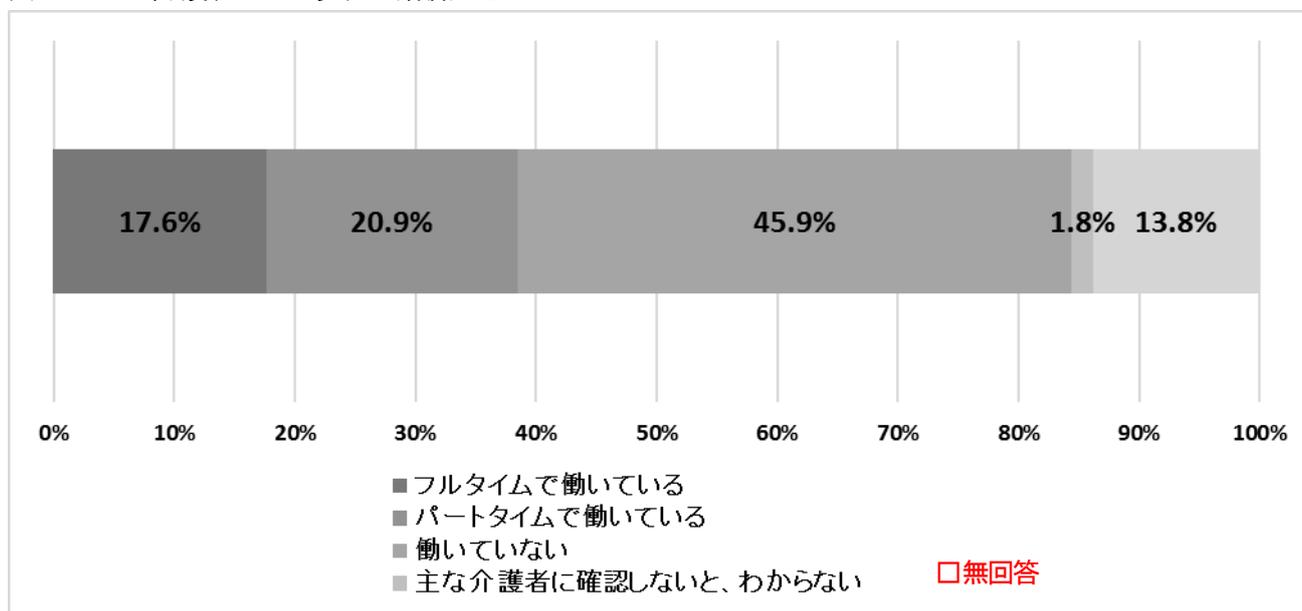


N=340

家族・親族で介護を主な理由として過去1年の間に仕事を辞めた方は、「いない」が52.6%です。

「主な介護者が仕事を辞めた」という回答は6.8%、「主な介護者が転職した」は3.5%で、合わせて1割を超えています。

問31 主な介護者の方の現在の勤務形態

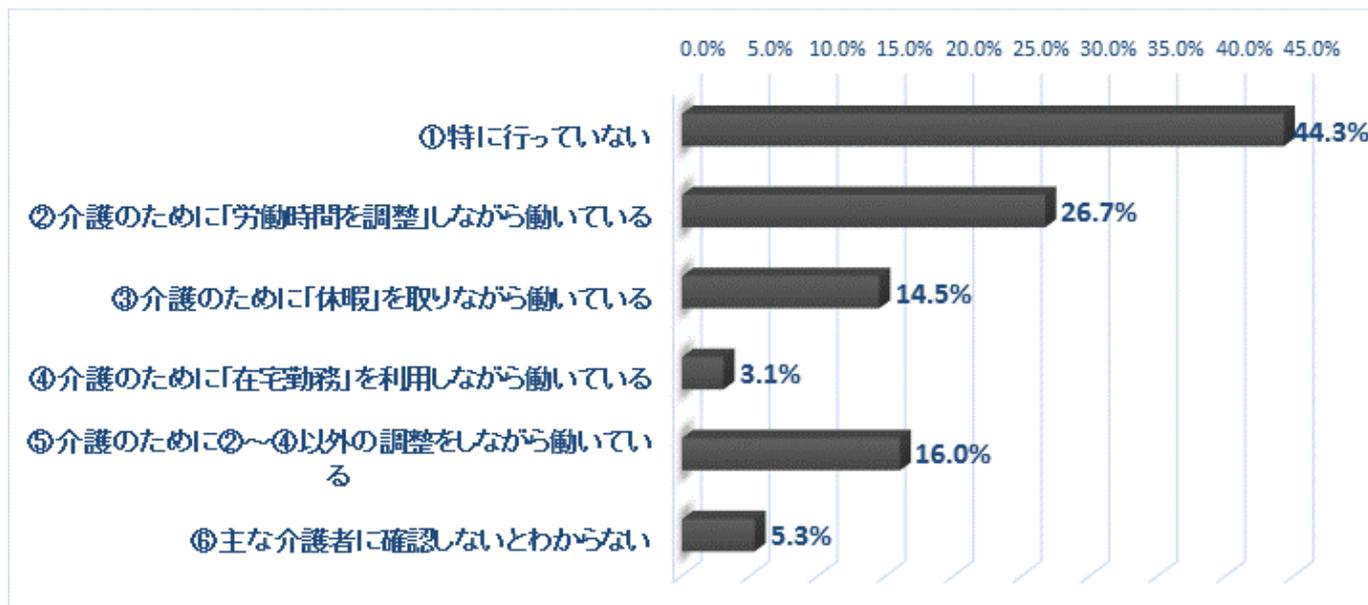


N=340

主な介護者の勤務形態は、「フルタイムで働いている」が17.6%、「パートタイムで働いている」が20.9%です。

「働いていない」という回答は45.9%となっています。

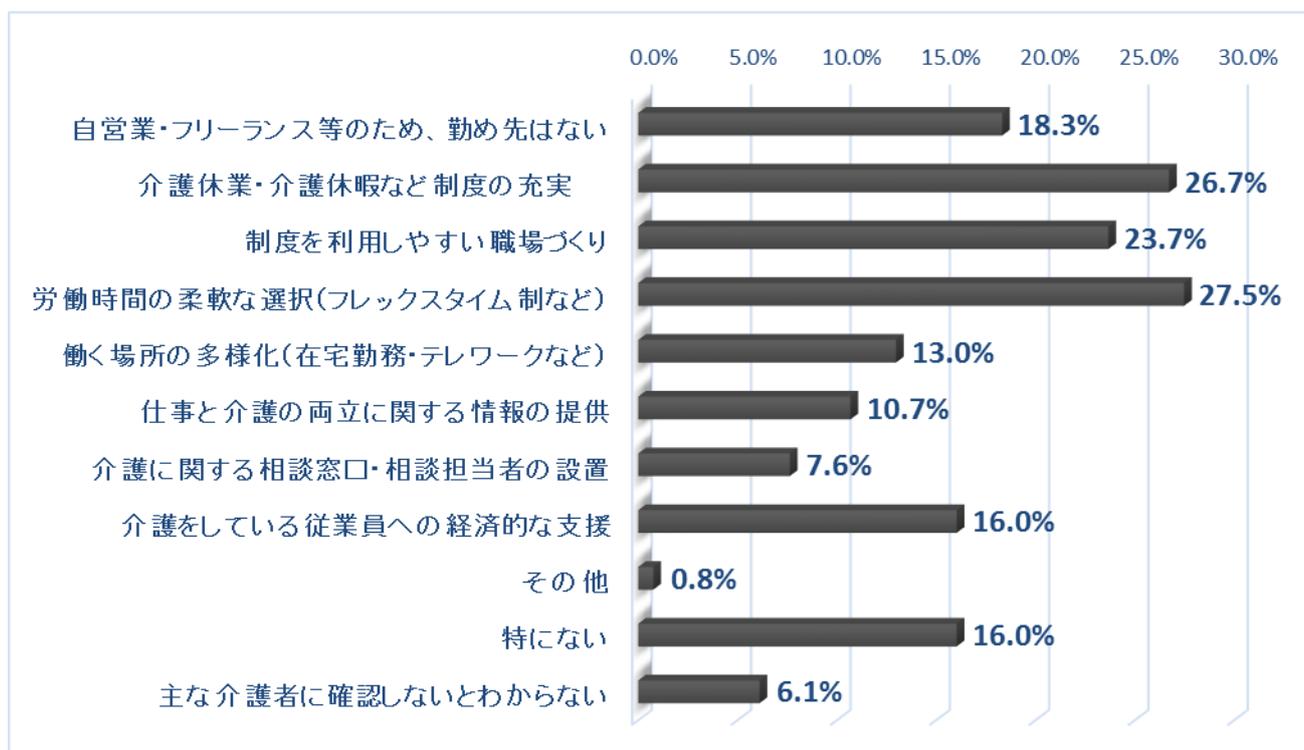
問 31-1 介護するにあたって何か働き方についての調整等をしていますか（働いている方のみ）（複数回答）



N=131

介護にあたって働き方の調整を「特に行っていない」という回答が44.3%で、最も多くなっています。「労働時間の調整」は26.7%、「休暇をとりながら勤務」が14.5%、「在宅勤務」は3.1%です。

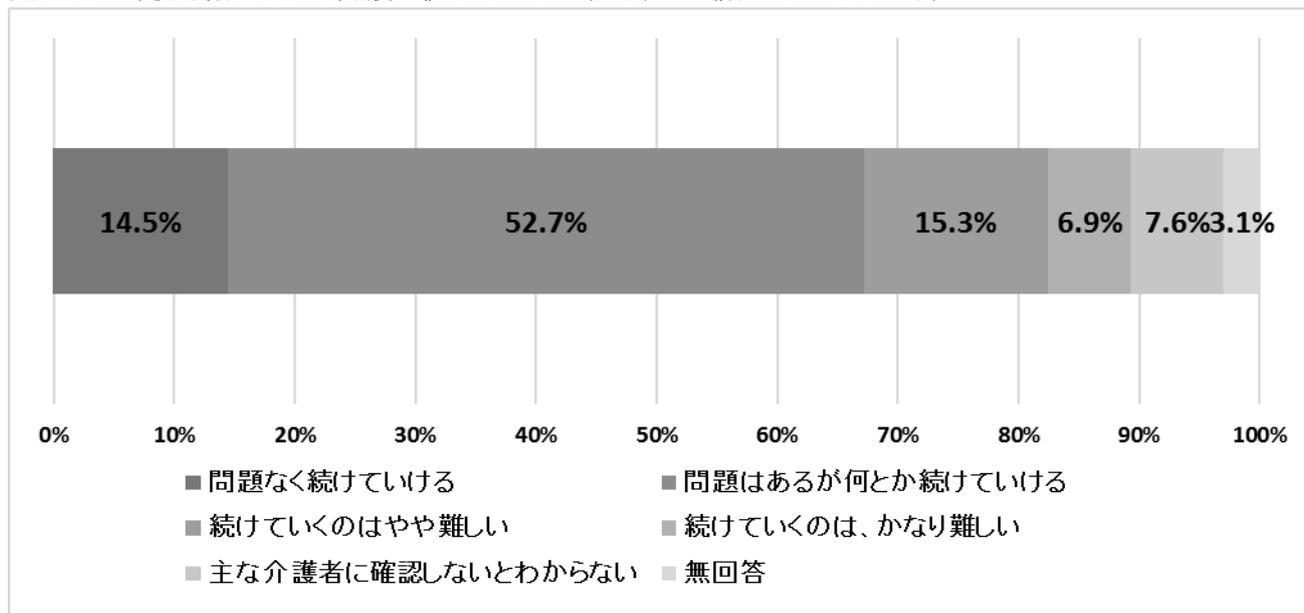
問 31-2 勤め先からどのような支援があれば仕事と介護の両立に効果があると思いますか（働いている方のみ）（3つまで）



N=131

仕事と介護の両立に資する勤め先からの支援としては、「介護休業・介護休暇など制度の充実」、「制度を利用しやすい職場づくり」、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」の3つが、1/4前後の回答となっています。

問 31-3 今後も働きながら介護を続けていけそうですか（働いている方のみ）

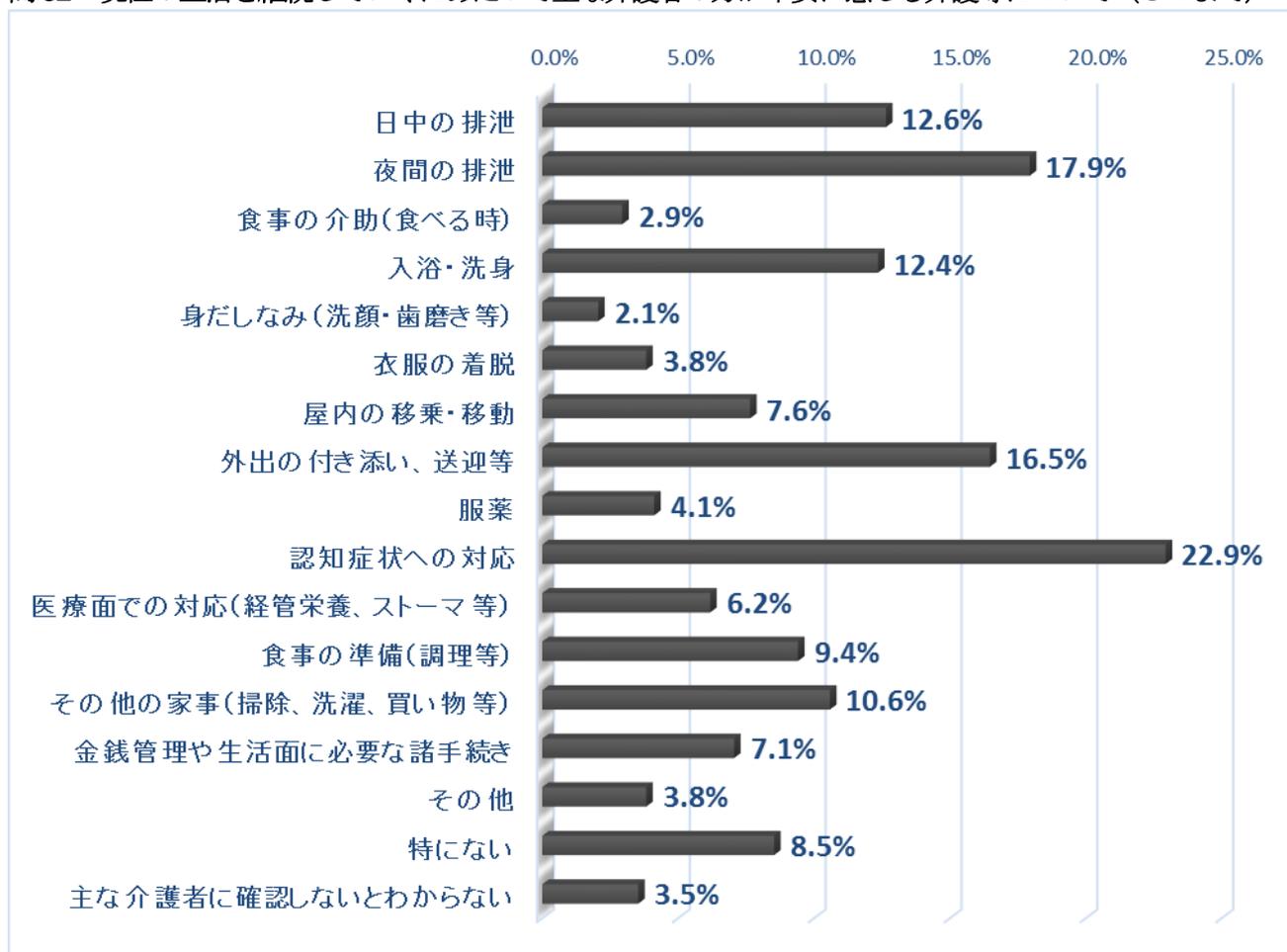


N=131

今後については、「問題なく続けていける」14.5%、「問題はあるが何とか続けていける」52.7%と、合わせて7割弱が働き続けていけると回答になっています。

逆に、「続けていくのはやや難しい」15.3%、「続けていくのは、かなり難しい」が6.9%と、2割以上が働き続けることの困難を表明しています。

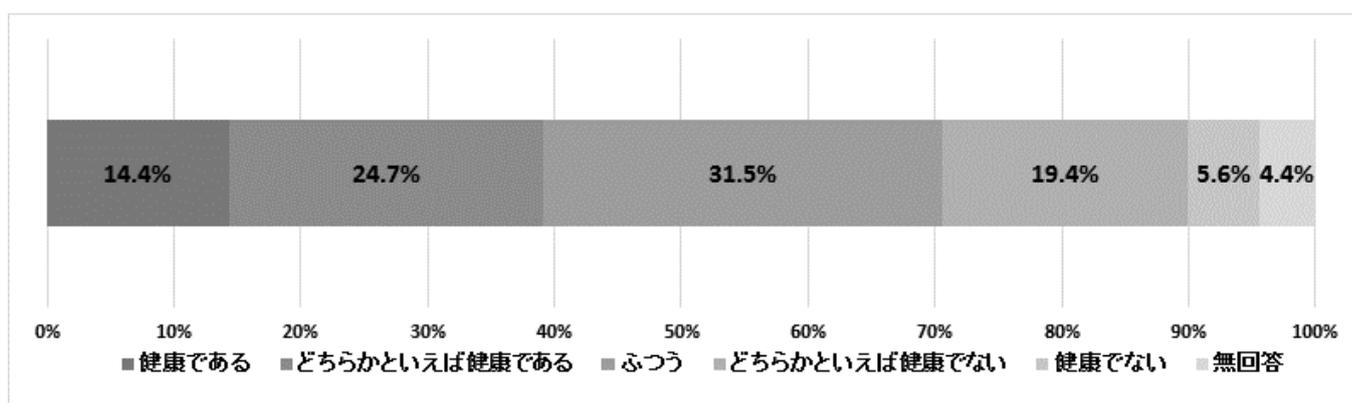
問 32 現在の生活を継続していくにあたって主な介護者の方が不安に感じる介護等について（3つまで）



N=340

現在の生活を継続していくにあたって主な介護者の方が不安に感じる介護としては、「認知症状への対応」が最も多く 22.9%です。「夜間の排泄」17.9%、「外出の付き添い、送迎等」16.5%と続きます。

問 33 主な介護者の方の健康状態について

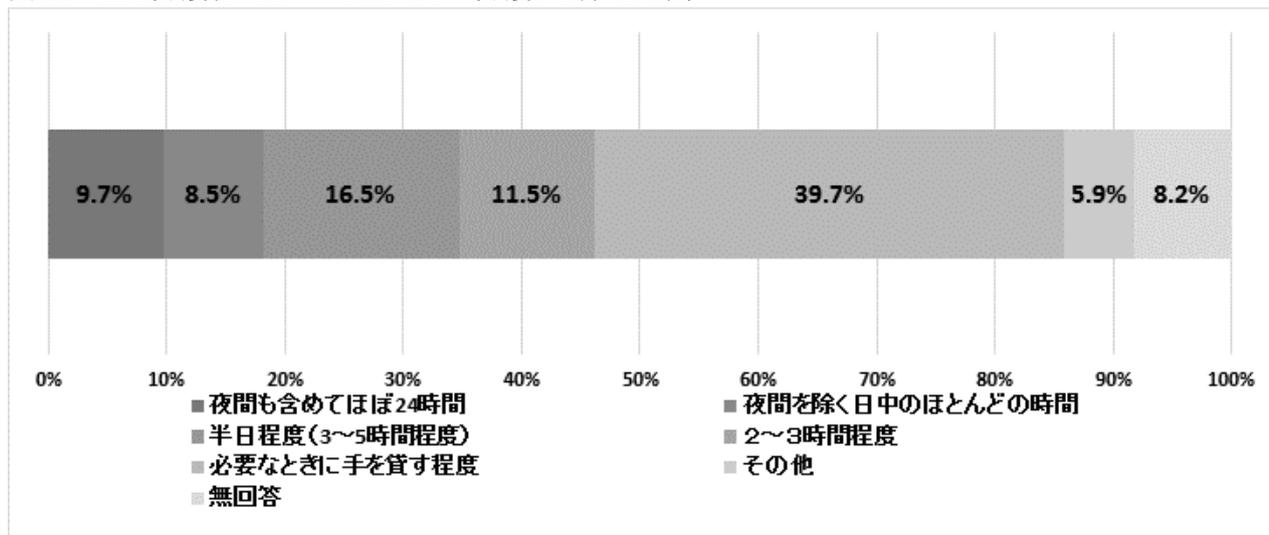


N=340

主な介護者の健康状態は、「健康である」14.4%、「どちらかといえば健康である」24.7%と、合わせて4割弱となっています。

逆に、「健康でない」は5.6%、「どちらかといえば健康でない」が19.4%で、合わせると約1/4が健康ではないと回答しています。

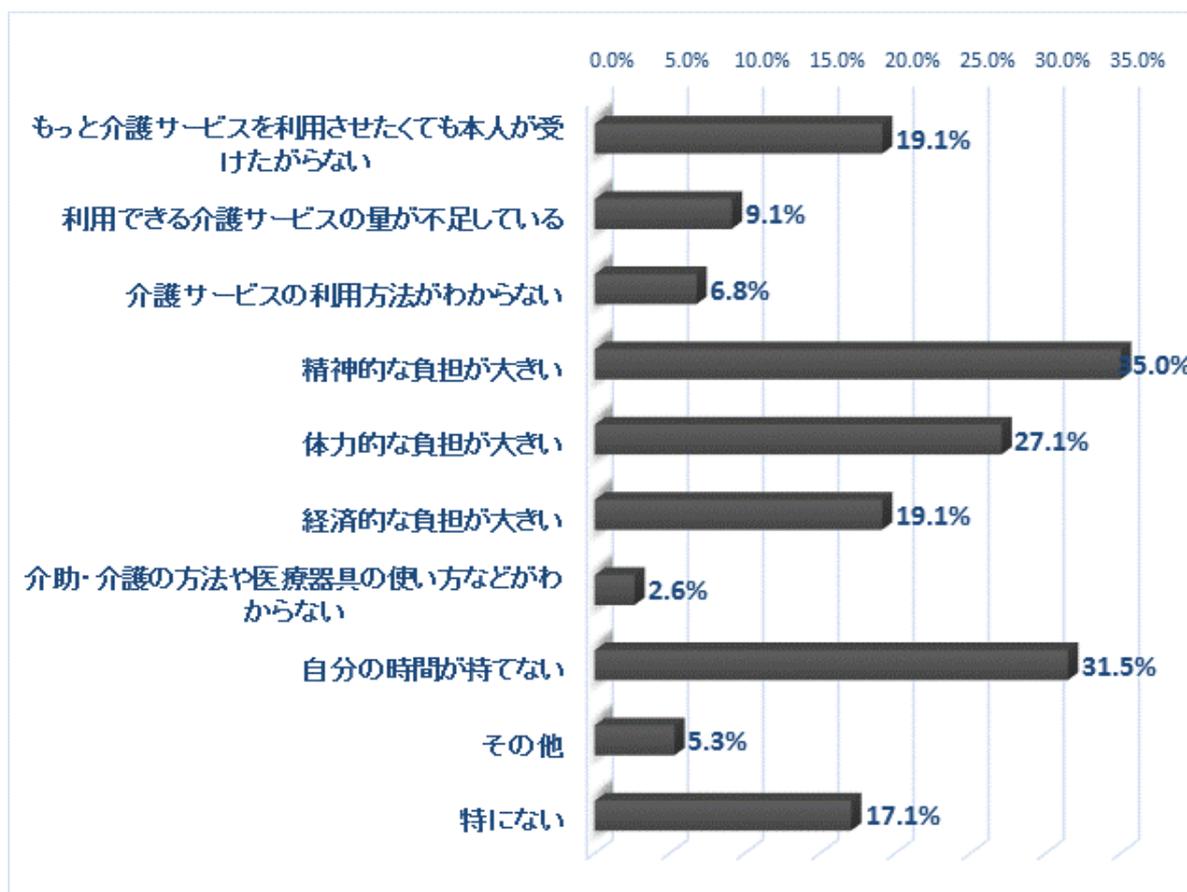
問34 主な介護者の方の1日あたりの介護に要する時間



N=340

主な介護者の1日あたりの介護時間は、「必要なときに手を貸す程度」が最も多く、約4割です。「夜間も含めてほぼ24時間」という回答も約1割を占めています。

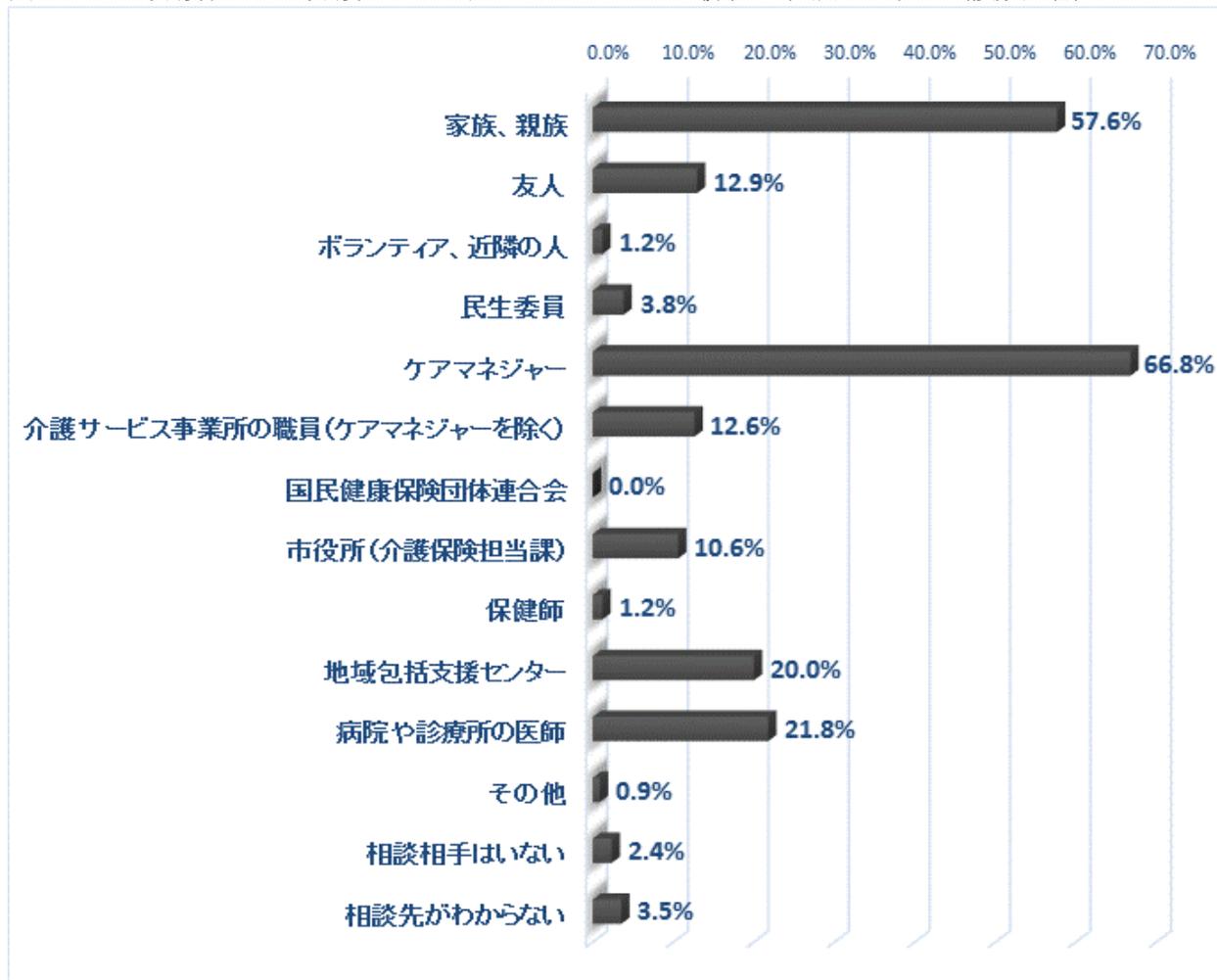
問35 主な介護者の方が介護するうえで困っていること(複数回答)



N=340

介護するうえでの困りごとでは、「精神的な負担が大きい」が35.0%と最も多く、「自分の時間が持てない」が31.5%と続きます。

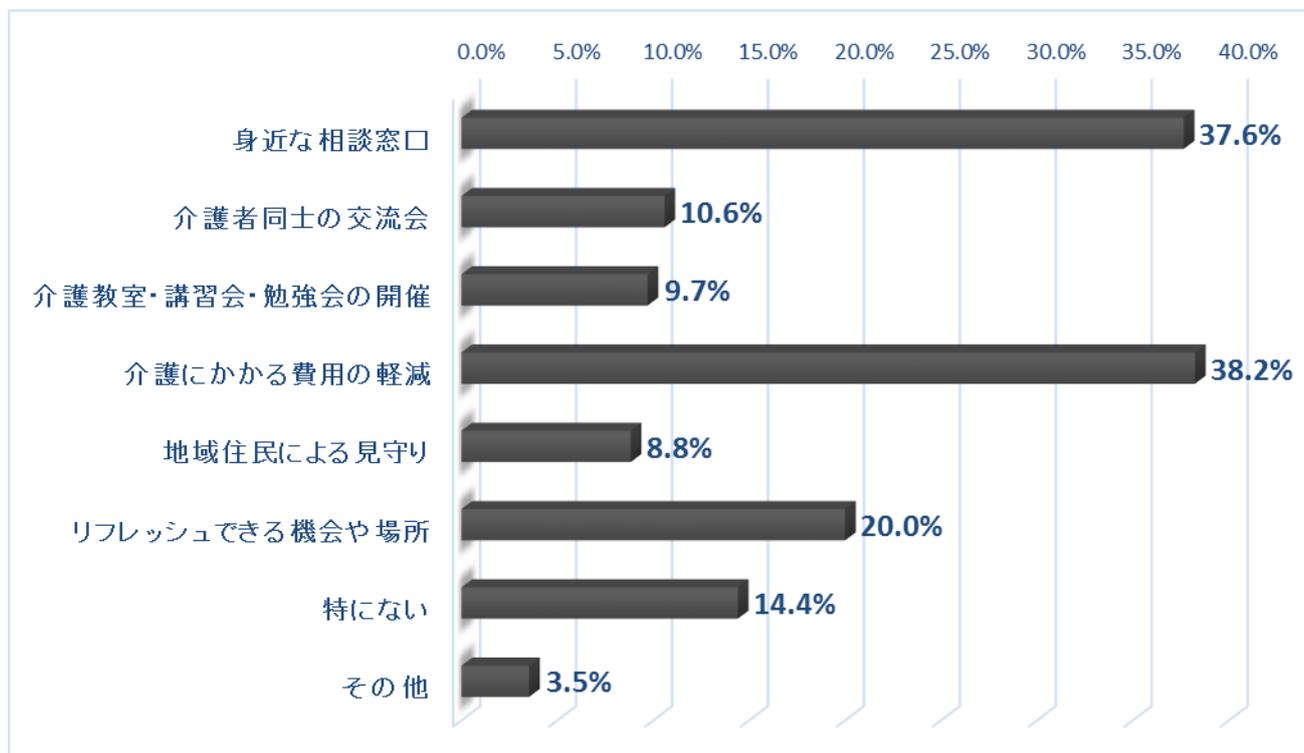
問 36 主な介護者の方が介護のことで困ったときにどこ（誰）に相談しますか（複数回答）



N=340

主な介護者の方が介護のことで困ったときに相談する対象として最も多いのが「ケアマネジャー」で約2/3が回答しています。続いて、「家族、親族」が57.6%となっています。

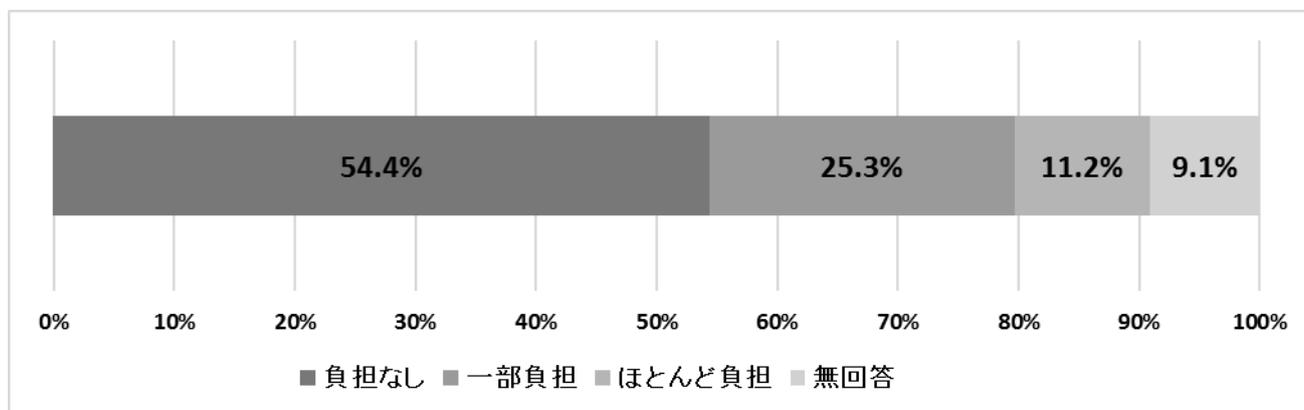
問37 介護するうえで、あれば良いと思う支援（複数回答）



N=340

介護するうえで、あれば良いと思う支援として最も多く挙げられているのが「介護にかかると費用の軽減」で38.2%となっています。「身近な相談窓口」37.6%が続きます。

問38 介護にかかると費用について主な介護者の方の負担がありますか



N=340

介護にかかると費用について主な介護者の方の負担は、「なし」が54.4%と半数以上を占めています。主な介護者が「一部負担している」が約1/4、「ほとんど負担している」が1割強となっています。

3-8 長久手市に対するご意見（自由回答の分類、主な内容を抜粋）

●福祉制度、サービス、施設に対する要望（70）

・長久手市内に老人保健施設を設置してほしい。安価に利用できるよう施策してほしい。

・リハビリのできるデイケアセンターをもっと町内に作ってほしい。

・病気の場合は病院に入院することもできますが、自宅での介護サービス等を受けながら生活することに大変不安を感じています。特別養護老人ホームはなかなか入所が困難だと聞いておりますが、入所できればその方が一番私にとっては良いのですが・・・

・高齢者施設を増やしてほしい。年金生活なのでやはり利用料をなるべく安くしてほしい。（介護の負担にならないよう）介護者は本当に大変です。長久手市には施設が足りません。

・紙おむつ助成金支給事業について・・・年間5万円まで支給されるとのことですが、その都度確認印も取り付けないといけなく、他の高齢者福祉サービスを利用していない者には臨機応変にその介護状態に合わせて支給範囲を広げてほしい。

家族介護慰労支給事業について・・・不支払い通知を受領しましたが、別紙のとおりその理由に納得できません。家族で他人の力を借りず精一杯努力している者に対する慰労金だと思います。

・介護サービス業者が、介護用品を斡旋することで、介護を受ける人は、用品の費用負担額が不明瞭である。長久手市の援助の言葉に惑わされている。用品の価格が異常に高額設定されている。長久手市の補助があるから、と説明で売りつけがある。価格に対応できる家庭は自分で対処している。例1) ○○などの工事費用が29万円の見積もりに対して、10%の値引きを説明してきた。ある家庭では、大手工事業者で見積もりを行い、長久手市の介護援助も取れた。工事費用は半額でできた。（専門工事業者が施工を行った）例2) 介護用品を大手店で価格交渉して、納得のできる価格で調達できた。介護サービスを受ける患者または家庭で、長久手市の援助があるとの説明で納得している。

→長久手市の担当は、介護を必要としている人が、安堵できる業者指導が求められる。

・保険での負担が一割等の負担で助かっていますが、いざ入院等回数が増すと一回の入院で約5～10万円とかかりますので、去年は5回ほど入院したため、約50万円の入院費等がかかり、生活費にかなり負担がかかりました。現在はこの半年間では一回の入院のみだけなので生活は少しずつ普通に戻そうとはしていますが、保険料、その他の税金等の支払いが滞納している状態で少しずつ支払いをしています。

・食事支援を受けられる範囲も広げてほしい。介護者も多忙な場合食事支援を受けたい。

・「認知症にならないように」と予防に対する講座はたくさんあるのですが、認定を受けても介助によって続けられるスポーツもあるので、介助できる人の養成。例) 筋力トレーニング（マシン利用）、プール（ウォーキング、水泳・・・更衣室利用が一人ではできない）、伴走（ウォーキング、山野歩き） ※楽器、手芸等得意とする分野でサポート出来る人の養成 認知症の認定を受けても続けてきた高度な機能を限界まで続けていけるようサポートしてほしい。体が不自由な方は介護度も上がりやすいように思います。体は丈夫だけれどアルツハイマー型認知症のように、意思疎通が困難な方の介護度はなかなか上がりません。家で対応の知識が欲しい。

・体の不自由な高齢者ですが、人と話す機会が無いので皆で話し合える場所が欲しいです。集会所に行っても、65歳以上なので、元気な人が多くて仲間に入れません。指が不自由で手先仕事もできません。もう少し体の不自由な人たちが集まる場所が欲しいです。デイサービスに行ったけど、過保護で自分の思うように動

けません。自分でできることはたとえ少しでもゆっくりでも、自分でやりたいです。

- ・長寿の祝いとして、ござらっせや催し物の招待券がありましたが、外出できない高齢者にとってはまったく無意味です。体が不自由な高齢者向けのサービスをもっと考えてください。

- ・在宅介護の為の家の修繕費用ですが、現行一世帯10万円程度ではまったく足りません。高齢者や障害者の人数や状況によっては対応してほしいです。

●交通の整備 (17)

- ・愛知医大への通院が多く、交通手段がNバスしかなく、回数(運行)が少ないため、通院困難であり、せめて病院からの帰宅時だけでも送っていただけると助かりますが・・・

- ・Nバス北部線を公園西駅から旧道を廻って医大へ行ってほしい。

- ・二人で整形外科に週2回リハビリに行っています。今のところ主人が運転できますが、82歳です。今後運転できなくなりましたらリハビリに行けません。それが不安です。私は一カ月に一度ひざの痛み止めと週ヒアルロンサンの注射をして頂いています。主人は週一度点滴します。

- ・医療機関への送迎を主とした循環バス又は割安介護タクシーがあると助かります。(仕事を持つ介護者のため、病院通院の為会社の遅刻・早退・休暇を取るのが心苦しい。タクシーも利用するが往復の代金累積額が多額で負担が大きくなる。)

- ・運転ができなくなり、色々不便、主人の体調が悪くなったら、二人で動きがとれない状態になるので心配です。

- ・障害者になりますと、唯一楽しみといえば、外出、買い物です。車のない我が家はタクシーをよく使わせていただいております。病院へも月に2~3回通っています。今のタクシー券の枚数では全く足りません。なんとか、あと少し増やしていただけないでしょうか? よろしくお願ひします。

- ・Nバスは主要部分しか運行されていないため(本数も少ないこともある)足腰が悪くなる(弱くなり)バス停までの歩行も困難となるケースが多いのでは。日常生活に必要である通院等に関しても通院手段が限られてくる。1日に上限を設定しタクシーチケットを配布するなどしてほしい。

●長久手市、事業者に対する評価 (15)

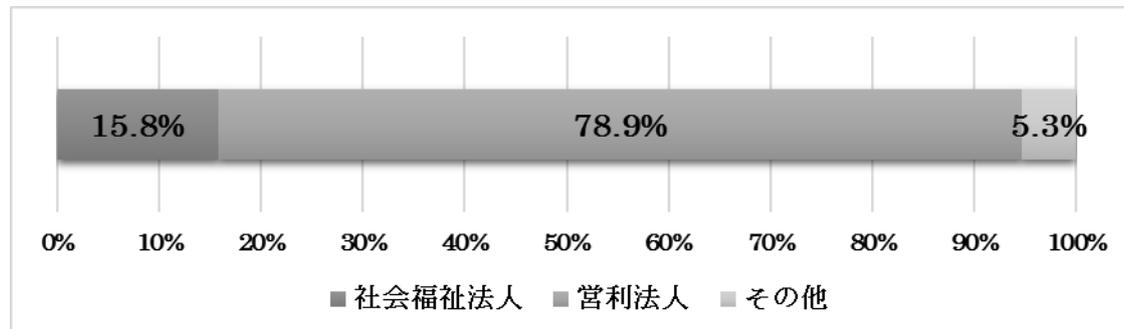
- ・デイサービス、ケアマネージャーさんにとっても親身に相談に乗っていただいたり、指導いただき感謝しています。介護サービスを受けるようになって、いやな思いをすることが一度もなかったです。この先不安になったり困ったりすることがあっても、助けていただける安心感があり、何より心強いです。

- ・ヘルパーさんに週1度お掃除して頂き、感謝しております。

4. サービス提供事業者

4-1 事業所について

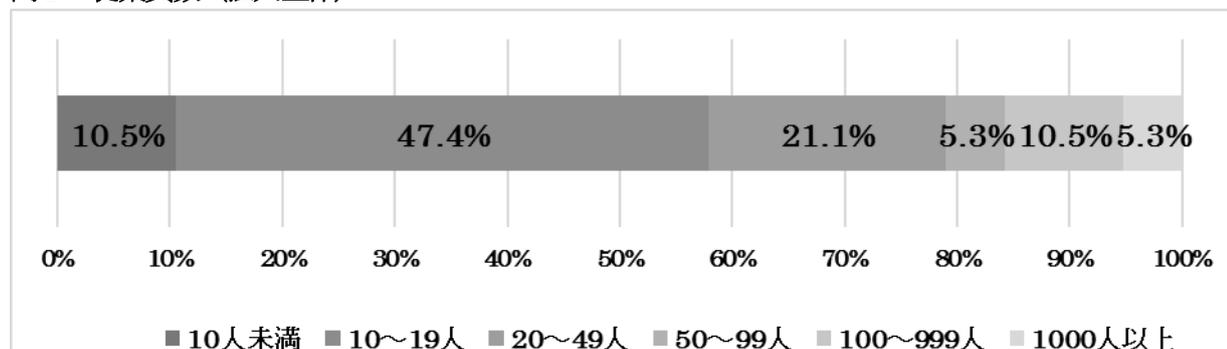
問1 事業所の設置者



N=19

事業所の設置者は、「営利法人」が78.9%と最も多く、「社会福祉法人」が15.8%です。

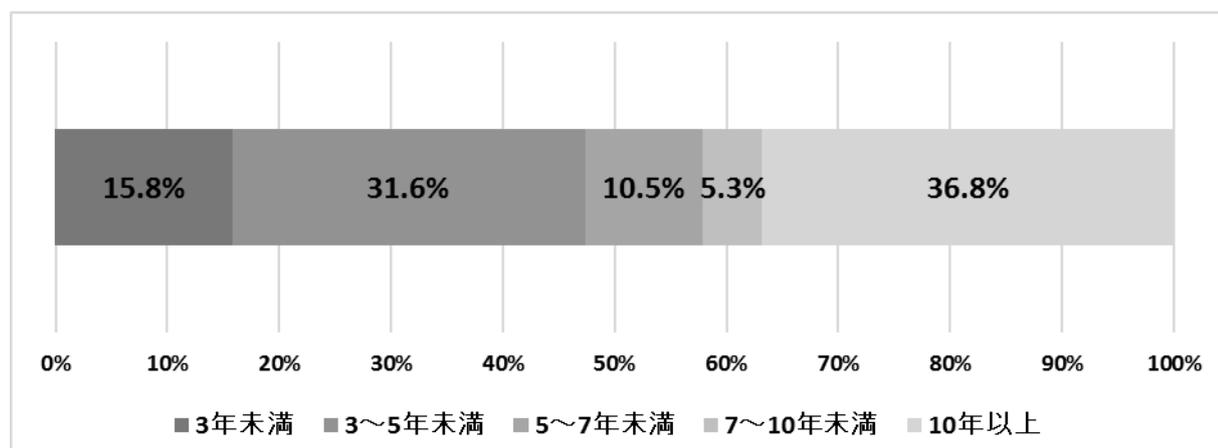
問2 従業員数（法人全体）



N=19

従業員数は「10～19人」が最も多く47.4%で、「20～49人」21.1%、「10人未満」10.5%と続きます。

問3 運営年数



N=19

運営年数は「10年以上」が最も多く36.8%です。

逆に、「3年未満」は15.8%となっています。

問4 サービスの種類と実利用者数

サービスの種類	事業所数	定員	実利用者(介護/予防)	うち長久手市民(介護/予防)
訪問介護	7	60	—	12/18
		—	26/0	3/0
		14	—	—
		—	16/0	10/0
		40	18/15	0/0
		—	15/1	15/1
		—	58/31	—
訪問看護	3	3	3/0	0/0
		—	24/4	20/4
		—	42/11	—
通所介護	5	—	65/23	40/18
		12	9/0	9/0
		22	17/5	17/5
		—	123/10	—
		19	7/1	6/1
地域密着型通所介護	5	—	27/10	27/10
		10	10/0	3/0
		—	19/9	25/0
		12	12/0	11/0
		10	9/0	0/0
短期入所生活介護・療養介護	2	19	19/0	18/0
		25	—	—
居住介護支援	3	140	107/3	107/3
		85	66/16	0/0
		—	226/15	—
介護老人福祉施設入所者生活介護	1	96	95/0	—
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	2	29	29/0	29/0
		29	28/0	—
認知症対応型共同生活介護	2	9	9/0	8/0
		18	18/0	—
定期巡回・臨時対応型訪問介護看護	2	—	12/0	10/0
		—	4/0	—
住宅型有料老人ホーム	4	50	30/0	7/0
		20	16/0	10/0
		36	15/5	15/4
		29	12/0	—
軽費老人ホーム	1	80	50/0	—
サービス付き高齢者向け住宅	1	29	21/0	3/0

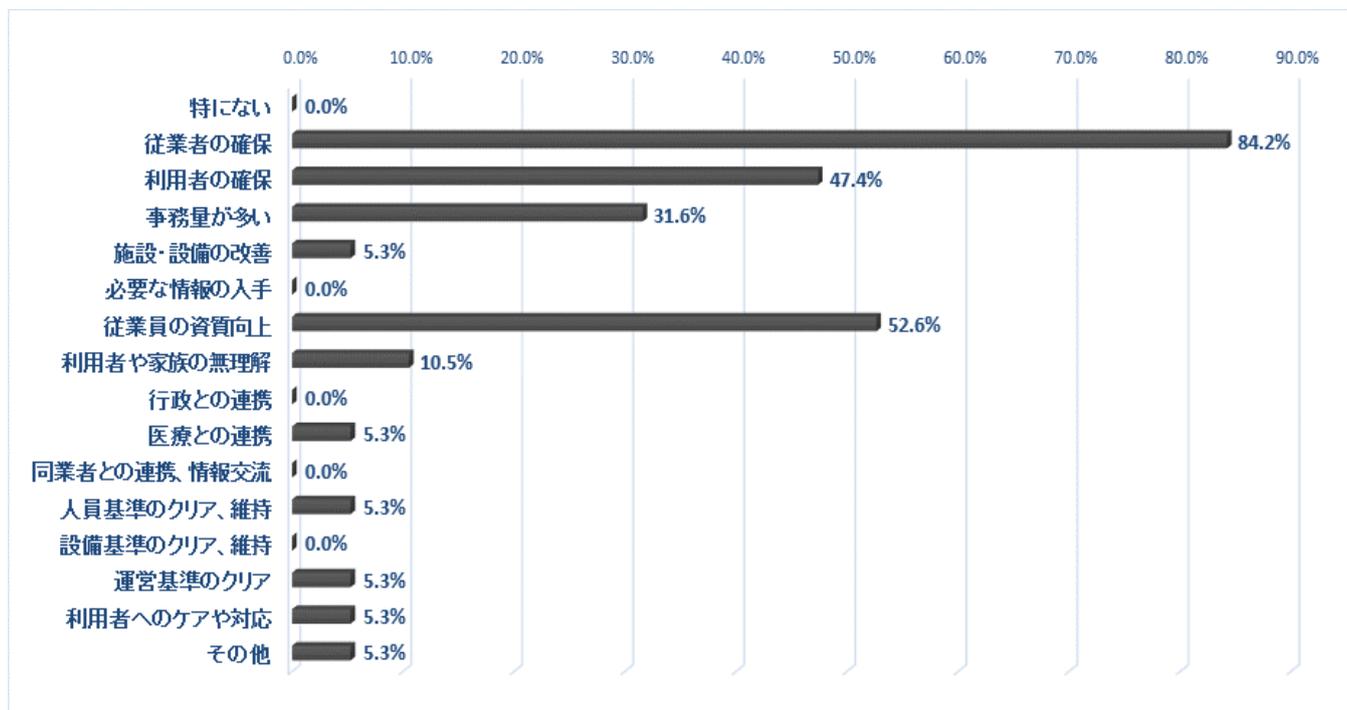
問5 事業所のサービス受入れ状況

サービスの種類	余裕はない	余裕はややある	余裕は十分にある
訪問介護	4	3	0
訪問看護	1	2	0
通所介護	0	2	3
地域密着型通所介護	4	1	0
短期入所生活介護・療養介護	0	1	1
居住介護支援	2	1	0
介護老人福祉施設入所者生活介護	1	0	0
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	1	1	0
認知症対応型共同生活介護	1	1	0
定期巡回・臨時対応型訪問介護看護	0	0	2
住宅型有料老人ホーム	1	1	1
軽費老人ホーム	1	0	0
サービス付き高齢者向け住宅	0	1	0

事業所のサービス受入れ状況については、「訪問介護」、「地域密着型通所介護」、「居住介護支援」で、「余裕はない」という回答が多くなっています。また、「余裕は十分ある」という回答は、「通所介護」の3事業者と、「定期巡回・臨時対応型訪問介護看護」の2事業者、「短期入所生活介護・療養介護」、「住宅型有料老人ホーム」の各1事業者で認められました。それ以外は、「余裕はややある」となっています。

4-2 業務について

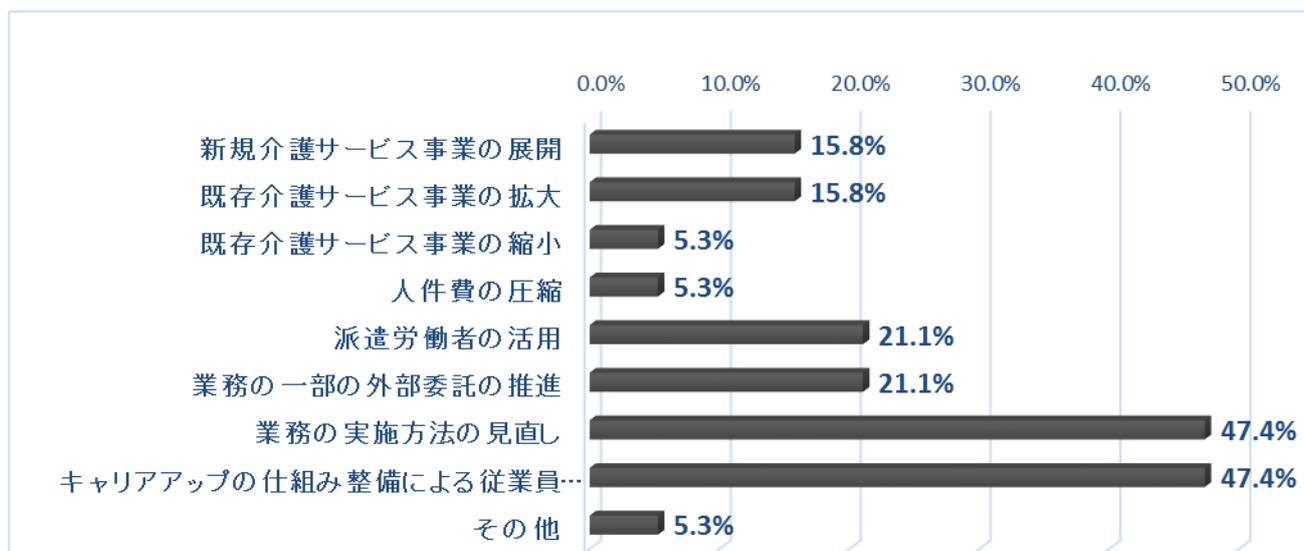
問6 事業所を円滑に運営していく上で特に困っていること（3つまで）



N=19

運営上困っていることとしては、「従業員の確保」が84.2%と圧倒的に多くなっています。次いで「従業員の資質向上」52.6%、「利用者の確保」47.4%となっています。

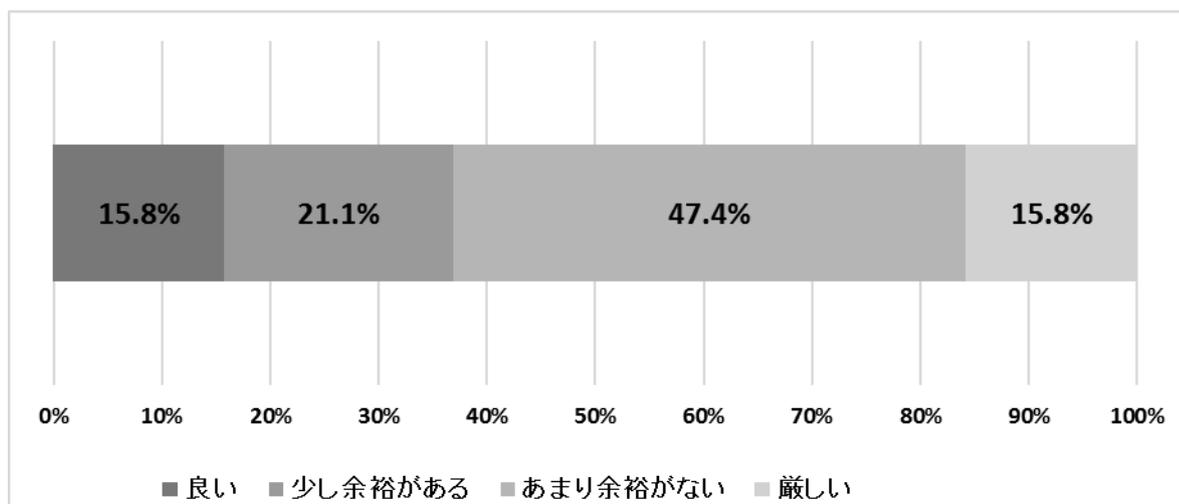
問7 経営効率化のために取り組んでいること（複数回答）



N=19

経営効率化のために取り組んでいることでは、「業務の実施方法の見直し」、「キャリアアップの仕組み整備による従業員の定着促進」がそれぞれ47.4%と多くなっています。

問8 経営状況



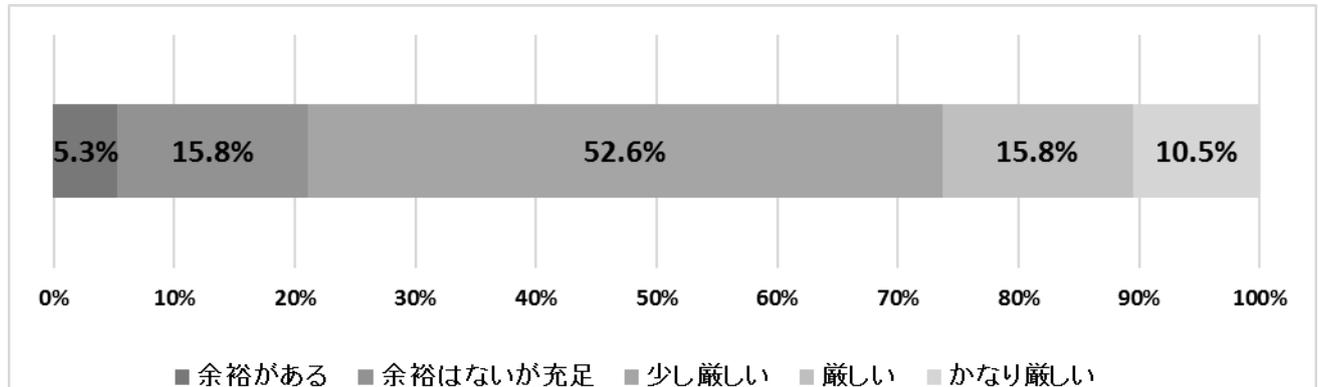
N=19

経営状況は、「あまり余裕がない」が47.4%を占めます。「厳しい」としている事業所も15.8%となっています。

逆に、「少し余裕がある」は21.1%、「良い」は15.8%です。

4-3 人材確保について

問9 職員の充足状況



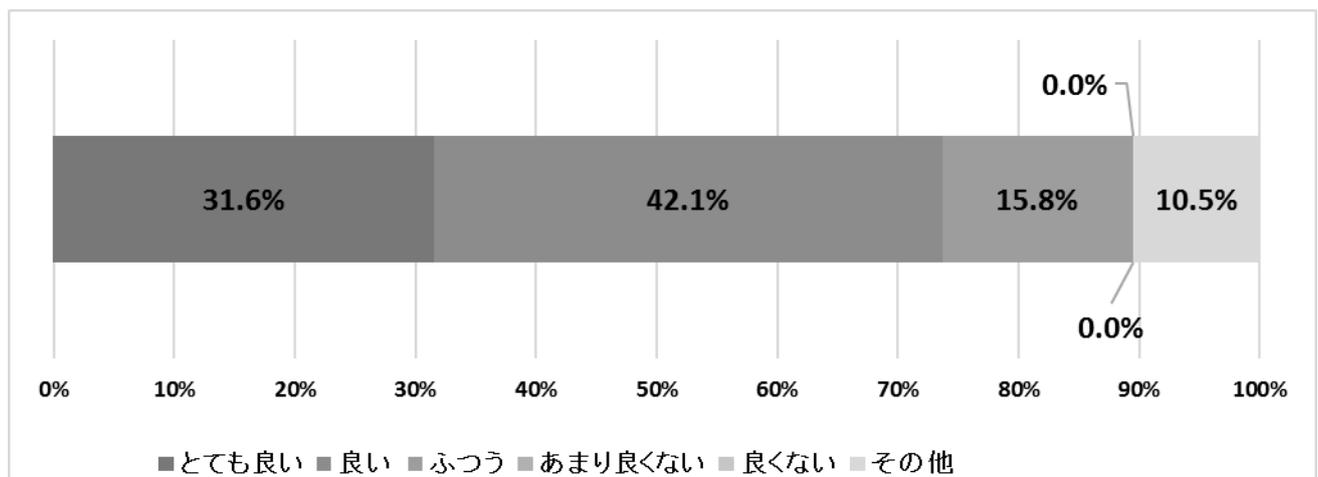
N=19

職員の充足状況は、「少し厳しい」が52.6%と半数を超え、「厳しい」15.8%、「かなり厳しい」10.5%を合わせると、約8割弱の事業所が困難を抱えている状況と見ることができます。

問9-1 職員充足の具体的状況（自由回答）

- ・退職者の補充が難しい。(2)
- ・時間帯、曜日によって職員の配置が難しい。(2)
- ・早朝及び夜間の時間帯での人員確保が困難。
- ・夜勤者の確保が難しく、常勤職員で5回/月、管理者も3-4回/月の夜勤を行っている。
- ・規模が小さいため、職員が感染症の際など代替がききづらい状況。
- ・職員の定着が課題。時間固定のスタッフ活用が難しい。
- ・新規事業所オープンに伴う人材確保がなかなか厳しい状況。
- ・ナース不足。
- ・紹介会社を通しての人材確保。
- ・中途採用が難しい。介護福祉士、社会福祉士、看護師、ケアマネジャー等資格保有者の採用が難しい。

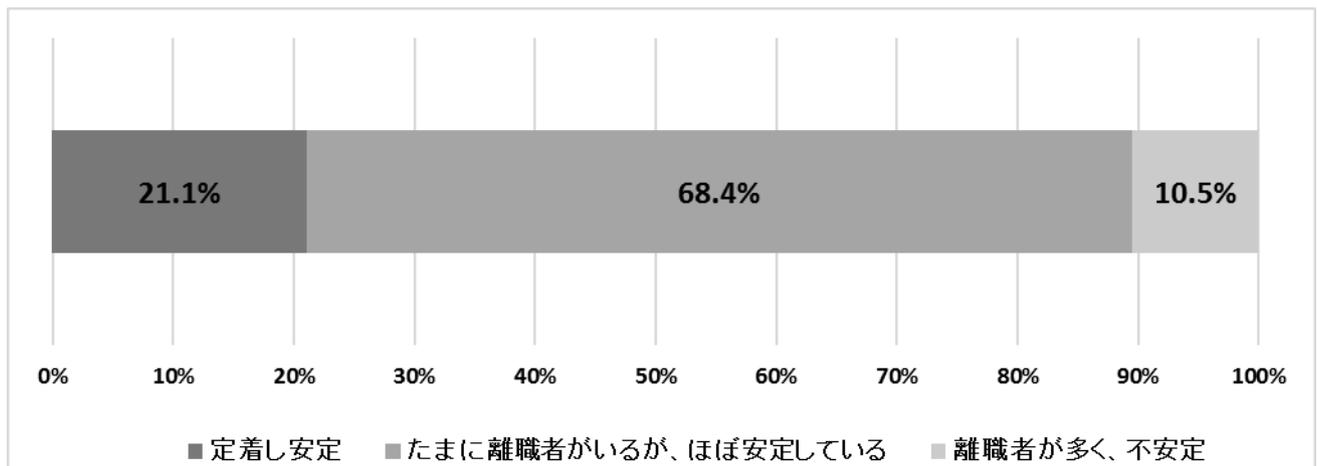
問10 職場の雰囲気



N=19

職場の雰囲気は「とても良い」31.6%、「良い」42.1%と、合わせて約3/4となっています。「あまり良くない」、「良くない」という回答はありませんでした。

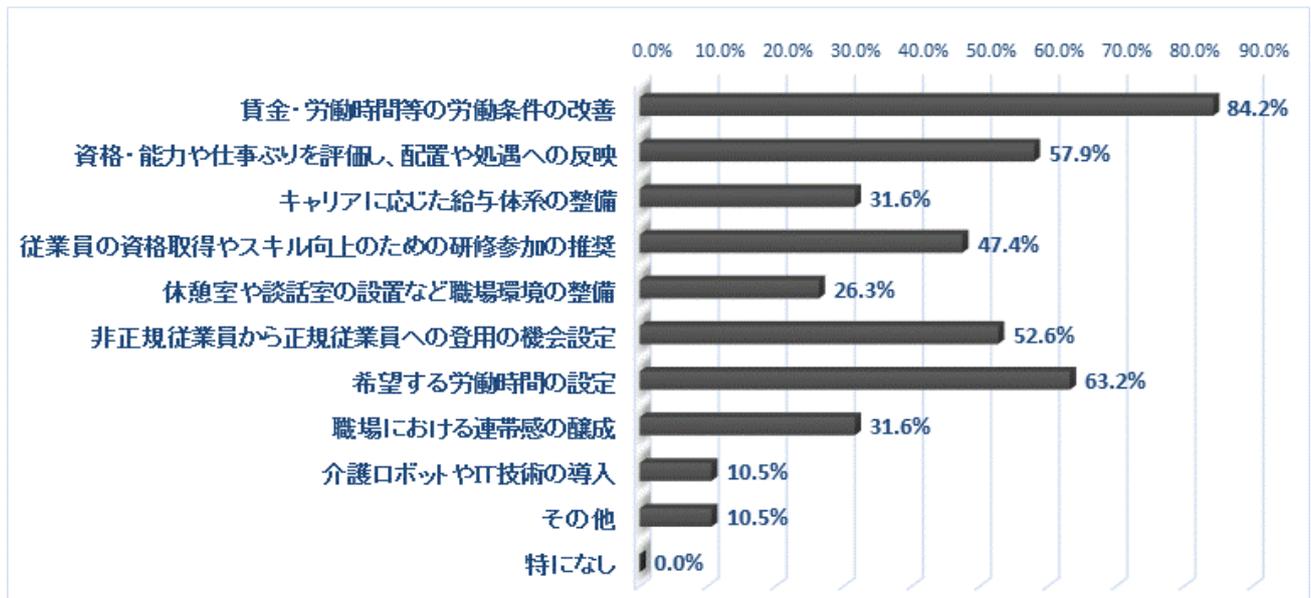
問 11 職員の定着状況



N=19

職員の定着状況は、「たまに離職者がいるが、ほぼ安定」という回答が68.4%、「定着し安定」が21.1%と、合わせて9割弱となっています。

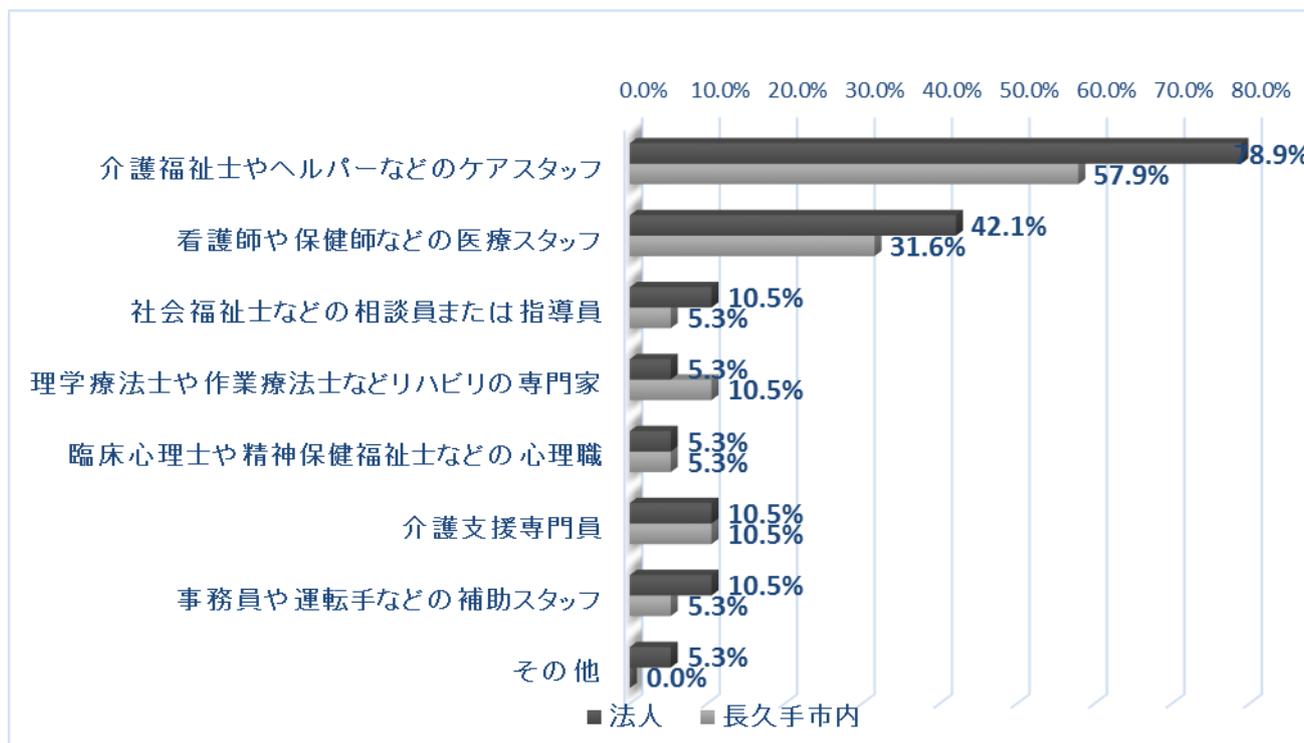
問 12 人材を定着させるために取り組んでいること（複数回答）



N=19

人材定着の取り組みとしては、「賃金・労働時間等の労働条件の改善」が最も多く84.2%となっています。続いて、「希望する労働時間の設定」が63.2%、「資格・能力や仕事ぶりを評価し、配置や処遇への反映」57.9%、「非正規従業員から正規従業員への登用の機会設定」52.6%が、半数以上となっています。

問13 不足している人材（3つまで）



N=19

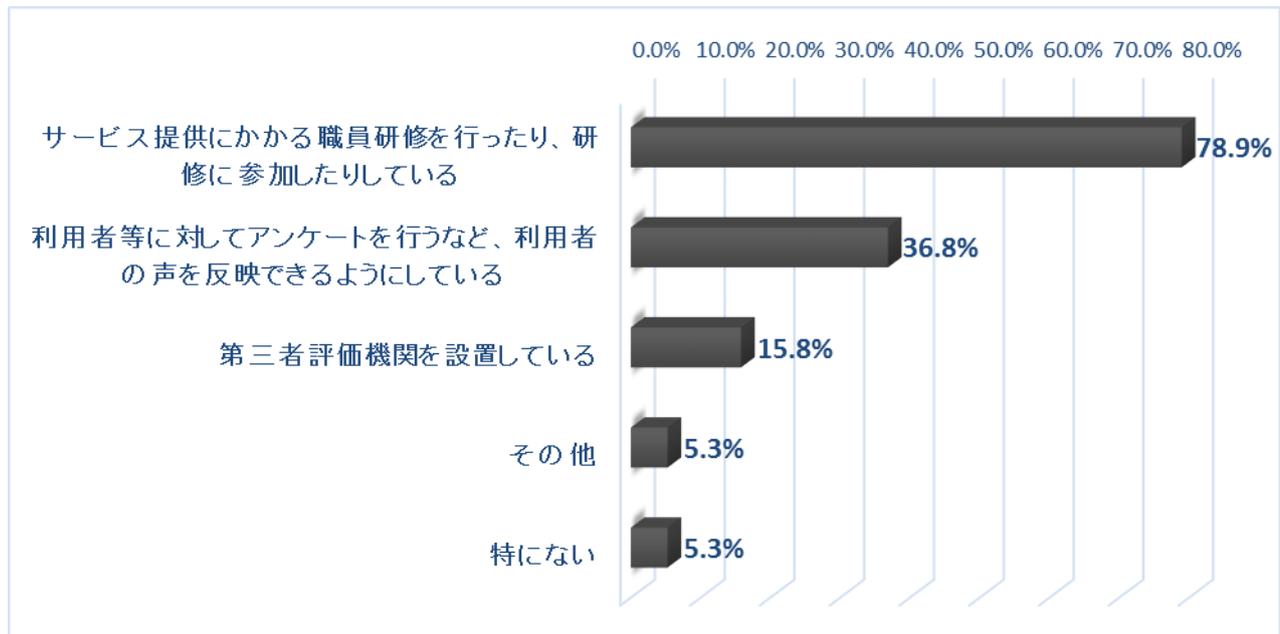
不足している人材としては、「介護福祉士やヘルパーなどのケアスタッフ」が最も多く、「法人において」78.9%、「長久手市内において」57.9%です。続くのが「看護師や保健師などの医療スタッフ」で、「法人において」42.1%、「長久手市内において」31.6%となっています。

問14 介護に関わる仕事の魅力（自由回答）

- ・利用者とのコミュニケーション、自立支援、在宅支援、介護職員の養成。
- ・正解のない仕事。その中で利用者の思いとスタッフの思いが一致して、目標に達したときの喜びは他の仕事にないのでは。
- ・地域貢献。
- ・少しでも不自由な生活の中で、楽しい時間を作り、笑顔でいられるようにお手伝いすること。
- ・人間尊重における命の尊さの学び、人間力向上、人生の先輩から感謝され、笑顔を見ること、自分が人の役に立ち社会の一翼を担う一人であること、真のノーマライゼーションの追求。
- ・自然な在宅での看取りができる。生命の本当の姿で生きられる。
- ・人の幸せに貢献できる。
- ・自身の支援により、相対的な利益以上の効果が得られること。
- ・笑顔を生み出すこと＝仕事。「答えがない」からこそ、やりがいがある。
- ・直接接することができ、反応もすぐ見える所。
- ・人のためになっているとの満足感、社会に対して役に立つ仕事となっている。
- ・多くの経験談等を教えて頂き視野が広がる。「ありがとう」と言って頂き、笑顔を見るととてもうれしくなる。
- ・人間関係の構築。
- ・直接、感謝の言葉や気持ちを受けられることができる。
- ・人生の先輩方から様々なことを教えてもらえ、毎日学びがある。病気なども目の前でその方とかかわることによって色々なことが理解できるため、貴重な時間を利用者からいただいていること、ふだん何気なく過ごしていたら出会うことがなかった方とのかかわりの場をもてること。

4-4 サービスの質の向上について

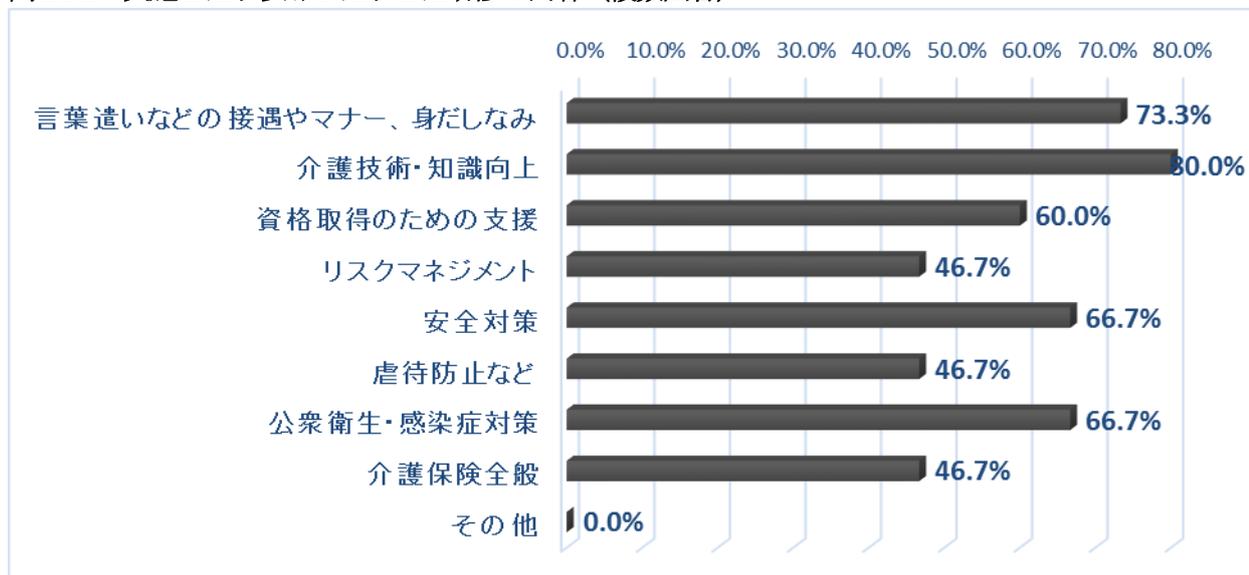
問 15 サービスの質向上に向けて行っている取組（複数回答）



N=19

サービスの質向上に向けて行っている取組では、「サービス提供にかかる職員研修を行ったり、研修に参加したりしている」が78.9%で最も多く、「利用者等に対してアンケートを行うなど、利用者の声を反映できるようにしている」が36.8%と続きます。

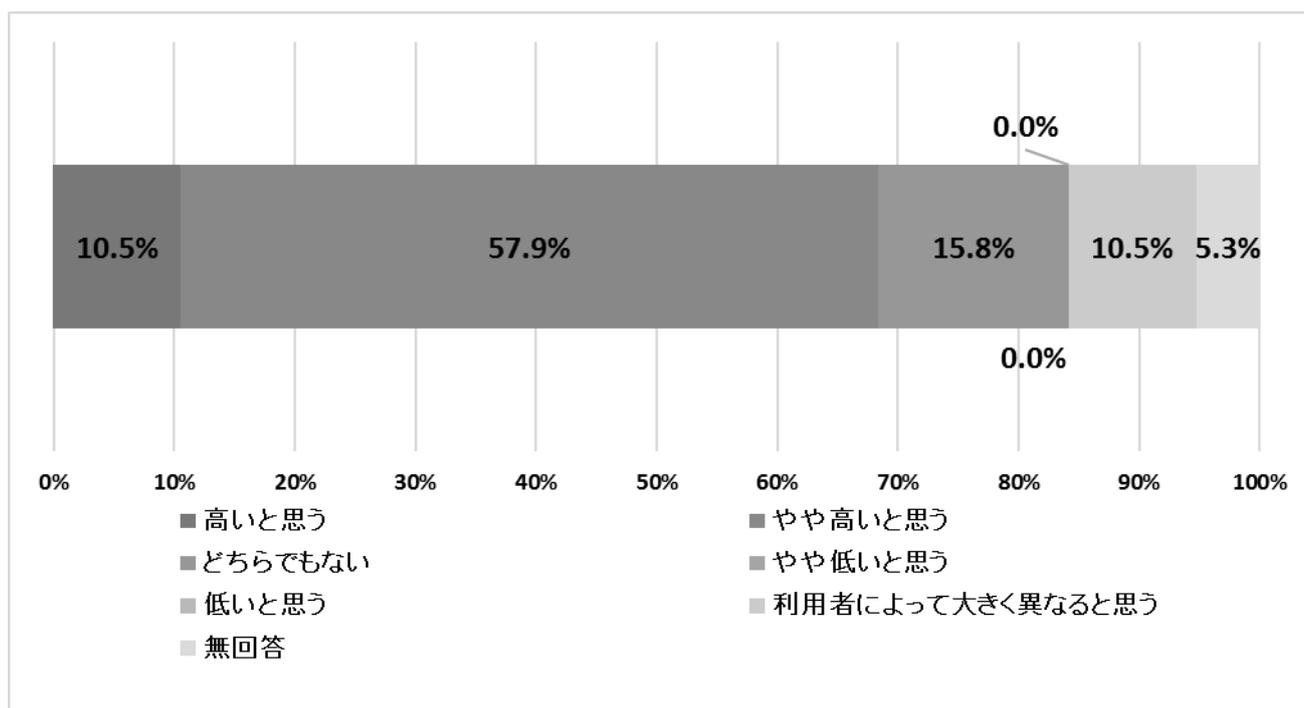
問 15-1 実施したり参加したりした研修の内容（複数回答）



N=15

実施したり参加したりした研修の内容としては、いずれも多く目の項目の回答が見られますが、「介護技術・知識向上」が80.0%と最も多くなっています。次いで「言葉遣いなどの接遇やマナー、身だしなみ」が73.3%、「安全対策」、「公衆衛生・感染症対策」が66.7%、「資格取得のための支援」60.0%までが半数を超えています。

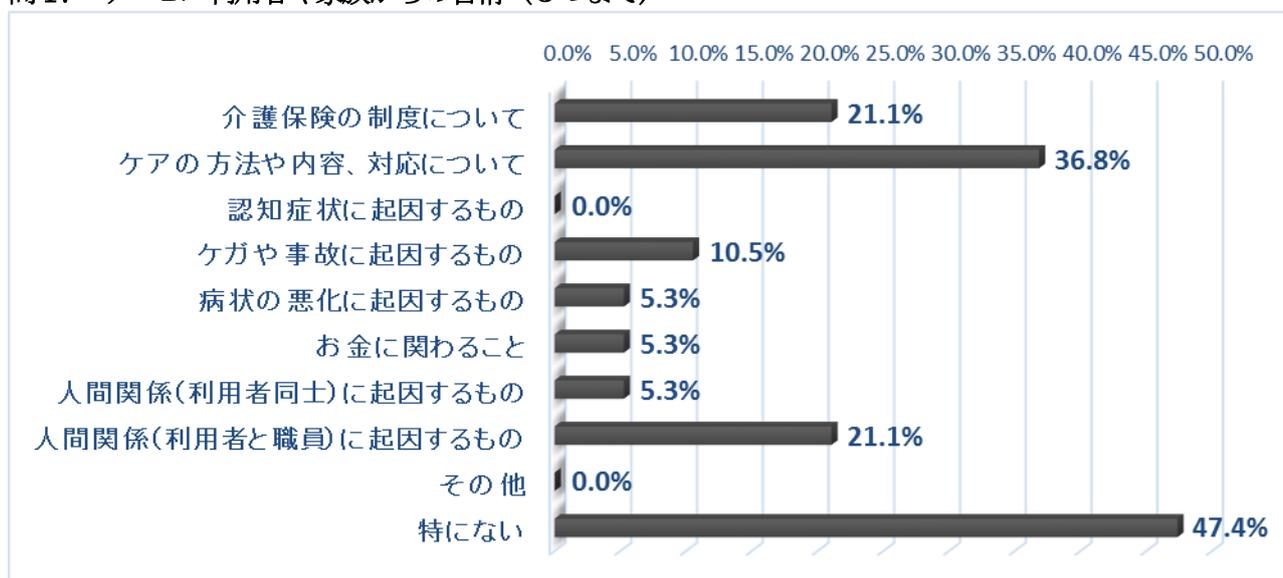
問16 サービス利用者、入居者から見た満足度



N=19

サービス利用者、入居者から見た満足度については、「やや高いと思う」が57.9%で、「高いと思う」10.5%と合わせて7割弱となっています。

問17 サービス利用者や家族からの苦情（3つまで）

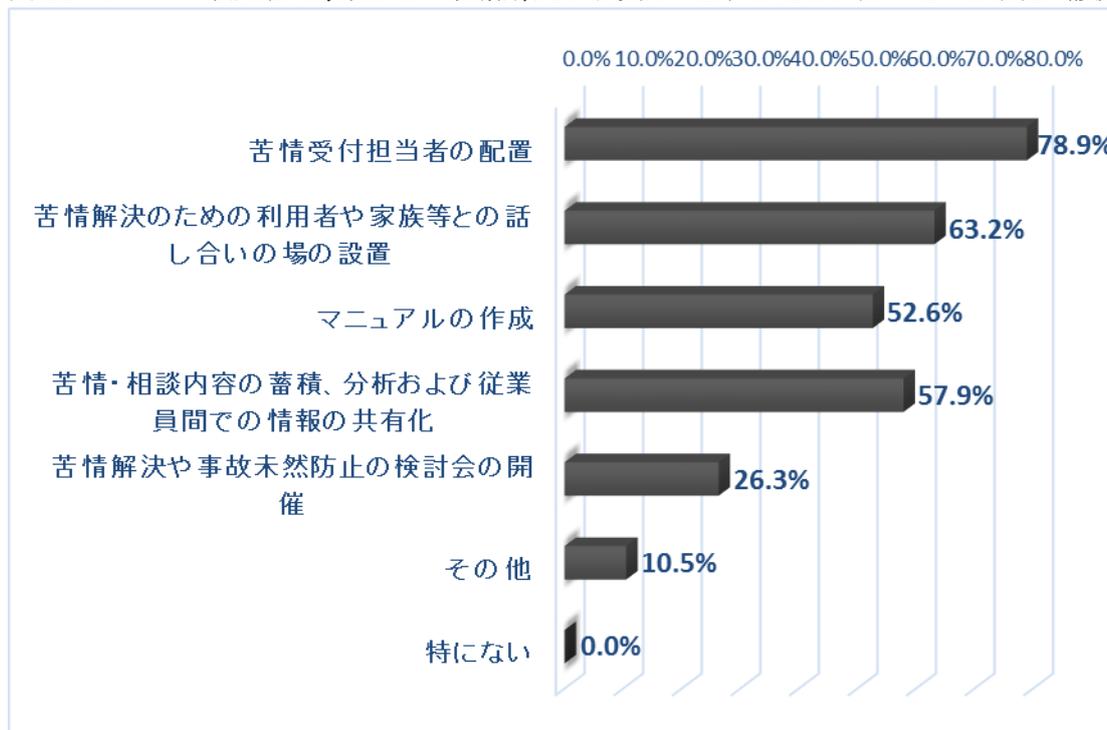


N=19

サービス利用者や家族からの苦情については「特にない」が47.4%となっています。

苦情として挙げられたものでは、「ケアの方法や内容、対応について」が36.8%で最も多く、「介護保険制度について」、「人間関係（利用者と職員）に起因するもの」がそれぞれ21.1%と続きます。

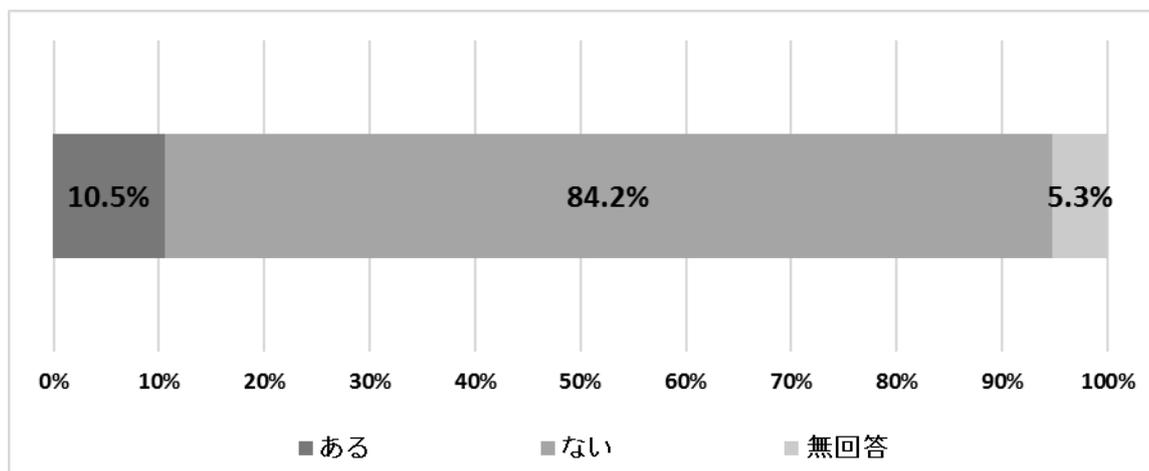
問 18 サービス利用者や家族からの苦情解決や事故防止をするために行っている取組（複数回答）



N=19

サービス利用者や家族からの苦情解決や事故防止をするために行っている取組としては、「苦情受付担当者の配置」が 78.9%と最も多くなっています。「苦情解決のための利用者や家族等との話し合いの場の設置」63.2%、「苦情・相談内容の蓄積、分析および従業員間での情報の共有化」57.9%、「マニュアルの作成」52.6%までが半数を超えています。

問 19 サービス利用者や家族からの苦情解決や事故防止をするために行いたいが、行えていない取組

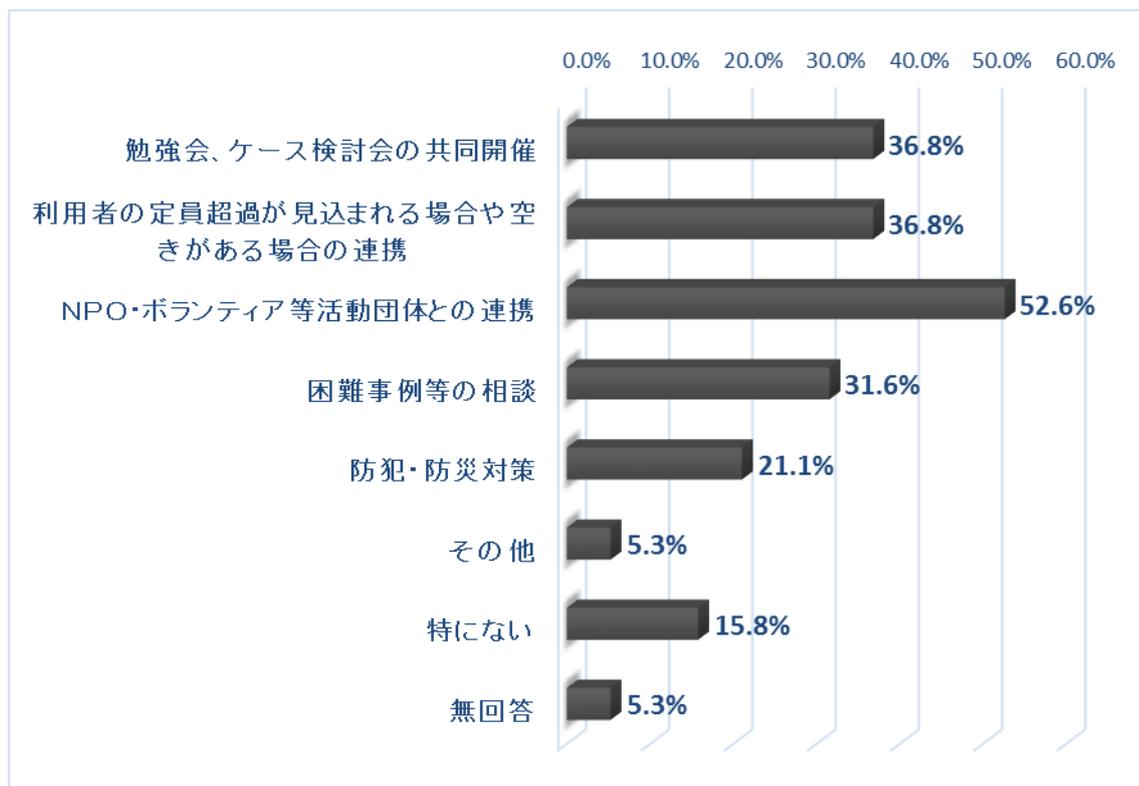


N=19

サービス利用者や家族からの苦情解決や事故防止をするために行いたいが、行えていない取組としては「ある」が10.5%で、84.2%が「ない」としています。

4-5 関係機関との連携について

問20 他法人や他団体等との連携として取り組んでいること（複数回答）

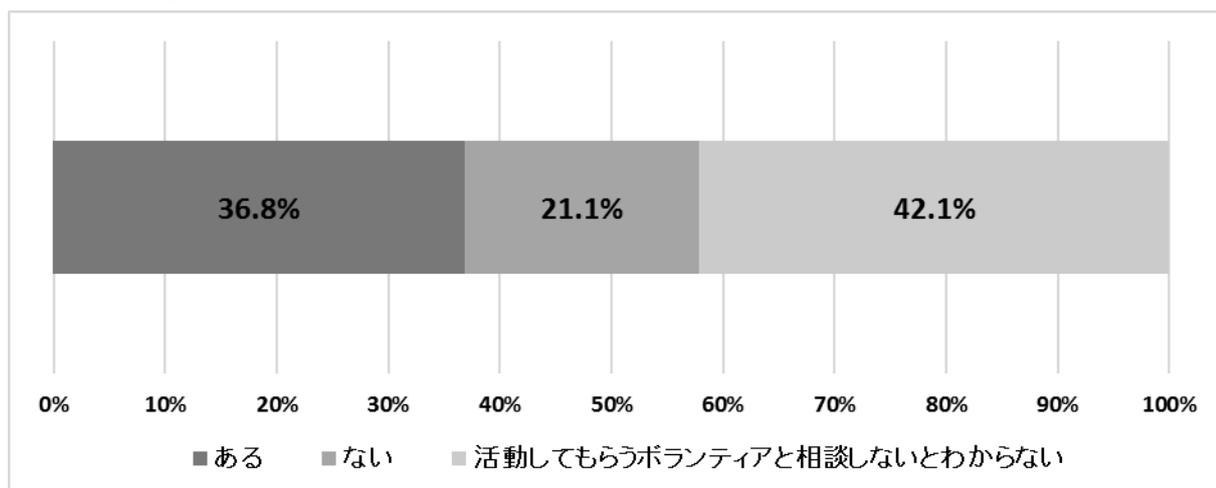


N=19

他法人や他団体等との連携として取り組んでいることで最も多く挙げられたのは「NPO・ボランティア等活動団体との連携」で52.6%です。

逆に、「特にない」という回答は15.8%でした。

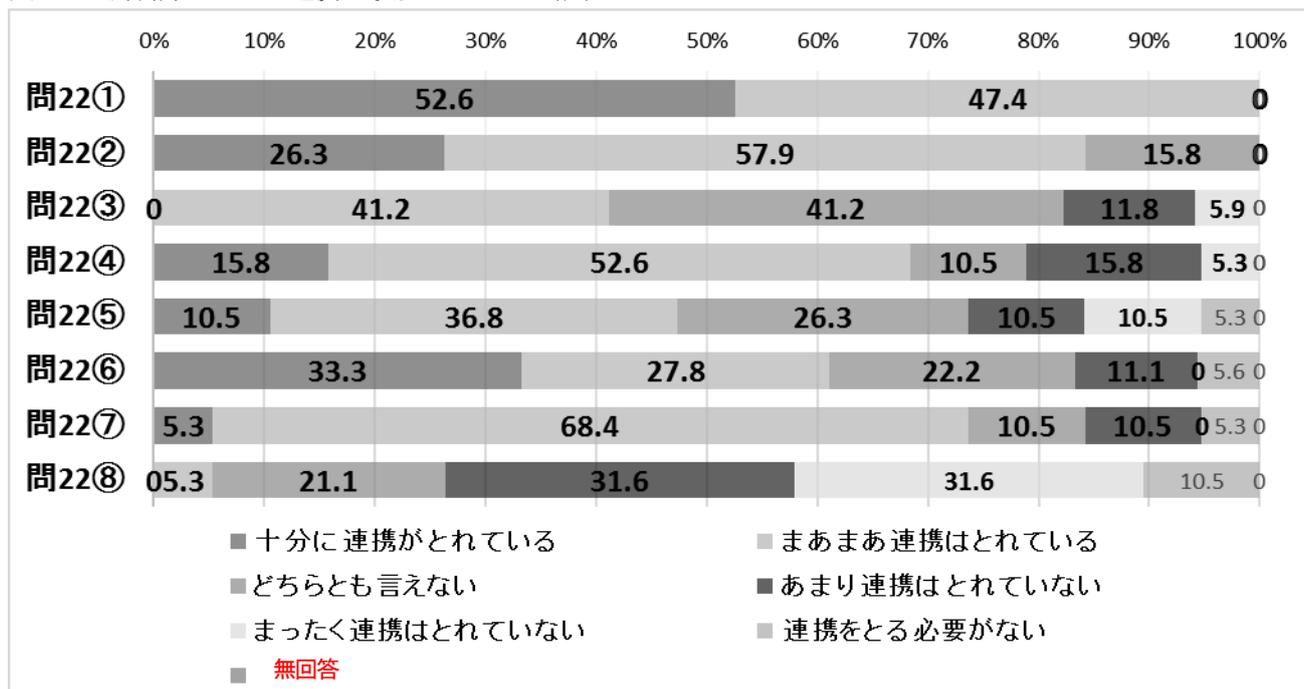
問21 事業を進めるにあたってボランティアやNPO等に対して取り組んでもらいたい活動



N=19

事業を進めるにあたってボランティアやNPO等に対して取り組んでもらいたい活動は、「ある」が36.8%、「ない」が21.1%です。最も多い回答が、「活動してもらおうボランティアと相談しないとわからない」で、42.1%を占めています。

問22 事業所における連携の状況について (%)



N=19

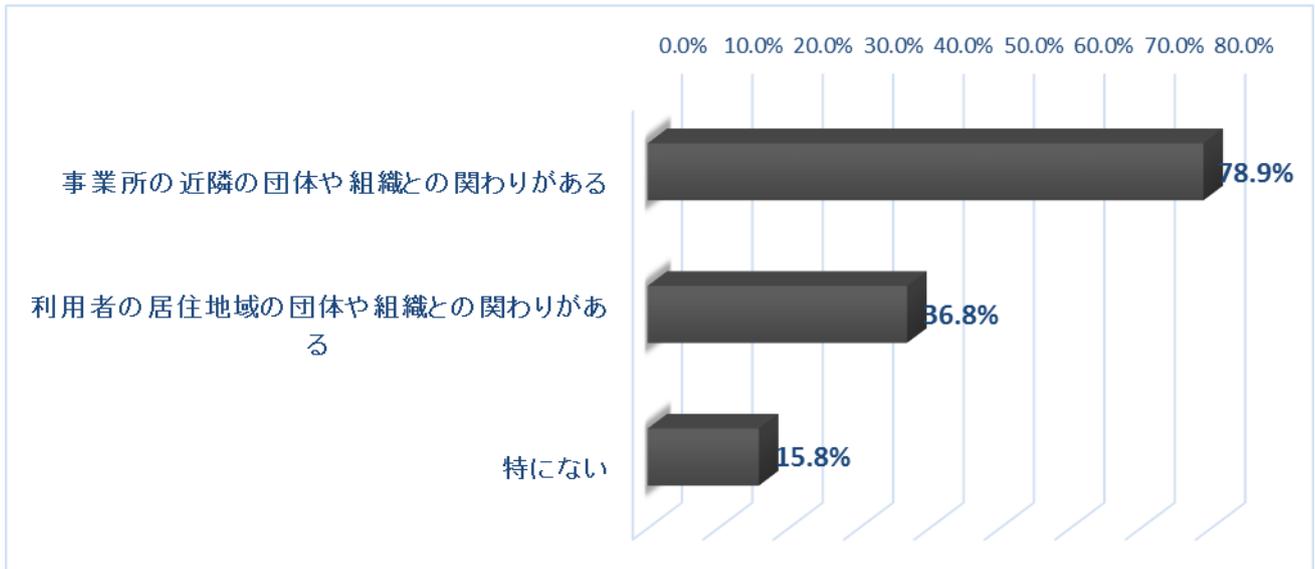
- ①利用者・家族
- ②居宅介護支援事業者
- ③他の介護保険事業所
- ④地域包括支援センター
- ⑤ボランティア・NPO
- ⑥医療機関
- ⑦行政機関
- ⑧認知症疾患医療センター

事業所における連携の状況については、①利用者・家族とは「十分に連携が取れている」52.6%、「まあまあ連携が取れている」47.4%と、すべての事業所で「連携がとれている」という回答になっています。また、②居宅介護支援事業者とは「十分に連携が取れている」26.3%、「まあまあ連携が取れている」57.9%、④地域包括支援センターとは「十分に連携が取れている」15.8%、「まあまあ連携が取れている」52.6%、⑥医療機関とは「十分に連携が取れている」33.3%、「まあまあ連携が取れている」22.2%、⑦行政機関とは「十分に連携が取れている」5.3%、「まあまあ連携が取れている」68.4%と、半数以上が「連携が取れている」という回答になっています。

一方、⑤ボランティア・NPOとは「十分に連携が取れている」10.5%、「まあまあ連携が取れている」36.8%で、③他の介護保険事業所とは「十分に連携が取れている」0.0%、「まあまあ連携が取れている」41.2%と半数を下回ります。

⑧認知症疾患医療センターとは、「あまり連携がとれていない」、「まったく連携がとれていない」がそれぞれ31.6%となっており、合計すると6割を超えます。⑥医療機関とも「あまり連携がとれていない」22.2%、「まったく連携がとれていない」11.1%と、「連携がとれていない」という回答が合わせて約1/3となっています。

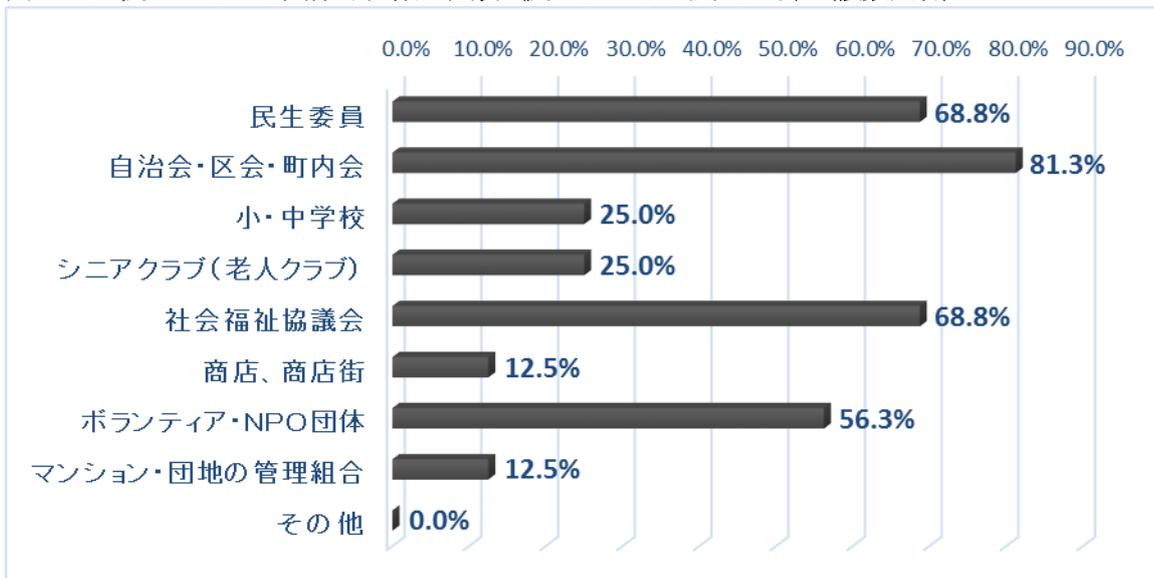
問 23 地域の各種団体や組織（民生委員、自治会・区会・町内会、社協等）との関わり



N=19

地域の各種団体や組織（民生委員、自治会・区会・町内会、社協等）との関わりについては、「特にない」が15.8パーセントで、「事業所の近隣の団体や組織との関わりがある」が78.9%、「利用者の居住地の団体や組織との関わりがある」が36.8%となっています。

問 23-1 関わっている団体や組織の種類（関わりのある法人のみ）（複数回答）

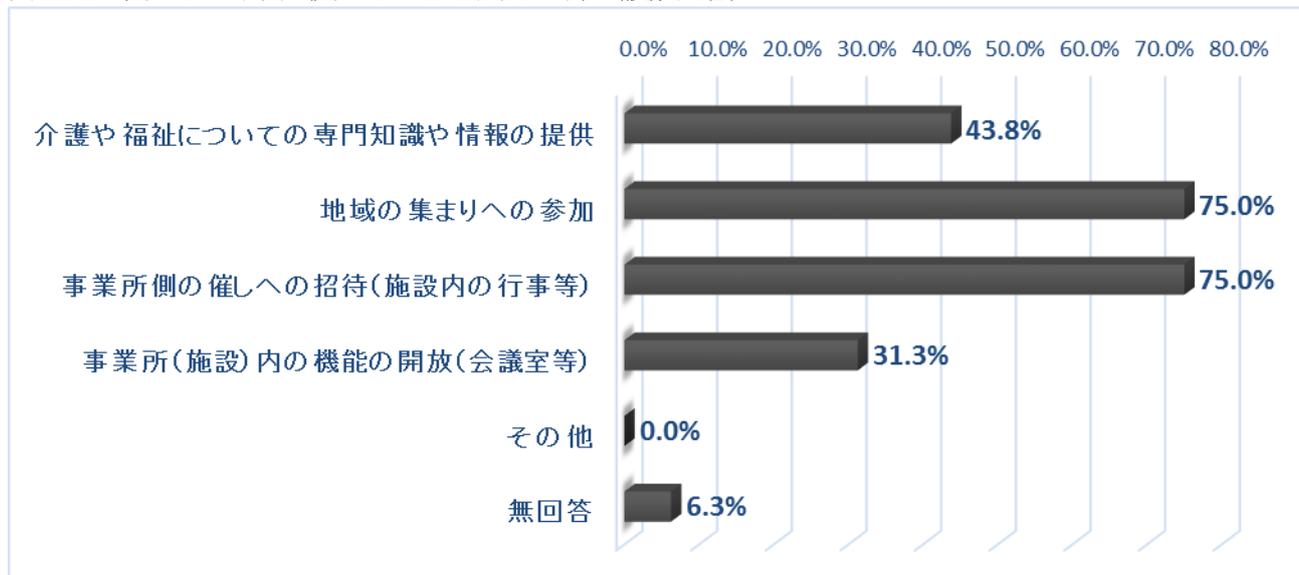


N=16

関わっている団体や組織で最も多くなっているのは「自治会・区会・町内会」で81.3%です。続くのが「民生委員」と「社会福祉協議会」で68.8%、「ボランティア・NPO団体」は56.3%です。

「小・中学校」、「シニアクラブ」はどちらも約1/4です。

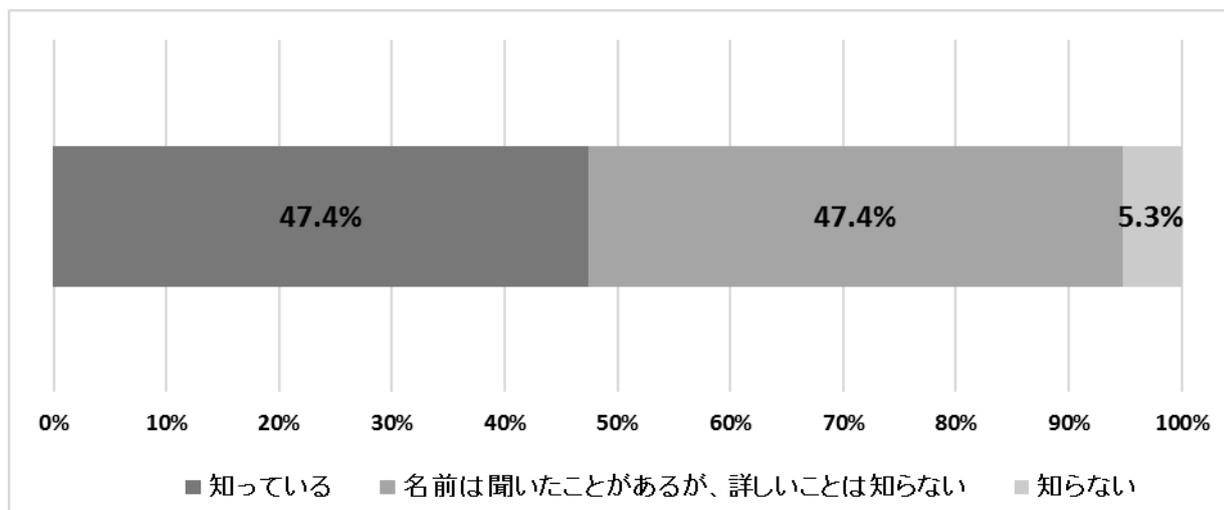
問 23-2 関わりの事例（関わりのある法人のみ）（複数回答）



N=16

「地域の集まりへの参加」、「事業所側の催しへの招待（施設内の行事等）」がそれぞれ約 3 / 4 となっています。「介護や福祉についての専門知識や情報の提供」は 43.8%、「事業所（施設）内の機能の開放（会議室等）」は 31.3%です。

問 24 生活支援サポーターの認知

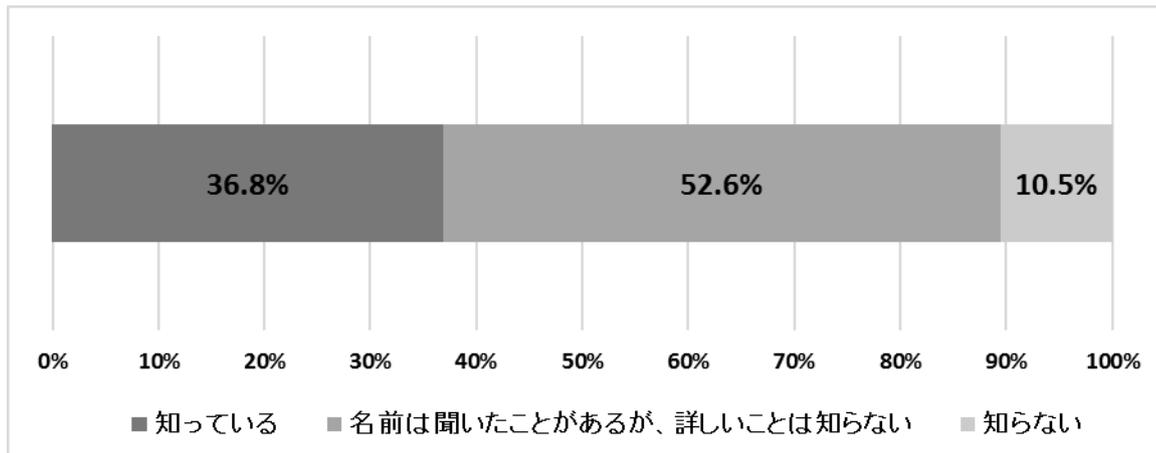


N=19

生活支援サポーターについては、「知っている」、「名前は聞いたことがあるが、詳しいことは知らない」がそれぞれ半数弱となっています。

「知らない」という回答は 5.3%、一事業者です。

問25 生活支援コーディネーターの認知

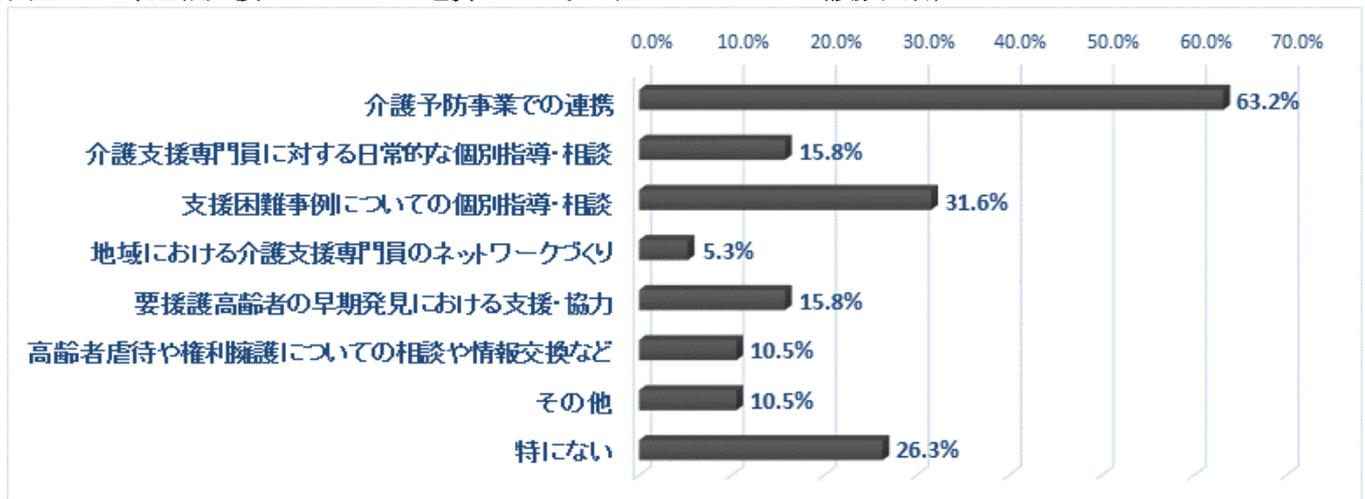


N=19

生活支援コーディネーターについては、「知っている」が36.8%、「名前は聞いたことがあるが、詳しいことは知らない」が52.6%です。

「知らない」という回答は約1割です。

問26 地域包括支援センターとの連携として取り組んでいること（複数回答）



N=19

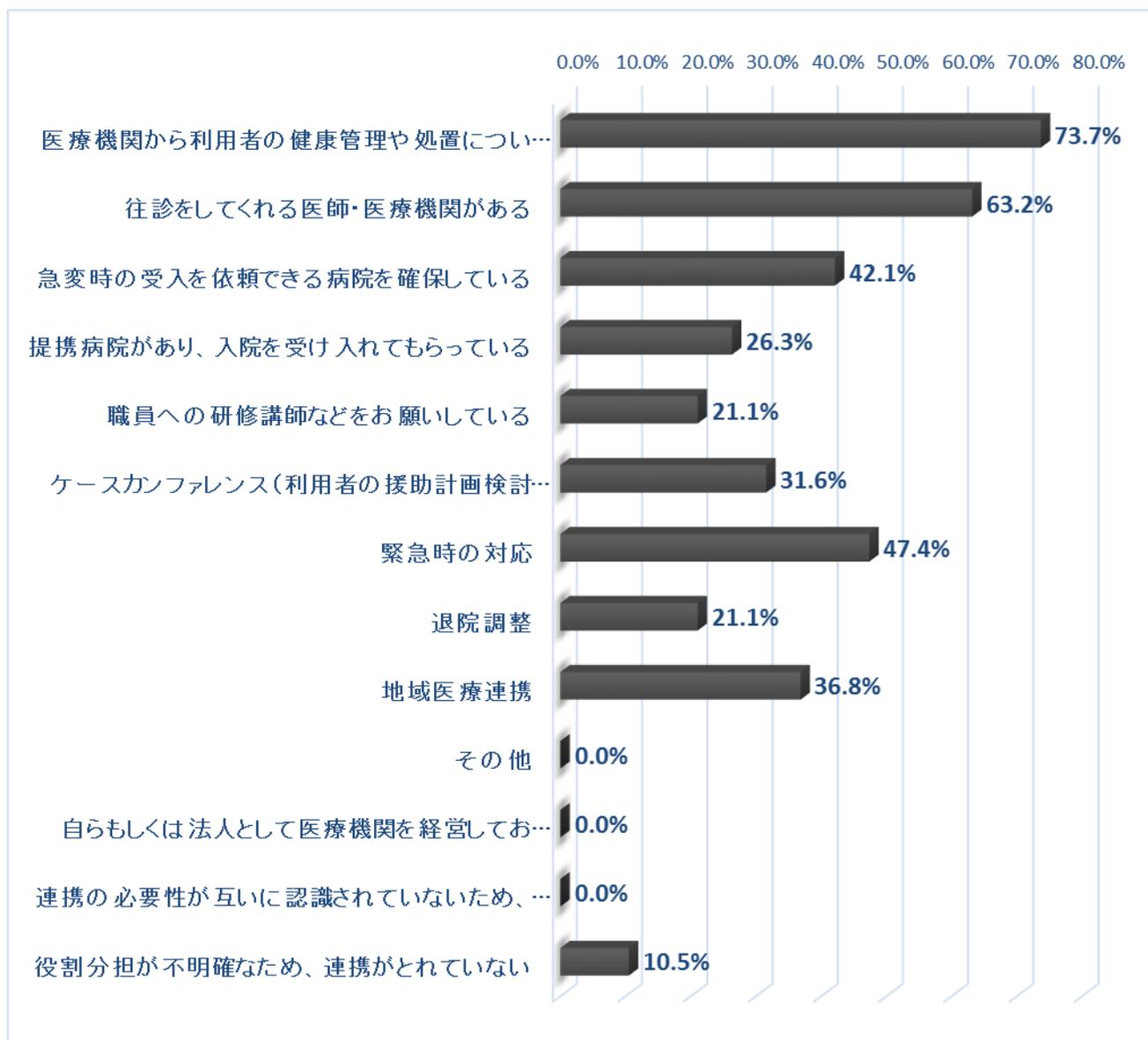
地域包括支援センターとの連携としては、「介護予防事業での連携」が63.2%と最も多くなっています。「支援困難事例についての個別指導・相談」が31.6%と続きます。

「特にない」という回答も約1/4と、一定数を占めています。

問27 今後、地域包括支援センターに期待すること（自由回答）

- ・多職種連携。
- ・定期的な支援の会議。各組織のやるべきことの区別。連携体制の明確化。
- ・介護予防サービスについての情報
- ・基本チェックリストでの調査を実施して欲しい。
- ・施設利用者でも参加しやすい活動等の情報提供、及び要支援者の介護保険制度に関する情報提供等。
- ・ケアプランを持たず、地域に出て住民との関係を作ってほしい。
- ・専門職に個人差（質）があるため、両包括支援センターで協力しあって運営してほしい。

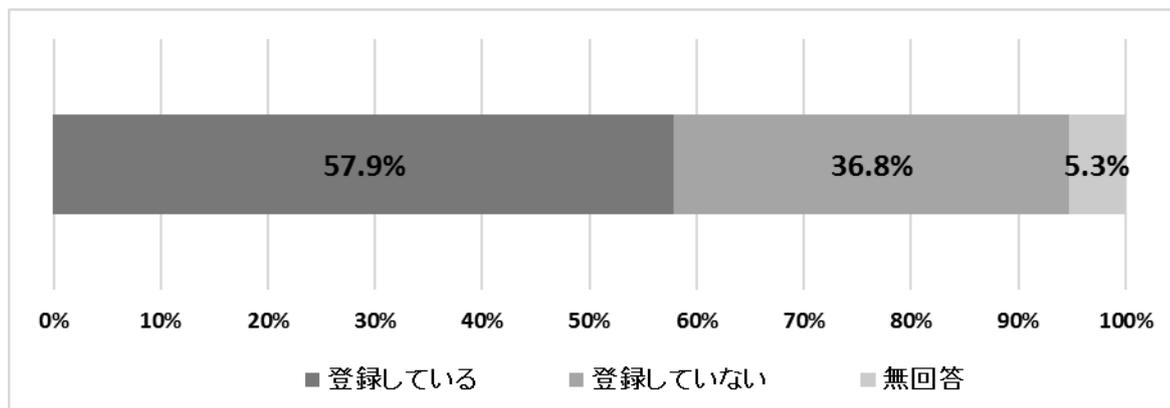
問28 医療機関との連携（複数回答）



N=19

医療機関との連携としては、「医療機関から利用者の健康管理や処置について助言を受けている」が最も多く73.7%、「往診をしてくれる医師・医療機関がある」が63.2%で続きます。「緊急時の対応」47.4%、「急変時の受入を依頼できる病院を確保している」42.1%、「地域医療連携」36.8%、「ケースカンファレンス（利用者の援助計画検討会議）への参加」31.6%となっています。

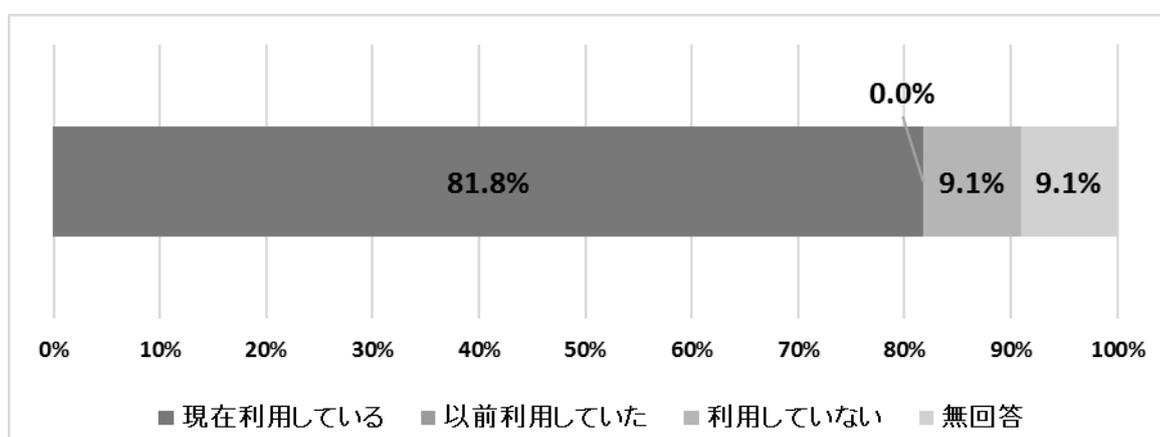
問29-1 愛・ながくて夢ネットへの登録



N=19

愛・ながくて夢ネットへの登録は57.9%、「登録していない」は36.8%です。

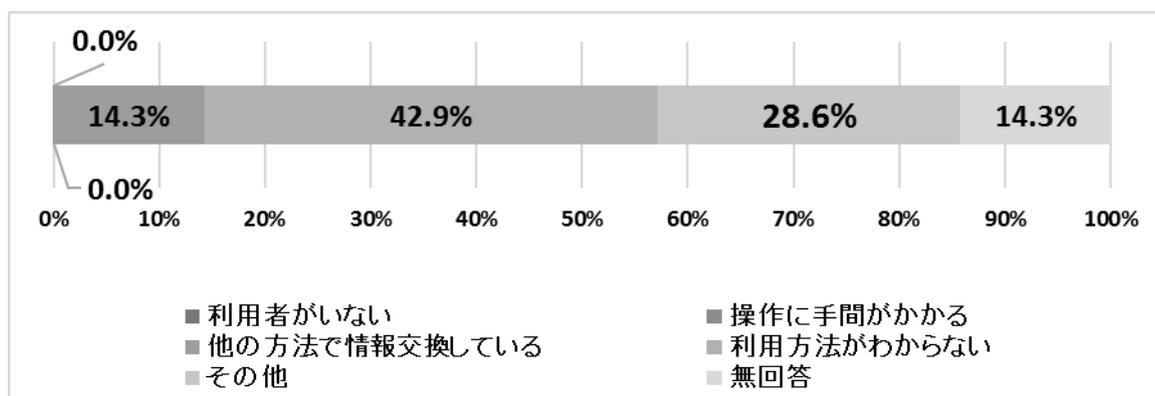
問29-2 愛・ながくて夢ネットの利用（登録法人のみ）



N=11

愛・ながくて夢ネットの利用は、「現在利用している」が81.8%、「利用していない」が9.1%です。

問29-3 愛・ネットを利用していない理由（登録していない法人のみ）



N=7

利用していない理由としては、「利用方法がわからない」が最も多く、42.9%となっています。

問29-4 愛・ながくて夢ネットはどのようにしたら利用しやすくなるか (自由回答)

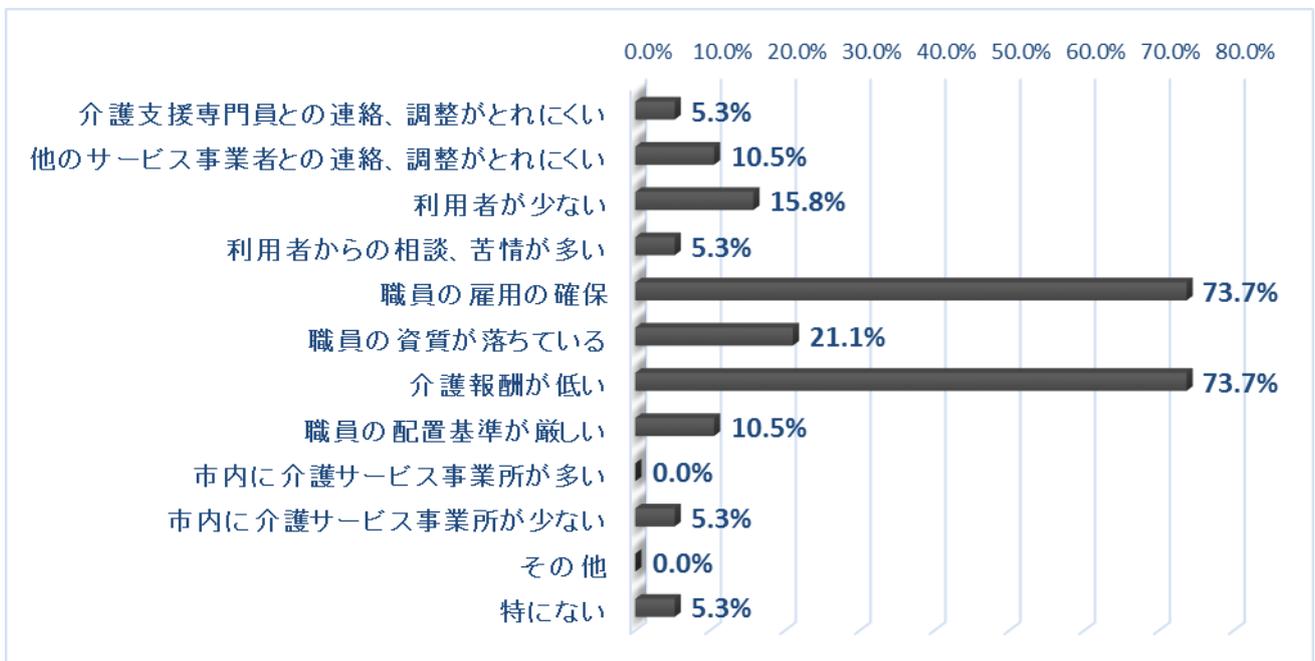
- ・ネットを開く時間がないので利用がないとのこと。
- ・情報の共有にもう少し医療機関もかかわってほしい。
- ・タブレットやスマホでの対応ができれば利用しやすい。実際にはあまりできていない。
- ・長久手市内の医師全員が加入する。また、ネットワークの利用を進んで行く。
- ・知らない人への周知。
- ・医療・保健・福祉が同一立場で連携する。
- ・パソコン操作が苦手などの理由により最初からむずかしいと思っている人はたくさんいると思う。そういった年代の方へのまずはパソコンのあつかい方の指導をする場をもつと、そこから夢ネットへとつなげていると思う。

問30 介護・福祉関係者や医療関係者との連携にあたり、課題(困っている)と感じていること(自由回答)

- ・顔の見える関係づくり。医師会との連携。
- ・介護と医療の立ち位置がはっきりせず、ケアマネもわかっていない。介護が上のように思っているケアマネに大変苦慮しています。
- ・医療連携において、現状一つの施設に複数の往診医を入れる必要があり、そのための情報・連携の手間があること。
- ・医療従事者が介護保険制度のことがわかっていない。
- ・こちらから医療関係者に連携を求めても、一方通行で終わってしまうケースがほとんど。特に〇〇は話しになりません。
- ・施設系と在宅系で連携がとりづらい。

4-6 今後の介護サービスについて

問31 介護保険に関わる事業者として問題点と感じていること(〇は3つまで)



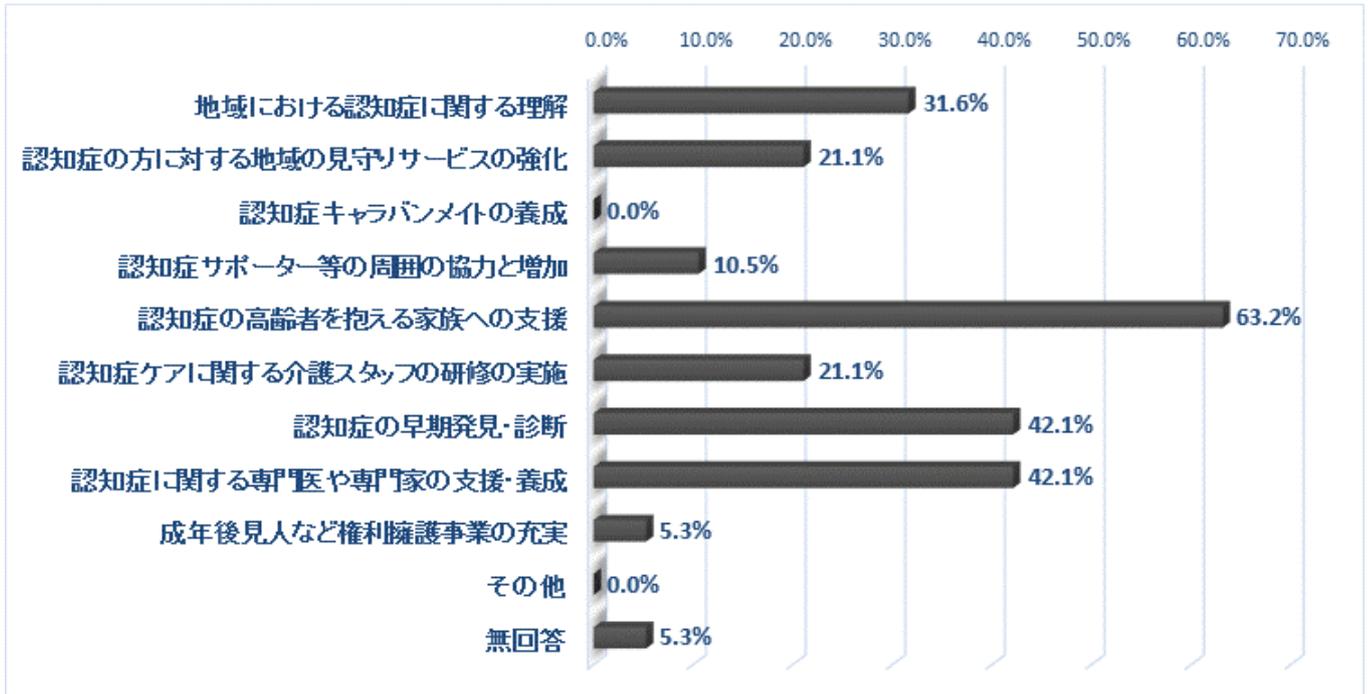
N=19

介護保険に関わる事業者として問題点と感じていることとして最も多くなっているのは、「職員の雇用の確保」、「介護報酬が低い」という回答で、約3/4を占めています。

問 31-1 問題点の改善方法に関するアイデア（自由回答）

- ・ケアマネの知識の向上。
- ・ボランティアの活用。
- ・介護報酬はどんどん下げるのに、職員（特にナース）の配置基準が緩和されていないのは不合理。緩和すべき！
- ・「日本一の福祉のまち」を掲げるのであれば、福祉を支える人たちへの支援が必要である。支える人が守られていなければ、人材不足は続くと考えられる。長久手市独自の加算を考えてほしい。

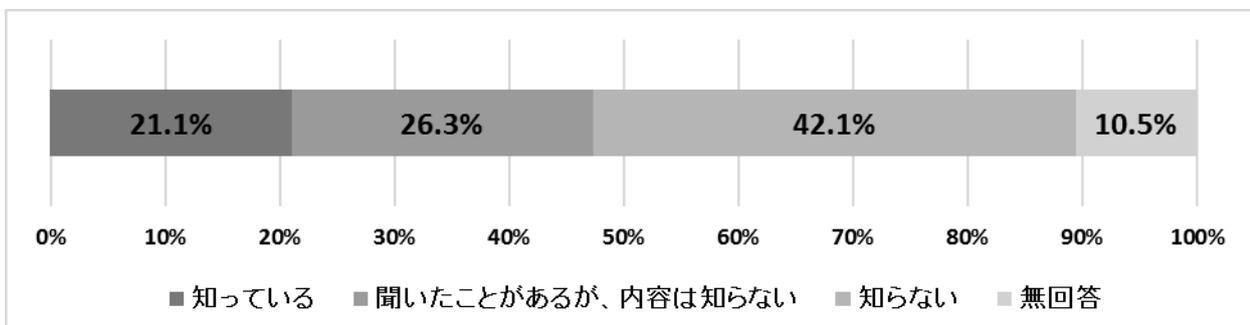
問 32 認知症の高齢者に関して特に重要と考える施策（○は3つまで）



N=19

認知症の高齢者に関して特に重要と考える施策では、「認知症の高齢者を抱える家族への支援」が 63.2%と最も多くなっています。これに続くのが、「認知症の早期発見・診断」と「認知症に関する専門医や専門家の支援・養成」で、いずれも 42.1%です。

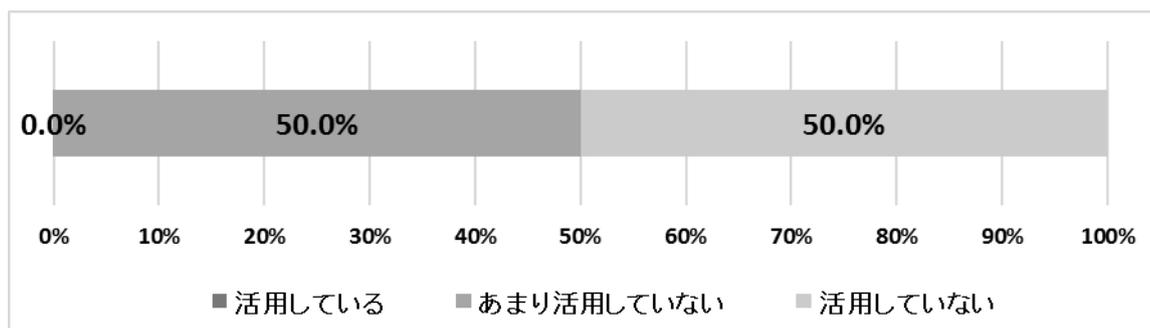
問 33 認知症の進行にあわせて、いつ、どこで、どのような医療・介護サービスを受けることができるのかを示した「長久手市認知症ケアパス」の認知



N=19

「長久手市認知症ケアパス」を「知っている」は 21.1%、「聞いたことはあるが、内容は知らない」は 26.3%と合わせても半数未満です。「知らない」という回答は 42.1%にのびます。

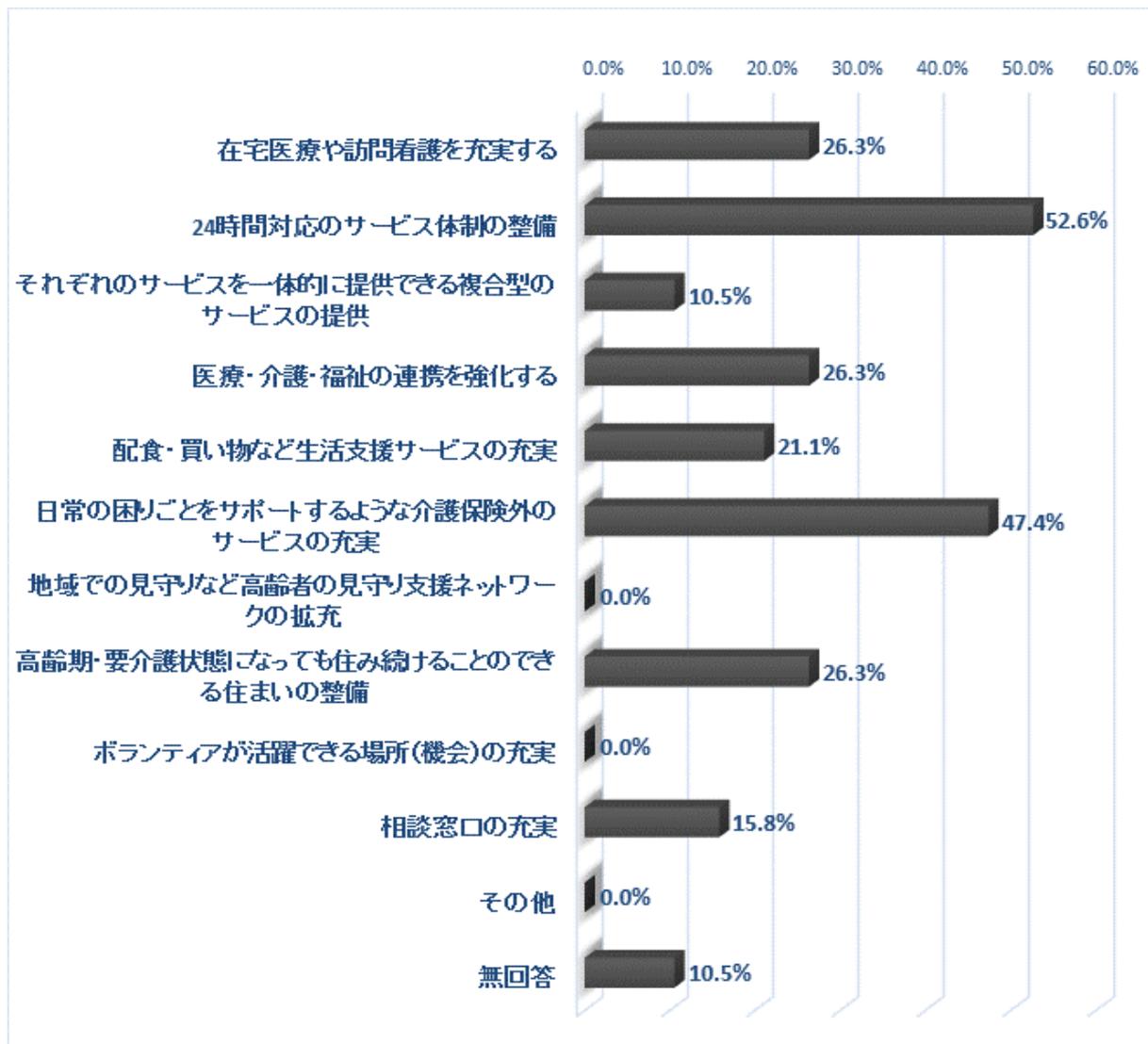
問 33-1 「長久手市認知症ケアパス」の活用（知っている法人のみ）



N=4

「長久手市認知症ケアパス」を活用している法人は0で、「あまり活用していない」と「活用していない」が半数ずつとなっています。

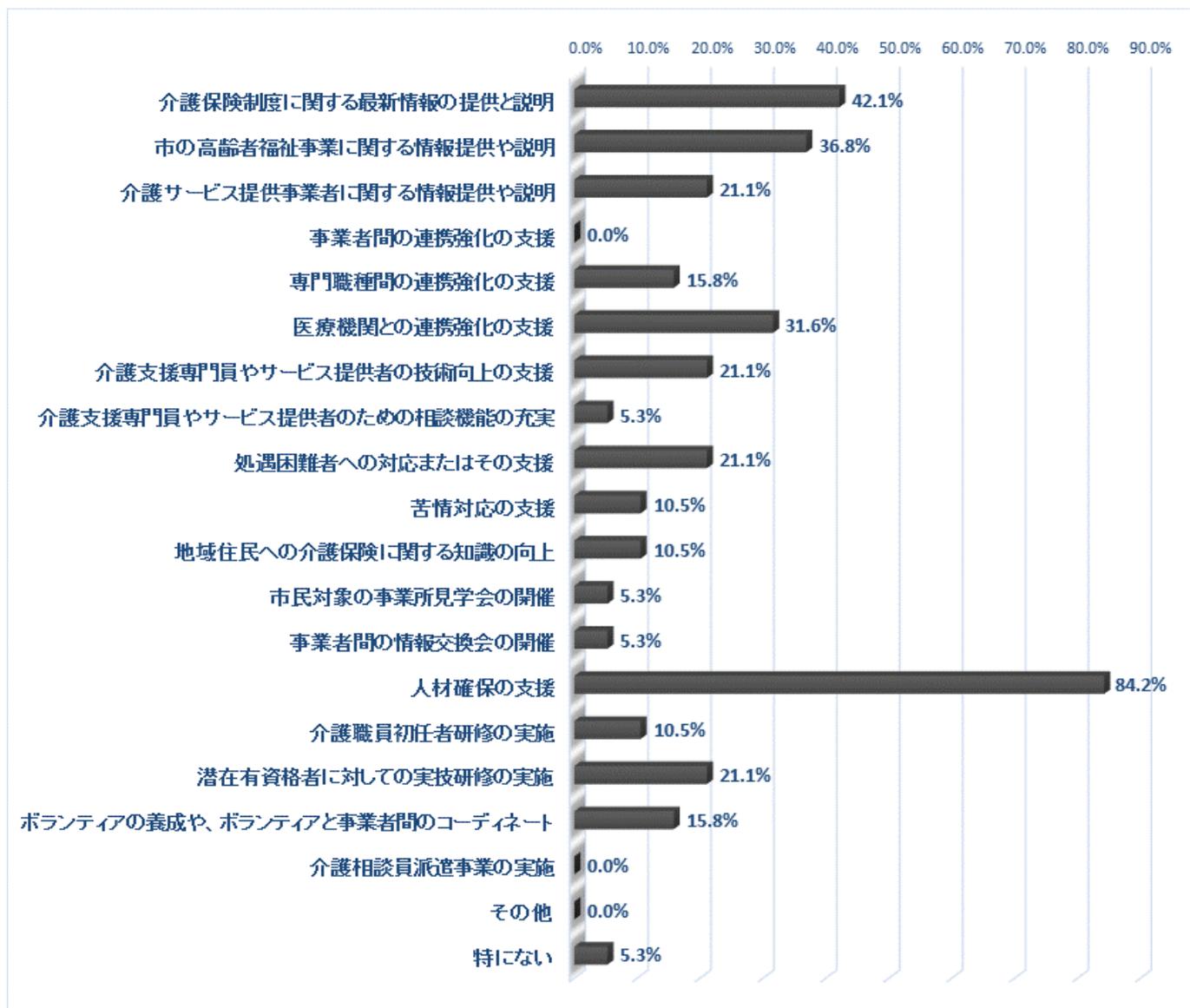
問 34 長久手市で要介護認定者が居宅や地域での生活をするために重要だと思うこと（○は3つまで）



N=19

要介護認定者が地域での生活をするために重要な点としては、「24時間のサービス体制の整備」が52.6%と最も多く、「日常の困りごとをサポートするような介護保険外のサービスの充実」が47.4%で続きます。

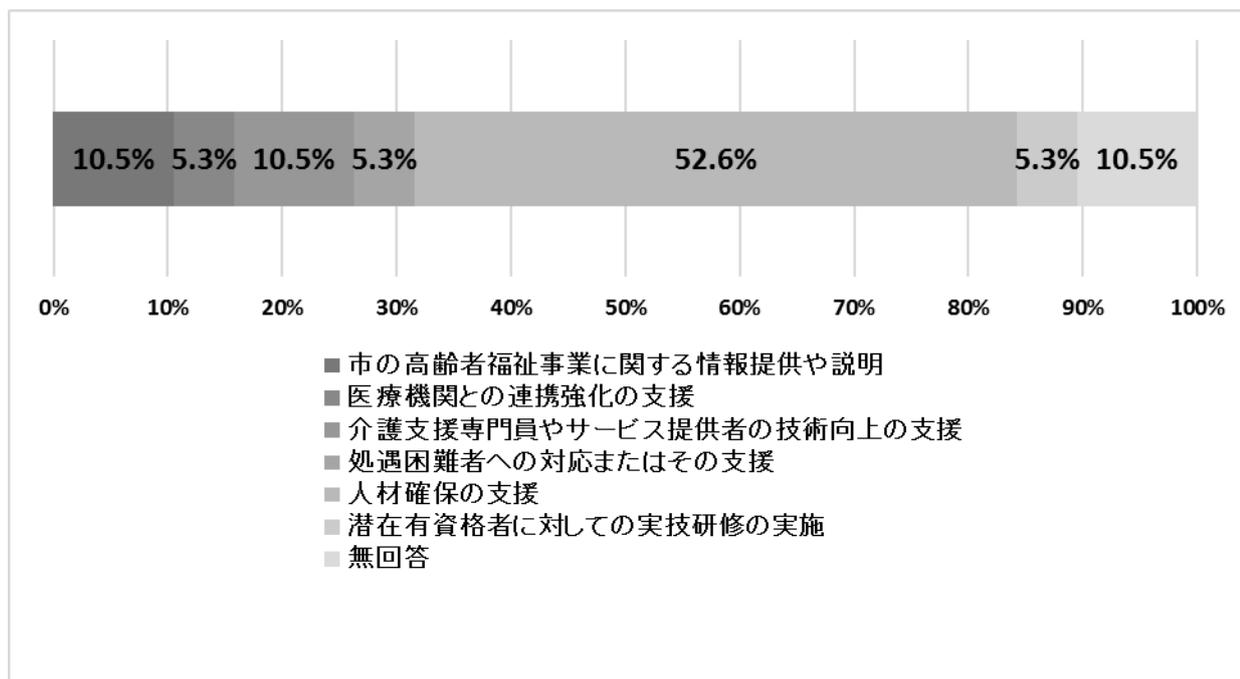
問 35 介護保険サービス事業を行う上で行政の支援等が必要だと思われること（〇は5つまで）



N=19

介護保険サービス事業を行う上で行政の支援等が必要だと思われることとしては、「人材の確保」が突出して多く、84.2%となっています。これに続くのが、「介護保険制度に関する最新情報の提供と説明」で42.1%、「市の高齢者福祉事業に関する情報提供や説明」36.8%、「医療機関との連携の強化の支援」で31.6%となっています。

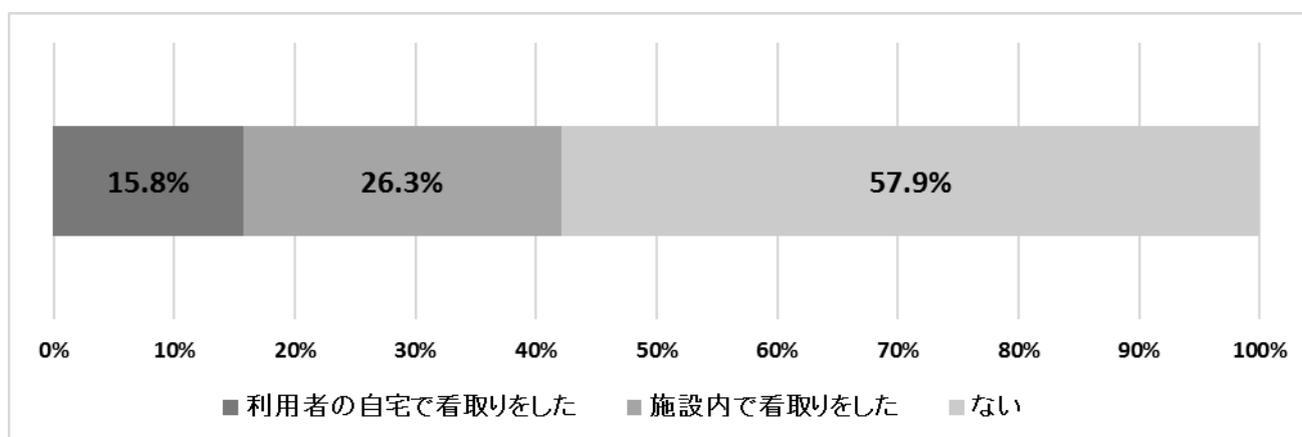
問 35-1 問 35 のうち、最も必要だと思われること



N=19

最も必要なこととしても、「人材確保の支援」が最も多く、52.6%となっています。

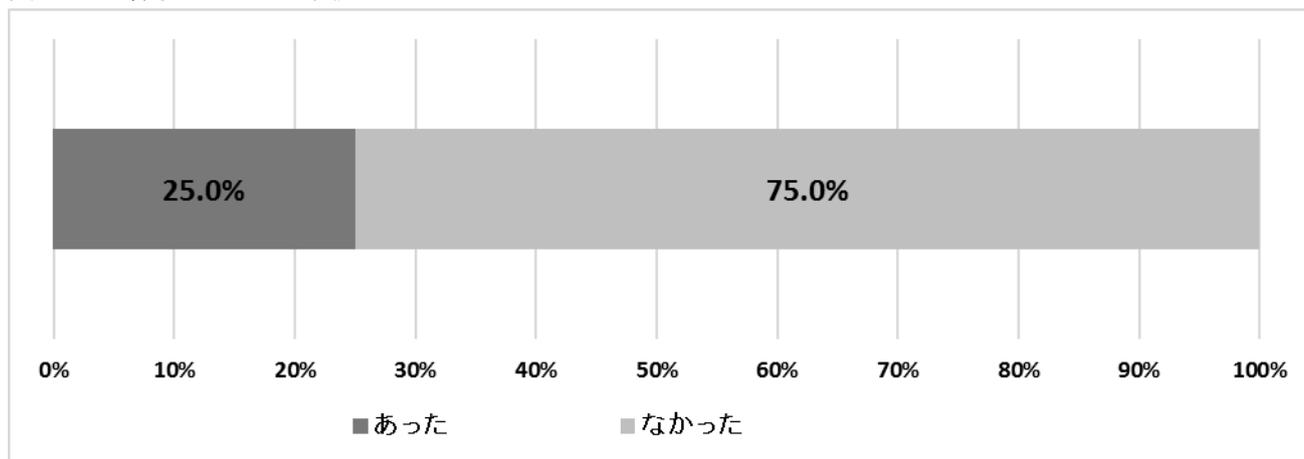
問 36 過去1年間に看取りをしたケース



N=19

過去1年間に看取りをしたケースについては、「ない」が最も多く57.9%です。一方、「ある」というケースでは施設内が26%、利用者の自宅が15.8%です。

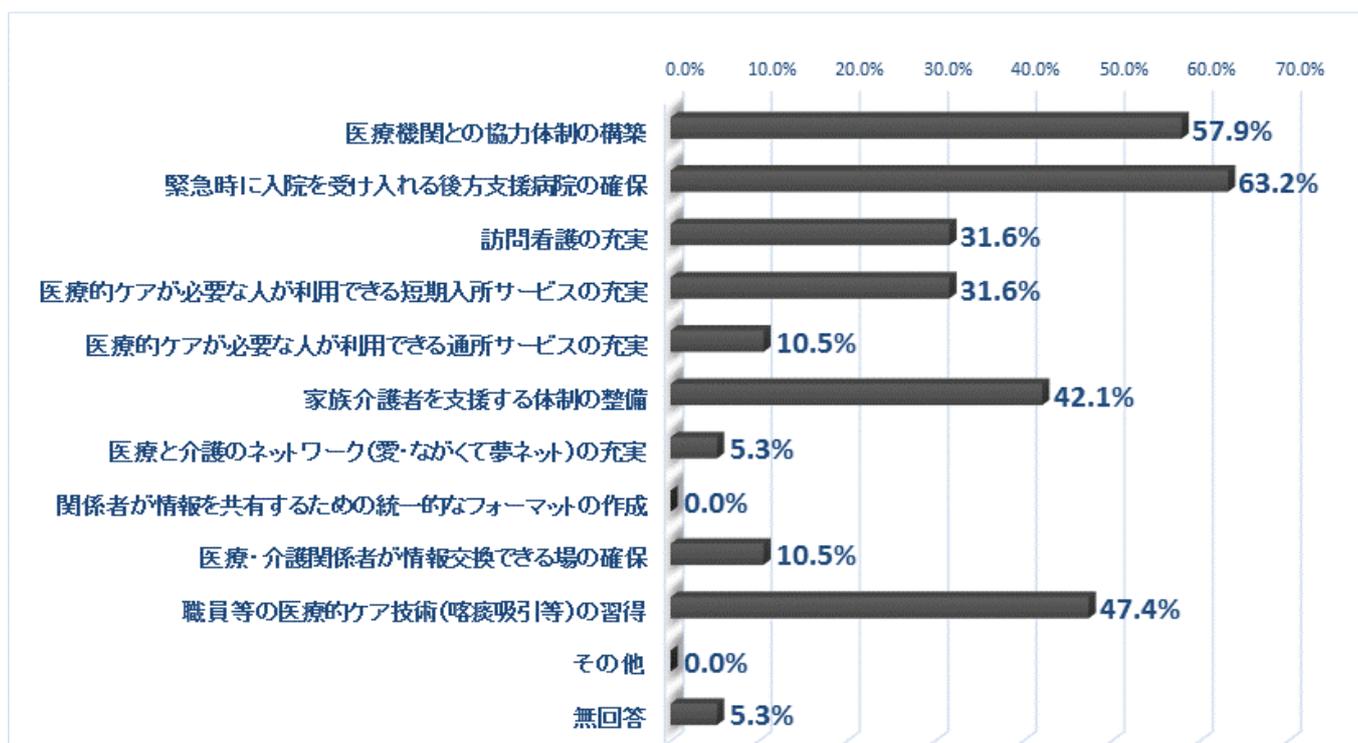
問 36-1 看取りにあたり問題となったこと



N=8

看取りにあたり問題となったことは、「なかった」が3/4で、「あった」は2法人が回答しています。

問 37 病院以外での看取りを進めるために介護サービス事業者として必要と考えること（複数回答）

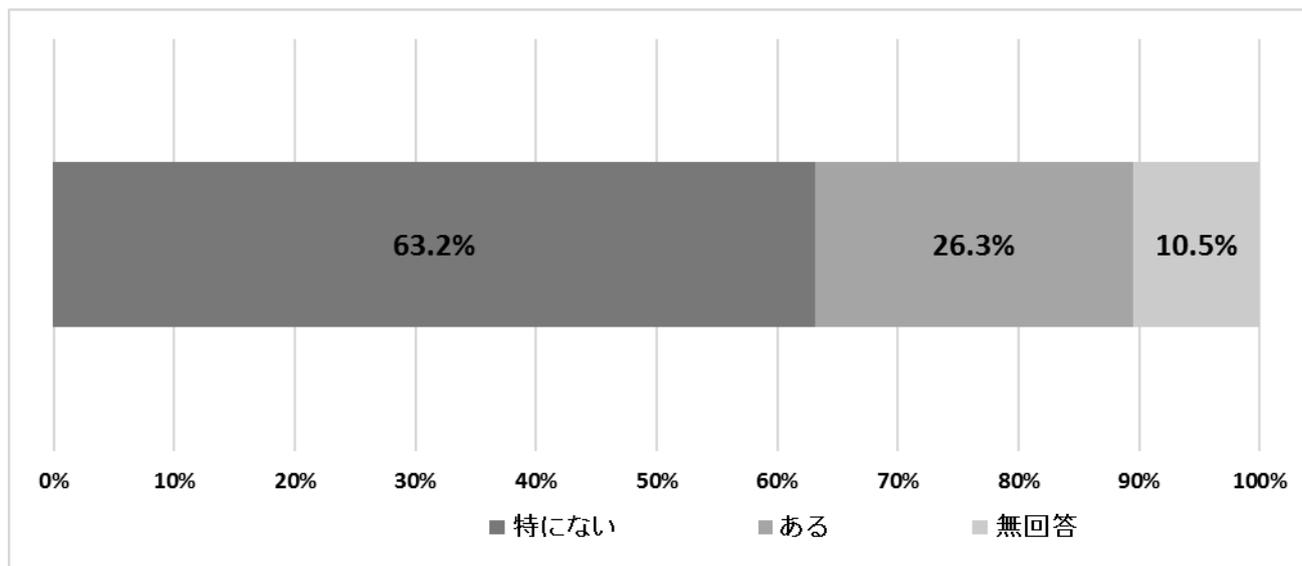


N=19

病院以外での看取りを進めるために介護サービス事業者として必要と考えることとしては、「緊急時に入院を受け入れる後方支援病院の確保」が最も多く 63.2%、「医療機関との協力体制の構築」57.9%が続きます。

「職員等の医療的ケア技術(喀痰吸引等)の習得」が47.4%、「家族介護者を支援する体制の整備」42.1%となっています。

問 38 「長久手市内に整備する必要がある」と感じているサービス



N=19

「長久手市内に整備する必要がある」と感じているサービスは、「特にない」が63.2%となっています。「ある」は26.3%となっています。必要と感じている具体的な事業名、必要な理由は下記の通りです。

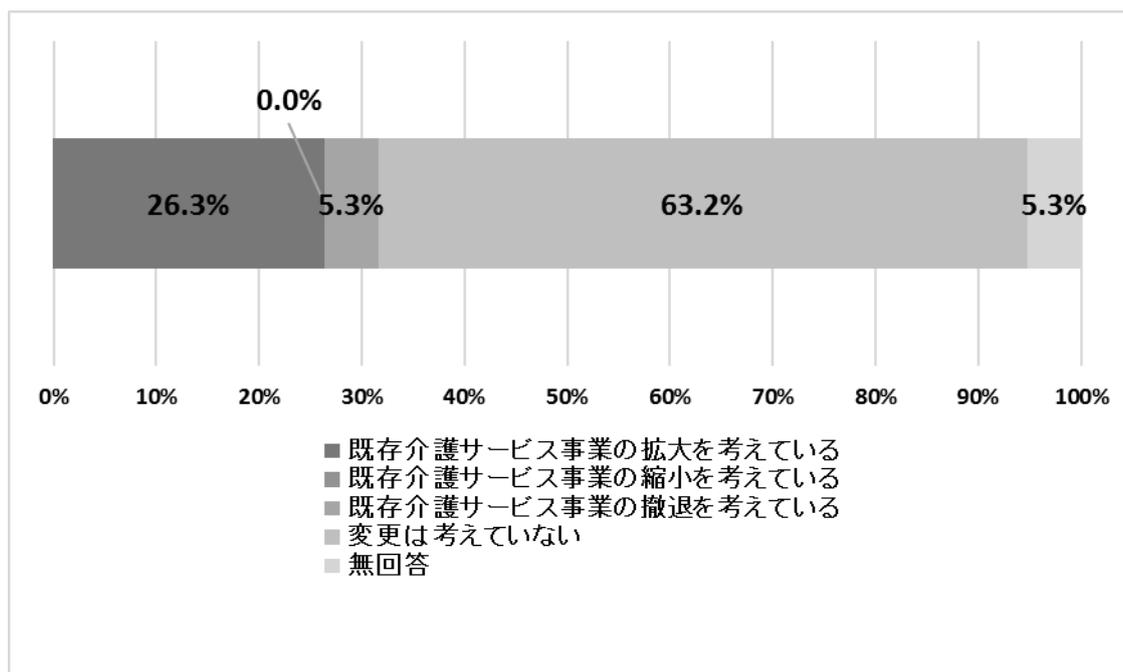
●事業名と必要な理由

事業名	必要な理由
在宅医(メンタルを含む)	
居住介護支援事業	長久手市内の要援護者に比べて市内のケアマネが少ない
有料老人ホーム	要支援～要介護3程度の人が入りやすい介護付き有料の設置
通所リハビリ	長久手市内に事業所がない
訪問リハビリ	看護ステーションによるリハビリのみ。PTがない
訪問看護	自事業所で不足している
看護小規模多機能型居住介護	在宅生活を続けるためには看護も一体的に必要

問 38-1 事業所で展開予定の事業とその理由

サービスの種類	事業規模	開始予定	人材確保状況	課題
B型事業所	10人程度	未定	未定	
居宅介護支援事業所	未定	未定	未定	
小規模多機能型居宅介護	25人(通15、泊9)	平成30年3月	未定	
グループホーム	18人	平成30年3月	未定	
居宅介護支援事業所	未定	未定	未定	
介護付き有料老人ホーム	未定	未定	未定	
看護小規模多機能型居住介護	未定	未定	確保予定	人材が未定

問 39 今後の既存介護サービスの拡大・縮小に関する考え



N=19

今後の既存介護サービスの拡大・縮小に関する考えについては、「変更は考えていない」が最も多く、63.2%となっています。

「拡大」については26.3%で、「縮小」0.0%、「撤退」は5.3%です。

以下は、それぞれの具体的な内容です。

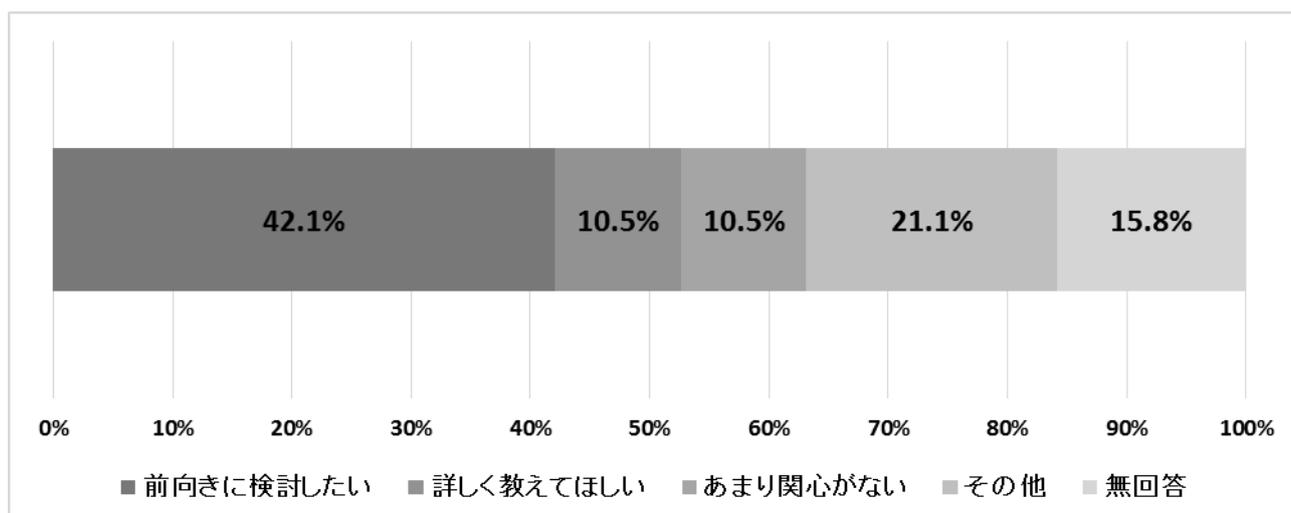
●拡大

事業名	理由
住宅型有料老人ホーム	現在の施設では待機の方も多いため
認知症対応型通所介護	通常のデイが困難な方に向けて
訪問介護、有料老人ホーム	
訪問介護、有料老人ホーム	増加する利用者に対応するため
地域密着型介護老人福祉施設	待機者が多いため
訪問介護	ニーズが増えているため
居宅介護支援事業所	ニーズが増えているため

●撤退

事業名	理由
認知症対応型共同生活介護	経営困難なため

問 40 長久手市による介護予防・日常生活支援総合事業に関する支援についての考え



N=19

長久手市による介護予防・日常生活支援総合事業に関する支援については、「前向きに検討したい」が 42.1%で最も多く、「詳しく教えてほしい」が 10.5%と、合わせて半数を超えています。

「あまり関心がない」は 10.5%です。

4-7 長久手市の高齢者施策や介護保険事業に関してのご意見（自由回答）

・介護保険と医療保険の不明確さの中で、訪問看護の立ち位置が介護保険の中で混乱しています。トップは医師の指示のもと介護も医療も入っていますが、ケアプランが今ひとつおかしいときがあります。相談支援の長久手メンバーにおいては、大変連携もうまくいっています。ケアマネとはスムーズにいきません。医療の上ではケアマネより看護師の方がしっかりと問題をとらえるのは当然です。もう少しケアマネに対し、研修等で、レベルアップしていき、本当の意味で利用者さんの安全な在宅医療を考えて頂きたいです。

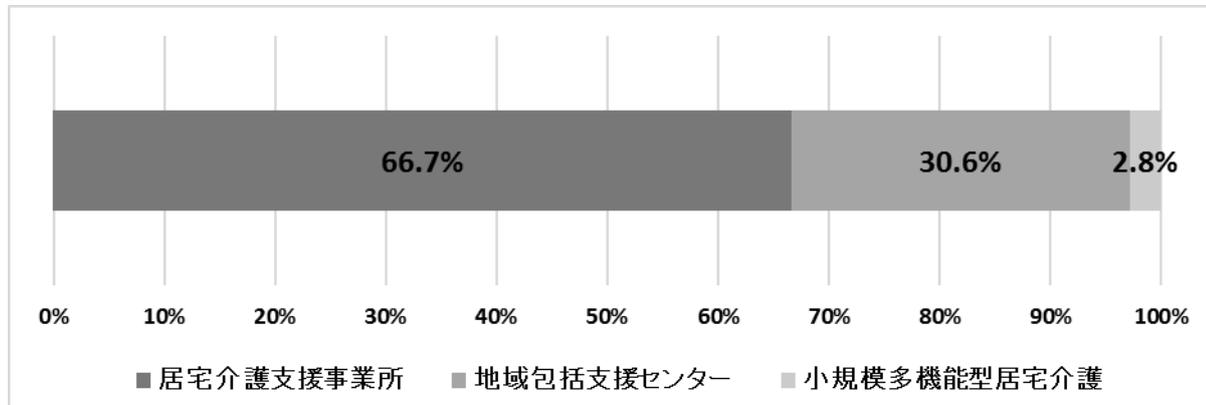
・他の市町村とくらべ、行政への意見交換の場、交流の場があり、話しを聞いてくれることはたのもしきことだと思います。平成 30 年で再び法改正がある時に見直しも必要であると思いますが、減ることはない高齢者に向けてのサービスやしくみを事業所や行政だけでなく一般市民も意見の言える場がもっとあればと思います。

・住み慣れた地域で安心して暮らし続けていくためには、施設サービスと在宅サービスの両方のサービスが不可欠である。安心して暮らすために必要なことは施設でも在宅でも「見守り」と考える。ケアスタッフの質は大きな課題であるが、少なくとも施設は見守りはできている。在宅においては出来ているとは言い難い。在宅サービスはケアマネジャーの力量において本人の援助が大きく変わる。課題はケアマネジャーの質である。ただ単に経験年数を積んだだけで各サービスを知らない（経験なし）ケアマネジャーがほとんどである。長久手市としてケアマネジャーの研修の充実をお願いしたい。

5. ケアプラン作成担当者

5-1 所属事業所や勤務形態について

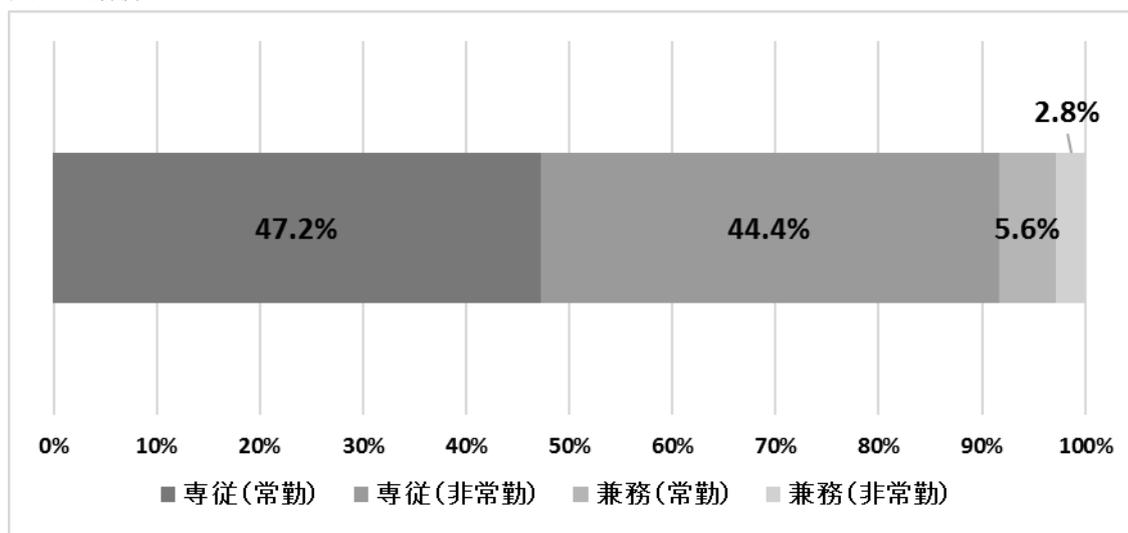
問1 所属する事業所の種別



N=36

所属する事業所は、「居住介護支援事業」が66.7%、「地域包括支援センター」が30.6%、「小規模多機能居宅介護」が2.8%となっています。

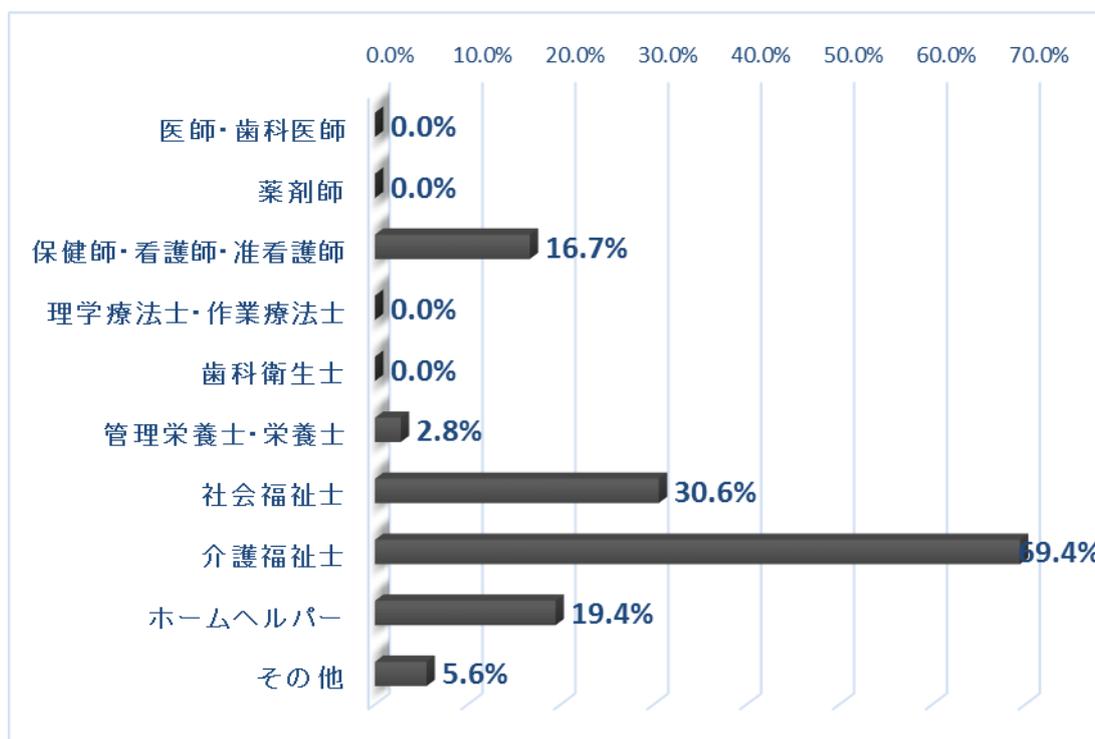
問2 勤務形態



N=36

勤務形態は、「専従(常勤)」47.2%、「専従(非常勤)」が44.4%となっています。「兼務(常勤)」は5.6%、「兼務(非常勤)」は2.8%です。

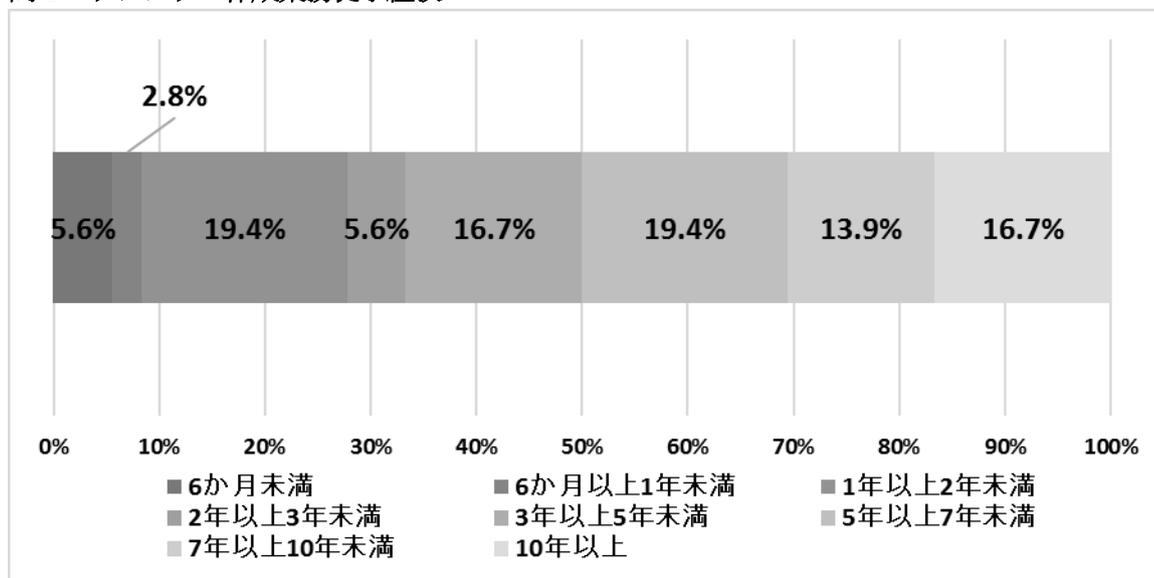
問3 保持している保健医療福祉関係の資格（複数回答）



N=36

保持している保健医療福祉関係の資格で最も多いのは、「介護福祉士」で 69.4%です。次いで、「社会福祉士」が 30.6%、「ホームヘルパー」19.4%、「保健師・看護師・准看護師」が 16.7%となっています。

問4 ケアプラン作成業務従事経験



N=36

従事経験は、「10年以上」が 16.7%で、5年以上が合計で約半数を占めています。逆に、1年未満は1割弱となっています。

問5 介護（予防）サービス計画を担当している人数

要介護	①なし(自立・I)	②軽・中度(Ⅱ・Ⅲ)	③重度(Ⅳ・Ⅴ)	要支援	①なし(自立・I)	②軽・中度(Ⅱ・Ⅲ)	③重度(Ⅳ・Ⅴ)
37				2			
34	11	19	4	11	6	5	0
33				2	2	0	0
33				2	2	0	0
30	7	20	3				
29	19	4	6	1	1	0	0
27	7	18	2	2	2	0	0
26	13	13	0	2	1	1	0
26	14	10	2	2	2	0	0
25				0	0	0	0
24	7	13	4	3	0	0	0
21	6	6	9	6	6	0	0
20	5	13	2	0	0	0	0
19	5	12	2	6	5	1	0
18	2	5	11	0	0	0	0
18	5	11	2	4	4	0	0
18	6	11	1	1	0	1	0
16	4	10	2	0	0	0	0
16	3	12	1	2	2	0	0
16	8	8	0	2	2	0	0
14	4	10	0	5	5	0	0
13	3	10	0	21	19	2	0
13	4	8	1	4	4	0	0
12	2	10	0	0	0	0	0
8	4	3	1	7	7	0	0
7	1	6	0	5	3	2	0
0	0	0	0	17			
0	0	0	0	20			
0	0	0	0	24	20	4	0
0	0	0	0	21	19	2	0
0	0	0	0	17	15	2	0
				16	1		
				22	17	5	0
				25	22	3	0
				20	8	12	0

N=36

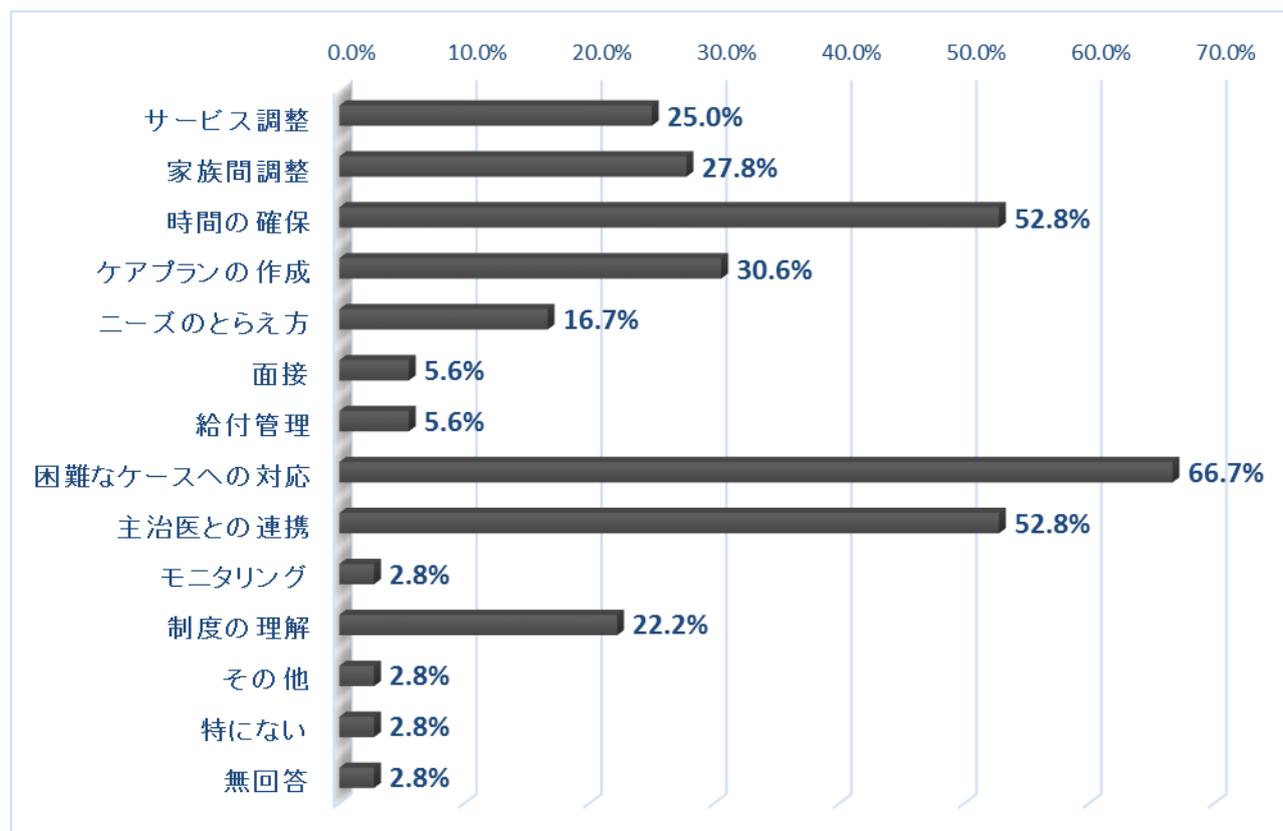
表は、介護（予防）サービス計画を担当している人数について、「要介護」担当ケース数が多い順に並べかえたものです。

「要介護」担当は37 ケースが最大で、30 以上の担当が5名です。

また、「要支援」担当ケースが多いと、「要介護」担当ケースが少なくなる傾向が認められますが、「要介護」34 ケース、「要支援」11 ケースと、合わせて45 ケース担当されている方も認められます。

5-2 業務上の課題等について

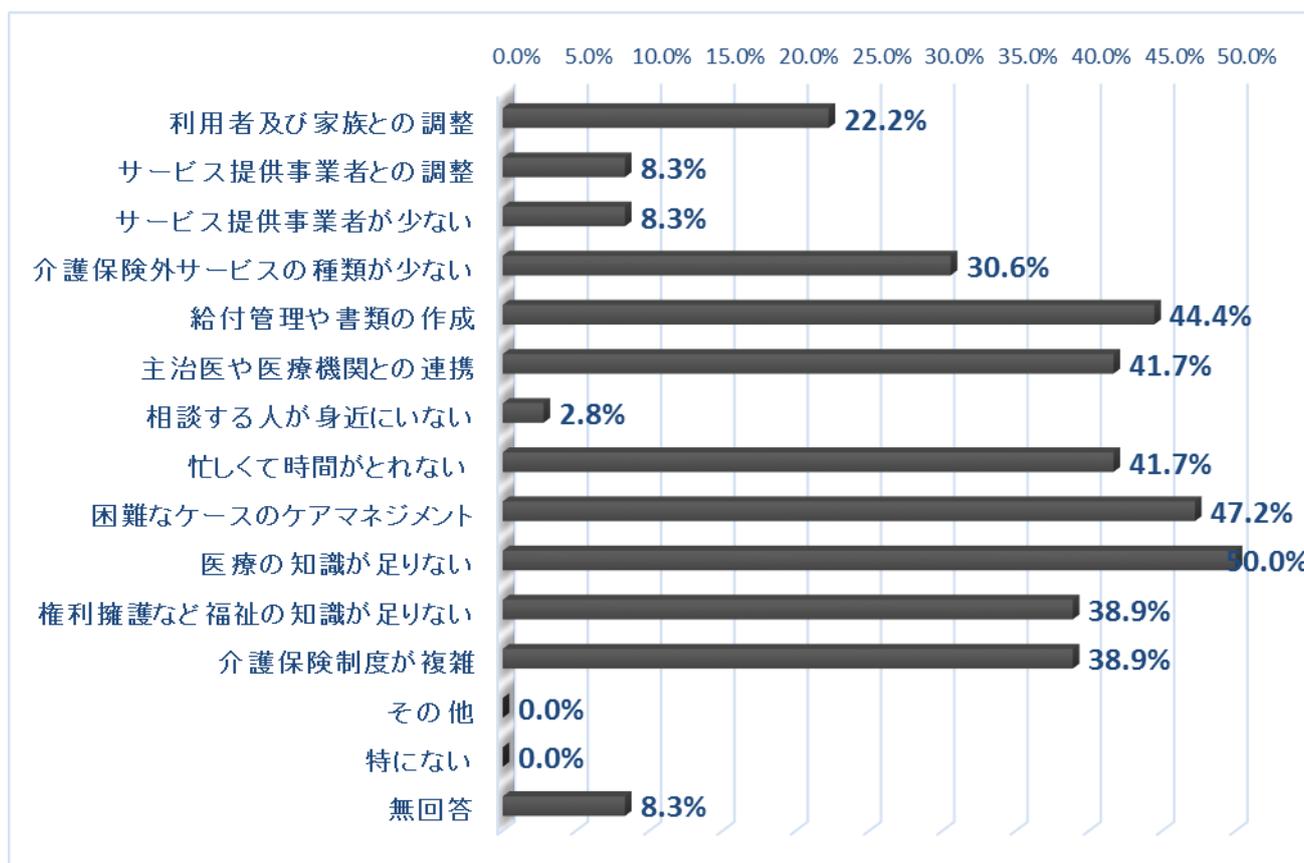
問6 ケアプラン作成の業務として負担に感じる事 (複数回答)



N=36

ケアプラン作成の業務として負担に感じる事として最も多く挙げられているのは「困難なケースへの対応」で、約2/3が回答しています。次いで「時間の確保」、「主治医との連携」がともに 52.8%で、半数を超えています。

問7 業務を進める上で困っていること（複数回答）



N=36

業務を進める上で困っていることとしては、「医療の知識が足りない」が最も多く、50.0%です。続くのが、「困難なケースのケアマネジメント」47.2%、「給付管理や書類の作成」44.4%で、ともに41.7%の「主治医や医療機関との連携」、「忙しくて時間がとれない」という回答までが4割を超えています。

問8 ケアマネジメントをする上で、あるとよい支援（自由回答）

- ・事業所、医療機関との連携。(2)
 - ・ケアマネのアドバイザー。
 - ・包括や主任ケアマネからの助言。
 - ・ヘルパーが介護保険でできない部分の支援。2時間ルール、長時間訪問、移動支援など。
 - ・研修、制度やケース等の相談（精神疾患等）。
 - ・買い物同行や代行がもう少し細かい内容でできること。外出の足。暮らしのちょっとした便利屋。
 - ・通院送迎（保険外でも格安で）。ドアからドアまでの買い物支援（女性は自分の目で買い物に行きたい）。
- 例えば、地域でまとまって行く場合は、スーパーもタクシー代金負担をしてもらい、市と本人とスーパーで送迎代金を負担するなど。
- ・業務の省略化ができるような支援。困難ケースに対応するための事例検討、ケーススタディなどの学びの場の提供。
 - ・訪問介護ではもっと臨機応変な活動可能になればと思う。小規模多機能は、反対にかなりフレキシブルな活動可能な様であるが、実際には家事支援に手が回るか不安。

5-3 長久手市内の介護サービスについて

問9 ケアプランの作成にあたり、本市（及び本市から利用可能な地域）で量的に不足していると感じるサービス、ケアプランに組み入れにくいと感じるサービス

<居宅サービス>

1. 訪問介護
2. 訪問入浴介護
3. 訪問看護
4. 訪問リハビリテーション
5. 居宅療養管理指導
6. 通所介護
7. 通所リハビリテーション
8. 短期入所生活介護
9. 短期入所療養介護
10. 特定施設入居者生活介護
11. 福祉用具貸与
12. 特定福祉用具販売
13. 住宅改修

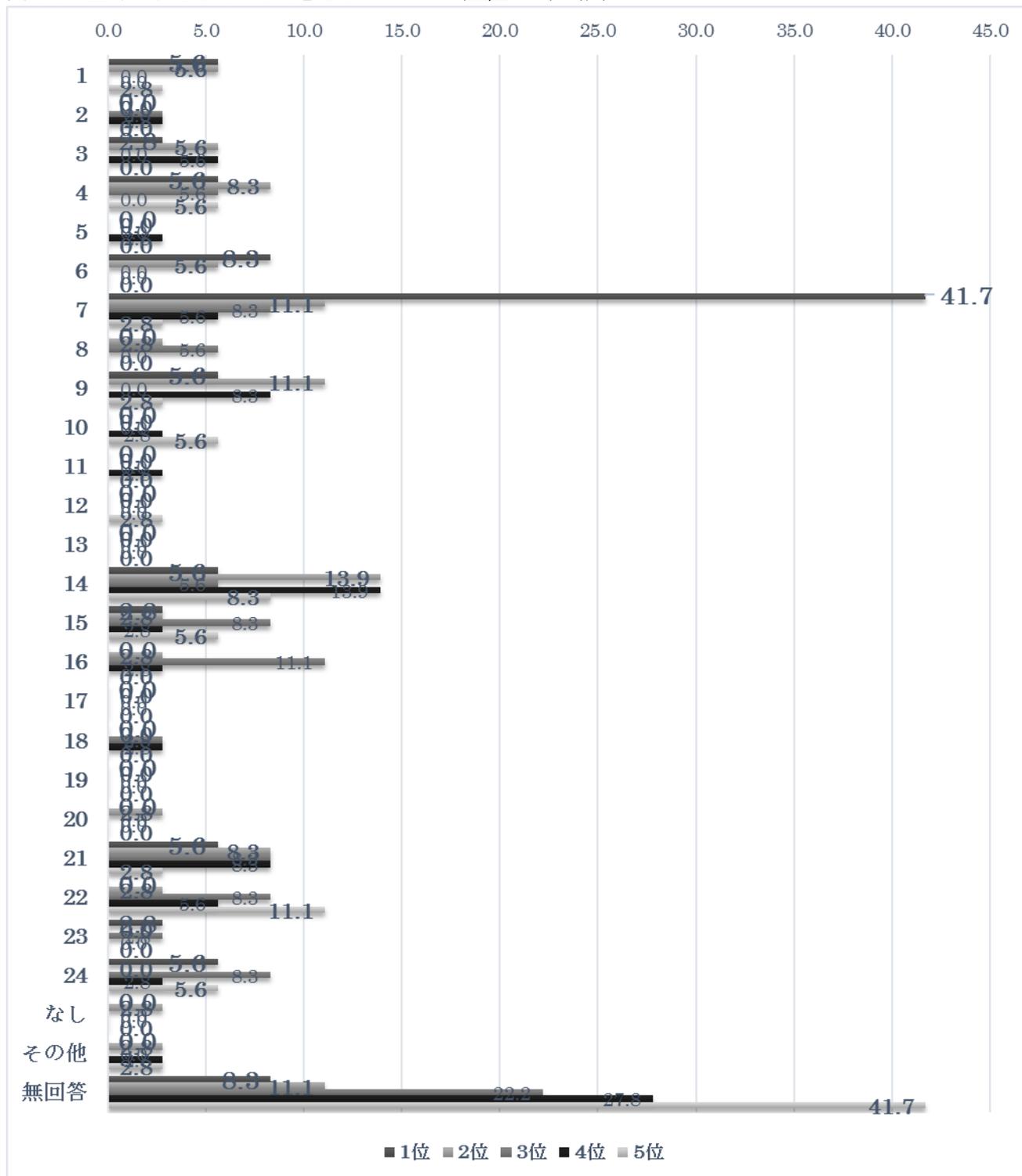
<地域密着型サービス>

14. 夜間対応型訪問介護
15. 認知症対応型通所介護
16. 小規模多機能型居宅介護
17. 地域密着型通所介護
18. 認知症対応型共同生活介護
19. 地域密着型特定施設入居者生活介護
20. 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護
21. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護
22. 看護小規模多機能型居宅介護

<介護保険施設サービス>

23. 介護老人福祉施設
24. 介護老人保健施設

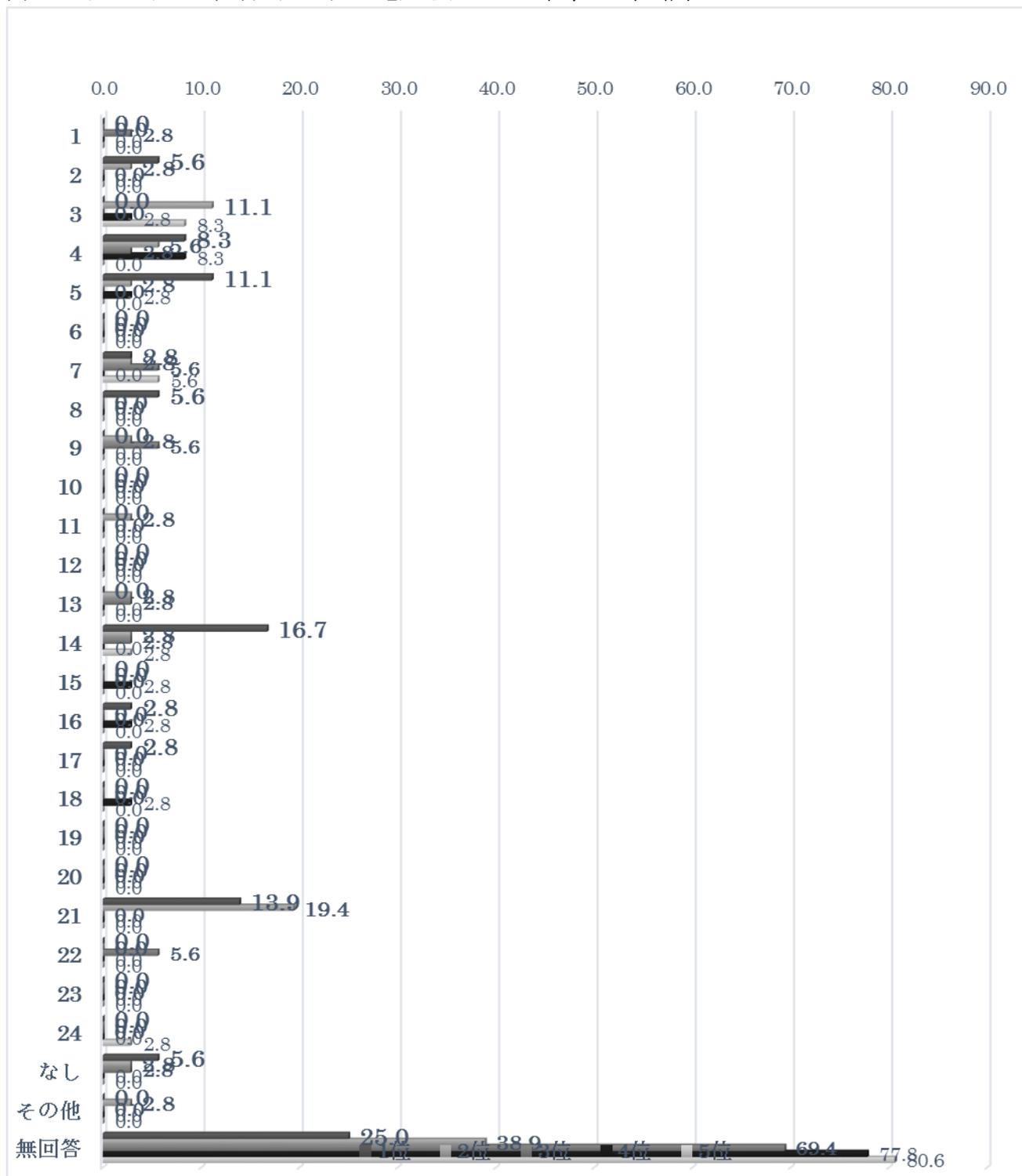
問9-1 量的に不足していると感じるサービス（上位5つ）（%）



N=36

量的に不足と感じているサービスの1位として挙げられているのが、「通所リハビリテーション」で41.7%となっています。2位以下で最も多く挙げられているのが「夜間対応型訪問介護」です。

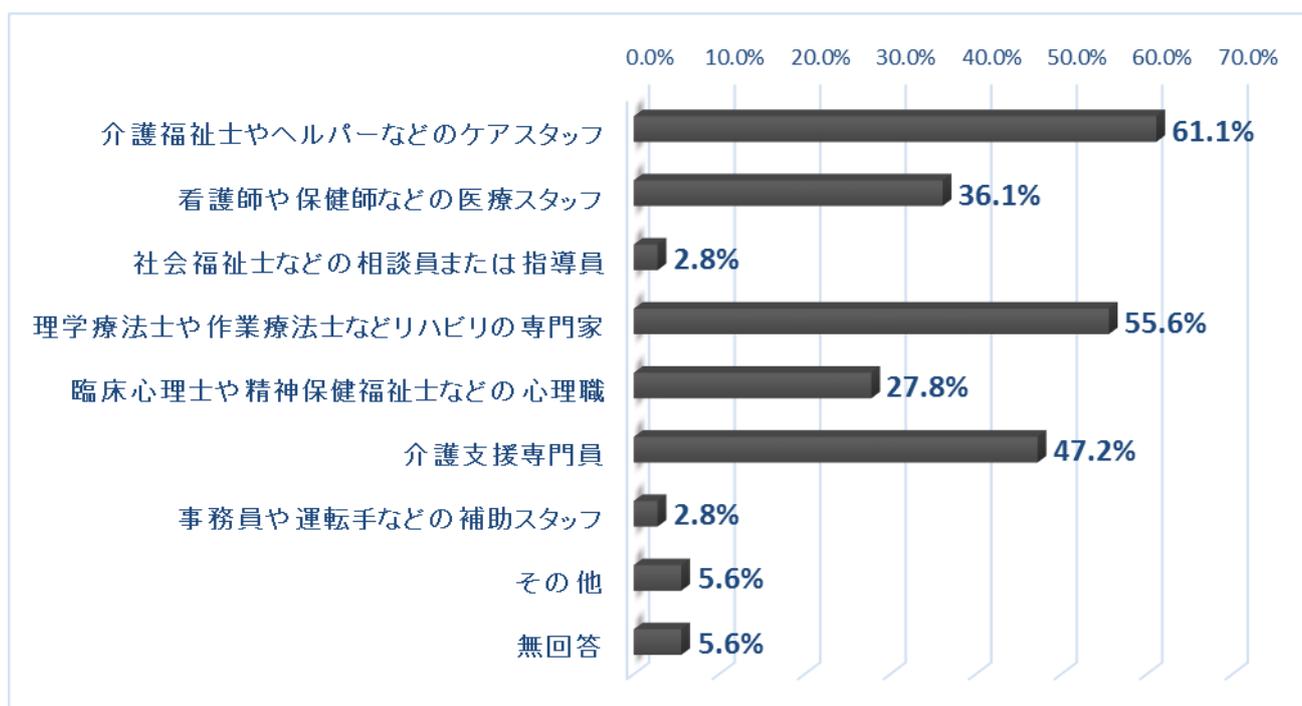
問9-2 ケアプランに組み入れにくいと感じるサービス（上位5つ）（%）



N=36

ケアプランに組み入れにくいと感じるサービスについては、全体として無回答が目立ちます。挙げられたものの中では、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」、「夜間対応型訪問介護」が、相対的に多くなっています。

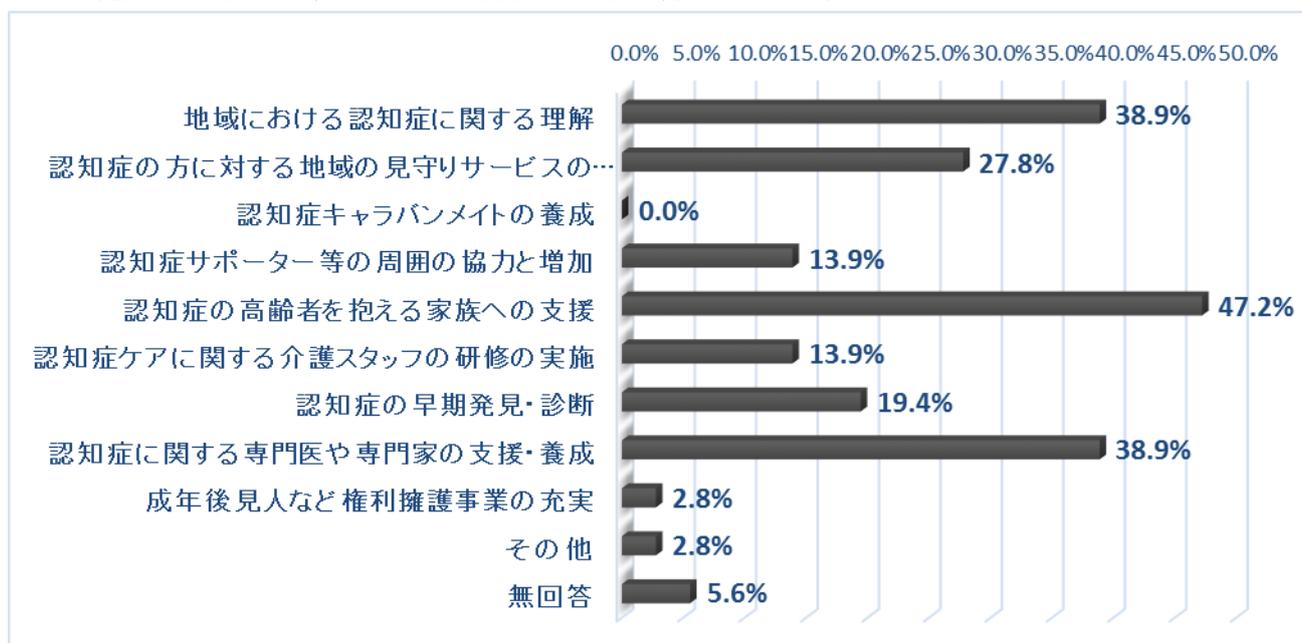
問10 長久手市内において現在不足していると思われる人材の職種（〇は3つまで）



N=36

長久手市内において現在不足していると思われる人材では、「介護福祉士やヘルパーなどのケアスタッフ」が最も多く 61.1%となっています。次いで、「理学療法士や作業療法士などリハビリの専門家」55.6%、「介護支援専門員」が47.2%となっています。

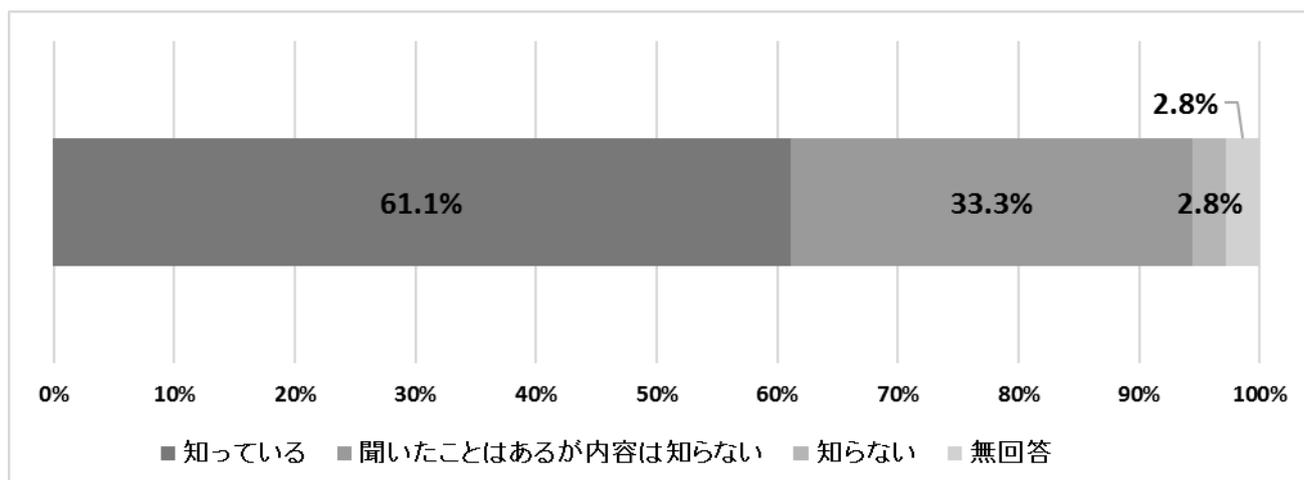
問11 認知症の高齢者に関して特に重要と思う施策（〇は3つまで）



N=36

認知症の高齢者に関して特に重要と思う施策では、「認知症の高齢者を抱える家族への支援」が47.2%と最も多く、「地域における認知症に関する理解」、「認知症に関する専門医や専門家の支援・養成」がともに38.9%と続きます。

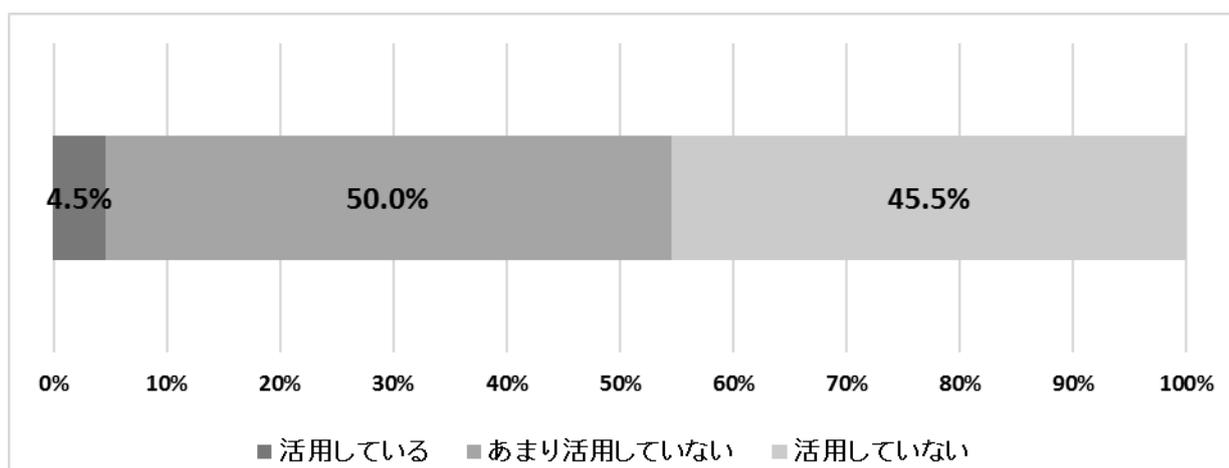
問 12 「長久手市認知症ケアパス」の認知



N=36

「知っている」が61.1%です。「聞いたことがあるが内容は知らない」は33.3%です。

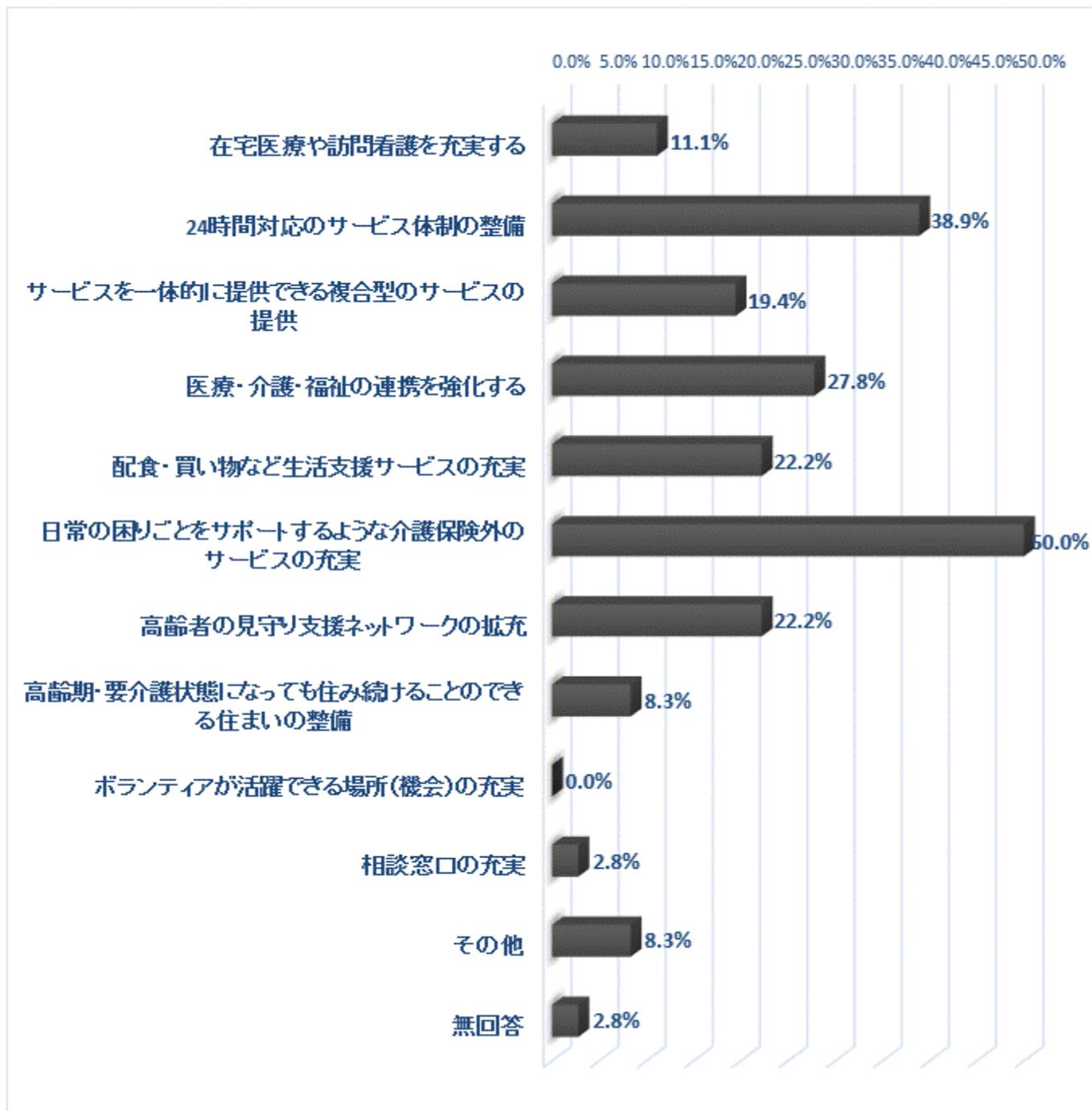
問 12-1 「長久手市認知症ケアパス」の活用（「知っている」人のみ）



N=22

「長久手市認知症ケアパス」の活用については、「活用していない」が45.5%、「あまり活用していない」が50.0%で、「活用している」は4.5%にとどまっています。

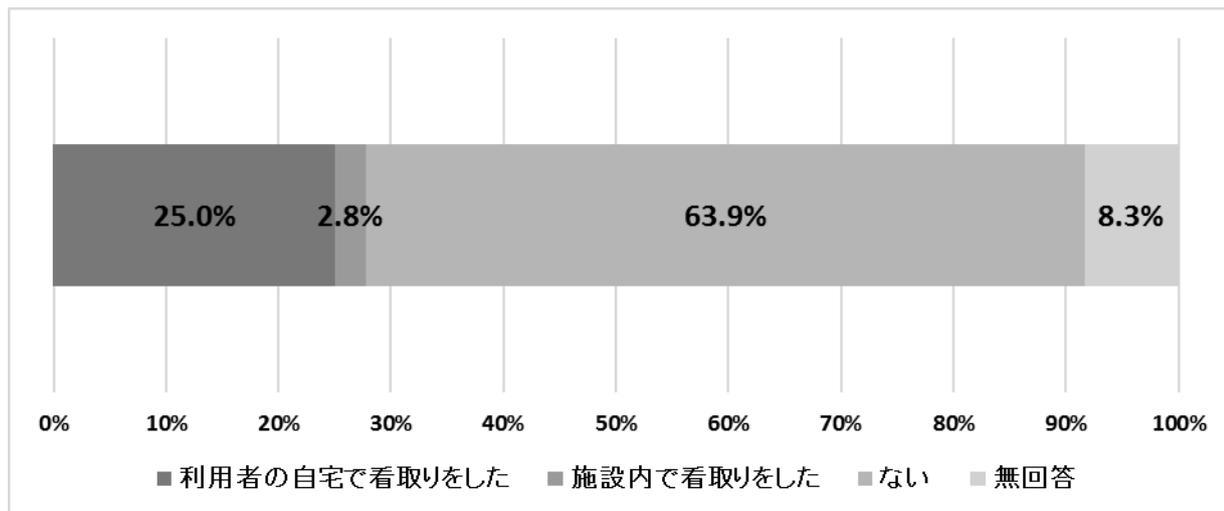
問13 長久手市内において要介護認定者が居宅や地域での生活を続けるために重要だと思うこと（〇は3つまで）



N=36

長久手市内において要介護認定者が居宅や地域での生活を続けるために重要だと思うこととして最も多く挙げられたのは、「高齢期・要介護状態になっても住み続けることのできる住まいの整備」で 50.0%です。「24時間対応のサービス体制の整備」が 38.9%、「医療・介護・福祉の連携を強化する」が 27.8%と続きます。

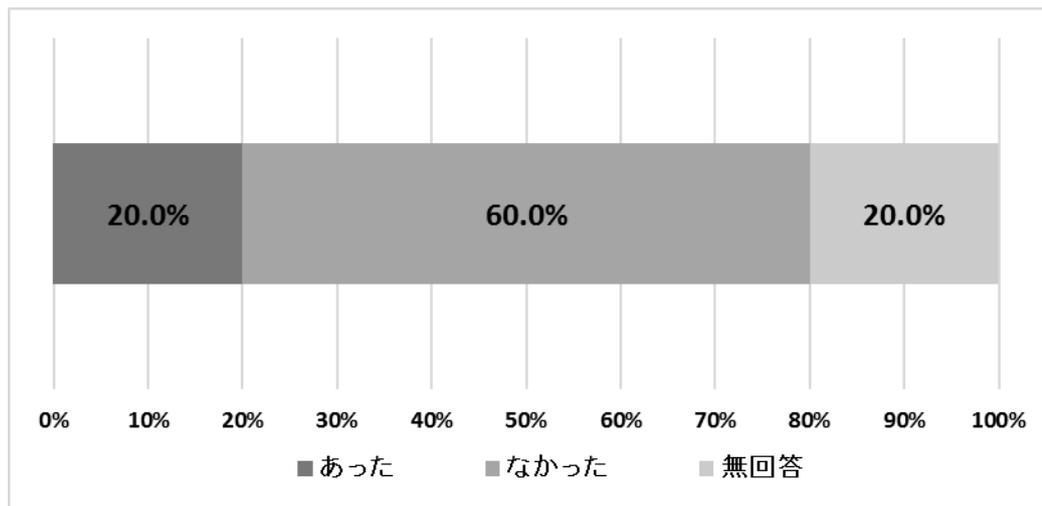
問14 過去1年間に看取りをしたケース



N=36

過去1年間に看取りをしたケースは、「ない」が63.9%です。
「利用者の自宅で看取りをした」は約1/4となっています。

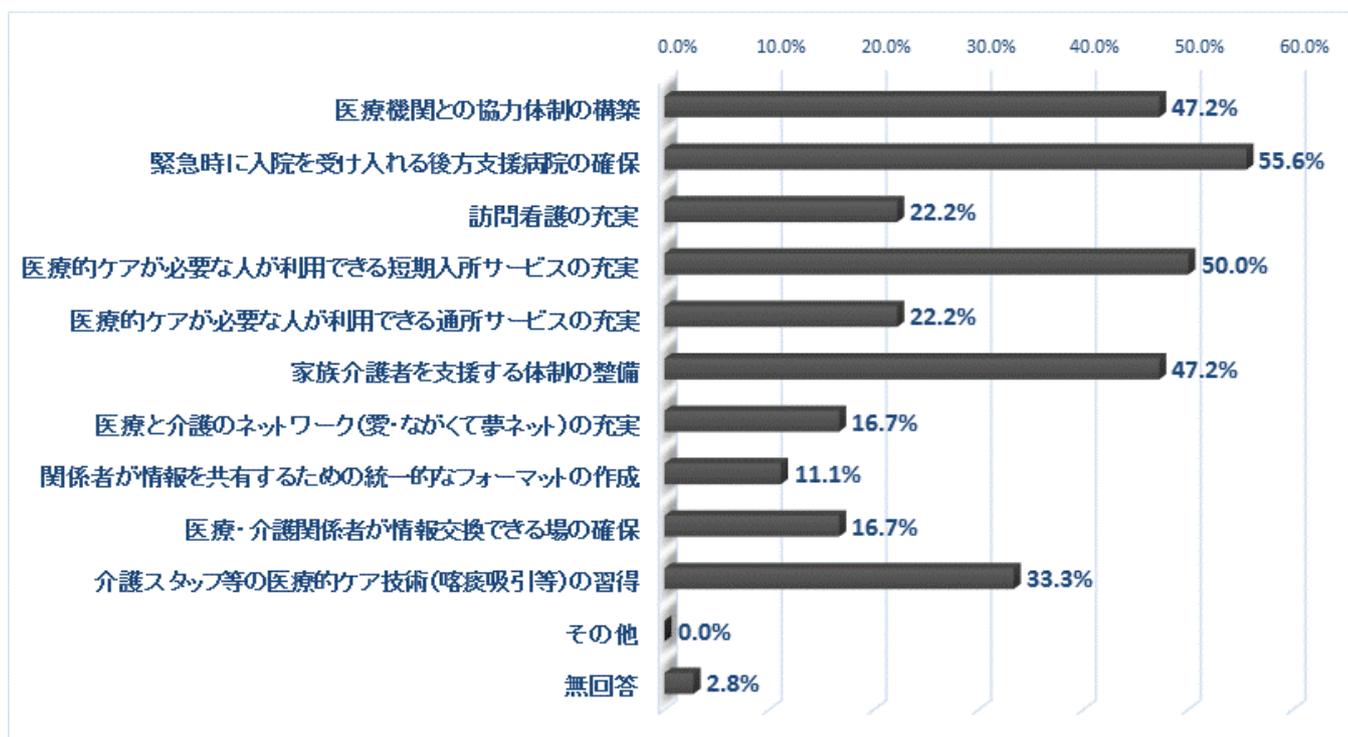
問14-1 看取りにあたり問題となったこと



N=10

看取りにあたり問題となったことが「あった」は2ケース (20.0%) です。

問 15 病院以外での看取りを進めるために必要と考えること（複数回答）

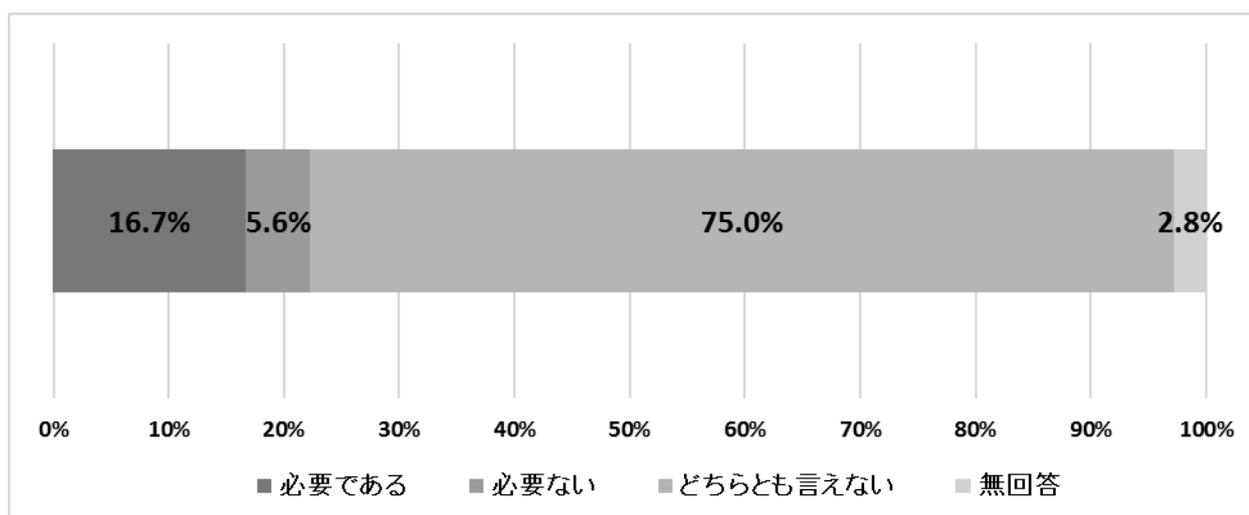


N=36

病院以外での看取りを進めるために必要と考えることとして最も回答が多かったのは「緊急時に入院を受け入れる後方支援病院の確保」で55.6%、「医療的ケアが必要な人が利用できる短期入所サービスの充実」が50.0%と続きます。

「医療機関との協力体制の構築」、「家族介護者を支援する体制の整備」がともに47.2%が回答しています。

問 16 介護相談員派遣事業について、長久手市で取り組む必要があると思いますか

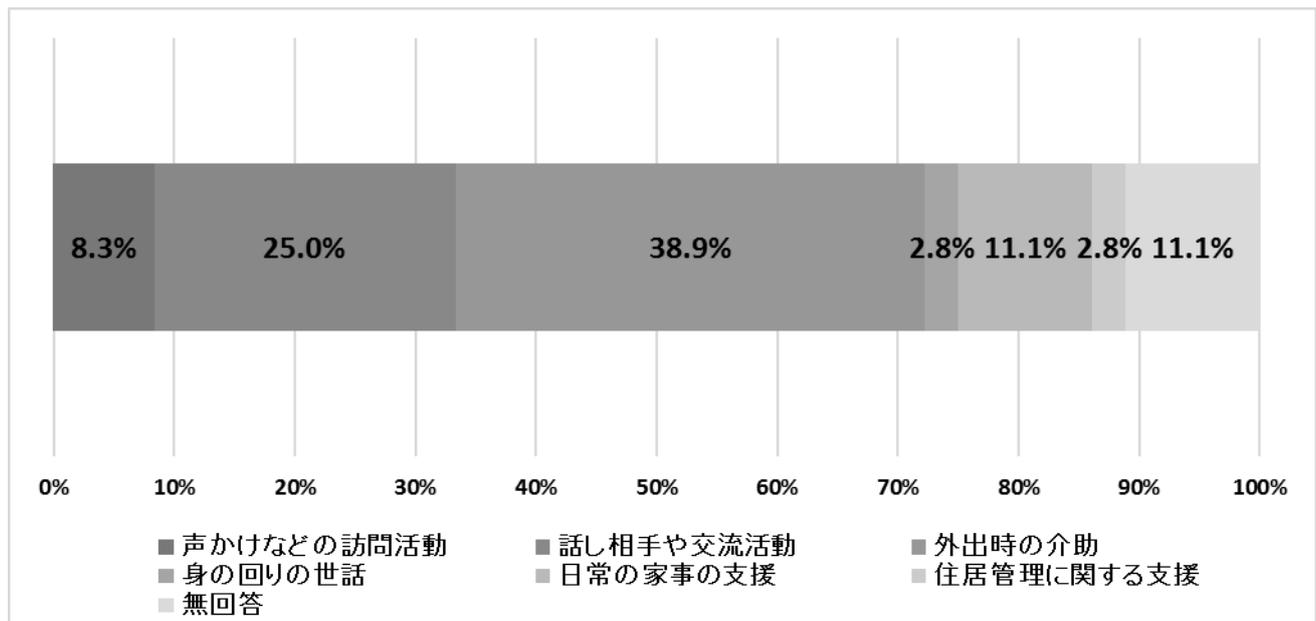


N=36

介護相談員派遣事業については、「どちらとも言えない」という回答が約3/4となっています。

「必要である」とする意見は16.7%、「必要ない」は5.6%です。

問17 ボランティアやNPO等に取り組んでもらいたいと考える活動



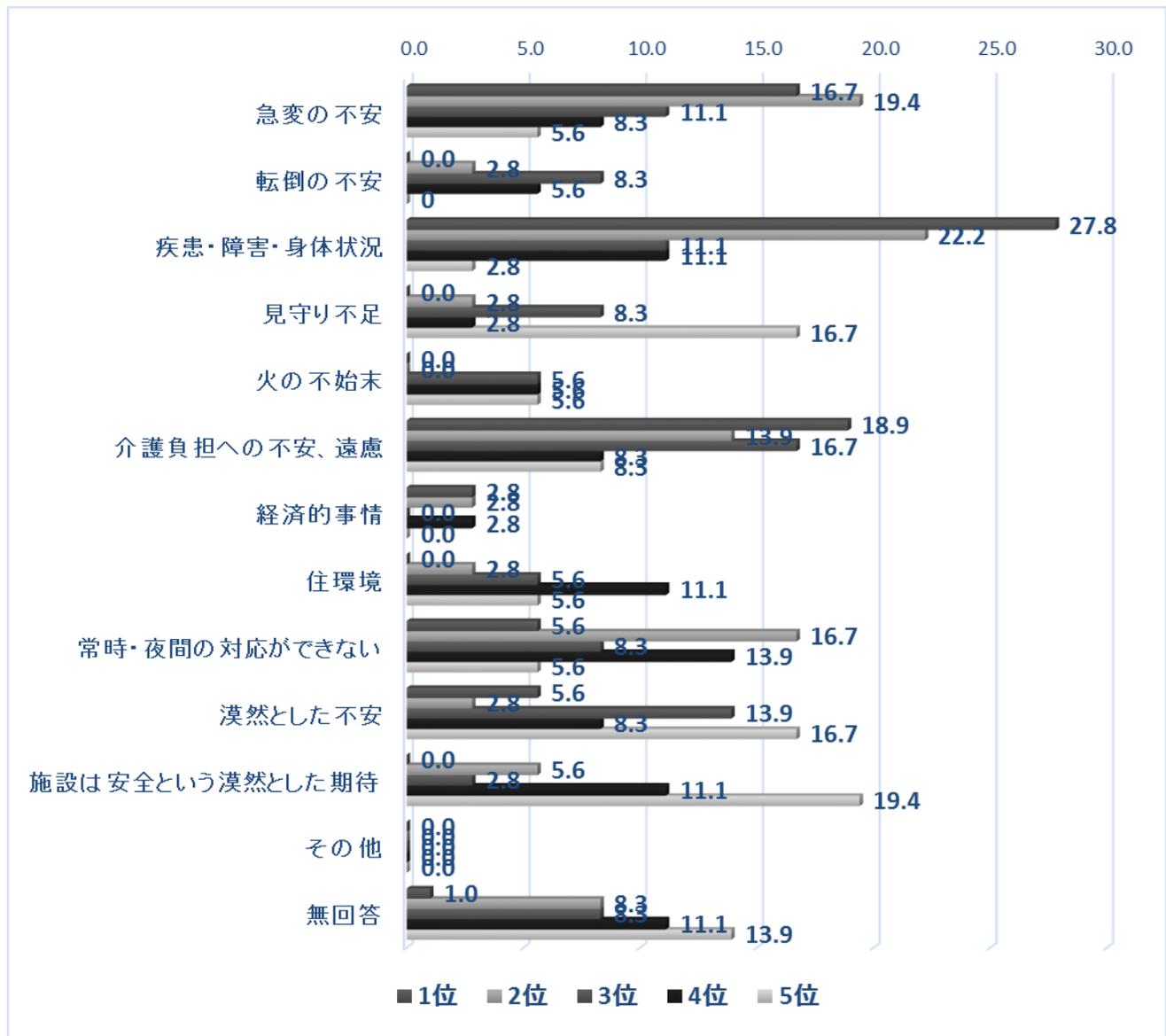
N=36

ボランティアやNPO等に取り組んでもらいたいと考える活動については、「外出時の介助」が38.9%と最も多く、「話し相手や交流活動」が25.0%で続きます。

5-4 施設等へ入所・入居について

問 18 高齢者本人や介護者が施設を望む理由

問 18-1 高齢者本人にとって、意思決定への影響が大きいもの（上位5つ）（%）

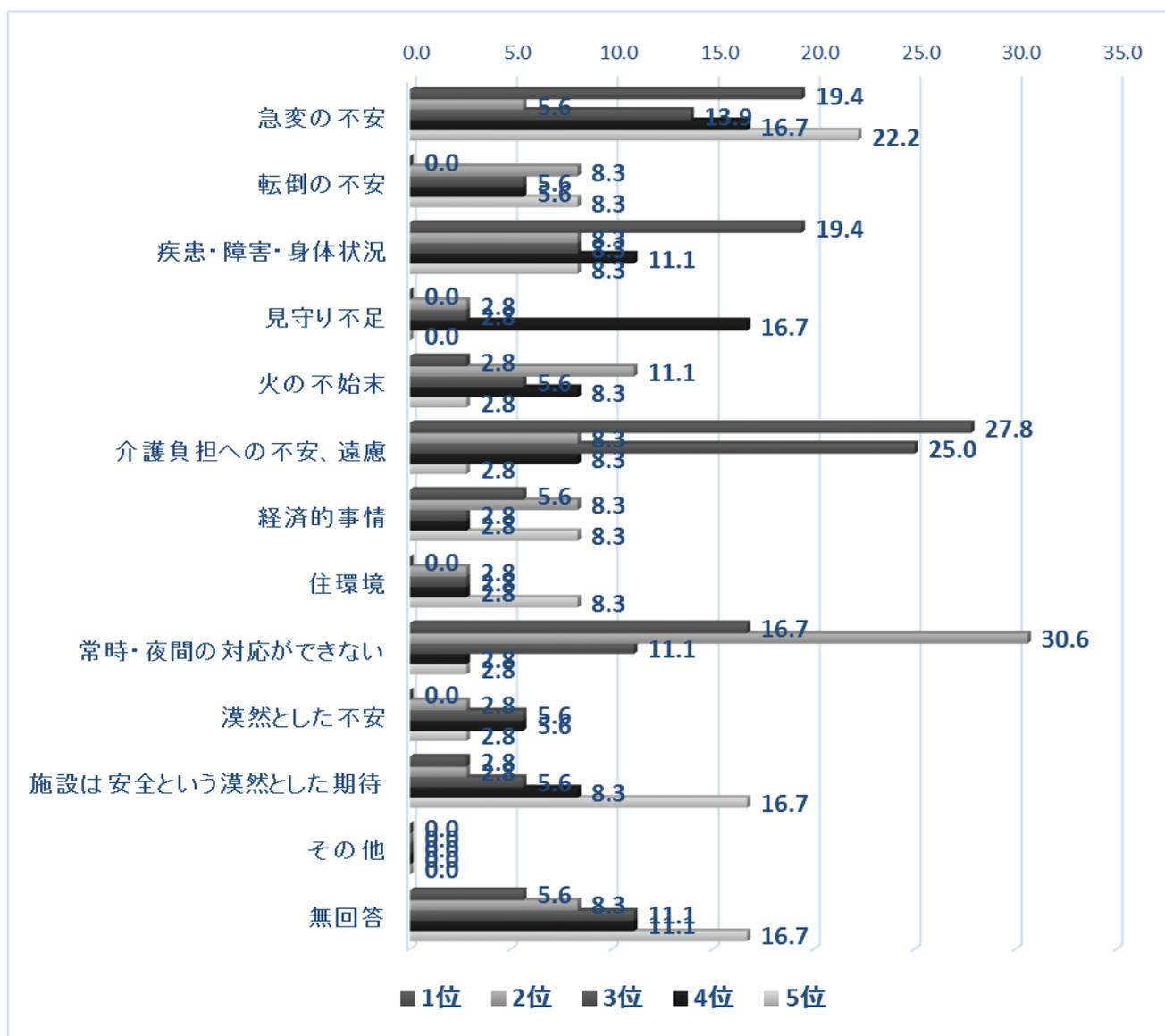


N=36

高齢者本人や介護者が施設を望む理由のうち、高齢者本人にとって、意思決定への影響が大きいものについての回答を見ていくと、1位については「疾患・障害・身体状況」の27.8%が最多である。その他、「急変の不安」、「介護負担への不安、遠慮」が、1～5位までに多くの回答を集めています。

一方、「経済的事情」、「火の不始末」の回答率は低くなっています。

問 18-2 介護者にとって、意思決定への影響が大きいもの（上位5つ）（%）



N=36

高齢者本人や介護者が施設を望む理由のうち、介護者にとって、意思決定への影響が大きいものについての回答を見ていくと、1位では、「介護負担への不安、遠慮」が27.8%と最も多くなっています。1～5位までを合わせてみていくと、「常時・夜間の対応ができない」、「急変の不安」の回答率が高くなっています。

逆に、「経済的事情」、「住環境」という回答は相対的に少なくなっています。

5-6 長久手市の高齢者施策や介護保険事業に関してのご意見（自由回答）

・認定調査が遅れすぎている。委託を**受けられる**のに、なぜ委託がこないのか。市はどれだけ遅れてもかまわないかもしれないが、結果は全てケアマネが処理、手間が増えるばかり。改善を望みます。

・特に要支援の場合、皆さん少しは動けるので、自分で出来る事はしたいと強く思っています。自分で見て買い物をしたい、具合の悪いときに付添を頼まず自分で受診したいとよく聞きます。移動手段の確立、乗り合いタクシーや小型バスの利用、テレビとかの報道であるタブレットの活用など考えていただけたらうれしいです。

・1.住民参加に対するメリット（スマイルポイント以外）。手軽な有償ボラのしくみ。2.健康長寿への意識向上になるイベントなどのしくみづくり。3 市内を走る小回りのきく足。4 出張販売のしくみ。

・皆さんにいろいろな事情はあるだろうが、「我が家が一番」で、住み慣れた家で地域の人とかかわりながらいつまでも心身共に元気で過ごせることが喜ばしいと思う。行政や民生委員、地域の方、医療福祉が連携をとり、若者から高齢者**まで**住みよい町を目指していくことができればと思う

・未来に向けて介護人材が不足してしまっていることに危惧を覚える。介護職の確保は事業所、法人の努力だけでは解決することができない**と**感じる。利用者は増えていくのに支え手がいない。介護職の待遇改善をもっとできないとほかの業界に人材が流出する。

・小規模多機能は利用者の状態に応じ、フレキシブルな対応、支援が可能とのことだが、在宅生活維持に不可欠な生活面の支援の時間が確保できるとは思えない。職場スタッフの研修①高齢者の心理・整理②介護記述などの基礎知識・専門職としての研修をしてほしい。

・近年、家族の形が多様化しており、就労している家族が多くなってきた。介護サービスは日中の支援が中心で夜間は家族が頼りとなる。家族の負担としては、直接的な介護もあるが、気持ちの面での負担が大きい様を感じる。早い段階からまだ自宅での生活が続けられるように思えても、有料ホーム、施設を考える家族がふえてきた。サービスの量だけの問題ではないと思う。地域で暮らし続けるということ。家族で暮らすということがどのような事なのか常に考えさせられる。かえって家族がいないほうがサービスをつかいながら暮らすことができるような気もする。

・在宅サービス事業所が少ない様に感じる。総合事業を含め、今後、利用者が選択できるように事業所が増えていくとよいと思う。